
不二出版 総合図書目録

2017

新刊一覧

【宗教】	戦後改革期文部省実験学校資料集成〈第Ⅱ期〉……	88
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅱ期〉…	29	
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅲ期〉…	29	
令知会雑誌……………	29	
雑誌『國教』と九州真宗……………	30	
遍路……………	30	
現代知識 教化講習録……………	31	
令知会と明治仏教……………	31	
【医学・心理】		
優生……………	36	
【社会福祉】		
東京都養育院月報……………	40	
【法律・政治・経済・統計】		
渋沢栄一と中国……………	51	
太平洋にかける橋……………	51	
【移民】		
週刊南米……………	57	
移民の魁傑・屋名謙一郎の生涯……………	59	
【沖縄】		
文教時報……………	61	
地域と文化……………	61	
移行する沖縄の教員世界……………	64	
英人バジル・ホールと大琉球……………	64	
【旧外地・アジア近現代史】		
旅行満洲……………	66	
根岸信著作集〔第2～4巻〕……………	69	
【十五年戦争極秘資料集 補巻】		
補巻47 総力戦研究所関係資料集……………	80, 83	
【戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史】		
艦内新聞集成〔第3・4回配本〕……………	83	
【教育】		
戦後改革期文部省実験学校資料集成〈第Ⅱ期〉……	88	
東京府教育会雑誌……………	88	
成城学園時報……………	91	
【生活・文化・芸術・映画】		
記録映画作家協会会報……………	93	
旬刊美術新報……………	94	
ソヴェト文化……………	94	
ソヴェト映画……………	94	
【近現代文学】		
日光……………	100	
東北文学……………	109	
【学会誌】		
日本仏教社会福祉学会年報 第47号……………	32	
植民地文化研究 第15号・第16号……………	73	
社会文学 第43号～第46号……………	106	
【解説・解題・総目次・索引シリーズ】		
『雑誌『國教』と九州真宗』解題・総目次・索引……………	126	
『遍路』解説・総目次・索引……………	126	
『東京都養育院月報』解説・回想・総目次……………	127	
『占領下の奄美・琉球における教員団体関係 史料集成』解説・総目次・索引……………	130	
『地域と文化』解説・総目次・索引……………	130	
『総力戦研究所関係資料集』解説・総目次……………	131	
『台湾教育』総目次・索引……………	131	
『成城学園時報』解説・総目次・索引……………	131	
『記録映画作家協会会報』解説・総目次・索引……………	132	
『旬刊美術新報』解説・目録……………	132	
『ソヴェト文化』解説・総目次・索引……………	132	
『ソヴェト映画』解説・総目次・索引……………	132	
『日光』解説・総目次・索引……………	132	
『東北文学』解説・総目次・索引……………	134	

近刊一覧

【宗教】	教界時言〔復刻版〕	
	『昭和青年』『昭和』〔復刻版〕	
【建築・都市・地理・民俗・観光】	風景〔復刻版〕	
【沖縄】	戦後沖縄の〈占領・抵抗〉資料集〔編集復刻版〕	
	1816年英艦来琉関連資料〔仮〕	
【旧外地・アジア近現代史】	朝鮮治安関係資料集成〔編集復刻版〕	
【十五年戦争極秘資料集 補巻】	補巻48 七三一部隊留守名簿〔編集復刻版〕	
【教育】	教化運動〔復刻版〕	
	教育修身研究〔復刻版〕	
【近現代文学】	冬柏〔復刻版〕	
	ひろば〔復刻版〕	
	台湾児童文学集成〔編集復刻版〕	
【中国語・中国文学・漢文】	明治漢文教科書集成 補集〔編集復刻版〕	

ジャーナリズム・新聞 25
 宗教 29
 医学・心理 36
 思想・哲学 38
 社会福祉 40
 人権 43
 法律・政治・経済・統計 47
 建築・都市・地理・民俗・観光 53
 移民 57
 沖縄 61
 旧外地・アジア近現代史 65
 戦時下統制関係資料 74
 十五年戦争極秘資料集 78
 十五年戦争極秘資料集 補巻 79
 十五年戦争重要文献シリーズ 81
 十五年戦争重要文献シリーズ 補集 82
 戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史 83
 戦後史 86
 教育 88
 生活・文化・芸術・映画 93
 労働・社会運動 97
 近現代文学 99
 女性史・女性文学・ジェンダー 112
 農業史 118
 中国語・中国文学・漢文 119
 解説・解題・総目次・索引シリーズ 126
 執筆者・推薦者索引 137
 書名索引 144

ジャーナリズム・新聞 法律・政治・経済・統計 十五年戦争極秘資料集 補巻 労働・社会運動
宗教 建築・都市・地理・民俗・観光 十五年戦争重要文献シリーズ 近現代文学
医学・心理 移民 十五年戦争重要文献シリーズ 補集 女性史・女性文学・ジェンダー
思想・哲学 沖縄 戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史 農業史
社会福祉 旧外地・アジア近現代史 戦後史 中国語・中国文学・漢文
人権 戦時下統制関係資料 教育 解説・解題・総目次・索引シリーズ
十五年戦争極秘資料集 生活・文化・芸術・映画

目次

ジャーナリズム・新聞

横浜毎日新聞	25
二六新報	25
近事評論・扶桑新誌	25
自由燈 <small>じゆうのともしび</small>	26
牟婁新報 <small>むろ</small>	26
週刊東日	26
新聞学院『学報』	26
現代新聞批判	26
時局新聞	26
言論報國	27
他山の石	27
サラリーマン	27
号外	27
人物評論	27
古人今人	27
夕刊 新大阪	28
茅原華山 <small>かやほらかざん</small> と同時代人	28
民本主義の論客 茅原華山伝	28

宗教

【仏教】

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅰ期〉	29
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅱ期〉	29
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅲ期〉	29
令知会雑誌	29
雑誌『國教』と九州真宗	30
仏教海外開教史資料集成〈ハワイ編〉	30
仏教海外開教史資料集成〈北米編〉	30
仏教海外開教史資料集成〈南米編〉	30
戦前期仏教社会事業資料集成	30
遍路	30
現代知識 教化講習録	31
児童と宗教	31

救済	31
仏教海外開教史の研究	31
戦前期仏教社会事業の研究	31
令知会と明治仏教	31
日本仏教社会福祉学会年報 第1号～第47号	32
【キリスト教】	
地の塩	33
女子青年界	33
救世	33
ときのごゑ	33
婦人新報	33
基督教青年	34
聖化	34
七一雑報 <small>しちいち</small>	34
聖書におけるエコロジーと人権	34
【神道・その他】	
開知新聞	35
人類愛善新聞	35

医学・心理

優生學	36
優生	36
変態心理	36
変態性慾	36
犯罪科學	36
精神分析〈戦前編〉	37
戦場心理の研究 (十五年戦争極秘資料集 補巻②)	37

思想・哲学

成功	38
唯研ニュース(十五年戦争重要文献シリーズ 補巻②)	38
初期社会主義思想論	38
浮田和民の思想史的研究	

——倫理的帝国主義の形成 ……………	38
人間の輪郭——共生への理念 ……………	39
検証 藤村操——華嚴の滝投身自殺事件 ……………	39
吉田松陰の思想——尊王攘夷への思想的道程 ……	39
春、雪ふる——荒畑寒村戦中日誌……………	39
夢を食う——素描 荒畑寒村 ……………	39

社会福祉

社会事業……………	40
東京都養育院月報……………	40
東京市養育院月報〈明治期〉……………	40
東京市養育院月報〈大正期〉……………	40
東京市養育院月報〈昭和期〉……………	40
東京孤児院月報……………	41
岡山孤児院関係資料集成……………	41
獄事叢書……………	41
労働共済……………	41
石川県之社会改良……………	41
社会事業彙報……………	41
留岡幸助の研究……………	42
留岡幸助と家庭学校 ——近代日本感化教育史序説 ……………	42
学校保健の近代……………	42

人権

近現代日本ハンセン病問題資料集成 〈戦前編〉……………	43
近現代日本ハンセン病問題資料集成 〈戦後編〉……………	43
近現代日本ハンセン病問題資料集成 〈補巻1~5〉……………	43
近現代日本ハンセン病問題資料集成 〈補巻6~9〉……………	43
近現代日本ハンセン病問題資料集成 〈補巻10~12〉……………	43
近現代日本ハンセン病問題資料集成 〈補巻13~15〉……………	44

近現代日本ハンセン病問題資料集成 〈補巻16~19〉日本MTL ……………	44
知的・身体障害者問題資料集成 〈戦前編〉……………	44
愛護……………	44
子どもの人権問題資料集成〈戦前編〉…………	44
資料集成 戦争と障害者〈第I期〉 （十五年戦争極秘資料集 補巻㉘）……………	44
神奈川の部落史……………	45
【水平運動・部落史研究】	
更生……………	45
警鐘……………	45
初期水平運動資料集……………	45
愛国新聞……………	46
ワシラノシンブン……………	46
創立期水平社運動資料……………	46
民族と歴史……………	46

法律・政治・経済・統計

法律新聞〈明治期〉……………	47
法律新聞 DVD-ROM版……………	47
国家学会雑誌〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉…………	47
通商彙纂〈第I期〉〈第II期〉〈第III期〉……………	48
通商公報〈第I期〉〈第II期〉〈第III期〉……………	48
日刊 海外商報……………	49
海外日本実業者の調査……………	49
戦前期 海外商工興信録集成……………	49
中央銀行会通信録〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉…	49
大阪銀行通信録〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉…	50
近代日本「市場」関係資料集……………	50
経済月報……………	50
斯民 ^{しみん} ……………	50
戦時下政治行政活動史料 1941-1945 （十五年戦争極秘資料集補巻㉙）……………	51
昭和大礼記録資料……………	51
小繋事件裁判資料集 DVD版……………	51
渋沢栄一記念財団の挑戦……………	51

洪沢栄一と中国	
——一九一四年の中国訪問……………	51
太平洋にける橋	
——洪沢栄一の生涯……………	51
日本流人島史……………	51
金融雑誌の展開……………	51
在日コリアンの経済活動……………	51

建築・都市・地理・民俗・観光

都市不燃化……………	53
新都市……………	53
都市創作……………	53
昭和10年全国商店街調査資料……………	53
『町会』『町と生活』……………	53
新建築……………	54
近代建築画譜 近畿編……………	54
東京百建築……………	54
大阪府写真帖……………	54
京都地籍図……………	54
古蹟……………	54
史蹟名勝天然紀念物	
〈昭和編 第I期～第IV期〉……………	54
国立公園……………	55
東京地籍図……………	55
外邦測量沿革史 草稿	
(十五年戦争極秘資料集 補巻㉔)……………	55
研究蒐録 地図	
(十五年戦争極秘資料集 補巻㉕)……………	55
陸地測量部沿革誌……………	55
皇室陵墓……………	56

移民

力行 ^{りっこう} 世界……………	57
週刊南米……………	57
戦前期ブラジル移民日本語読本……………	57
日本移民協会報告……………	57
カナダ移民史資料……………	57

カナダ移民史資料 II……………	58
海外各地在留本邦人 職業別人口表……………	58
戦前期中国在留日本人統計……………	58
移民地事情……………	58
ハワイ日本語学校教科書集成……………	58
日系アメリカ文学雑誌集成……………	58
輝 ^{かがやきごう} 号(十五年戦争重要文献シリーズ 補集③)……………	59
移民の魁傑・星名謙一郎の生涯	
——ハワイ・テキサス・ブラジル……………	59
日本人移民ハワイ上陸拒絶事件	
——領事報告を中心に……………	59
日本人カナダ移民史……………	59
日本人アメリカ移民史……………	59
戦後日系カナダ人の社会と文化……………	59
交錯する国家・民族・宗教——移民の社会適応……………	59
日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学……………	59
「出稼ぎ」から「デカセギ」へ	
——ブラジル移民100年にみる人と文化のダイナミズム……………	59
エスニック学生組織に見る「祖国」	
——フィリピン系アメリカ人のナショナリズムと文化……………	59
来日留学生の体験	
——北米・アジア出身者の1930年代……………	59
実業家とブラジル移住……………	60
アメリカ日系二世と越境教育	
——1930年代を主にして……………	60

沖縄

文教時報……………	61
占領下の奄美・琉球における教員団体	
関係史料集成……………	61
地域と文化……………	61
月刊 文化沖縄……………	61
八重山文化……………	61
沖縄文化……………	62
おきなわ……………	62
琉球要覧……………	62
琉球統計年鑑……………	62

今日の琉球	62
守礼の光 DVD版	62
沖縄教育	63
うるま新報	63
琉球新報	63
沖縄新民報・自由沖縄	63
占領期・琉球諸島新聞集成	63
近代沖縄新聞集成 DVD版	63
戦後初期沖縄解放運動資料集 DVD版	64
「島ぐるみ闘争」はどう準備されたか	64
移行する沖縄の教員世界	
——戦時体制から米軍占領下へ	64
英人バジル・ホールと大琉球	
——来琉二百周年を記念して	64
クリフォード訪琉日記	
——もうひとつの開国	64

旧外地・アジア近現代史

【満洲・蒙古】	
満蒙〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉〈第Ⅲ期〉	65
拓け満蒙・新満洲・開拓	65
旅行満洲	66
満洲開拓関係雑誌集成	66
満蒙開拓青少年義勇軍関係資料	66
興亜会報告・亜細亜協会報告	66
日本人民反戦同盟資料	66
興農合作社関係資料 DVD版	67
近代日本と「満州国」	67
「満洲国」資料集積機関概観	67
《満洲国》文化細目	67
満洲 ^{やすおか} 泰阜分村——七〇年の歴史と記憶	67
満鉄調査部と中国農村調査	
——天野元之助中国研究回顧	67
【朝鮮・韓国】	
朝鮮総督府 帝国議会説明資料	67
朝鮮総督府 帝国議会説明資料	
〈第4回配本〉	68

外交史料 韓国併合 上・下	68
植民地下 朝鮮におけるハンセン病資料集成	68
朝鮮憲兵隊歴史	68
朝鮮の治安状況 大正13年12月	68
国策会社・東拓の研究	68
植民地朝鮮における朝鮮語奨励政策	
——朝鮮語を学んだ日本人	68
【中国・その他】	
根岸 ^{ただし} 倍著作集	69
旧外地「工場名簿」集成	69
上海新報	69
中国農業経済論	70
情報（十五年戦争極秘資料集 補巻㉟）	70
特調班月報・通讯	
（十五年戦争極秘資料集 補巻㊿）	70
東亜同文書院 中国調査旅行記録	70
反帝新聞	70
初期コミンテルンと東アジア	70
日本帝国主義下の植民地労働史	70
日本反帝同盟史研究	
——戦前期反戦・反帝運動の軌跡	70
中国残留日本人孤児に関する調査と研究	
上・下	71
清水安三と北京崇貞学園	
——近代における日中教育文化交流史の一断面	71
【台湾・南洋・東南アジア・西アジア】	
新亜細亜	71
南洋群島	71
資料集 終戦直後の台湾	71
台湾引揚者関係資料集	72
植民地文化研究 創刊号～第16号	73
戦時下統制関係資料	
文部省思想統制関係資料集成	74
情報局関係極秘資料	74
戦前期警察関係資料集〈第Ⅰ期〉	74

戦前期警察関係資料集〈第Ⅱ期〉	
岡山県特高警察資料	74
特高警察関係資料集成〈第Ⅰ期〉	74
特高警察関係資料集成〈第Ⅱ期〉	75
台湾出版警察報	75
出版警察報	75
出版警察資料	75
出版警察概観	75
外務省警察史	75
外事警察概況	76
外事警察報	76
外事警察報 補巻	76
外事月報	76
外事警察資料	76
海外よりの左翼宣伝印刷物集	76
宣撫月報(十五年戦争極秘資料集 補巻⑮)	77
陸軍省『調査彙報』(十五年戦争極秘資料集 補巻⑳)	77
特高警察関係資料解説	77

十五年戦争極秘資料集 全30集

① 大東亜戦争ニ伴フ我カ人的国力ノ検討	78
② ババル島事件関係書類	78
③ 沖繩秘密戦に関する資料	78
④ 満洲事変における憲兵隊の行動に関する資料	78
⑤ 東京裁判 大山文雄関係資料	78
⑥ 高等外事月報	78
⑦ 大東亜縦貫鉄道関係書類	78
⑧ 重慶中国国民党在港秘密機関検挙状況	78
⑨ 支那事変大東亜戦争間 動員概史	78
⑩ 戦争栄養失調症関係資料	78
⑪ 俘虜ニ関スル諸法規類聚	78
⑫ 軍律会議関係資料	78
⑬ 華中宣撫工作資料	78
⑭ 思想彙報	78
⑮ 朝鮮軍概要史	78
⑯ 俘虜取扱に関する諸外国からの抗議集	78
⑰ 在満軍法会議處刑特殊犯罪集	78

⑱ 毒ガス戦関係資料	78
⑲ 台湾島内情報・本島人の動向	78
⑳ 海軍法務資料 馬場東作 <small>ぼばとうさくつづり</small> 綴	78
㉑ 戦時下国民栄養の現況調査報告書	78
㉒ 満州移民拓務局原資料	78
㉓ 国民義勇隊関係資料	78
㉔ 久留米師団召集徴発雇用書類	78
㉕ 台湾霧社事件軍事関係資料	78
㉖ 初期の満州国軍に関する資料	78
㉗ 陸海軍省法務局長巡察報告	78
㉘ 朝鮮思想運動概況	78
㉙ 七三一部隊作成資料	78
㉚ 外邦兵要地図整備誌	78

十五年戦争極秘資料集 補巻

① 毒ガス戦教育関係資料	79
② 毒ガス戦関係資料Ⅱ	79
③ 思想彙報Ⅱ	79
④ 戦時下国民栄養の現況調査報告書(昭和18年)	79
⑤ 第一次上海事変における第九師団軍医部 「陣中日誌」	79
⑥ 盧溝橋事件期支那駐屯憲兵隊 重松関係文書	79
⑦ 韓国併合始末 関係資料	79
⑧ 軍隊警察の対立と憲兵指令部 重松関係文書Ⅱ	79
⑨ 南方地域現地自活教本	79
⑩ 戦後の皇軍 重松憲兵少佐綴	79
⑪ 二反長音蔵・アヘン関係資料	79
⑫ 東亜諸民族の死亡に関する衛生統計的調査	79
⑬ 関東軍参謀部作成 総動員関係調査資料	79
⑭ 軍律法廷審判例集	79
⑮ 南方方面海軍資料	79
⑯ 陸軍に於ける花柳病	79
⑰ 毒ガス戦教育関係資料Ⅱ	79
⑱ 十五年戦争末期国内憲兵分遣隊報告	79
⑲ 日本占領下上海における日中要人	

インタビューの記録	79
⑳ 満洲国軍ノ現況	79
㉑ ベンゾイリン不正輸入事件関係資料	79
㉒ 終戦後の法令 制定・改正・廃止 経過一覧	79
㉓ 陸軍軍医学校防疫研究報告	79
㉔ 山東出兵時における「第三師団特種 研究記事」	79
㉕ 宣撫月報	79
㉖ 五・一五事件期憲兵司令部関係文書	79
㉗ 関東軍化学部・毒ガス戦教育演習 関係資料	79
㉘ 資料集成 戦争と障害者〈第Ⅰ期〉	79
㉙ 陸軍省『調査彙報』	79
㉚ 外邦測量沿革史 草稿	79
㉛ 大同保育隊報告	79
㉜ 戦場心理の研究	79
㉝ 満洲事変日誌記録	79
㉞ 「合作社事件」関係資料	80
㉟ 情報	80
㊱ 南満州鉄道株式会社 帝国議会説明資料・別冊	80
㊲ 陸軍経理学校五十年史	80
㊳ 研究蒐録 地図	80
㊴ 東京時事資料月報	80
㊵ 特調班月報・通説	80
㊶ 大阪府特高警察関係資料——昭和二〇年	80
㊷ 憲兵隊が記す日中開戦時の国内状況	80
㊸ 内外地憲兵隊にみる検閲鍊成	80
㊹ 戦時下政治行政活動史料1941-1945	80
㊺ 海軍軍法会議判例類集	80
㊻ 陸軍軍法会議判例類集	80
㊼ 総力戦研究所関係資料集	80

十五年戦争重要文献シリーズ 全20集

① 軍医官の戦場報告意見集	81
② 『集報』——南京日本人収容所新聞	81

③ 中華民国よりの掠奪文化財総目録	81
④ 興亜青年勤労報国隊 <small>あずまあさよし</small> 東朝義記録	81
⑤ 火焰樹——東南アジア強制労働下の機関誌	81
⑥ 軍紀・風紀に関する資料	81
⑦ 支那駐屯憲兵隊関係盧溝橋事件期資料	81
⑧ 俘虜情報局・俘虜取扱の記録 付=海軍兵学校『国際法』	81
⑨ GHQ(マ元帥)処刑命令書	81
⑩ 昭和十年前後期 支那駐屯軍憲兵部文書	81
⑪ 朝鮮徴兵準備読本	81
⑫ 特殊労務者の労務管理	81
⑬ 大東亜舞台芸術研究所関係資料	81
⑭ 満州建設勤労奉仕隊関係資料	81
⑮ 中国人日本留学史稿	81
⑯ 興亜学生勤労報国隊関係資料	81
⑰ 興亜院刊行図書・雑誌目録	81
⑱ 久米島住民虐殺事件資料	81
⑲ 学生義勇軍関係資料	81
⑳ 二・二六事件 警察秘録	81

十五年戦争重要文献シリーズ 補集

① 原子爆弾災害調査報告	82
② 唯研ニュース	82
③ 輝号〔ブラジル「勝ち組」広報誌〕 <small>かがやきごう</small>	82

戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史

総力戦研究所関係資料集 (十五年戦争極秘資料集 補巻㉗)	83
原子爆弾災害調査報告 (十五年戦争重要文献シリーズ 補集①)	83
陸軍軍医学校防疫研究報告 (十五年戦争極秘資料集 補巻㉓)	83
艦内新聞集成	83
大東亜戦争俘虜関係外交文書集成	83
すがも新聞 DVD版	84
巢鴨プリズン三部作	84
戦犯裁判の実相	84

生物兵器防御研究……………	84
七三一細菌戦部隊・中国新資料……………	84
「七三一部隊」罪行鉄証	
——特移扱・防疫文書編集……………	84
「七三一部隊」罪行鉄証	
——関東憲兵隊「特移扱」文書……………	84
公判記録 七三一細菌戦部隊……………	84
シンガポール英軍法廷 華僑虐殺事件起訴詳報 ……	84
BC 級戦犯関係資料集成……………	85

戦後史

「三鷹事件」裁判関係資料集 DVD-ROM 版 ……	86
戦後日本共産党関係資料……………	86
朝鮮戦争下 公安関係資料——光永源槌資料 ……	86
特審月報……………	86
在日朝鮮人関係資料集成〈戦後編〉……………	86
国連軍の犯罪	
——民衆・女性から見た朝鮮戦争……………	87
昭和の闇を生きて……………	87
顔のない国	
——戦後の虚妄と国の品位喪失を問う ……	87
ベトナム通信……………	87

教育

台湾教育〈大正期〉……………	88
戦後改革期文部省実験学校資料集成	
——〈第Ⅰ期〉……………	88
戦後改革期文部省実験学校資料集成	
——〈第Ⅱ期〉……………	88
東京府教育会雑誌……………	88
良民……………	88
『帝國青年』『青年』……………	89
戦後新教育・「実力の検討」実践資料集…	89
旧制成城高等学校尋常科地理自学書集…	89
青少年の逸脱をめぐる教育史……………	89
東京外国語学校史——外国語を学んだ人たち…	89
近代日本の女性と大学教育……………	89

田澤義鋪 <small>たざわよしほる</small> 選集……………	89
山本瀧之助の生涯と社会教育実践……………	89
若者仲間の歴史……………	89

【学校新聞】

帝國大學新聞……………	91
東京大学新聞……………	91
三田新聞……………	91
成城学園時報……………	91
大倉高商新聞・東京経済大学新聞……………	91
一橋新聞 <small>いっぎょう</small> ……………	92
小樽商科大学新聞『緑丘』……………	92
緑丘五十年史……………	92

【近代社会教育史料集成】

大日本青年團史……………	92
大日本青少年団史……………	92
山本瀧之助全集……………	92

生活・文化・芸術・映画

家の光……………	93
記録映画……………	93
記録映画作家協会会報……………	93
旬刊美術新報……………	94
ソヴェト文化……………	94
ソヴェト映画……………	94
三好十郎著作集……………	94
文化生活〈文化普及会刊〉……………	94
家庭科学〈戦前編〉……………	94
昭和戦前期 日本公衆衛生史……………	95
農村保健衛生実地調査……………	95
月刊民藝・民藝……………	95
工藝 DVD-ROM 電子版……………	95
映画検閲時報……………	95
映画創造……………	95
音楽 DVD版……………	96
演芸画報〈昭和編〉……………	96
築地小劇場……………	96
『築地小劇場』ポスター・プログラム……………	96

戦時国民生活最低基準ニ関スル答申書… 96

労働・社会運動

安全第一…………… 97

進め…………… 97

社会運動の状況〈大正15年版・昭和2年版〉… 97

一九二〇年代社会運動関係警察資料… 97

映像で見る賀川豊彦とその時代 DVD版… 97

安全第一の誕生——安全運動の社会史

〔増補改訂版〕…………… 98

磯野小作争議・小樽港湾争議 資料集… 98

労働週報…………… 98

空中征服——賀川豊彦、大阪市長になる… 98

日本労働新聞…………… 98

青い鳥はいなかった

——薬害をめぐる一人の親のモノローグ… 98

山本宣治写真集…………… 98

大正デモクラシー下の“地域振興”… 98

ある明治社会主義者の肖像

〔山根吾一覚書〕…………… 98

「我が職業は普通選挙なり」

——中村太八郎とその周辺… 98

近現代文学

文藝…………… 99

文学界…………… 99

文庫…………… 99

日光…………… 100

新著月刊…………… 100

青年文…………… 100

穎才新誌…………… 100

小国民…………… 100

文学案内…………… 100

農民…………… 101

現代日本詩集 1927年～1944年… 101

ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム… 101

三人…………… 101

文芸時報…………… 101

文学報国…………… 101

文芸懇話会…………… 102

人民文庫…………… 102

図書新聞…………… 102

週刊 読書人… 102

黒煙…………… 102

生長する星の群…………… 102

峠…………… 103

層雲…………… 103

貴司山治全日記 DVD版… 103

貴司山治研究…………… 103

「日本近代文学における上海」

研究文献目録 1840年—1945年… 103

坑夫…………… 103

文学時標…………… 103

社会文学 一九二〇年前後

——平林初之輔と同時代文学… 103

病中放浪…………… 103

有聲無聲…………… 103

創作 労働問題…………… 104

安成貞雄——その人と仕事… 104

社会文学 創刊号～第46号… 105

【戦後文化運動雑誌叢書】

午前…………… 107

文化展望…………… 107

鵬・ピオネ・藝術前衛…………… 107

サークル村…………… 107

人民戦線…………… 107

ヂンダレ・カリオン…………… 108

東京南部サークル雑誌集成…………… 108

総合文化…………… 108

新女性…………… 108

人民文学…………… 108

学園評論…………… 108

琉大文学…………… 109

東北文学…………… 109

【社会文学雑誌叢書】

家庭雑誌〈堺利彦主宰〉	110
新社会	110
国家社会主義	110
洪水以後	110
文明批評	110
中外	111
日本評論	111
文芸雑誌	111
労働文学	111
原始	111

女性史・女性文学・ジェンダー

処女の友	112
連合婦人	112
日本婦人	112
日本女性運動資料集成	112
女性改造〈戦前編〉	112
婦選	113
婦人運動	113
婦人	113
廓清 <small>かくせい</small>	113
紅燈下の彼女の生活	113
日本娼妓運動史	113
買売春問題資料集成〈戦前編〉	113
性暴力問題資料集成〈第Ⅰ期〉	114
性暴力問題資料集成〈第Ⅱ期〉	114
性と生殖の人権問題資料集成	114
戦前期 同性愛関連文献集成	114
性科学研究	114
性と社会〈『産児調節評論』改題〉	114
娼妓	115
上毛之青年	115
明治初期の三女性 ——中島湘煙・若松賤子・清水紫琴	115
辛抱づよい者へ	115
性の歴史学	115

性の国家管理——買売春の近現代史	115
福田英子集 <small>ひでこ</small>	115
近代日本女性論の系譜	115

【女性文学】

日本女性詩集 1930年～1943年	116
叢書『青鞜』の女たち	116
女子文壇	116
『女子文壇』執筆者名・記事名データベース	116
以良都女 <small>いらつめ</small>	116
新真婦人	117
長谷川時雨全集	117
婦人文芸	117
ピアトリス	117
黒薔薇 <small>くろしょうび</small>	117
青鞜の女・尾竹紅吉伝 <small>こうきち</small>	117
文学としての『青鞜』	117
青鞜文学集	117
鷗外女性論集	117

農業史

農家経済調査簿	118
農政研究	118
東北振興計画集覧	118
農政時報	118
岐阜県小作争議資料集成	118
流芳	118

中国語・中国文学・漢文

明治漢文教科書集成	119
中国書籍総目録	119
人民日報索引	119
中国語辞典集成	119
中国語学資料叢刊 第1篇	119
中国語学資料叢刊 第2篇	120
中国語学資料叢刊 第3篇	120
中国語学資料叢刊 第4篇	120
中国語学資料叢刊 第5篇	120

中国文学語学資料集成 第1篇	120
中国文学語学資料集成 第2篇	120
中国文学語学資料集成 第3篇	121
中国文学語学資料集成 第4篇	121
中国文学語学資料集成 第5篇	121
中国語文資料彙刊 第1篇	121
中国語文資料彙刊 第2篇	121
中国語文資料彙刊 第3篇	121
中国語文資料彙刊 第4篇	122
中国語文資料彙刊 第5篇	122
中国語教本類集成〈第Ⅰ期 第1集～第5集〉	122
中国語教本類集成〈第Ⅱ期 第6集～第10集〉	122
中国語教本類集成 補集	122
中国社会主义經濟建設文献目録	122
紅衛兵新聞目録	123
中文資料叢刊 補遺	123
『談藪』研究	123
呉語の研究——上海語を中心にして	123
近代日本の中国語教育	123
旧外地における中国語教育	123
中国における社会主義經濟理論の展開	123
中国語教育史論考	123
中国語教育史稿拾遺	123
中国語書誌	123
中国語関係書書目〈増補版〉	123
北京同学会の回想	123
波多野太郎博士 覆印語文資料提要	124
電腦処理 西夏文雜字研究	124
電腦処理 西夏文字諸解対照表(稿)	124
清代中国語 滿洲語辞典	124
電腦処理《文海宝韻》研究	124
電腦処理 西夏文献《文海》反切法解析	124
電腦処理 西夏文字字素分析	124
海南島方言基礎語彙集	124
契丹小字釋読問題	124
【中国共産党史資料叢書】	
新中華報〈刷新版〉	125

闘争〈瑞金版〉	125
布爾塞維克 ^{ボルシェビキ}	125

解説・解題・総目次・索引シリーズ

■ジャーナリズム・新聞

『横浜毎日新聞』解説・総目次	126
『近事評論・扶桑新誌』解説・総目次・索引	126
『自由燈』解説・主要記事索引	126
『牟婁新報』〈第Ⅰ期〉解説・執筆者索引	126
『牟婁新報』〈第Ⅱ期・第Ⅲ期〉解説・執筆者索引	126
『新聞学院『学報』』解説・総目次・索引	126
『現代新聞批判』解説・総目次・索引	126
『言論報国』解説・総目次・索引	126
『他山の石』解説・総目次・索引	126
『サラリーマン』解説・総目次・索引	126
『号外』解題・総目次・索引	126
『人物評論』解説・総目次・索引	126
『夕刊 新大阪』解説・主要記事索引	126
茅原華山年譜・著作目録稿	126
『近きより』解説・総目次・索引	126

■宗教

『雑誌『國教』と九州真宗』 解題・総目次・索引	126
『遍路』解説・総目次・索引	126
『児童と宗教』解説・総目次・索引	126
『救済』解説・総目次・索引	126
『地の塩』解説・総目次・索引	126
『女子青年界』解説・総目次・索引	127
『救世』解説・総目次・索引	127
『ときのこゑ』解説・総目次・執筆者索引	127
『婦人新報』解説・総目次・索引	127
『聖化』解説・総目次・索引	127
『七一雑報』解説・総目次・索引	127
『人類愛善新聞』解説	127
『無我の愛』解説・総目次・索引	127
『六合雑誌』解説・執筆者・作品名索引	

付『創造者』第1号……………	127	『日刊 海外商報』解説・総目次……………	128
『上毛教界月報』解説・総目次・索引……………	127	『中央銀行会通信録』解題・記事総索引…	128
『近代日本「平和運動」資料集成』		『大阪銀行通信録』解説・総目次……………	128
解題・総目次・索引……………	127	『近代日本「市場」関係資料集』解説／近代	
■ 心理・医学		日本「市場」関係資料目録……………	128
『優生學』解説・総目次・索引……………	127	『経済月報』解題・総目次……………	128
『変態心理』解説・総目次・索引……………	127	『斯民』目次総覧〈新版〉……………	128
『変態性慾』解説・総目次……………	127	『昭和大礼記録資料』解説……………	128
『犯罪科学』解説・総目次・索引……………	127	『小繋事件裁判資料集』解説・解題・	
『精神分析』解説・総目次・索引……………	127	各裁判記録細目次……………	129
『人性』解説・総目次・索引……………	127	■ 建築・都市・地理・民俗・観光	
『優生運動』解説・総目次・索引……………	127	『都市不燃化』解題・総目次・索引……………	129
■ 思想・哲学		『新都市』解説・総目次・索引……………	129
『成功』解題・総目次……………	127	『都市創作』解説・総目次・索引……………	129
■ 社会福祉		昭和10年全国商店街調査資料	
『東京都養育院月報』解説・回想・総目次……………	127	別巻＝解題・参考資料編……………	129
『東京市養育院月報』解説・総目次・索引…	127	『町会』『町と生活』解説・総目次・索引……………	129
『東京孤児院月報』解説・総目次・索引…	128	『新建築』解説・総目次・索引……………	129
『獄事叢書』解説・総目次・索引……………	128	『都市美』監修の辞・解説・総目次・索引…	129
『労働共済』解説・総目次・索引……………	128	『京都地籍図』解説……………	129
『石川県之社会改良』解説・総目次・索引…	128	『古蹟』解説・総目次・索引……………	129
『社会事業彙報』解説・事項索引……………	128	『史蹟名勝天然紀念物』〈大正編〉	
■ 人権		解説・総目次・索引……………	129
『近現代日本ハンセン病問題資料集成』		『史蹟名勝天然紀念物』〈昭和編〉	
〈戦前編・戦後編〉解説・総目次……………	128	解題・総目次・索引……………	129
『近現代日本ハンセン病問題資料集成』		『国立公園』解題・総目次・索引……………	129
〈補巻1～15〉解説・総目次……………	128	『東京地籍図』解説……………	129
『近現代日本ハンセン病問題資料集成 補巻16～19〉		『外邦測量沿革史 草稿』解説・総目次…	129
日本MTL』解説・総目次・索引……………	128	『建築と社会』解説・総目次・索引……………	129
『愛護』解説・総目次・索引……………	128	『都市公論』総目次・索引……………	129
『更生』解説・総目次・索引……………	128	■ 移民	
『初期水平運動資料集』解説・総目次・索引…	128	『力行世界』『力行』『力行網』『渡米新報』	
『創立期水平社運動資料』解説・細目次…	128	解説・総目次・索引……………	129
『民族と歴史』解説・総目次・索引……………	128	『カナダ移民史資料』別冊(英文)……………	129
■ 法律・政治・経済・統計		『移民地事情』解説・総目次……………	129
『法律新聞』総目次……………	128	日系アメリカ文学雑誌研究	
『通商公報』解説・総索引……………	128	—日本語雑誌を中心に……………	129

『殖民協会報告』解説・総目次・索引 …… 129

■ 沖縄

『占領下の奄美・琉球における教員団体

関係史料集成』解説・総目次・索引… 130

『地域と文化』解説・総目次・索引 …… 130

『月刊 文化沖縄』解説・総目次・索引 …… 130

『八重山文化』解説・総目次・索引 …… 130

『おきなわ』解説・総目次・索引 …… 130

『今日の琉球』解説・総目次・索引 …… 130

『守礼の光』解説・総目次・索引 …… 130

『沖縄教育』解説・総目次・索引 …… 130

■ 旧外地・アジア近現代史

『満蒙』総目次・執筆者索引 …… 130

『拓け満蒙』『新満洲』『開拓』

解説・解題・総目次… 130

『満洲開拓関係雑誌集成』解題・総目次… 130

『日本人民反戦同盟資料』

解説・解題・総目次… 130

『興農合作社関係資料』解説・総目次… 130

『情報』解題・総目次… 130

『新亜細亜』解題・総目次・索引 …… 130

『南洋群島』解説・総目次・索引 …… 130

『満州移民関係資料集成』解説 …… 130

■ 戦時下統制関係資料

『台湾出版警察報』解説・発禁図書新聞

リスト… 130

『出版警察関係資料』解説・総目次 …… 130

『外務省警察史』解題・総目次… 130

『外事警察報』解説・総目次・索引 …… 130

『外事警察報 補巻』解題・総目次・索引… 131

『宣撫月報』解説・総目次・索引 …… 131

陸軍省『調査彙報』解説・総目次 …… 131

■ 戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史

『総力戦研究所関係資料集』解説・総目次 131

『陸軍軍医学校防疫研究報告』解説・総目次 … 131

『すがも新聞』解題・総目次・年表 …… 131

■ 戦後史

『「三鷹事件」裁判関係資料集』解説・資料目録 …… 131

『戦後日本共産党関係資料』収録資料目録 … 131

『戦後日本共産党関係資料』解題・解説… 131

『朝鮮戦争下 公安関係資料——光永源槌

資料』解説・解題・収録資料目録 …… 131

『特審月報』解説・総目次… 131

■ 教育

『台湾教育』総目次・索引… 131

『良民』解説・総目次… 131

『帝國青年』『青年』解説・総目次・索引… 131

『帝國大學新聞』記事・執筆者索引… 131

『東京大学新聞』記事・執筆者索引… 131

『三田新聞』記事・執筆者索引… 131

『成城学園時報』解説・総目次・索引 …… 131

『一橋新聞』記事・執筆者索引… 131

『壯年團』解説・総目次・索引 …… 131

■ 生活・文化・芸術・映画

『記録映画』解説・総目次・索引 …… 132

『記録映画作家協会会報』

解説・総目次・索引… 132

『旬刊美術新報』解説・目録… 132

『ソヴェト文化』解説・総目次・索引 …… 132

『ソヴェト映画』解説・総目次・索引 …… 132

『三好十郎著作集』解説・回想・総目次 … 132

『文化生活』〈文化普及会 刊〉

解説・総目次・索引… 132

『家庭科学』〈戦前編〉解説・総目次・索引 … 132

『月刊民藝・民藝』解説・総目次・索引 … 132

『工藝』解説・総目次・索引 …… 132

『音楽』総目次・索引… 132

『築地小劇場』解説・総目次・索引 …… 132

『文化生活』〈文化生活研究会 刊〉

解説・総目次・索引… 132

■ 労働・社会運動

『安全第一』解説・総目次・索引 …… 132

『一九二〇年代社会運動関係警察資料』

解説・総目録・索引… 132

『社会運動通信』解説・総目次・記事・地方別索引 … 132

■ 近現代文学

『文藝』解説・総目次・索引 …………… 132

『文學界』解説・総目次・索引 …………… 132

『文庫』 解題・総目次・索引 …………… 132

『日光』解説・総目次・索引 …………… 132

『新著月刊』解説・総目次・索引 …………… 132

『青年文』解説・総目次・索引 …………… 133

『穎才新誌』解説・総目次・索引 …………… 133

『小国民』解説・解題・総目次・索引

 付=『小国民』綜覧 …………… 133

『文学案内』 解題・総目次・索引 …………… 133

『農民』解説・総目次・索引 …………… 133

『現代日本詩集』〔1927年～1944年〕

 解説・索引 …………… 133

『ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム』

 解説・総目次・索引…………… 133

『三人』 解題・回想・総目次・索引…………… 133

『文芸時報』 解題・総目次・索引 …………… 133

『文芸懇話会』解説・総目次・索引 …………… 133

『人民文庫』解説・総目次・索引 …………… 133

『図書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引

 I (49～59) …………… 133

『図書新聞』記事・執筆者・書評索引

 II (60～68) …………… 133

『図書新聞』記事・執筆者・書評索引

 III (69～79) …………… 133

『図書新聞』記事・執筆者・書評索引

 IV (80～88) …………… 133

『生長する星の群』解説・総目次・索引 … 133

『峠』解説・総目次・索引 …………… 133

『午前』解説・回想・総目次・索引…………… 133

『文化展望』解説・総目次・索引 …………… 133

『鵬』『ピオネ』『藝術前衛』

 解説・総目次・索引…………… 133

『サークル村』『労働藝術』『地下戦線』『炭砒
長屋』解説・回想・総目次・索引…………… 133

『人民戦線』 解題・総目次・索引 …………… 133

『ヂンダレ・カリオン』解説・鼎談・総目次・
索引…………… 133

『東京南部サークル雑誌集成』

 解説・解題・回想・総目次・索引…………… 133

『綜合文化』解説・総目次・索引 …………… 134

『新女性』 解題・総目次・索引…………… 134

『人民文学』解説・解題・回想・総目次・索引 134

『学園評論』 解題・総目次・索引 …………… 134

『琉大文学』解説・総目次・索引…………… 134

『東北文学』解説・総目次・索引…………… 134

『家庭雑誌』〈堺利彦主宰〉 解題・総目次・索引 134

『新社会』 解題・総目次・索引…………… 134

『洪水以後』 解題・総目次・索引…………… 134

『中外』解説・総目次・索引…………… 134

『日本評論』解説・総目次・索引…………… 134

『文芸雑誌』解説・総目次・索引…………… 134

『原始』解説・総目次・索引…………… 134

『日本読書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引 … 134

『都の花』 解題・総目次・索引 …………… 134

『趣味』解説・総目次・索引…………… 134

『新小説』解説・総目次・索引…………… 134

『天鼓』解説・総目次・索引…………… 134

『火鞭・ヒラメキ』解説・総目次・索引 … 134

『近代思想』 解題・総目次・索引…………… 134

『反響』 解題・総目次・索引…………… 134

『科学と文芸』解説・総目次・索引…………… 134

『家庭雑誌』〈徳富蘇峰主宰〉 解説・総目次・索引…………… 134

『新しき村』解説・総目次・索引…………… 134

■ 女性史・女性文学・ジェンダー

『処女の友』 解題・総目次・索引…………… 135

『連合婦人』解説・総目次・索引…………… 135

『日本婦人』解説・総目次・索引…………… 135

日本女性運動資料集成 別巻=索引…………… 135

『女性改造』〈戦前編〉 解説・総目次・索引… 135

『婦選』解説・総目次・索引…………… 135

『婦人運動』解説・総目次・索引…………… 135

『婦人』解説・総目次・索引	135
『廓清』解説・総目次・索引	135
『買売春問題資料集成』〈戦前編〉解説・総目次・索引	135
『性暴力問題資料集成』解説・総目次	135
『性と生殖の人権問題資料集成』解説・総目次・索引	135
『性科学研究』解説・総目次・索引	135
『性と社会』解説・総目次・索引	135
『上毛之青年』解説・総目次・索引	135
『日本女性詩集 1930年～1943年』解説・総目次・索引	135
『女子文壇』解説・総目次・索引	135
『以良都女』解題・総目次・索引	135
『新真婦人』解説・総目次・索引	135
『輝ク』解説・総目次・索引	135
『婦人文芸』解説・総目次・索引	135
『青鞜』解説・総目次・索引	135
『女人藝術』解説・総目次・索引	135
■ 農業史	
『農政時報』解説・総目次	136
『流芳』解題・総目次・索引	136
『清明心』解説・資料編	136
■ 中国語・中国文学・漢文	
『明治漢文教科書集成』第Ⅰ期・第Ⅱ期解説	136
『明治漢文教科書集成』第Ⅲ期解説・総索引	136
中国雑誌所蔵目録	136
人民日報社論索引	136
『紅旗週報』解題・総目次・索引	136

品切リスト

書名	巻数	定価	刊行年
愛知県農地史	全2冊	42,000円	1991年
青森県農地改革史		20,000円	1990年
清明心	全5巻・別冊1	35,000円	1982年
秋田県農地改革史		24,000円	1990年
新しき村 大正期	全6巻・別冊1	75,000円	1988年
石川県農地改革史		24,000円	1990年
石つぶての中で—モルフィの廃娯運動		1,500円	1984年
伊藤証信とその周辺		2,000円	1986年
岩手県農地改革史		12,000円	1990年
埋もれた明治の青春—松岡荒村		3,800円	1982年
江口きち資料集成〈塔影詩社蔵〉		4,800円	2002年
愛媛県農地改革概要		16,000円	1991年
演芸画報 大正編	全81巻	1,296,000円	1987～90年
大分県農地改革史		8,500円	1992年
岡山県農会三十年史		5,500円	1987年
岡山県農地改革誌		12,000円	1991年
科学と文芸	全7巻・別冊1	98,000円	1987年
輝ク	全2巻・別冊1	25,000円	1988年
香川県農地改革三年史		11,000円	1992年
各県産業組合史料集成	全37巻	380,000円	1988～1990年
学生義勇軍		2,000円	1987年
核戦争の危機に文学者はどのように対するか		1,200円	1984年
学徒勤労報国隊〈増補改訂版〉		2,800円	1988年
歌集 巢鴨		3,800円	1986年
華族財産関係資料	全2巻	28,000円	1986年
家庭雑誌（徳富蘇峰主宰）	全11巻・別冊1	198,000円	1986年
加藤完治の世界		2,000円	1984年
加藤時次郎		1,800円	1983年
神奈川県農地改革史		11,000円	1991年
火鞭・ヒラメキ		15,000円	1985年
簡易生活	全1巻	3,800円	1983年
岸田俊子研究文献目録 湘煙選集④		3,600円	1986年
岸田俊子評論集 湘煙選集①		3,600円	1985年
岸田俊子文学集 湘煙選集②		3,600円	1985年
恐慌下の東北農村	全3巻	30,000円	1984年
京都大学新聞	全9巻・別冊1	160,000円	1986年
『京都大学新聞』記事・執筆者索引		25,000円	1986年
京都府農会史		5,500円	1988年
京都府農地改革史		20,000円	1991年
キリスト教社会福祉思想史の研究—「一国の良心」に生きた人々		13,000円	1994年
近代思想〈合本版〉		9,800円	1982年
近代思想〈特装版〉	総27冊・別冊1	28,000円	1982年
近代日本と「偽満州国」		5,000円	1997年
近代日本「平和運動」資料集成	全5巻・付録1・別冊1	85,000円	2005年
クラルテ		4,000円	1990年
群馬県農地改革誌		7,500円	1990年
荊逆星霜史		2,800円	1985年
経済発展過程の研究		5,000円	1990年
現代ドイツ法社会学入門		2,000円	1995年
建築と社会	全87巻・別冊1	1,540,000円	1991～96年
紅旗週報	全7巻	85,000円	1985年
紅色中華	全3巻	75,000円	1986年
荒村遺稿		4,500円	1982年
高知県農地改革史		18,000円	1991年
抗日朝鮮人の証言—回想の金突破		1,500円	1984年

書名	巻数	定価	刊行年
西園寺公望と明治の文人たち		2,800円	2002年
最近に於ける朝鮮治安状況 昭和11年5月		7,000円	1986年
埼玉県農地改革の実態		12,000円	1990年
佐賀県農地改革史	全2冊	24,000円	1991年
番紅花	全2巻・別冊1	18,000円(上製合本版・函入)	1984年
『番紅花』 解題・総目次・索引		35,000円	1984年
静岡県農地制度改革誌		500円	1984年
史蹟名勝天然紀念物〈大正編〉	全3巻・付録1・別冊1	26,000円	1990年
島根県農地改革誌	全2冊	68,000円	2003年
社会運動通信	全40巻・別冊1	40,000円	1990年
『社会福利』 総目次・索引		1,000,000円	1984～86年
出版警察関係資料集成	全8巻	3,000円	1982年
趣味	全19巻・別冊1	120,000円	1986年
湘煙日記 湘煙選集③		350,000円	1986年
少年園	全13巻・別冊1	3,600円	1986年
『少年園』 解説・総目次・索引		220,000円	1988年
上毛教界月報	全12巻	2,000円	1988年
昭和初期政党政治関係資料	全4巻	188,000円	1984～85年
殖民協会報告	全13巻・別冊1	40,000円	1988年
女流作家の真髄		260,000円	1986～87年
資料 平民社の女たち		1,800円	1987年
人性	全17巻・別冊1	5,800円	1986年
人道	全20巻・別冊1	374,000円	2001～02年
『人道』 解説・総目次		260,000円	1983年
人民日報索引 第1巻		8,000円	1983年
すがも新聞	全2巻	15,000円	1983年
『進め』 解説・総目次・索引		28,000円	1985年
政治の陥穽と文学の自律		5,000円	1990年
西廂記罕見版本考		2,600円	1995年
青鞜	総52冊・別冊1	7,500円	1984年
青年学校論〈増補改訂版〉		120,000円	1983年
生物科学・毒素兵器の歴史と現状		2,800円	1996年
全国貸本新聞	全2巻	15,000円	1991年
戦後初期沖繩解放運動資料集	全3巻	20,000円	2010年
戦後帝大新聞の歴史		84,000円	2004～05年
戦後婦人界の動向		2,500円	1988年
戦争に対する戦争		1,500円	1984年
壯年團	全7巻・別冊1	2,800円	1984年
続・目の高さで見た中国		98,000円	1985年
孫治方の社会主義経済理論		1,500円	1995年
「大逆事件」関係外務省往復文書		1,800円	1985年
第三帝国	全9巻・別冊1	28,000円	1993年
『第三帝国』 解説・総目次・索引		170,000円	1983年
大東亜戦下外地俘虜収容所		3,000円	1984年
大日本帝国内地俘虜収容所		6,800円	1987年
台湾慰安婦関係資料集	全2巻	6,800円	1986年
魂鎮への道—無意味な死から問う戦争責任		50,000円	2001年
探書五十年		2,000円	1997年
近きより	全1巻	2,800円	1999年
中国経済の諸問題		18,000円	1989年
中国社会主义経済理論論争史 上・下		1,000円	1991年
中国社会主义経済理論論争史(抄訳)		2,500円	1986年
中国の経済改革と経済理論〈増補版〉		2,400円	1990年
中国の経済改革理論10年を回顧する		2,200円	1989年
中国文芸理論に関する文献解題・総目録		1,000円	1993年
朝鮮における日室コンツェルン		1,500円	1983年
朝鮮の治安状況 昭和2年・5年版	全2冊	5,000円	1985年
		18,000円	1984年

書名	巻数	定価	刊行年
天鼓	全2巻	28,000円	1985年
天乃蒼		3,800円	1982年
東海地域文化の諸問題		2,500円	1994年
東高時報		8,000円	1982年
徳島県農地改革史		10,000円	1992年
都市公論	全64巻・別冊1	975,000円	1988～92年
都市美	全4巻・別冊1・付録1	100,000円	2007年
栃木県農地改革史		14,000円	1990年
鳥取県農地改革誌		13,000円	1991年
富山県農地改革史		8,000円	1991年
長崎県農地改革史		8,500円	1992年
中里介山の原郷		2,500円	1987年
長野県に於ける農地改革		9,000円	1991年
長野県農地改革史	全2冊	20,000円	1991年
那須皓先生一遺文と追想		4,500円	1985年
新潟県農地改革史	全7冊	115,000円	1991年
新島襄先生の生涯		5,500円	1990年
西ボルネオ住民虐殺事件—検証「ボンテアナ事件」		2,000円	1987年
日・朝・韓 自由人の会 会報		4,500円	1993年
日本学芸新聞	全3巻・別冊1	65,000円	1986年
『日本学芸新聞』解説・総目次・索引		2,000円	1986年
日本読書新聞	全15巻・別冊1	295,000円	1987～88年
入門 中国経済論—中国経済と出会う人のために		2,400円	1992年
女人藝術	総48冊・別冊1・付録1	150,000円	1987年
熱帯野菜園芸		1,600円	1973年
農業年鑑		150,000円	1984年
農山漁村経済更生運動と小平権一		12,000円	1983年
農村青年—稲垣稔—大正デモクラシーと〈土〉の思想		2,200円	1985年
売文集		5,500円	1985年
母なる大地		1,500円	1982年
反響	全2巻	18,000円	1985年
B C級戦犯和蘭裁判資料・全巻通覧		9,800円	1992年
B C級戦犯英軍裁判資料(上)		6,800円	1988年
B C級戦犯英軍裁判資料(下)		5,800円	1989年
B C級戦犯豪軍ラバウル裁判資料		6,800円	1990年
B C級戦犯関係 茶園義男論文集		1,500円	1993年
B C級戦犯中国・仏国裁判資料		9,800円	1992年
B C級戦犯フィリピン裁判資料		5,800円	1987年
B C級戦犯米軍上海等裁判資料		6,800円	1989年
B C級戦犯米軍マニラ裁判資料		5,800円	1986年
百五人事件「寺内朝鮮総督暗殺未遂事件」資料集	全4巻	38,000円	1986年
百姓の見たソ連		2,000円	1993年
兵庫県農会史		8,500円	1987年
兵庫県農地改革史		29,000円	1991年
評伝 桐生悠々		1,500円	1987年
広島県農会史		9,000円	1987年
福井県農会史		9,500円	1987年
福井県の農地改革		12,000円	1990年
福岡県農地改革史	全4冊	75,000円	1992年
福島県農地改革史		13,000円	1990年
婦女新聞	全68巻・付録2	1,000,000円	1982～85年
『婦女新聞』記事・執筆者索引		28,000円	1985年
『婦女新聞』と女性の近代		3,200円	1997年
婦人界三十五年		18,000円	1984年
ふたつの文化のはざまから		2,000円	1994年
文化生活〈文化生活研究会〉	全10巻・別冊1・付録1	154,000円	1995年
『文章倶楽部』総目次・索引		18,000円	1985年
北京における魯迅		980円	1985年

書名	巻数	定価	刊行年
へちまの花	全2巻	5,000円	1984年
『変態心理』と中村古峡一大正文化への新視角		6,500円	2001年
ほうとくまんだら		2,800円	1983年
法律新聞 大正期	全95巻	1,125,000円	1984～86年
昭和期	全95巻	1,200,000円	1987～89年
細川嘉六獄中調書—横浜事件の証言		2,800円	1989年
本土決戦 日本内地防衛軍		4,800円	1986年
魔女の審判〈増補改訂版〉		1,500円	1984年
魔女の論理〈増補改訂版〉		1,500円	1984年
満州移民関係資料集成	全40冊・別冊1	680,000円	1990～92年
満洲帝国協和会組織沿革史		12,000円	1982年
満洲評論	全28巻・補巻1	398,000円	1978年
『満洲評論』解題・総目次		14,000円	1982年
満鉄調査月報	全48巻・別冊1	684,000円	1986～87年
『満鉄調査月報』総目次・索引		1,000円	1987年
満鉄調査時報	全31巻・別冊1	496,000円	1987～88年
『満鉄調査時報』総目次・索引		1,000円	1988年
三重県農会史		19,500円	1987年
都の花	全22巻・別冊1	270,000円	1984～85年
無我の愛	全14巻・別冊1	150,000円	1986年
村を考える—村落論集		4,500円	1986年
山形県農地改革史〈増補改訂版〉		4,500円	1984年
山口県農会史		11,000円	1987年
山口県農地改革誌		9,000円	1991年
山本宣治 上		3,000円	1998年
山本宣治 下		3,500円	1998年
優生運動	全9巻・別冊1	154,000円	1999年
陸軍軍医学校五十年史		20,000円	1988年
六合雑誌	全73巻・別冊1	900,000円	1986～88年
わが生涯の新島襄—森中章光先生日記		2,000円	1991年
我が青春のノモンハン事件スケッチ集		8,000円	1990年
和歌山県農地改革誌		14,000円	1991年
和平は売国か—ある汪兆銘伝		1,800円	1990年
絶版			
〈日本近現代史関係〉			
日本帝国陸軍と精神障害兵士		5,800円	2006年

WANTED

弊社では、日本近現代史研究のための一助として、その基礎資料の復刻出版を各方面のご協力の下に進めております。しかし、原本の散逸により完全な揃本を収集することは極めて困難です。下記の新聞・雑誌は今日まで弊社が復刻した（又は復刻予定の）資料の未発見部分です。心当りの方がありましたら、ご一報下さい。
資料提供して下さった方には、心ばかりの謝礼をさしあげます。（不二出版）

- 帝国大学新聞（原本判型＝タブロイド判又は新聞紙大）
第1号～第56号（大正9年12月25日～同12年10月）
- 三田新聞（原本判型＝新聞紙大）
〔以下、号数〕
13 26 28 30 49 53 61 71 81 82 88 93
97 107 113～152 303 312 317 318 333
334 336 344 410 413 498 501 512 513
518 519 522 523 524 528 532 534～537
742 1038 1200 1308（大正7年～昭和46年）
- 一橋新聞（原本判型＝新聞紙大）
〔以下、号数〕
89 120 368 371 373～375 377～380 542
545 547（昭和4年～同30年）
- 出版警察報（原本判型＝菊判）
第116号（昭和13年12月） 第127号（昭和15年4月）
第150号以降分
- 廓清（原本判型＝B5判）
第9巻第10号（大正8年10月号）
第10巻第12号（大正9年12月号）
第11巻第9号（大正10年9月号）
第35巻第2号（昭和20年2月号）
- 新社会（原本判型＝菊判）
第4巻第7号（大正7年4月号）
- 家庭雑誌（原本判型＝菊判）
第6巻第4号（明治42年7月号）
- 女王（原本判型＝タブロイド判）
第2号～第4号（大正4年12月～同5年3月）
- 文化運動〔以下、号数〕（原本判型＝菊判）
108 110 111 113 115 129 133 136～138
140～147 149（大正8年12月～同13年8月）
- 日本評論〔一元社版〕（原本判型B5判・菊判）
通算26号（第2巻6号）、28（2―8）、30（2―10）、
（大正6年6月～10月）
- 東京婦人矯風雑誌（原本判型＝菊判）〔以下、号数〕
8 14 16～22 24 26 45 58 以降（明治21年
11月～同26年10月）
- 婦人新報（原本判型＝菊判）〔以下、号数〕
57 59 121 135 193 257 258
- 外事警察報（原本判型＝菊判）〔以下、号数〕
9 212 215 256以降
- 警鐘（原本判型＝B5判）
第2巻第1号（大正10年1月）
- 穎才新誌（原本判型＝B5判）〔以下、号数〕
177～180（明治13年）、1096、1097（明治31年）
- 名古屋読書会報告（後継誌＝他山の石、原本判型＝B
6判）
第1年第4号、同第5号、同第10号、同第14号（昭
和9年7月～12月）第3年第21号（昭和11年11月）
- 婦人運動（原本判型＝菊判）
第6巻第11号（昭和3年12月号）
第9巻第6号（昭和6年8・9月号）
第9巻第8・9号～（昭和6年11・12月号～）
第10巻第11号（昭和7年12月号）
第11巻第10号（昭和8年12月号）
第13巻第10号（昭和10年12月号）
第14巻第10号（昭和11年12月号）
- 進め（原本判型＝B5判・菊判）
第1年第8号（大正12年9～11月号）
第2年第12号（大正13年12月号）
第3年第9～11号（大正14年9～11月号）
第4年第7号（大正15年7月号）
第8年第3号（昭和5年3月号）
第9年第1号（昭和6年1月号）
第9年第4号～（昭和6年4月号～）
- 横浜毎日新聞〔以下、号数〕
2 4～28 30～33 35～61 63～70 71（2ページ）
72～110 112～156 158～194 196～200 228～
246 247（3・4ページ） 248～268 269（3・4ペー
ジ） 270～272 274～314 316～354 357 365
367 385 387 390 391 393 410 433 439～
442 444 445 459～462 472 517 535～540
548 598 607 623 4338（3・4ページ） 4465

WANTED

(3・4ページ) 5008 (3ページ以降) 5049 5258
(3ページ) 5867 5982 5990 (2ページ)

- 扶桑新誌 (原本判型=菊半判)
第11号 (明治11年10月)
第219号第6丁~ (明治15年5月1日)
- 政海志叢 (原本判型=菊判)
第3号 (明治16年1月)
- 農民文学 (後継誌=第5次農民、原本判型=不明)
第1巻第1~7号 (昭和7年)
- 聖化 (原本判型=菊倍判)
第11号3・4ページ (昭和2年11月5日)
第26号3・4ページ (昭和4年2月5日)
第54号1・2ページ (昭和6年6月5日)
第60号3・4ページ (昭和6年12月5日)
第135号 (昭和13年3月5日?)
- 二六新報 [以下、号数]
438・439 (明治28年)
- 東京二六新聞 [以下、号数]
1546 (3・4ページ) (明治41年)
1373 1379 1386 1394 1400 1407 1414 1421
1428 1435 1442 1449 1456 1463 1470 1477
1484 1491 1498 1505 1512 1526 1540 1547
1554 1561 1568 1575 1582 1589 1603 1610
1617 1631 1638 1644 1659 1673 1680 1692
1701 1708 1715 1722 1729 1736 1743 1750
1757 1764 1771 1778 1785 1792 1799 1806
1813 1820 1827 1834 1841 1848 1855 1862
1869 1883 1890 1904 1911 1918 1925 1932
1939 1946 1953 1960 1995 2002 2009 2016
2023 (以上付録、明治41年2月~42年11月)
- 外事月報 (原本判型=菊判) 内務省刊
昭和14年11月~同16年8月 同18年7月
11月 同19年1月 4月 7月 10月以降
- 銀行報告誌 (後継誌=大阪銀行通信録、原本判型=菊判)
第50号 (明治27年2月)
- 三重水平新聞 (原本判型=新聞大)
創刊号 (大正12年5月20日) 第1面~6面
- 愛国新聞 (三重県松阪愛国新聞社、原本判型=新聞大)

第33号、第36号、以下改題紙 三重農民新聞=第44号、第46号

- 思想彙報 (原本判型=菊判) 憲兵司令部刊 [以下、号数]
1~5 22 31 33 35 37~41 46~
- 明治の女子
第3巻1~6・8号、第4巻1~3・7・9号~ 第7巻1~11号 第8巻1~5・7・8・10号~ (明治36年~明治44年)
改題誌 女子青年界 第14巻4号、第20巻第7号~ (ただし10月号を除く) 第21巻10号 (大正2年~大正13年)
- 外事警察資料 (原本=菊判) 内務省刊
第24号 (昭和14~15年頃) 第31号以降
- 満蒙 (原本判型=菊判) 満蒙文化協会刊
第4年第30冊 (大正12年1~2月)
- 全国出版新聞 (原本判型=新聞大)
『週刊読書人』の前身紙。
第3~6号 (昭和24年7~9月) 第8~10号 (同年11~12月) 第36号 (同26年3月) 第66号 (同27年10月)
- 上毛之青年
第27号 (明治24年10月頃)
- 新真婦人
第37~52・54~59・63・66~78・81・85~87・89・90・92・94・96・97・103・105・119号 (大正5年~12年)
- 現代新聞批判
第89号3~8ページ (昭和12年7月15日)
- 「日系アメリカ文学雑誌集成」より
 - ハートマウンテン文芸
1944年6~8月号
 - ポストン文芸 (1943~45年の各号から)
43年8月~44年2月、44年5・6月
- ウルマ新報 (45号からうるま新報)
395 397 414 437 553 769 791 857の各号
- 平和 (平和社、B6判)
第1~2号 (明治25年3月~5月)

WANTED

●サラリーマン〔巻号数は奥付の表記〕

第3巻第8号（昭和5年8月） 第5巻第6号（昭和7年7月頃） 第5巻第10号（昭和7年11月頃）

●海外各地在留本邦人職業別表（外務省通商局）

明治44年12月末日現在、明治45年（大正元年）12月末日現在

●産児制限

第1巻第3号（昭和3年8月）
第2巻第3・7～9号（昭和4年3・7～9月）

改題 産児制限評論

第3巻第1・11号（昭和5年1・11月）
第4巻第1～4号（昭和6年1～5月）

改題 産児調節

第4巻第7・8・10・11号（昭和6年8・9・11・12月）
第5巻1・2・4～8・10～12月号（昭和7年1・2・4～8・10～12月）
第6巻第1・3・5号（昭和8年1・3・6月）

●プロBCニュース

第1・3・4・8～10号（無産者産児制限同盟、昭和6～7年）

●内観

第1・2号（大正9年）
第23号（大正11年2月）
第154号（昭和8年1月）
第284号（昭和18年11月）

●東京孤児院月報

前身誌 使命新報

第1号（明治31年～32年）
第8号 p3～6（明治32年7月）
第12号 p7～8（明治32年11月）

東京孤児院月報

第42号 p5～（明治36年8月）
第43号～第47号（明治36年9月～37年1月）
第75号（明治39年5月）

改題 東京育成園月報

第9年第4号（明治41年4月）
第9年第11号（明治41年11月）
1909年全号
1910年全号
第148号（明治45年6月）

●宣撫月報

第1巻第1～6号
第2巻第3～5・9～11号

第3巻第1・4・6号
（1936～1938年）

●燈新聞

第624・625号（明治19年8月）
第649号（明治19年9月）
第679～715号（明治19年10～12月）

●夕刊 新大阪

第8号（昭和21年2月11日）
第11号（昭和21年2月14日）
第56号（昭和21年4月1日）
第601号（昭和22年10月1日）

●民藝

第69号

●連合婦人

第143・145・146号（昭和17年5・7・8月）
第148号（昭和17年10月）以降

●成功

第31巻第1・2号（大正5年）

●都市不燃化

第31号（昭和26年7月）・第36号（昭和27年2月）・
第46号（昭和28年）

●旅行満洲

第1巻第3号、第2巻第6号、第3巻第1～3・6・
7号
改題 旅行雑誌 第11巻第6号

ジャーナリズム・新聞

横浜活版社ほか刊〔明治3年～明治39年刊〕

横浜毎日新聞 全149巻・別冊1

揃定価 2,950,000 円

『横浜毎日新聞』は、明治3年12月8日（陰暦）、日本で初めての日刊新聞として創刊された。当初は貿易商況記事を主としていたが、政論新聞時代の展開と共に政治性を帯びていき、明治12年、沼間守一が同紙を買収し社長につくとともに、編集局を横浜から東京へ移し、紙名も『東京横浜毎日新聞』と改め、民権派言論の一翼を担うに至り、俄然注目を集めた。本紙は、日本近代史・政治史・社会史・文化史の研究等に必須の基礎的資料である。

●推薦＝内川芳美・北根 豊・羽島知之・服部一馬

第Ⅰ期 全45巻〔第1巻～第45巻〕・別冊1

別冊＝解説（甘利璋八）・総目次 全3巻
A4判・上製・総20,000頁
揃定価 870,000 円〔第1回～第15回配本〕
'89年5月～'93年1月配本完結〔復刻版〕

第Ⅱ期 全47巻〔第46巻～第92巻〕

門奈直樹 解説（第46巻に収録）
A4判・上製・総17,000頁
揃定価 940,000 円〔第16回～第27回配本〕
'93年4月～'96年1月配本完結〔復刻版〕

第Ⅲ期 全57巻〔第93巻～第149巻〕

門奈直樹 解説（第149巻に収録）
A4判・上製・総22,010頁
揃定価 1,140,000 円〔第28回～第42回配本〕
'96年4月～'99年10月配本完結〔復刻版〕

◎紙名の変遷

『横浜毎日新聞』 明治3年12月8日→12年11月16日
『東京横浜毎日新聞』 明治12年11月18日→19年4月30日
『毎日新聞』 明治19年5月1日→39年6月30日



秋山定輔 主宰〔明治26年～明治42年刊〕

二六新報 全48巻

B4判・上製・総18,000頁
揃定価 960,000 円
'92年6月～'96年6月配本完結〔復刻版〕

本紙は、秋山定輔が26歳のとき明治26年10月26日に創刊された日刊新聞である。藩閥政治反対を唱え、朝鮮問題や中国の動向に注目した独立の政論新聞であったが、いったんは経営難から休刊した。明治33年、再興された『二六新報』（第二次）は、三井財閥攻撃・娼妓自由廃業支援・労働者懇親会の開催など社会問題のキャンペーンに重点をおき、紙面を大衆向けに面白くし、かつ廉価販売によって、全盛時代には『万朝報』を抑え最高18万部を発行した。

●推薦＝飛鳥井雅道・荒瀬 豊・姜在彦・山本武利

林 正明 主宰〔明治9年～明治16年刊〕

近事評論・扶桑新誌 全11巻・別冊1

別冊＝解説（水野公寿）・総目次・索引
A4判・上製・函入・総4,200頁
揃定価 180,000 円
'90年4月～10月配本完結〔復刻版〕

『近事評論』『扶桑新誌』（のちに改題して『政海志叢』）は、ともに林正明の主宰する共同社より発行された民権派の代表的雑誌である。自由主義思想に立つ時事評論誌として明治政府を内外から揺るがす諸問題——土族問題・条約改正・朝鮮問題・琉球処分問題などを鋭く論じ続けた。そのラジカルな政府批判によってしばしば発売禁止や発行停止、検閲処分などに遭いながら、新しい視点を提示し続けた本誌を近代史研究に欠かせない資料として復刻する。

●推薦＝荒瀬 豊・我部政男・後藤 靖・松永昌三・矢沢康祐

「東京朝日新聞」の前身紙（明治17年～明治21年刊）

じゅうのともしび

自由燈 全13巻・別巻1

別巻＝解説（松尾章一）・主要記事索引
B4判・上製・総4,210頁
揃定価 380,000円
'06年6月～'07年3月配本完結〔復刻版〕

毛利柴庵 主筆（明治33年～大正9年刊）

牟婁新報 全33巻・補巻1・別冊2

B4判・A4判・上製・総11,424頁
揃定価 934,000円
'01年5月～'06年1月配本完結〔復刻版〕
別冊＝「第Ⅰ期」解説（門奈直樹・武内善信）・執筆索引
「第Ⅱ期／第Ⅲ期」解説（武内善信・中瀬喜陽）・執筆索引

東京日日新聞社 発行（1949年～1950年）

週刊東日 全2巻

B4判・上製・総496頁
揃定価 58,000円
'16年3月刊行〔復刻版〕

新聞学院 発行（昭和7年～昭和17年刊）

新聞学院『学報』全4巻・別冊1

別冊＝解説（松野良一・大久保謙）・総目次・索引
A5判・上製・総1,742頁
揃定価 72,000円
'15年2月刊行〔復刻版〕

太田梶太 主宰（昭和8年～昭和18年刊）

現代新聞批判 全7巻・別冊1

別冊＝解説（門奈直樹）・総目次・索引
A4判・上製・総2,676頁
揃定価 140,000円
'95年6月～9月配本完結〔復刻版〕

長谷川国雄 編（昭和7年～昭和11年刊）

時局新聞 全2巻

解説（犬丸義一）・解題（桑尾光太郎）・索引付き
B4判・上製・総674頁
揃定価 50,000円
'98年6月刊〔復刻版〕

本紙は、明治17年5月11日に自由党最高幹部の1人であった星亨によって創刊された小新聞である。

本紙の役割は2つあった。第1には政府からの強まる弾圧を受けて、万一それまでの政党機関紙である『自由新聞』が停刊になった際の代用紙たる役割。もう1つは、国会開設や憲法発布を控えて激化し続ける民権陣営と政府との戦いの中で、それまで以上に自由民権運動思想を国民の間に宣伝する機関紙としての使命であった。

継続後紙の『燈新聞』『めさまし新聞』までを収録し復刻。

●推薦＝安在邦夫・色川大吉・谷川恵一・土屋礼子

明治33（1900）年、和歌山県田辺市で毛利柴庵によって創刊された本紙は、県内外から多くの革新的思想家たちが寄稿し、平民社落城後の初期社会主義の砦ともいべき存在となった。世界的な民俗学者・博物学者として知られる南方熊楠が健筆を揮って、柴庵とともに環境保全・自然保護の問題に取り組んだこともその大きな特色である。

エコロジー運動のさきがけとしても貴重な資料である。

●推薦＝赤松徹眞・高嶋雅明・鶴見和子・中瀬喜陽・堀切利高

東京日日新聞社は昭和24年1月、一般読者向けに『東日ダイジェスト』を創刊した。各号タブロイド判の基本4頁立てで、芸能記事や野球記事をはじめ、政治・経済情報など当時の世相をふんだんに伝えている。

その後『週刊東日』『東京レポート』とタイトルを変更したが、いずれもほとんどの研究機関に所蔵されていない貴重資料である。今回の復刻では1949年1月2日発行の第1号から1950年12月25日発行の第101号までを収録する。

ジャーナリズム史、文化史研究をはじめ広く戦後史研究に供するものである。

●推薦＝土屋礼子

本書は、『国民新聞』編集局長、日本新聞協会理事を務めた山根真治郎（1884～1952年）が1931年に設立した、日本で最初の新聞人養成機関「新聞学院」の機関誌である。当時の専門学校卒業生・大学生、一年以上の実務経験者のほか朝鮮半島・中国・台湾出身の学生も多く学び、卒業後は7割がマスコミ界で活躍した。誌面には毎号山根が健筆を揮い、徳富蘇峰、緒方竹虎、鈴木文史朗ら著名な記者が執筆した。在学生、卒業生の寄稿、各期試験問題と答案、記事作成の「課題」も掲載された。

しかしアジア・太平洋戦争開始と戦況悪化に伴う報道の完全統制の中、学院は幕を閉じた。 ●推薦＝春原昭彦

本紙は『大阪朝日新聞』出身のジャーナリスト・太田梶太が、十五年戦争のさなか、1933年に創刊したメディア批判のメディアである。その既成ジャーナリズム批判は痛烈で、軍部や言論統制に迎合する新聞のあり方を糾弾し、同時に新聞人への殺傷事件や舌禍事件などを見逃さない。ファシズムが荒れ狂う時代にジャーナリスト主体の確立と勇気ある連帯を訴えて、関西で体制に抵抗した数少ないジャーナリズムのひとつとして、貴重な資料である。

●推薦＝荒瀬 豊・家永三郎・尾崎秀樹・久野 収

柳条湖事件の翌年に創刊された本紙は、体制迎合をあからさまにしていった一般新聞雑誌の墮落を憂い、鋭いジャーナリズム批判を貫いた希少メディアである。編集顧問に青野季吉・大宅壮一・鈴木茂三郎らを迎え、反ファシズム色を鮮明に出し、それゆえに度々の発禁に遭ったが、都市労働者や農民などの「大衆」を中心に読者層を広げた。戦争に突き進む日本帝国主義に歯止めをかける戦線統一の可能性をはらんでいた本紙を近代史研究に貴重な資料として復刻。

●推薦＝犬丸義一・久野 収・高橋新太郎

大日本言論報国会 刊〔昭和18年～昭和20年刊〕

言論報國 全2巻・別冊1

別冊＝解説（赤澤史朗）・総目次・索引
A 5判・上製・総1,076頁
揃定価 40,000円
'98年10月刊〔復刻版〕

本誌は、十五年戦争末期、「一億国民の思想」の統一に向け、思想家・言論人の結束をよりいっそうはかるため、結成された大日本言論報国会の機関誌である。1943年10月から敗戦の年の5月まで20号が刊行された。誌面には自然科学者をも含む代表的な文化人・思想家・マスメディアに携わる言論人・社会活動家などが登場。戦争末期の言論界のありようを示す希有の資料として復刻し、近代思想史・近代文学史研究に呈するものである。

●推薦＝中山和子・山領健二

桐生悠々 主宰〔昭和9年～昭和16年刊〕

他山の石 全4巻・別冊1

別冊＝解説（荒瀬 豊）・総目次・索引
A 4判・上製・函入・総1,490頁
揃定価 60,000円
'87年9月刊〔復刻版〕

本誌は、戦前期の反骨・不屈のジャーナリスト＝桐生悠々の主宰した個人雑誌である。当初は、欧米の著作物を翻訳・紹介して国際状況の中での日本の立場を明らかにすることにつとめていたが、現実への危機意識から、次第に憲法を盾として議会政治と国民の自由回復をくりかえし主張し、軍部による政治の危険を訴え、反戦を唱えるようになる。度重なる弾圧・検閲にも挫けることなく抵抗し続けた、ひとりのジャーナリストの良心が脈打っている本誌173冊を復刻。

●推薦＝家永三郎・井出孫六・太田雅夫・むの たけじ

長谷川国雄 主宰〔昭和3年～昭和11年刊〕

サラリーマン 全24巻・別冊1

別冊＝解説（田中秀臣）・総目次・索引
B 5判・上製・総9,690頁
揃定価 435,000円
'99年10月～'00年11月配本完結〔復刻版〕

本誌は、1920年代末、昭和金融恐慌・不況を迎え、急速に増大したサラリーマン（俸給生活者）層にとっての受難の時代に、創刊された「大衆経済雑誌」である。「新中間層」と呼ばれた彼らを「知識労働者」あるいはインテリゲンチヤとして自覚させ啓蒙することを意図した。財閥や企業を撃ち、国際問題を論じ、「サラリーマンは戦争に行きたくない」と非戦論を謳い、「働く者本位の社会」をめざした本誌は、経済史・思想史研究に必須の資料である。

●推薦＝猪瀬直樹・奥平康弘・佐高 信・杉原四郎・松浦総三

東京記者聯盟 刊〔昭和2年～昭和3年刊〕

号外 全2巻・別冊1

別冊＝解題（河原 功）・総目次・索引
B 5判・A 5判・上製・総894頁
揃定価 35,000円
'04年10月刊〔復刻版〕

本誌は、「金融恐慌」に始まった不景気・失業・金融不安の時代に、民衆に真実を報道することを目的に刊行されたプロレタリアートの機関誌。普選実施に絡む既成政党間の抗争、無産政党の活動ぶりを紹介し、また治安維持法に強く反対し、不当検束や検閲制度への抵抗も露にしているなど、当時の社会状況を反映している。この時期は、プロレタリア文学運動の隆盛期と重なり、本誌文芸欄を特徴づけている。近代政治史・メディア史研究等に貴重な資料である。

●推薦＝堀切利高

大宅壮一 主宰〔昭和8年～昭和9年刊〕

人物評論 全5巻・別冊1

別冊＝解説（尾崎秀樹）・総目次・索引
菊判・上製・総2,524頁
揃定価 85,000円
'96年11月刊〔復刻版〕

「この密閉された室内に、涼風をもたらすものは誰ぞ！」（大宅壮一）。本誌は、言論・表現の自由が封殺されてゆく時代にあって、わずか1年余の短命とはいえジャーナリスト大宅の旺盛な批評精神を体言した、人物・時事評論雑誌である。

痛烈な大宅の評論のほかに作家・漫画家によるユニークで直截な評論・小説・画も多く、近代文学史・思想史・ジャーナリズム史研究そして現代のジャーナリズムにとって見過ごせない資料である。

●推薦＝小田切秀雄・佐高 信・鶴見俊輔・松浦総三

生方敏郎 主宰〔昭和10年～昭和20年刊〕

古人今人

解説（高橋新太郎）・総目次・索引付き
付＝『ゆもりすと』全2号
B 5判・上製・函入・総542頁
定価 18,000円
'90年7月刊〔復刻版〕

本誌は戦前期における当代きっての風刺家・ユーモリストとして知られる生方敏郎の個人雑誌である。軍国主義社会にあっても自由主義者としての気骨を失わずむしろユーモリストとしての真骨頂を発揮、軍部や戦時体制下の社会を痛烈に告発した。『他山の石』『近きより』などととも記憶されるべき数少ない抵抗の雑誌であり、当時の知識人たちの動向を知る上でも貴重な資料である。昭和2年に発行された同じく生方の個人雑誌『ゆもりすと』も合わせて復刻。

●推薦＝家永三郎・鶴見俊輔

新大阪新聞社 刊 [1946年～1949年刊]

夕刊 新大阪 全10巻・別冊1

別冊＝解説（浦西和彦）・主要記事索引
A 3判・上製・総2,838頁
揃定価300,000円
'06年10月～'07年5月配本完結〔復刻版〕

茅原 健 著

茅原華山かやはらかざんと同時代人

茅原 健 著

民本主義の論客 茅原華山かやはらかざん伝

本紙は、昭和21年2月4日に創刊された横長の夕刊紙である。不安と希望が入り混じる、戦後間もない大阪の地において、民主主義を根本理念とし、権力に屈せず、市民に活力を与え、生活を向上させていくことを発刊の主旨とした。

大新聞には文化欄がほとんどないと言っていい時期に、本紙は投書欄と学芸欄さらにスポーツ欄に大きなスペースを割き、文化新聞として独自の地位を築いた。敗戦直後の庶民の世相を色濃く反映し、また占領期文学の宝庫でもある本紙を昭和24年まで復刻する。

●推薦＝田辺聖子・谷沢永一・山内祥史・山本武利

『万朝報』の記者を経て、社会評論誌『第三帝国』『洪水以後』を主宰し、大正デモクラシーの潮流に一石を投じた特異なジャーナリスト・茅原華山の生涯を、その多彩な人物往還の中に浮かびあがらせる。

●四六判・上製・316頁・定価1,800円／'85年1月刊

『万朝報』で藩閥・官僚政治の打破を唱えて看板記者となり、民本主義の社会評論雑誌『第三帝国』を創刊。大正デモクラシー期に革新青年たちの熱い支持を得た生涯―ジャーナリストの本格的評伝。

●四六判・上製・284頁・定価1,800円／'02年12月刊

七一雑報

34ページをご参照ください。

人類愛善新聞

35ページをご参照ください。

おきなわ

62ページをご参照ください。

うるま新報

63ページをご参照ください。

琉球新報

63ページをご参照ください。

沖縄新民報・自由沖縄

63ページをご参照ください。

占領期・琉球諸島新聞集成

63ページをご参照ください。

近代沖縄新聞集成 DVD版

63ページをご参照ください。

上海新報

69ページをご参照ください。

艦内新聞集成

83ページをご参照ください。

【学校新聞】

91ページをご参照ください。

宗教

【仏教】

■ 龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 1
龍谷大学アジア仏教文化研究センター
(中西直樹(代表)・林 行夫・吉永進一・大澤広嗣) 編
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流
〔第Ⅰ期〕汎太平洋仏教青年会大会関係資料 全2巻

B 5 判・上製・総 1,008 頁
揃定価 48,000 円
'16 年 3 月刊〔編集復刻版〕

■ 龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 2
龍谷大学アジア仏教文化研究センター
(中西直樹(代表)・林 行夫・吉永進一・大澤広嗣) 編
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流
〔第Ⅱ期〕南方仏教圏との交流 全 3 巻

B 5 判・上製・総 1,298 頁
揃定価 72,000 円
'16 年 10 月刊〔編集復刻版〕

■ 龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 4
龍谷大学アジア仏教文化研究センター
(中西直樹(代表)・林 行夫・吉永進一・大澤広嗣) 編
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流
〔第Ⅲ期〕中国仏教との提携 全 2 巻

B 5 判・上製・総 740 頁
揃定価 46,000 円
'17 年 9 月刊〔編集復刻版〕

令知会 発行〔明治 17 年～明治 25 年刊〕

令知会雑誌 全 7 巻

中西直樹・近藤俊太郎 監修
A 4 判・上製・総約 3,030 頁
揃定価 175,000 円
'17 年 6 月～11 月配本完結予定〔復刻版〕

1933 年 3 月、日本は国際連盟を脱退し国際的な孤立状態に陥った。そのような中、日本仏教の関係者たちは欧米の仏教者・研究者と緊密に連絡を図り、アジア諸国の仏教勢力との協力提携を目指した。その事業は基本的に国策に順応する方向性をもっていったことは否定できないが、広範囲かつ大規模に及ぶこれらの事業には、様々な立場の人物が関わり、その活動も多様な側面を有していた。今、日本の民間レベルでの国際交流のあり方を問い、これらの事業の検証が求められていると言えよう。本資料集は、そのための必要不可欠な文献を収録したものである。

● 推薦＝赤松徹眞・楠 淳證

第Ⅱ期は「南方仏教圏との交流」をテーマとして、『海外仏教事情』（国際仏教協会発行、昭和 9 年～19 年）を中心に、『世界に伸びて行く日本仏教』（昭和 13 年）、『南方仏教青年会会報』（昭和 16 年）、『大東亜建設学徒大会紀要』（昭和 18 年）などを収録。

戦時下における日本仏教と南方仏教圏との関係性を示す資料群である。

● 推薦＝赤松徹眞・楠 淳證

第Ⅲ期は「中国仏教との提携」をテーマとして、『国際仏教通報』（昭和 10 年～12 年）、『日華仏教』（昭和 11 年・12 年）、『支那宗教事情（継続後誌『東亜宗教事情』）』（昭和 13 年～15 年）を収録した。

支那事変前後における、日本と中国の仏教における関係性を知ることのできる資料群である。

● 推薦＝赤松徹眞・楠 淳證

西洋化とそれに伴うキリスト教の進出に対する僧侶たちの危機感を背景に、仏教界は明治 20 年代に改革の時代を迎えた。明治 10 年代後半から僧侶による結社活動が活発化するなかで、島地黙雷、日下痴龍、吉谷覺寿、多田賢住らは明治 17 年に、当時の代表的な仏教結社のひとつである令知会を結成し、機関誌『令知会雑誌』を創刊する。

その後の仏教系メディアの先駆的位置にあるといえる本誌には、現在からみても仏教界の重大な記事や論説が数多く掲載されている。

● 推薦＝大谷栄一

中西直樹 編・解題

雑誌『國教』と九州真宗 全3巻・別冊1

B5判・上製・総1,274頁
 揃定価 75,000円
 '16年7月刊〔編集復刻版〕

明治20年代初頭、日本仏教界ではキリスト教に対抗して「通仏教」を標榜して結束する動きが高まった。その拠点となった熊本では、真宗僧侶を中心に「九州仏教団」が結成され、九州各地の各宗派の僧侶・在家信者が数多く参加した。その事業は雑誌『國教』の創刊をはじめ幅広い領域に及び、国粋主義の台頭期には中央言論界でも注目を浴びたものの、キリスト教の教勢が衰退すると活動は停滞し、日清戦争前にその役目を終えた。しかし、当時の仏教の革新運動の一翼を担い、日本の思想界にも大きな影響を与えた点で注目に値する。

●推薦＝赤松徹眞

中西直樹 編・解題

仏教海外開教史資料集成
 〈ハワイ編〉全6巻

A5判・上製・総3,642頁
 揃定価 120,000円
 '07年10月～'08年1月配本完結〔編集復刻版〕

本資料集成は、ハワイにおける膨大な仏教開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。

〈収録資料抜粋〉 全25点

『布哇開教史』本派本願寺布哇開教教務所文書部編 1918年
 『浄土宗開教要覧』〈抄録〉柴田玄鳳編 1929年
 『布哇真言宗開教沿革——創立五十周年記念』加登田哲英著 1966年
 『布哇曹洞宗寺院情勢概要』布哇曹洞宗教会編 1949年
 『ハワイ日蓮宗八〇年のあゆみ』ハワイ日蓮宗別院編 1982年

●推薦＝大村英昭・坂口満宏

中西直樹 編・解題

仏教海外開教史資料集成
 〈北米編〉全6巻

A5判・上製・総3,372頁
 揃定価 120,000円
 '08年9月～'09年1月配本完結〔編集復刻版〕

本資料集成は、北米における膨大な仏教開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。

〈収録資料抜粋〉 全15点

『北米視察談』宮本恵順著 1898年
 『桑港仏教会開教三十年記念誌』桑港仏教会文書部編 1930年
 『万国宗教大会一覽』釈宗演著 1893年
 『人と仏——日蓮主義の要領』〈抄録〉遠山潮徳・池田順教著 1924年
 『第二世と兵役関係』日本米布協会編集部編 1938年

●推薦＝大村英昭・坂口満宏

中西直樹 編・解題

仏教海外開教史資料集成
 〈南米編〉全3巻

B5判・A5判・上製・総1,526頁
 揃定価 60,000円
 '09年10月刊〔編集復刻版〕

本資料集成は、南米における膨大な仏教開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。

〈収録資料抜粋〉 全17点

『伯国仏教篤信功勞者名鑑』ブラジル仏教徒協議会編 1960年
 『南米視察談』井上円了著 1912年
 『うかつに行けない南米』松宮石丈著 1927年
 『平野廿五周年史』平野植民地日本人会編 1941年
 『南米開教35年誌』真宗大谷派南米教団編 1987年

●推薦＝大村英昭・坂口満宏

戦前期仏教社会事業資料集成 全13巻

編・解題＝菊池正治・高石史人・中西直樹
 A5判・上製・総7,556頁
 揃定価 334,000円
 '11年9月～'13年6月配本完結〔編集復刻版〕

明治末から大正・昭和戦前期、仏教が社会事業に果たした役割は大きく、各教団による事業、僧侶ら仏教者が設立した施設、寺院に附設された施設は膨大な数にのぼる。本資料集成では、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、浄土宗をはじめ曹洞宗、日蓮宗、真言宗の各教団関係機関の発行した社会事業の要覧・便覧・報告書等を収集整理し、収録した。戦前期仏教社会事業の軌跡を、国家目的遂行に利用された側面も含めて検証し、仏教史・仏教福祉、さらに近代史・社会福祉研究のための基礎資料として提供する。

●推薦＝長谷川匡俊・室田保夫

遍路同行会 発行〔昭和6年～昭和17年刊〕

遍路 全3巻・別冊1

別冊＝解説（下西 忠）・総目次・索引
 A5判・上製・総1,238頁
 揃定価 54,000円
 '16年3月刊〔復刻版〕

本誌は東京中野・宝仙寺内の遍路同行会機関誌である。そして、「遍路愛」を鼓吹するために設立された遍路同行会の目的を達成するための「文書宣伝」を具体化したものである。

誌面では会長の富田敦純の文章をはじめ、高群逸枝や荻原井泉水等の著名文化人や会員の四国遍路の便りも載っている。また、遍路同行会は「大東京遍路修行会」「多磨遍路」等、関東圏での遍路行事も行った。近代の遍路を知るために不可欠な貴重資料である。

●推薦＝真鍋俊照・森 正人

加藤咄堂 編〔大正10年～大正12年刊〕

現代知識 教化講習録 全5巻

序文（長谷川匡俊）・解説（山口幸照・宮城洋一郎）
付き

A 5判・上製・総1,932頁

揃定価 85,000円

'16年8月刊〔復刻版〕

本書は、教化にあたる仏教者を対象に、当時の著名な専門家が執筆したテキストである。この時期は、社会事業と社会教化が密接に関係した時期であり、また社会事業の勃興期であり、社会教化の成立期でもあった。加藤咄堂は「宗教活動は常に社会教化と関連し、社会教化は宗教を中心とする」と述べ、社会教化の中心に宗教を置いていた。社会的役割が大いに期待されていた仏教者の背景が分かる資料である。

●推薦＝藤田光寛

真宗大谷派（大谷派本願寺社会課）発行
〔大正11年～昭和12年刊〕

児童と宗教 全15巻・別冊1

別冊＝解説（佐賀枝夏文）・総目次・索引

A 5判・B 5判・上製・総7,822頁

揃定価 285,000円

'13年12月～'14年10月配本完結〔復刻版〕

本誌は、東京浅草別院の有志で始めた雑誌『救済』（弊社にて復刻済）の啓蒙活動を引き継ぐものとして、社会課主事の武内了温が事業として推進し、戦前の宗教と社会の接点として隆盛を極めた「日曜学校」の機関誌である。教育勅語を背景とした宗教・児童福祉問題の一考察・児童文学・キリスト教等に対する言及も見られ、また子供の道德教育や日曜学校の教案やカリキュラムも記載されている。継続後誌『青少年と宗教』も合わせて復刻する当資料は、「教育と宗教」のあり方を示す重要資料である。

●推薦＝長谷川匡俊・谷川 穣

大谷派慈善協会 刊〔明治44年～大正8年刊〕

救 済 全9巻・別冊1

別冊＝解説（佐賀枝夏文）・総目次・索引

菊判・上製・総4,888頁

揃定価 163,000円

'01年10月～'02年1月配本完結〔復刻版〕

本誌は、真宗大谷派の僧・大草慧実が設立した福祉団体＝大谷派慈善協会の機関誌である。貧困者・失業者・無宿者の救済、刑期終了者の社会復帰事業、被差別部落の改善、禁酒運動、ハンセン病患者への対策、そして児童保護事業・知的障害児教育など豊富な資料が掲載されている。これまで近代社会福祉事業といえばキリスト教の活動が主に語られてきたが、仏教者の新たな事業活動の展開については十分に考察されていない。仏教社会福祉の原点として復刻する。

●推薦＝長谷川匡俊・吉田久一

中西直樹 著

仏教海外開教史の研究

近代以降、日本人の赴くところには、必ず仏教伝道開教使が同行し、拠点を築き、進出の出先機関としての役割を果たしてきた。本書は復刻版『仏教海外開教史資料集成（ハワイ編・北米編・南米編）』に収録した解題と収録内容を一冊にまとめたものである。

●A 5判・並製・120頁・定価2,000円/'12年10月刊

中西直樹・高石史人・菊池正治 著

戦前期仏教社会事業の研究

戦前期に仏教が社会事業に果たした役割は大きく、仏教者有志設立の施設、各宗派の事業、寺院に附設された施設等は莫大な数にのぼる。本書は『戦前期仏教社会事業資料集成』に収録した解題と収録内容を一冊にまとめたものである。

●A 5判・上製・168頁・定価2,500円/'13年8月刊

中西直樹・近藤俊太郎 編著／中川洋子 執筆

令知会と明治仏教

令知会は1884年、島地黙雷らが中心となって結成された仏教結社である。本書はその令知会の機関誌『令知会雑誌』を研究の対象とし、明治初期・中期の仏教界の様子を探る解題論文集である。

●A 5判・上製・200頁・定価2,700円/'17年6月刊

労働共済

39ページをご参照ください。

ハワイ日本語学校教科書集成

57ページをご参照ください。

日本仏教社会福祉学会機関誌

日本仏教社会福祉学会年報 全8巻

第1号（昭和44年）～第26号（平成7年）

B5・A5判・上製・総3,432頁

揃定価120,000円

'04年10月刊〔復刻版〕

仏教社会事業の研究と推進に関心を持つ関係者によって創立された日本仏教社会福祉学会の機関誌。

長らく欠号になっていた第1号（昭和44年）から第26号（平成7年）を合本にして復刻。第8巻に付録として「文献目録」を収録。現在も継続刊行されている本誌には、多くの貴重な研究論文が収録されており、社会福祉の基本理念、仏教社会福祉の意味を考える上で、研究者のみならず、社会福祉に従事する人々にとっても貴重な文献である。

●推薦＝阿部志郎・吉田久一

■バックナンバー■

第27号	192頁・定価2,000円/'97年10月刊
第28号	182頁・定価2,000円/'97年10月刊
第29号	174頁・定価2,000円/'98年10月刊
第30号	168頁・定価2,000円/'99年9月刊
第31号	154頁・定価2,000円/'00年9月刊
第32号	188頁・定価2,000円/'01年9月刊
第33号	120頁・定価2,000円/'02年9月刊
第34号	176頁・定価2,500円/'03年9月刊
第35号	150頁・定価2,500円/'04年9月刊
第36号	164頁・定価2,500円/'05年12月刊
第37号	204頁・定価2,500円/'06年10月刊
第38号	138頁・定価2,500円/'07年10月刊
第39号	198頁・定価2,500円/'08年8月刊
第40号	160頁・定価2,500円/'10年2月刊
第41号	202頁・定価2,500円/'10年11月刊
第42号	182頁・定価2,500円/'11年11月刊
第43号	242頁・定価2,500円/'12年10月刊
第44・45合併号	288頁・定価2,500円/'14年9月刊
第46号	190頁・定価2,500円/'15年9月刊
第47号	96頁・定価2,500円/'17年3月刊

年1回発行——B5判・並製（27～32号はA5判）

【既刊分合計価格46,500円】

【キリスト教】

東京基督教女子青年会 発行〔大正15年～昭和14年刊〕

地の塩 全7巻・別冊1

別冊＝解説（樽松かほる・影山礼子）・総目次・索引
 B 4判・A 5判・上製・総3,242頁
 揃定価 140,000円
 '14年5月～12月配本完結〔復刻版〕

『地の塩』は大正15（1926）年7月、東京基督教女子青年会（東京YWCA）の機関紙として昭和14（1939）年3月の第113号まで発行され、その後、日本基督教女子青年会（日本YWCA）機関誌『女子青年界』に統合された。

キリスト教関係の記事はもとより、当時の東京YWCAの実践的な活動内容を生き生きと伝えており、戦時色が濃くなる情勢下で世界のYWCAとの交流を軸に世界平和を訴える様子もみてとれる。東京YWCA以外に所蔵を確認できない本紙はキリスト教史、女性史、教育史、国際交流史、平和運動史に必須の貴重資料である。 ●推薦＝川戸れい子

日本基督教女子青年会 刊〔明治37年～昭和25年刊〕

女子青年界 全33巻・別冊1

別冊＝解説（武田清子）・総目次・索引
 A 5判・B 4判・上製・総21,866頁
 揃定価 748,000円
 '92年4月～'94年1月配本完結〔復刻版〕

本誌は、当初「明治の女子」の題名で創刊され、翌年日本基督教女子青年会（日本YWCA）の発足にともない、その機関誌として敗戦の前年まで発行された。本誌は、女子学生や働く女性のための寄宿舎事業、託児所設置、婦人問題に関する調査・研究、女工・女中の生活教育など、女性の社会教育を一貫して行なったYWCAの活動を克明に記録したものとして、日本近代女性史・思想史研究に有用な資料となるものである。後継紙『女性新聞』もあわせて復刻。

●推薦＝一番ヶ瀬康子・笠原芳光・関屋綾子・水田珠枝・山口光朔

日本力行会 発行〔明治28年～明治44年刊〕

救世 全2巻・別冊1

別冊＝解説（和田敦彦）・総目次・索引
 A 5判・B 4判・上製・総762頁
 揃定価 48,000円
 '12年7月刊〔復刻版〕

『救世』は、日本力行会を設立した島貫兵太夫が、1895年に創刊したキリスト教伝道誌である。日本力行会の名称は中国の古語「苦学力行」に由来し、苦学生の救済を端緒としており、苦学生の情報も豊富に掲載されている。日本力行会は救済の地を米国に拓き、苦学生の渡米を勧めながら『渡米新報』を刊行、その後、『救世』は『渡米新報』を吸収したため、海外事情や海外在住会員の情報が豊富に掲載されるようになる。明治期キリスト教史、教育史、移民史を補完する重要資料として復刻する。

●推薦＝坂口満宏・竹内洋・出村彰

日本救世軍 編〔明治28年～昭和23年刊〕

ときのごゑ 全21巻・補巻1・別冊2

補巻＝『日本救世新聞』『朝のひかり』『のど書』
 別冊＝解説（室田保夫）・総目次・執筆者索引 全2巻
 A 3・B 4・A 4判・上製・函入・総9,042頁
 揃定価 400,000円
 '87年4月～'89年12月配本完結〔復刻版〕

日本救世軍の歩みは、そのまま日本の社会福祉の歩みであるといわれる。あまりにも名高い娼妓自由廃業運動とその救済活動、生活困窮者・無宿者・刑余者対策、結核療養所創設、災害救済……等々その業績は、日本近代の社会問題、人権問題及び社会福祉の歴史を語るのに不可欠である。日本救世軍の機関紙である本誌は、その歩みの記録としての日本社会事業史・女性史・日本キリスト教史・人権運動史研究に必須の資料である。

●推薦＝朝野洋・一番ヶ瀬康子・杉井六郎・高橋喜久江・山室徳子

日本基督教婦人矯風会 刊〔明治21年～昭和33年刊〕

婦人新報 全60巻・別冊1

別冊＝解説（五味百合子）・総目次・索引
 菊判・上製・総30,000頁
 揃定価 840,000円
 '96年8月～'98年6月配本完結〔復刻版〕

日本で最も歴史の古い女性団体である矯風会の活動は廃娼運動をはじめ婦人参政権運動などによって、日本近代史の中でも重要な意義をもつ。矯風会の機関誌である本誌の復刻によって、女権運動の先駆でかつ大きな柱であった矯風会の再評価がなされ、権利をかちとるための日本の女性たちによる長い闘いの轍をたどることができよう。キリスト教史・近代史研究にも大きな手掛りとなる基礎資料を前身の『東京婦人矯風雑誌』『婦人矯風雑誌』をあわせて復刻。

●推薦＝一番ヶ瀬康子・小倉襄二・林千代・森崎和江

基督教青年同盟(YMCA)発行〔明治22年～明治23年刊〕

基督教青年 全1巻

解説(滝澤民夫)・総目次・索引 付き
A 5判・上製・462頁
定価 18,000円
'10年12月刊〔復刻版〕

明治20年前後、西日本地方でキリスト教青年会が次々と結成された時期、大阪青年会の機関誌として『基督教青年』は創刊された。第4号からは基督教同盟社の発行となり、同盟加入数の増加に伴い、明治23年3月新たに発足した関西連合基督教青年会からの発行となるが、編纂人増野悦興が渡米するなか、同年八月終刊にいたる。廃娼運動を推進し、西日本の教界事情を丁寧にとりあげた本誌は、近代キリスト教史研究の貴重な資料である。

●推薦=細井 勇

住谷天来 主宰〔昭和2年～昭和14年刊〕

聖化 全2巻・別冊1

別冊=解説(門奈直樹)・総目次・索引
B 5判・上製・函入・総830頁
揃定価 36,000円
'90年11月刊〔復刻版〕

本誌は、群馬県甘楽(かんら)教会の牧師・住谷天来が十五年戦争直前の1927年に創刊し、1939年警察の命令によって廃刊を余儀なくされるまでの12年間、軍国主義の時代に刊行されたキリスト教雑誌である。批判的精神に満ちた人間尊重の思想に基づいて、日清戦争以来一貫して非戦を説いてきた天来独自の平和思想が結実した雑誌であり、『他山の石』『近きより』『嘉信』『古人今人』とならぶ反体制・反戦争の雑誌として貴重な資料である。

●推薦=杉井六郎・鈴木範久・萩原 進

雑報社 刊〔明治8年～明治16年刊〕

しちいち

七一雑報 全8巻・別冊1

別冊=解説(山口光朔)・総目次・索引
A 4判・上製・函入・総3,212頁
揃定価 160,000円
'88年6月～'89年2月配本完結〔復刻版〕

本書は、日本最初のキリスト教週刊新聞『七一雑報』全389号の復刻版である。創刊号において「啓蒙、文明化、キリスト教化」とその発行意図を示した本紙は、キリスト教の伝播という使命とともに、西洋の新文明を紹介した記事を満載し、日本の近代文化の形成に大きな役割を果たした。キリスト教史、日本近代史研究に必備の資料である。

●推薦=大内三郎・岡本道雄・笠原芳光・杉井六郎・竹中正夫・韓哲曦

大河原礼三 著

聖書におけるエコロジーと人権

本書は、旧約聖書における「自由」「人権」「平等」「自然」思想を検証し、現代社会が直面するさまざまな問題に対する指針とインスピレーションと希望を探究した書である。

●四六判・上製・248頁・定価2,000円/99年5月刊

岡山孤児院関係資料集成

41ページをご参照ください。

獄事叢書

41ページをご参照ください。

日本 MTL

44ページをご参照ください。

力行世界

57ページをご参照ください。

【神道・その他】

弘道社 発行〔明治9年～明治14年刊〕

開知新聞 全11巻

解説（齊藤智朗）付き

A 4判・A 5判・上製・総5,846頁

揃定価 217,000円

'13年11月～'15年1月配本完結〔復刻版〕

『開知新聞』は神官教導職の中核として明治8年に創設された神道事務局の機関紙である。全国の神道諸派を結集、統括する役割をもって、全国の神社で購読されたと考えられる。当紙は明治13年より本格化した祭神論争の決着、明治14年の神道大会議を経て廃刊に至った。内容は神道事務局からの報告、神官の任免記事をはじめ、全国の神社に関するニュース、各地の神官からの投稿などが掲載されている。神道界を通して、明治初期から中期にかけての転換期を知るための貴重な資料である。

●推薦＝阪本是丸・島蘭 進

人類愛善会 発行〔大正14年～昭和11年刊〕

人類愛善新聞 全5巻・別冊1

別冊＝解説（對馬路人）

A 3判・上製・総1,302頁

揃定価 175,000円

'12年10月～'13年10月配本完結〔復刻版〕

『人類愛善新聞』とは、大正14年に発会した大本（大本教）の外郭団体である人類愛善会の機関紙であり、その読者は台湾、満蒙、南洋、南米にまで広がり、昭和9年には百万部の発行部数を超えるに至った。

復刻された『人類愛善新聞』により、戦前の日本に最も影響を与えた宗教指導者の一人である出口王仁三郎のアジア全域を巻き込んだ宗教運動とその思想、当時の社会や民心の動向、近代日本社会の思想基盤等を理解する手助けとなるであろう。

●推薦＝井上順孝・島蘭 進・原 武史・ナンシー ストーカー

成功

38ページをご参照ください。

昭和大礼記録資料

51ページをご参照ください。

皇室陵墓

56ページをご参照ください。

新垂細亜

71ページをご参照ください。

医学・心理

日本優生学会 発行〔大正13年～昭和18年刊〕

優生學 全16巻・別冊1

別冊＝解説（中馬充子）・総目次・索引
B 5判・A 5判・上製・総7,904頁
揃定価 296,000円
'13年10月～'15年1月配本完結〔復刻版〕

第一次大戦勃発後、日本でも優生学研究体制の必要性が叫ばれるようになる。その活動をまとめるものとして、後藤龍吉は『ユーゼニックス』を創刊する。後に『優生學』と改題される本誌に掲載の執筆者は、医学博士から精神科医、児童相談所員等と幅広く、そのため登場するキーワードも、「遺伝」「人種改良」「性」「犯罪」等、実に多様である。当誌は当時刊行された数少ない「優生学」専門誌だったが、全号を所蔵する研究機関は存在しなかった。現在の生命倫理に対しても鋭い示唆に富む重要資料である。

●推薦＝市野川容孝・笹栗俊之・鈴木晃仁・鈴木善次

日本優生結婚普及会 発行〔昭和11年～昭和14年刊〕

優生 全2巻

解説（加藤秀一）・総目次・索引付き
A 5判・上製・総980頁
揃定価 40,000円
'16年6月刊〔復刻版〕

本誌は、優生学の研究および啓蒙に大きな影響力を持った日本民族衛生協会（1930年設立）の付属機関である日本優生結婚普及会（会長・永井潜）の機関誌である。

「結婚衛生思想の普及及び涵養を図る」（会則摘要）ことを目的とし、東京白木屋デパート内に「優生結婚相談所」を運営していた。

戦前期日本における優生学の啓蒙・普及活動の従来知られざる一面を伝える貴重資料である。

●推薦＝鈴木晃仁

中村古峽 主幹／日本精神医学会 刊〔大正6年～大正15年刊〕

変態心理 全34巻・別冊1

別冊＝解説（曾根博義）・総目次・索引
A 5判・上製・総12,000頁
揃定価 303,000円
'98年4月～'99年11月配本完結〔復刻版〕

大正6年創刊の本誌は、現在でいうところの多重人格、トラウマ、精神病質、神経衰弱、心霊現象、催眠現象、マインド・コントロール、サイコセラピーから、買売春、嬰兒殺し、ドメスティック・バイオレンス等さまざまな異常心理・超心理の具体的事例を満載した研究雑誌である。

社会心理学・精神医学はもとより、犯罪・風俗・性・差別・教育・宗教・文学などの分野に広く活用できる資料の宝庫である。

●編集委員＝小田 晋・栗原 彬・佐藤達哉・曾根博義・中村民男
●推薦＝大原健士郎・小峯和茂・関井光男・南 博・山下 武

田中香涯 主筆／日本精神医学会 発行
〔大正11年～大正14年刊〕

変態性慾 全6巻・別冊1

別冊＝解説（斎藤 光）・総目次
A 5判・上製・総2,166頁
揃定価 90,000円
'02年10月刊〔復刻版〕

田中香涯が『変態心理』主幹・中村古峽の全面的協力によって発刊した性研究の純学術雑誌。性研究こそが人間と社会問題にとって緊要だという信念のもと、当時「変態」すなわち「異常」と呼ばれた性のあらゆる形態を究明。生殖器の機能、疾患・同性愛・トランスセックス・買売春・避妊・人工妊娠中絶・生殖器信仰・性犯罪などを論じている。性科学研究はもとより教育・医史学・女性・文化史研究の貴重文献。

●推薦＝佐藤達哉・山下 武

武俠社 発行〔昭和15年～昭和17年刊〕

犯罪科學 全21巻・別冊1

別冊＝解説（馬場伸彦）・総目次・索引
A 5判・B 5判・上製・総11,166頁
揃定価 378,000円
'07年10月～'08年8月配本完結〔復刻版〕

エログロナンセンス的風潮がピークを迎える昭和5年、『犯罪科學』は華やかな都市生活から隠蔽された裏面を暴露すること、人間生活の暗黒面を探究することを目的として刊行された。発行人は杉山清太郎、田中直樹、今田謙吾。本誌は犯罪学、法医学に関する研究報告に加えて、探偵小説、犯罪実話、内外の猟奇譚を満載し、性に関する様々な論考を混在させ、学術と現実を繋ぐ猟奇趣味の雑誌として人気を博した。風俗史・犯罪文学・性科学・犯罪社会学研究の宝庫！

●推薦＝斎藤 光・坪井秀人・吉田司雄

大槻憲二 主宰〔昭和8年～昭和16年刊〕

精神分析〈戦前編〉全12巻・別冊1

別冊＝解説(サトウタツヤ・曾根博義)・総目次・索引
 A 5判・上製・総 6,662 頁
 揃定価 240,000 円
 '08年 6月～'09年 1月配本完結〔復刻版〕

大槻憲二は、フロイトを最も早く本格的に日本に紹介し、日本に精神分析という概念を定着させた精神分析学者である。本誌は、大槻が主宰した東京精神分析学研究所の機関誌である。フロイトの精神分析を中核に「無意識心理」の研究と論評を目的に創刊され、夢の研究・戦争心理・心理療法・同性愛・恋愛心理・ドストエフスキー・児童心理・優生学・精神病への理解などの特集を組んでいる。

日本精神分析学及び精神医学、臨床心理学の源流を辿る貴重資料。

●推薦＝北山 修・藤井淑禎・一柳廣孝・松原洋子

■十五年戦争極秘資料集 補巻㉔

戦場心理の研究 全4冊

早尾厩雄 原著／岡田靖雄 解説
 B 5判・上製・総 926 頁
 揃定価 32,000 円
 '09年 2月～8月刊〔編集復刻版〕

「陸軍軍人は性慾の奴隷の如くに戦場を荒して居る」——前線で占領地で、皇軍の兵士たちがなぜ、どのような行為を行ったか。戦争は兵士たちの精神をどのように破壊したか。1937年12月、精神科の従軍医・早尾厩雄は、「陥落」1週間後の南京に入り、日本軍による殺戮、強奪、強姦の現場で、精神に異常をきたした兵士たちを診察、皇軍兵士のありのままの姿を率直に記録し分析を試みた。「戦場心理ノ研究」「中支戦線に於ける精神鑑定書」「戦争心理ノ研究ヲ終了スルト共ニ将来ヘ希望ス」など六点の秘密資料を復刻。

思想・哲学

成功雑誌社 発行〔明治35年～大正4年刊〕

成功 全32巻・別冊1

別冊＝解説（三上敦史）・総目次
B5判・上製・総19,324頁
揃定価736,000円
'14年11月～'17年3月配本完結〔復刻版〕

■配本一覧

第1回配本(第1～4巻)	明治35年10月～明治38年7月	定価92,000円	'14年11月
第2回配本(第5～8巻)	明治38年8月～明治40年6月	定価92,000円	'15年3月
第3回配本(第9～12巻)	明治40年7月～明治42年3月	定価92,000円	'15年7月
第4回配本(第13～16巻+別冊)	明治42年4月～明治43年8月	定価92,000円	'15年11月
第5回配本(第17～20巻)	明治43年9月～明治44年10月	定価92,000円	'16年3月
第6回配本(第21～24巻)	明治44年10月～大正元年10月	定価92,000円	'16年7月
第7回配本(第25～28巻)	大正元年11月～大正3年4月	定価92,000円	'16年11月
第8回配本(第29～32巻)	大正3年5月～大正4年12月	定価92,000円	'17年3月



『成功』は、明治35年に創刊され、大正5年まで刊行された、青少年向けの総合雑誌である。スマイルズの『西国立志編』に続く、若者向け啓蒙誌の必要性を感じた村上濁浪が、裸一貫から創刊した。当時一級の知識人、文豪、実業家らが「自助」「学問」「修養」による「立身出世」「成功」への道を説いた。特別賛成員の、幸田露伴、井上円了、巖本善治、徳富蘇峰、村上専精、志賀重昂らは気鋭の知識人であり、若者たちが憧れたであろう人士であった。近代教育体制確立時の目に見えない「時代の空気」を伝える本誌は、近代教育の未開拓領域を解明するであろう。

●推薦＝寺崎昌男・竹内 洋・辻本雅史・新谷恭明・菅原亮芳

■十五年戦争重要文献シリーズ 補集②
唯物論研究会 編・発行〔昭和8年～昭和13年〕

唯研ニュース 全1巻

解説（渋谷一夫・北林雅洋）・総目次・索引付き
A4判・上製・424頁
定価19,000円
'12年1月刊〔復刻版〕

唯物論研究会は、戸坂潤、岡邦雄、三枝博音らによって設立された組織であり、満洲事変以降の反動的な時流のなかで、旺盛な研究活動を続けた。本書はその会報というべきものであり、少ないページのなかにも、唯研の活動の記録や、時局、文学、映画などに対する言及も見られる。『唯研ニュース』（全88冊）およびその後継誌『ダイジェスト』（全8冊）と、付録としてガリ版刷のチラシ「唯物論研究会ニュースNo.4」を収録し、復刻刊行する。

●推薦＝小川晴久

荻野富士夫 著

初期社会主義思想論

本書は、日本社会主義史の初期の群像——赤羽巖穴、高山樗陰、正岡芸陽、山縣悌三郎、安部磯雄、石川啄木、土岐哀果、山本飼山、河上肇、大杉栄、荒畑寒村、堺利彦——等の思想と行動を検証する。

●A5判・上製・函入・720頁・定価8,500円／'93年10月刊

姜 克實 著

浮田和民の思想史的研究

——倫理的帝国主義の形成

本書は、明治・大正期に活躍した浮田和民の思想史的研究、「倫理的帝国主義論」の形成史研究に重点を置き、浮田の周辺人物、関連事項にも触れている。

●A5判・上製・560頁・定価6,000円／'03年12月刊

<p>武藤整司 著 人間の輪郭——共生への理念</p>	<p>生きることと学ぶことが著者の思索の収斂する方向である。現代人は本当に生きていると言えるのか。また、学びの本質とは何か。それぞれ、いくつかの角度から論じようと試みたのが本書である。 ●四六判・上製・353頁・定価1,800円・'04年3月刊</p>
<p>平岩昭三 著 検証 藤村操——華嚴の滝投身自殺事件</p>	<p>「人生不可解」の辞を遺して、16歳の一高生・藤村操は、なぜ死ななければならなかったか——。20世紀初頭の社会に文学に大きな波紋を投げかけたひとりの青年の自死を考証する決定版！ ●四六判・上製・280頁・定価1,800円／'03年5月刊</p>
<p>本山幸彦 著 吉田松陰の思想 ——尊王攘夷への思想的道程</p>	<p>吉田松陰の思想過程を四期に区分し、各時期における九つの思想的論題（士道、忠誠、生死観、学問観、対外観、国体観、幕府観、政治思想、尊王攘夷論）に沿って、その思想の実像に迫った労作。 ●A5判・上製・256頁・定価2,500円／'10年4月刊</p>
<p>荒畑寒村 著／岡部伊都子 序／堀切利高 解説 春、雪ふる——荒畑寒村戦中日誌</p>	<p>荒畑寒村の唯一残された戦前の日誌——『昭和一八年日誌』（寒村57歳）及び『昭和一九年日誌』。戦時の閉塞した状況下、注意深く時事批判を避けながら当時の生活や感情が直截に記されている。 ●四六判・上製・152頁・定価1,500円／'93年4月刊</p>
<p>堀切利高 著 夢を食う——素描 荒畑寒村</p>	<p>「猿てふ獣は夢を食ふと聞けど、われはまことに夢を食ひて生き来りし也」——“冬の時代”の雑誌から、悲しみの日に描いた1枚の画から、文学者になりきれなかった革命家・荒畑寒村を素描する。 ●四六判・上製・264頁・定価2,800円／'93年4月刊</p>
<p>明治漢文教科書集成</p>	<p>119ページをご参照ください。</p>

社会福祉

中央社会事業協会 発行〔大正14年～昭和19年刊〕

社会事業 全46巻

A 5判・上製・総 26,502 頁

揃定価 874,000 円

'13年 9 月～'16年 5 月配本完結〔復刻版〕

明治末期以降、資本主義経済の急速な展開に伴い貧困層が広範囲に出現するなか、本誌は貧困を「社会貧」と捉え相互扶助の「社会連帯責任」を唱導、社会的救済事業を指導・啓発する役割を担った。しかし、太平洋戦争開始後は誌名を『厚生問題』と改め、戦争遂行の国策の下に自らを位置付ける。近代日本の社会事業論壇の拠点であり、社会事業の歴史そのものである本誌は、社会事業史・社会福祉史研究の重要資料である。

●推薦＝永岡正己・長谷川匡俊

東京都養育院 発行〔昭和 21 年～昭和 39 年刊〕

東京都養育院月報 全 12 巻・別冊 1

別冊＝解説（岩田正美）・回想・総目次

B 5判・上製・総 5,112 頁

揃定価 276,000 円

'16年 5 月～'17年 4 月配本完結〔復刻版〕

1938 年より休刊していた『東京市養育院月報（救護事業）』は、1946 年に『東京都養育院月報』として再刊された。

再刊当初の本誌からは、激増する収容者への対応や浮浪児の保護問題など、戦後東京の混乱と窮迫を如実に読み取ることができる。また、その後連合国占領下の福祉の現状から、1963 年の老人福祉法制定まで、戦後日本の福祉事業がどのように発展していったのか、その歩みを辿ることのできる貴重資料である。

●推薦＝大友昌子・室田保夫

東京市養育院 刊〔明治34年～大正 2 年刊〕

東京市養育院月報 明治期 全 6 巻

B 5判・上製・総 2,830 頁

揃定価 120,000 円

'08年 6 月～ 9 月配本完結〔復刻版〕

19世紀末から20世紀初頭、社会体制の崩壊と飢饉・災害によって多くのひとびとがよりどころを失い、首都東京でも貧困と飢餓に瀕していた。本誌は、路上生活者や知的・身体・精神障害者、身寄りのない高齢者・子ども、ハンセン病者ら、最底辺層にある者たちを救済する機能を果たした社会福祉事業の草分け・東京市養育院の機関誌である。江戸から明治への急激な社会変化の中で切り捨てられた、社会的弱者の様態が誌面から浮かび上がる貴重資料である。

●推薦＝宇都榮子・菊池義昭・杉山博昭・永岡正己

東京市養育院 刊〔大正 2 年～大正15年刊〕

東京市養育院月報 大正期 全12巻

A 5判・上製・総 5,708 頁

揃定価 180,000 円

'08年12月～'09年 4 月配本完結〔復刻版〕

米騒動、ストライキの多発……近代化のひずみが露呈した1910～20年代に首都東京で窮乏にあえぐ路上生活者や障害者、高齢者・子ども、病者ら、社会の最下層にあることを余儀なくされた人々を保護しようとした東京市養育院。その機関誌である本誌は大正 2 年 2 月に「九恵」すなわち「老人を労り、幼者を慈しみ、孤児を憐れみ、病人に養生させ、貧困者に施す……」という意の題名に改題した。社会福祉史・社会政策史研究に必須の重要資料である。

●推薦＝宇都榮子・菊池義昭・杉山博昭・永岡正己

東京市養育院 刊〔昭和 2 年～昭和13年〕

東京市養育院月報 昭和期 全12巻・別冊1

別冊＝解説（清水 寛・室田保夫）・総目次・索引

A 5判・上製・総 5,436 頁

揃定価 180,000 円

'09年 8 月～12月配本完結〔復刻版〕

不況、失業、農村の疲弊、そして救護法の成立一十五年戦争に突入してゆく1920年代後半から1930年代のなかで、首都東京で窮乏にあえぐ路上生活者や知的・身体・精神障害者、身寄りのない高齢者・子ども、ハンセン病患者ら、近代日本社会において最も日の当たらないところにあった人々を救済する機能を果たそうとした東京市養育院。その機関誌である本誌は、近代日本の最底辺層の人々の生き様を語ってやまない。

●推薦＝宇都榮子・菊池義昭・杉山博昭・永岡正己

使命社・東京孤児院・東京育成園 刊〔明治32年～明治45年刊〕

東京孤児院月報 全3巻・別冊1・付録1

別冊＝解説（丹野喜久子）・総目次・索引
付録＝東京育成園創立百周年記念『東京育成園—創立から明治・大正期』（分売可＝5,000円）
A4判・B5判・四六判・上製・総1,842頁
揃定価80,000円
'03年6月刊〔復刻版〕

身よりのない子どもたちをただ「収容」するのではなく、ひとりひとりの子どもの人権を中軸に据え、「家庭」として子どもたちを受け入れ育てた東京孤児院＝東京育成園。平等と人権、反戦・平和を基調としたその理念は、ようやく表面化してきた児童虐待の問題や子どもの福祉一般について、今もなお大きな示唆を与える。社会福祉のみならず、児童教育・社会思想史研究にとっても第一級の資料である。

●推薦＝仲村優一・吉田久一

細井勇・菊池義昭 編・解説

岡山孤児院関係資料集成 全3巻

刊行によせて（児嶋草次郎）・解説（細井勇・菊池義昭）付き
A4判・上製・総1,178頁
揃定価75,000円
'09年11月刊〔編集復刻版〕

「児童福祉の父」と呼ばれる石井十次と岡山孤児院（1887～1926）に関する資料を集大成した編集復刻版である。前身の孤児教育会の「趣旨・概則」に始まる第一次資料から当時の新聞切り抜き帖まで、天災・戦争・飢饉・貧困などによって保護者や住居を失った子どもたちへの行き届いた支援の状況をつぶさに表す資料を収録。最大1200人を受け入れた戦前期児童養護施設の代表的存在である岡山孤児院の事業と、そこで生き抜いた子どもたち、そして子どもたちを直接間接に支えた人々の様相を明らかにする。

●推薦＝阿部志郎・池田敬正

原 胤昭 主宰〔明治27年～明治29年刊〕

獄事叢書 全3巻・別冊1

別冊＝解説（室田保夫）・総目次・索引
A5判・上製・総1,272頁
揃定価45,000円
'98年9月刊〔復刻版〕

本誌は、出獄人更生事業で知られるキリスト教教誨師・原胤昭が、監獄を囚人懲罰でなく囚人更生のために改良しようとした監獄改良運動の機関誌である。発行は北海道樺戸にある集治監内の同情会。かつて筆禍事件によって自らも下獄した経験のある原は、同志社出身の教誨師たちを集め、監獄改良事業を展開した。北海道の監獄のニュースを掲載し、監獄改良論を披瀝すると同時に外国の監獄事業を紹介するなど、監獄改良を志す人々に情報を発信した。

●推薦＝重松一義・谷 昌恒

浄土宗労働共済会 発行〔大正4年～大正10年刊〕

労働共済 全6巻・別冊1

別冊＝解説（長谷川匡俊・土井直子）・総目次・索引
A5判・上製・総2,480頁
揃定価90,000円
'05年7月刊〔復刻版〕

本誌は、浄土宗労働共済会の機関誌である。渡辺海旭を主筆とし、大正4年1月から大正10年3月まで、全67冊が発行された。高島米峰、矢吹慶輝、長谷川良信などの仏教者、安達憲忠、田中太郎などの東京市関係者、小河滋次郎、田子一民などの社会事業家が寄稿し、労働問題に関わる情報を提供している。「協調の精神」を重視する仏教者らの社会事業活動の歴史的意義を検証し、現在の社会福祉、労働関係を考える上で研究者にとって重要な資料である。

●推薦＝池田敬正・吉田久一

石川県社会事業協会 発行〔大正13年～昭和15年刊〕

石川県之社会改良 全2巻・別冊1

別冊＝解説（元村智明）・総目次・索引
A4判・上製・総806頁
揃定価56,000円
'06年6月刊〔復刻版〕

石川県社会事業協会によって、石川県下に社会改良および社会改善を推し進めるために大正13年6月に発刊、第4号より『社会改良』と改題し、昭和15年12月の第17号まで継続した機関誌。編集は県社会事業主事であった中田邦造（後に石川県立図書館長、都立日比谷図書館長を歴任）と打尾忠治が担当、「国家興隆」と「社会福祉」の実現には社会事業と社会教育が緊急で切実な問題であると提起した。大正後期から昭和戦前期に至る地域社会福祉行政の実態解明に必備の史料。

●推薦＝池田敬正・長谷川匡俊

中央社会事業協会 発行〔昭和2年～昭和14年〕

社会事業彙報 全17巻・別冊1

別冊＝解説（寺脇隆夫）・事項索引
A5判・上製・総8,792頁
揃定価340,000円
'10年10月～'12年6月配本完結〔復刻版〕

「慈善」的概念から「社会事業」という理念が確立した1930年代——民営公営の社会事業施設が飛躍的に増加し、方面委員制度が全国的に普及した時期に刊行された社会事業情報専門誌である。児童保護、社会衛生、廃娼運動、釈放者保護事業、労働者災害扶助から共同浴場、公益質屋にいたる全国各地の社会事業関係の情報統計、調査、法令・通知等を中心に、海外情報、文献、関係日誌もほぼ毎号掲載されている。社会事業史・社会福祉史研究に欠かせない貴重な資料である。

●推薦＝右田紀久恵・永岡正己・古川孝順

社会福祉

室田保夫 著

留岡幸助の研究

近代日本における代表的な社会事業家・留岡幸助の前半生——岡山高梁での少年時代から、牧師・北海道バンド・米国留学・教誨師を経て家庭学校の創設、『人道』の発行まで——をあとづけた力作。

● A 5判・上製・函入・552頁・定価 9,500円／'98年10月刊

二井仁美 著

留岡幸助と家庭学校

——近代日本感化教育史序説

1899年に家庭学校を設立した留岡幸助の思想を、彼の200に及ぶ欧米の施設視察をあとづけながら明らかにし、東京・北海道・茅ヶ崎・小笠原諸島に展開した家庭学校の教育の具体像に迫る。

● A 5判・上製・378頁・定価 5,000円／'10年2月刊

澤山信一 編・著

学校保健の近代

戦前期トラホーム対策の歴史を患者児童とその親の側から描写し、これまでの学校保健史の常識を問い直す著。さらに雑誌『養護』（1928～37年）から学校看護婦による記録80点を選び、収録。

● A 5判・上製・232頁・定価 2,800円／'04年9月刊

戦前期仏教社会事業資料集成

30ページをご参照ください。

救済

31ページをご参照ください。

戦前期仏教社会事業の研究

31ページをご参照ください。

日本仏教社会福祉学会年報

32ページをご参照ください。

ときのこと

33ページをご参照ください。

近現代日本ハンセン病問題資料集成

43ページをご参照ください。

知的・身体障害者問題資料集成〈戦前編〉

44ページをご参照ください。

愛護

44ページをご参照ください。

子どもの人権問題資料集成〈戦前編〉

44ページをご参照ください。

斯民

50ページをご参照ください。

植民地下 朝鮮におけるハンセン病資料集成

68ページをご参照ください。

人権

■ 病者の人権問題資料集成 1

藤野 豊 編・解説

近現代日本

ハンセン病問題資料集成 戦前編 全 8 巻

A 4 判・B 5 判・上製・総 2,968 頁

揃定価 190,000 円

'02年 6 月～12 月配本完結〔編集復刻版〕

なぜ日本のハンセン病患者は隔離を強制されたのか——1870 年代以降、近現代におけるハンセン病をめぐる国家、医療者、宗教者、そして患者自身の言説をたどる資料集成の戦前編。弱い感染症であることが専門家の間で認知されていてもなお優生政策のもとで拡大強化されていった隔離政策。多くの患者の尊厳を傷つけ、家族や職場そして名前すら奪ったその真相を明らかにするための基礎文献。

● 推薦＝内田博文・川上 武・神美知宏・斎藤美奈子・徳田靖之・永岡正己

■ 病者の人権問題資料集成 2

藤野 豊 編・解説

近現代日本

ハンセン病問題資料集成 戦後編 全 10 巻 別冊 1

別冊＝解説（藤野 豊）・総目次

A 4 判・B 5 判・上製・総 3,932 頁

揃定価 240,000 円

'03年 7 月～'04年 1 月配本完結〔編集復刻版〕

敗戦後、日本国憲法下で強行された隔離政策の実態をハンセン病療養所入園者自身の運動の記録とともに資料1600余点によってあつづける。【内容】第 1 巻＝重監房廃止・プロミン獲得運動と自治会の新生／第 2・3 巻＝「癩予防法」改正問題／第 4 巻＝戦後無らい県運動／第 5・6 巻＝竜田寮児童通学問題／第 7 巻＝癩刑務所・留置所設置問題、米軍占領下沖縄・奄美のハンセン病政策／第 8 巻＝藤本事件／第 9 巻＝生活改善・反差別運動／第 10 巻＝国会議事録

● 推薦＝石川一雄・川田悦子・笹 雄二・清水 寛

■ 病者の人権問題資料集成 3

藤野 豊 編・解説

近現代日本

ハンセン病問題資料集成 補巻 1～5

B 5 判・A 4 判・上製・総 1,644 頁

揃定価 111,000 円

'04年 9 月～12 月配本完結〔編集復刻版〕

【内容】補巻 1・2＝外島保養院年報 上・下。1909～25 年分を収録。本院は 34 年、台風で瓦解し多くの人命とともに流された。

補巻 3＝本妙寺事件／九州療養所関係／自治会沿革史 隔離政策史上、最悪最大規模の強制収容事件・本妙寺事件(1940 年 7 月)の資料及び九州療養所＝現在の菊池恵楓園の諸資料を収録。

補巻 4＝大島療養所自治会日誌 瀬戸内海大島の療養所(現在の大島青松園)に残る戦前では唯一の入園者自身による記録。

補巻 5＝世界のハンセン病政策／近代初期日本のハンセン病 ● 推薦＝太田 明・鈴木則子

■ 病者の人権問題資料集成 3

藤野 豊・訓覇 浩・清水 寛・平田勝政 編・解説

近現代日本

ハンセン病問題資料集成 補巻 6～9

各巻解説(6＝訓覇 浩、7＝清水 寛・平田勝政、8・9＝藤野 豊)付き

A 4 判・上製・総 1,440 頁

揃定価 100,000 円

'05年 12 月刊〔編集復刻版〕

【内容】補巻 6＝私立療養所 官公立のハンセン病療養所ではなく、民間の個人や宗教団体などの設立した療養所・病院の資料を収録。

補巻 7＝台湾におけるハンセン病政策 日本の植民地下にあった台湾でのハンセン病政策を明らかにする資料を網羅。台湾総督府癩療養所楽生院の年報や事業概況書のほか機関誌『万寿果』より抄録。

補巻 8＝療養所長会議関係書類 新たに発見された官公立癩療養所の療養所長会議関係資料、療養所状況、統計資料を収録。補巻 9＝隔離政策の強化 本集成戦前編刊行後に発見された、戦前期のハンセン病政策に関する資料群。患者管理の実態を明示する。

■ 病者の人権問題資料集成 3

藤野 豊・大竹 章・江連恭弘 編・解説

近現代日本

ハンセン病問題資料集成 補巻 10～12

各巻解説(10＝江連恭弘、11＝大竹 章、12＝藤野 豊)付き

A 4 判・上製・総 1,046 頁

揃定価 75,000 円

'06年 11 月刊〔編集復刻版〕

【内容】補巻 10＝ハンセン病と教育 邑久高等学校新良田教室(1955～87 年)の資料を中心に、療養所の子どもたち、そして親が強制収容された子どもたちの教育をめぐる資料類を収録。

補巻 11＝らい予防法闘争期の自治会日誌 1953 年「癩予防法」改正問題で揺れ動く時期の大島青松園の自治会日誌と全療協の日誌を収録。

補巻 12＝「癩予防法」改正問題Ⅲ 本資料集成〈戦後編〉刊行後に発見された諸資料のうち、各自治会や全療患協本部に集中した 1953 年末までの多様な情報を収録する。

■ 病者の人権問題資料集成 3

藤野 豊 編・解説

近現代日本

ハンセン病問題資料集成

補巻13～
15・別冊1

各巻解説（藤野 豊）付き

別冊＝補巻（1～15）の解説・総目次

A 4判・上製・総 1,154 頁

揃定価 75,000 円

'07年5月刊〔編集復刻版〕

【内容】補巻13＝生活改善・反差別運動Ⅱ／戦前期委任統治領「南洋群島」のハンセン病政策 1954年以降の差別撤廃と生活改善の運動資料、及び「南洋群島」のハンセン病政策を検証する資料群。補巻14＝戦後無らい県運動Ⅱ 偏見を露骨に示す投書や強制収容に邁進する行政の様子を描き出す戦後の自治体の公文書類及び厚生省資料を収録。（～1953年）補巻15＝戦後無らい県運動Ⅲ／生殖管理政策 1954年以降の行政の隔離政策の実態を示す資料、及び入園者に強要された不妊手術・人工妊娠中絶が何のためだったのかを検証する諸資料を集成。

■ 病者の人権問題資料集成 3

近現代日本

ハンセン病問題資料集成

補巻16～19

日本MTL 全4巻・別冊1

別冊＝解説（平田勝政）・総目次・索引

B 5判・上製・総 1,688 頁

揃定価 80,000 円

'09年5月刊〔復刻版〕

ハンセン病患者の救済・布教活動を目的として出発した日本MTL（日本救癩協会）は、患者とその家族を支援するキリスト教団体であると同時に国の強制隔離政策を後押しし、皇室の恩賜策と協調して啓発活動をおこなった。本書は、その機関誌『日本MTL』及び後継誌『楓の蔭』の、1926年の創刊から1953年までの全264号を復刻したものである。朝鮮・台湾の植民地や統治領だけでなく、中国・フィリピンなどアジア各地やハワイのハンセン病に関する情報にも富み、多くの貴重な報告が掲載されている。

●推薦＝片野真佐子・加山久夫

■ 病者の人権問題資料集成 4

知的・身体

障害者問題資料集成〈戦前編〉全16巻

解説（高橋淳子・平田勝政）付き

A 4判・上製・総 6,064 頁

揃定価 400,000 円

'05年6月～'06年6月配本完結〔編集復刻版〕

戦前期、「障害者」は、国家・宗教・共同体・家族の中でどのように認識され、振り分けられ、疎外され、放置され、そして保護・教育され、生き抜いたのか。

本資料集成は、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症なども含む知的発達障害、そして視覚障害、聴覚障害、肢体不自由などの身体障害に関する資料を中心に、対象を虚弱児童・傷痍軍人にまで広げて収集した。

研究者・研究機関及び障害者問題に関わる全ての人に呈する。

●推薦＝一番ヶ瀬康子・大見川正治・清水 寛・中村満紀男

日本精神薄弱児愛護協会 発行〔昭和11年～昭和38年刊〕

愛護 全4巻・別冊1

別冊＝解説（蒲生俊宏）・総目次・索引

B 5・A 5判・上製・総 1,700 頁

揃定価 60,000 円

'06年7月刊〔復刻版〕

1934年、国や自治体の支援を期待できない困難な時代に知的障害児施設を創設・活動していた、滝乃川学園・白川学園・桃花塾・藤倉学園・筑波学園・三田谷治療教育院・八幡学園・六方学園などの先駆者が集まり結成した日本精神薄弱児愛護協会（現・日本知的障害者福祉協会）の機関誌の復刻版。最も対応の遅れた知的障害者への福祉政策を政府・自治体・学識者・児童保護施設等々各方面に訴えた、近現代の知的障害者福祉の歩みを証言する貴重な資料。

●推薦＝北沢清司・津曲裕次

室田保夫・二井仁美・倉持史朗・蜂谷俊隆 編・解説

子どもの

人権問題資料集成 〈戦前編〉全10巻

A 4判・上製・総 3,748 頁

揃定価 250,000 円

'09年6月～'10年6月配本完結〔編集復刻版〕

「児童の世紀」だったはずの20世紀——近代日本の子どもたちは、戦争と貧困の時代をどのように生き抜き、また社会はその保護・育成につとめたのか。児童養護施設や児童自立支援施設などの実践現場において永く収蔵されてきた小冊子・パンフレットなど、一般には容易に閲覧できない資料を中心に多数収載。

【内容】第1巻～第3巻＝子どもの養護／第4巻～第6巻＝子どもの保護教育／第7巻＝少年保護／第8巻＝子ども虐待／第9巻＝子どもと健康・障害／第10巻＝子どもと貧困・労働

●推薦＝相澤 仁・宇都榮子・小倉襄二・森田 明・山崎由可里

■ 十五年戦争極秘資料集 補巻28

資料集成

戦争と障害者〈第I期〉全7冊

清水 寛 編

A 4判・上製・函入・総 2,532 頁

揃定価 140,000 円

'07年2月～'08年2月刊〔編集復刻版〕

大日本帝国の侵略戦争に参戦し精神障害を発症した兵士は国府台陸軍病院に収容された。本書はその「病床日誌」を症状により分類し、知的障害及び戦争神経症の事例約1300件を収録。そもそも兵役免除者の知的障害者を合格させた徴兵制度の問題、反戦思想をもつ兵士、逃亡兵士、窃盗・傷害等の事件を起こした兵士など「不良」兵士だけを集めた陸軍懲治隊、陸軍教化隊、戦闘や軍隊内のストレスから精神障害を発症した兵士に関する調査・論稿もあわせ、戦争と軍国主義の本質を、障害者兵士の視点から照らし出す。

●推薦＝野田正彰・吉田 裕

「神奈川の部落史」編集委員会 編・著
神奈川の部落史

鎌倉・鶴岡八幡宮の長吏から横浜開港による新たな被差別部落の形成、そして融和運動まで——中世から近代までの神奈川の被差別部落の人々の生活と差別とのたたかひの軌跡を初めて明らかにする。
 ● A 5判・並製・228頁・定価1,800円／'07年9月刊

優生學

36ページをご参照ください。

植民地下 朝鮮におけるハンセン病資料集成

68ページをご参照ください。

買売春問題資料集成〈戦前編〉

113ページをご参照ください。

性暴力問題資料集成〈第I期〉〈第II期〉

114ページをご参照ください。

性と生殖の人権問題資料集成

114ページをご参照ください。

【水平運動・部落史研究】

■ 水平運動・部落史研究資料①
 (財)中央融和事業協会 刊〔昭和10年～昭和16年刊〕

更生 全7巻・別冊1

別冊＝解題(藤野 豊)・総目次・索引
 A 5判・上製・函入・総2,688頁
 揃定価60,000円
 '96年2月再刊〔復刻版〕

昭和7(1932)年以後、被差別部落において開始された「経済更生」運動は、農地獲得、農産物販売等を通して、水平運動に対抗、愛国心と融和の精神を部落内部に浸透させた。昭和12年の日本の中国全面侵略以降、経済更生運動は、軍需産業への転業職と「満州」移民の奨励に尽きることとなり、侵略戦争に部落大衆を動員するための手段と化す。『更生』は経済更生の機関誌として十五年戦争下のその実態を伝える貴重な資料である。
 ● 推薦＝秋定嘉和・由井正臣・渡部 徹

■ 水平運動・部落史研究資料②
 奈良県磯城郡大福村 三協社 刊〔大正9年～大正11年刊〕

警鐘

松尾尊兌 解題
 B 5判・上製・函入・総572頁
 定価15,000円
 '88年10月刊〔復刻版〕

本誌は、奈良県磯城郡大福部落に住む伊藤繁太郎、岡嶋松三郎、山本平信らによる三協社の機関誌で、大正9年に発刊された。当初、三協社は「部落の改善及び研究」を目的としていたが、時代の流れのなかで、改善から解放、融和から闘争へとあゆみを進め、水平社結成の先駆となる。本誌は、わずか20号をもって終刊となるが、初期水平運動の基底をささえた人々のたたかひを伝える貴重な資料である。

■ 水平運動・部落史研究資料③

初期水平運動資料集 全5巻・別冊1

渡部 徹 監修／藤野 豊 解説
 A 5判・B 5判・A 3判・上製・函入・総2,042頁
 揃定価85,000円
 '96年2月再刊〔復刻版〕

1922年から1927年にかけて全国各地で創刊された初期の水平運動の機関紙・誌を復刻。『水平運動』『人類愛』『燃え挙る心』『新聖潮』(以上、奈良)『聖戦』(三重)『相愛』『自由』(以上、群馬)『防長水平』(山口)『愛国』『野火』『水平線』『西浜水平新聞』『大阪水平新聞』『関西水平新聞』(以上、大阪)『国民運動』(京都)『正義之声』(滋賀)『自由新聞』『平等新聞』(以上、静岡)『自由新聞』(埼玉)『全国水平新聞』(長野)『関東水平運動』(東京)を収録。
 ● 推薦＝秋定嘉和・田中真人・馬原鉄男

■ 水平運動・部落史研究資料④
三重県松阪愛国新聞社 刊〔大正12年～昭和2年刊〕

愛国新聞

解説（黒川みどり）・総目次・索引付き
B 4判・上製・函入・総 314 頁
定価 18,000 円
'90年10月刊〔復刻版〕

『愛国新聞』（第1～37号）は、三重県水平社と日本農民組合三重県連合会の合同機関紙である。被差別部落の人々を啓蒙し階級闘争へ転換することを促す役割を果たし、単に一府県の機関紙というにとどまらず、近代部落史の資料の中でも水平運動が無産階級運動に踏み出していく過渡期の状況を詳細に伝えるものとして貴重である。前身の三重県水平社の『三重水平新聞』（全2号）、後身の『三重農民新聞』（第38～47号）もあわせ、復刻するものである。

● 推薦 = 上田音市

■ 水平運動・部落史研究資料⑤
大阪府南河内 ワシラノシンブン社 刊
〔大正13年～大正14年刊〕

ワシラノシンブン

解説（園部裕之）・総目次・索引付き
B 4判・上製・函入・総 246 頁
定価 18,000 円
'90年10月刊〔復刻版〕

大阪市郊外の新文化村で難波英夫によって創刊された本紙は、社会問題講習会の開催や児童に対する自由教育運動など自ら地域の文化運動の推進役となる一方、被差別者の人権を尊重する社会を目指した。途中『解放新聞』と改題し、「日本に初めて生れたプロ新聞」を謳う。詳細な社会運動関係記事とともに水平運動関係の記事も多く載せた本紙は、部落史研究・社会運動史研究・社会主義演劇史研究・民衆史研究に大きな示唆を提供する資料となろう。全30号。

● 推薦 = 藤野 豊

■ 奈良県水平社資料集①

創立期水平社運動資料 全4巻・別冊1

「(仮称) 水平社歴史館」建設推進委員会 編
別冊 = 解説（蓮城寺秋幸）・細目次
B 5判・上製・総 2,016 頁
揃定価 70,000 円
'94年9月刊〔復刻版〕

奈良県下の創立期水平運動は、水平社の創立の中核的存在であった。本資料は、この奈良における、水平社創立へ向かう部落民の生の声を伝える、行政側文書の復刻である。今日まで、当時の記録は取締り警察側の二次的編纂物が主流であったが、今回、旧奈良県庁文書を整理し、解説を付して復刻刊行する。『水平社一件記録』（大正11年～12年）『水平運動ニ関スル書類』（大正12年）『水平一件』（大正11年～13年）の3点等を収録。

● 推薦 = 秋定嘉和・朝治 武・金井英樹

喜田貞吉 主筆〔大正8年～大正12年刊〕
奈良県部落解放研究所 編集

民族と歴史 全10巻・別冊1

別冊 = 解説（平山和彦・朝治 武・吉田栄治郎・のびしょうじ）・総目次・索引
A 5判・上製・総 6,570 頁
揃定価 180,000 円
'97年6月～12月配本完結〔復刻版〕

喜田貞吉は、古代史・民俗学・考古学など幅広い研究において著名である。しかし、その業績は今日必ずしも評価されていない。彼の個人誌『民族と歴史』は、部落問題についての先見性に富んだ、「特殊部落研究号」において、今日の水平社運動や部落史の時期区分に新しい枠組みで見直す気運を作り出した。『民族と歴史』、その後誌『社会史研究』の全10巻を復刻。また、新進気鋭の研究者による「解説」4編を付し、喜田民衆史観の再評価を提示する。

● 推薦 = 秋定嘉和・上田正昭

法律・政治・経済・統計

高木益太郎・岡崎源一 主幹（明治33年～明治45年刊）

法律新聞 明治期 全42巻

大正期 全95巻【品切】／昭和期 全95巻【品切】
B 5判・上製・函入・総 25,000 頁
揃定価 450,000 円
'83年6月～'84年6月配本完結〔復刻版〕

本紙は、弁護士高木益太郎を主幹として明治33（1900）年に創刊され、高木没後は女婿の弁護士岡崎源一が継承し、昭和19年4922号をもって終刊となる。高木主幹の「発刊の主旨」に見られるように、下級審の裁判例をも広く収載し、法律の普及と立法の資料として役立てることを目的とした。また大審院判決についても「判決録」「判例集」に登載されないものも全文掲載されている。

●推薦＝今井清一・加藤一郎・高木四郎・辻 誠・利谷信義・中野次雄・平野龍一・森長英三郎

高木益太郎・岡崎源一 主幹（明治33年～昭和19年）

法律新聞 DVD-ROM版

全5枚・別冊2

別冊＝『法律新聞』総目次（全2冊）
揃定価 120,000 円
'09年12月刊

本紙は、弁護士高木益太郎を主幹として明治33（1900）年に創刊され、高木没後は女婿の弁護士岡崎源一が継承し、昭和19（1944）年に4922号をもって終刊となる。高木主幹の「発刊の主旨」に見られるように、下級審の裁判例を広く収載し、法律の普及と立法の資料として役立てることを目的とした。また大審院判決についても「判決録」「判例集」に登載されないものも全文掲載されている。

号数、発行年月日からの検索機能を付加し、デジタルデータとして新たに刊行。

国家学会 編（明治20年～昭和19年刊）

国家学会雑誌 全177巻

揃定価 3,640,000 円

明治20（1887）年創刊の本誌は、「憲法、行政、法律、財政、外交、経済、統計等国家学ニ属スル論說事項ヲ掲載シテ斯学ヲ研究スルノ資ニ供スル」ことを目的に、百余年の長期間にわたり、今日もなお刊行され続けている、学術雑誌の中でも最大級の資料である。本復刻版は、今日の法律・政治学を中心とする研究の宝庫である。

●推薦＝碧海純一・今井清一・斎藤 眞・坂本義和・杉原泰雄・松尾尊兌

明治期 全57巻（第1巻～第57巻）

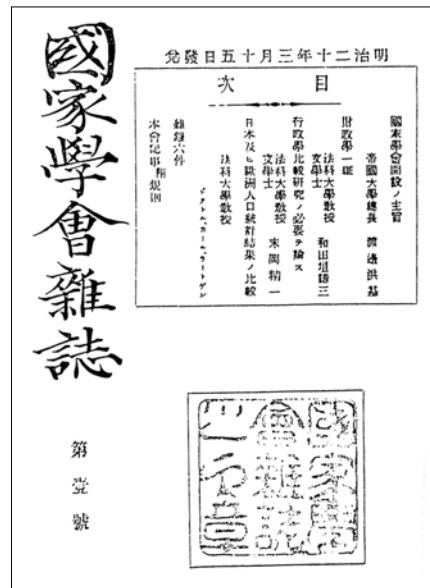
A 5判・上製・総 37,150 頁
揃定価 1,140,000 円
（分売可＝各巻 20,000 円）
'92年6月～'96年7月配本完結〔復刻版〕

大正期 全50巻（第58巻～第107巻）

A 5判・上製・総 33,470 頁
揃定価 1,100,000 円
（分売可＝各巻 22,000 円）
'96年10月～'99年10月配本完結〔復刻版〕

昭和期 全70巻（第108巻～第177巻）

A 5判・上製・総 34,128 頁
揃定価 1,400,000 円
（分売可＝各巻 20,000 円）
'00年1月～'04年7月配本完結〔復刻版〕



外務省通商局 編纂 (明治14年～大正2年刊)

通商彙纂 全185巻

揃定価 3,115,000 円

第Ⅰ期 全70巻 [第1巻～第70巻]

高嶋雅明 解説 (第1巻に収録)
B5判・上製・函入・総36,200頁
揃定価 1,050,000 円 (配本毎 75,000 円)
'88年5月～'91年8月配本完結 [復刻版]

第Ⅱ期 全60巻 [第71巻～第130巻]

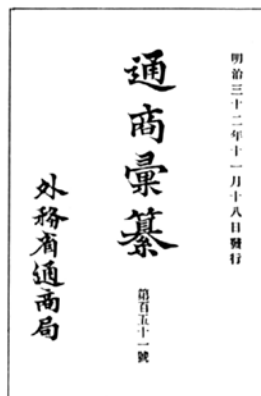
B5判・上製・総30,648頁
揃定価 1,020,000 円 (配本毎 85,000 円)
'91年11月～'94年8月配本完結 [復刻版]

第Ⅲ期 全55巻 [第131巻～第185巻]

B5判・上製・総28,258頁
揃定価 1,045,000 円 (配本毎 95,000 円)
'94年11月～'97年5月配本完結 [復刻版]

本資料集は、外務省が編纂した領事報告の集大成である。「領事報告」とは、海外各地に駐在する領事が、本国政府に定期的に送付した現地の通商経済情報や貿易報告であり、19世紀国際経済史上きわめて重要な役割を果たした。報告書の項目をみても、商業・工業・水産・農業・鉱業・交通・貨幣及び金融・関税・電報・時事・雑報等多岐にわたりがつ膨大である。日本資本主義の生成・発展段階及び、各国経済活動を克明に記録した第一級資料である。

●推薦=梶村秀樹・田中正俊・角山 栄・村上勝彦・山口和雄



〔復刻版の収録内容〕『通商彙編』(明治14年～19年)、『通商報告』(明治19年～22年)、『官報鈔存通商報告』(明治23年1月～10月)、『通商彙纂』(明治26年12月～大正2年3月)、および『官報』収録の「通商報告欄」(明治23年10月～明治26年12月)

外務省通商局 編纂 (大正2年～大正13年刊)

通商公報 全145巻・別冊1

揃定価 2,850,000 円

第Ⅰ期 全45巻 [第1巻～第45巻]・別冊1

別冊=解説(高嶋雅明)・総索引 全4巻
B5判・上製・総23,600頁
揃定価 950,000 円 (配本毎 95,000 円)
'97年8月～'99年11月配本完結 [復刻版]

第Ⅱ期 全50巻 [第46巻～第95巻]

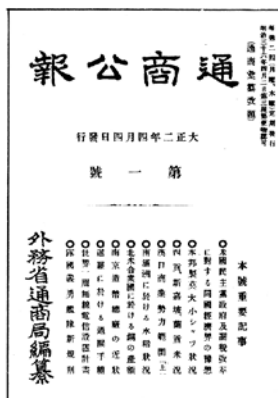
B5判・上製・総23,406頁
揃定価 950,000 円 (配本毎 95,000 円)
'00年2月～'02年5月配本完結 [復刻版]

第Ⅲ期 全50巻 [第96巻～第145巻]

B5判・上製・総23,830頁
揃定価 950,000 円 (配本毎 95,000 円)
'02年8月～'04年11月配本完結 [復刻版]

『通商公報』は、『通商彙纂』の後継誌として、大正2(1913)年4月創刊、同13年12月、通巻号数1228号まで刊行された、海外領事報告集である。特に兩大戦にまたがる時期の東アジアに生じた新しい国際経済関係を理解しようとする時、『通商公報』は、日本を中心とする通商情報を年々最も系統的に収集しているという意味において、基本資料である。大正期日本資本主義の発展・膨張期を、対外関係を通じて把握するための第一級資料である。

●推薦=片山邦雄・北川勝彦・杉原 薫・高嶋雅明・村上勝彦



外務省通商局 編纂〔大正14年～昭和3年刊〕

日刊 海外商報 全15巻・別冊1

別冊＝解説（高嶋雅明）・総目次
A 4判・上製・総6,334頁
揃定価 420,000円（配本毎84,000円）
'05年5月～'06年8月配本完結〔復刻版〕

『日刊 海外商報』は、『通商公報』の後継誌として、大正14年1月から昭和3年3月まで刊行された通商貿易情報誌で、100を超える在外公館から寄せられた通商貿易、外国法規、移民、各国事情など広範囲にわたる情報を網羅している。

大正末から昭和初頭の世界各地の経済事情や通商貿易状況と日本とのかかわりを掌握できる第一級の資料である。

●推薦＝高嶋雅明

外務省通商局 編〔明治36年～昭和14年〕

海外日本実業者の調査 全8巻

解説（高嶋雅明）付き
A 4判・上製・総2,498頁
揃定価 224,000円
'06年11月～'07年6月配本完結〔復刻版〕

外務省は日露戦争直前の1903年10月、海外各地に在留する日本人実業者の調査を初めて実施し、その結果を『海外日本実業者ノ調査』として刊行した。以降、表題を『在外本邦実業者調査』と変更しつつ、1939年末調査、同41年刊行に至る計22回の調査と21回の報告書を刊行した。

海外における日本人商工業者について、この調査に匹敵する網羅的調査報告はなく、明治期後半から昭和戦前期における日本人の植民・移民の経済活動の全貌と日本企業の海外展開が掌握できる。

●推薦＝木村健二・柳田利夫

戦前期 海外商工興信録集成 全8巻

解説（高嶋雅明）付き
A 4判・上製・総3,272頁（原本総7,746頁）
揃定価 200,000円
'09年10月～'10年5月配本完結〔編集復刻版〕

戦前期、朝鮮・中国・樺太・台湾・東南アジア・南洋など、アジアに進出した日本人実業者は相当数に達し、それぞれの地域で大きな地位を占めるものもあった。本資料集成では、これらの実業者に対して行われた、民間調査機関による調査の結果を収録した。個々人の商工業者の履歴、海外進出に至る動機や活動、また事業や経営といった商工業活動の実態など、公的な調査機関にはない項目や記述を多く含んでいる。日本人実業者たちの5万件におよぶデータは戦前期の中小商工業者の在外経営の実態を活写する。

●推薦＝木村健二・柳沢 遊

中央銀行会 刊〔明治36年～昭和17年刊〕

中央銀行会通信録 全130巻・別冊1

揃定価 2,050,000円

明治期 全25巻〔第1巻～第25巻〕

岡田和喜 監修・解説（第25巻に解説収録）
B 5判・上製・函入・総10,368頁
揃定価 375,000円（配本毎75,000円）
'89年5月～'90年5月配本完結〔復刻版〕

大正期 全56巻〔第26巻～第81巻〕

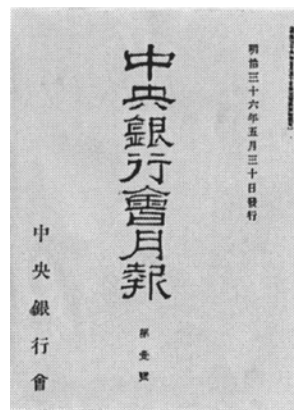
岡田和喜 監修・解説（第81巻に解説収録）
B 5判・上製・総26,000頁
揃定価 750,000円（配本毎75,000円）
'90年8月～'92年11月配本完結〔復刻版〕

昭和期 全49巻〔第82巻～第130巻〕

岡田和喜 監修・解説（第130巻に解説収録）
B 5判・上製・総23,000頁
揃定価 900,000円（配本毎75,000円）
'93年2月～'95年11月配本完結〔復刻版〕

戦前期の三大銀行業界誌『銀行通信録』（東京）、『大阪銀行通信録』と並ぶ『中央銀行会通信録』は、中京地帯（静岡・福井・岐阜・三重をも含む）の銀行や金融市場の状況ばかりでなく、中部経済の動きについても多くの情報を与えており、この時代における中部経済に接近する資料として大きな価値をもっている。経済動向を月報形式で示す本通信録は、近代日本経済の史的研究に不可欠であり、貴重な資料である。

●推薦＝石井寛治・岡田和喜・新保 博・杉原四郎



◎紙名の変遷

『中央銀行会月報』

第1号(明治36年5月)→第24号(明治38年4月)

『中央銀行会通信録』

第25号(明治38年5月)→第472号(昭和17年7月)

『中央銀行会通信録』解題・記事総索引

岡田和喜 編・著／B 5判・上製・総625頁
定価 25,000円／'98年1月刊

大阪銀行集会所 編〔明治23年～昭和17年刊〕

大阪銀行通信録 全174巻・別冊1

揃定価 3,090,000 円

明治期 全60巻〔第1巻～第60巻〕

作道洋太郎・岡田和喜・高嶋雅明・本間靖夫 監修・解説

B 5判・上製・総 25,170 頁

揃定価 960,000 円

'91年 5月～'95年 1月配本完結〔復刻版〕

大正期 全55巻〔第61巻～第115巻〕

作道洋太郎・岡田和喜・高嶋雅明・本間靖夫 監修・解説

B 5判・上製・総 29,798 頁

揃定価 990,000 円

'95年 5月～'98年 9月配本完結〔復刻版〕

昭和期 全59巻〔第116巻～第174巻〕・別冊1

別冊＝解説・総目次

作道洋太郎・岡田和喜・高嶋雅明・本間靖夫 監修・解説

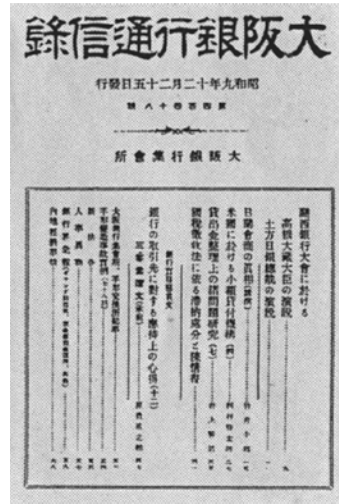
B 5判・上製・総 34,914 頁

揃定価 1,140,000 円

'99年 1月～'02年 9月配本完結〔復刻版〕

『大阪銀行通信録』（前身誌『銀行報告誌』を含む）は、全国的視野にたつ金融経済の状況をもとに、特に大阪金融市場を中心とする関西の諸地域、及び西日本各地の金融経済の動向を把握できる第一級の資料である。東京の『銀行通信録』、名古屋の『中央銀行会通信録』（弊社にて復刻版刊行済）と共に、日本金融史研究に不可欠の三大重要資料であり、大学等の研究機関のみならず、金融業界等の経済界においても広く活用できる内容を備えている。

●推薦＝宮本又次・長 幸男・安岡重明・大浦克彦



食料品の供給問題は社会・経済政策上最大の関心事であり、人々にとっても生鮮食料品を扱う市場の整備は共通の願いであった。本資料集には、明治末年から昭和初期までの、食料品流通と市場制度の確立を物語る基礎資料約50点と、戦前期までの「近代日本市場関係資料目録」（約1500点）を収録した。日本近代の食料品流通の政策・法制度の推移を解明し、商業・流通構造の歴史にとどまらない、日本近代史、政治史の研究に新たな視点を提供する資料群である。

●推薦＝岩本由輝・宇佐美英機・小路田泰直・藤田貞一郎

原田政美 編・解説

近代日本「市場」関係資料集 全8巻・別冊1・付録1

別冊＝解説（原田政美）・近代日本市場関係資料目録

付録＝近代日本市場関係資料目録データ（CD1枚）

A 5判・A 4判・上製・総 4,284 頁

揃定価 182,000 円

'10年10月～'11年 7月配本完結〔編集復刻版〕

司法省刑事局 編〔昭和16年～昭和23年刊〕

経済月報 全21巻・別冊1

別冊＝解説（西田美昭・荻野富士夫）・総目次

A 5判・上製・総 10,800 頁

揃定価 420,000 円

'02年 6月～'03年11月配本完結〔復刻版〕

『国家総動員法』（昭和13年 4月公布）から3年、司法省は『経済月報』を創刊する。この法律は十五年戦争下の戦時統制の基本的法規であり、本法に基づき数多くの省令・告示・訓令が出されあらゆる面で国民の生活を統制する。

『経済月報』は、その運用の記録であり、いわゆる「経済検察」の実態を示す資料である。戦後の『新経済月報』も含めて戦時統制経済研究に不可欠の基本資料を復刻！

●推薦＝中村政則・原 朗・由井正臣

中央報徳会 編纂〔明治39年～昭和21年刊〕

新民 全38巻・別冊1

別冊＝解説（金澤史男）・解題（酒田正敏）・目次総覧

A 4判・上製・総 14,200 頁

揃定価 768,000 円

'00年10月～'02年12月配本完結〔復刻版〕

本誌は明治39（1906）年 4月創刊、昭和21年12月まで、全40編 471号刊行された。創刊当初、内務省は地方自治の基本方針として、二宮尊徳の「報徳」の理念を採用し、「道徳と経済の調和」を基本標語とした。当時の内務、農商務、文部の各省の地方行政、地方自治と密接な関係を持つ官僚を主導力とし、地方自治に対して常に多大の影響を与えており、狭義の報徳主義研究の資料にとどまらず、地方自治・農政史を含む日本近現代史研究の宝庫でもある。

●推薦＝海野福寿・宮崎隆次・宮地正人・和田 守

■十五年戦争極秘資料集 補巻④

戦時下政治行政活動史料

1941-1945 全3冊

古川隆久 編・解説
B5判・上製・函入・総1,392頁
揃定価57,000円
'15年4月～8月刊〔編集復刻版〕

翼賛政治会が政務調査を中心とする政治活動のために収集または刊行したと推定される諸史料を復刻。日本政府と議会はいかに戦時に対応したのか。当時の政治家と議会、政府の関係を知る上で大変貴重な史料であると同時に、外交・経済・社会の実情をもうかがえる価値ある史料である。

特に、終戦直前（昭和20年7月）に実施された行政査察の詳細な報告書は、戦時統制の限界と破綻を示す貴重な内容となっている。

●推薦＝加藤陽子

内閣大礼記録編纂委員会・内務省警保局・内務省衛生局 刊

昭和大礼記録資料 全4巻・別冊1

別冊＝解説（西 秀成・荻野富士夫・藤野 豊）
B5判・上製・総2,512頁
揃定価95,000円
'90年10月刊〔復刻版〕

1928（昭和3）年11月の「昭和大礼」は、十五年戦争の開始を目前にした、天皇制国家への民衆統合と動員のための最大の儀式であった。その記録は多数残されているが、その中から主要な3著作4巻を復刻。「昭和大礼」の実際の姿を検証し、あわせて、「平成大礼」の問題点をえぐり出す。

第1巻＝昭和大礼要録／第2巻＝昭和昭和大礼警備記録(上)／第3巻＝昭和昭和大礼警備記録(下)／第4巻＝昭和御大礼衛生記録

●推薦＝田中真人・中島三千男・由井正臣

小繋事件裁判資料集

DVD版 全14枚・別冊1

別冊＝解説（畑 穰・棚澤能生）・解題（早坂啓造・棚澤能生）・各裁判記録細目次
揃定価150,000円
'12年1月～'13年3月配本完結

岩手県二戸郡一戸町字小繋に住む農民たちは、先祖代々小繋山に入り、建築用材、燃料、食糧などを調達していたが、1873年、地租改正にともなう官民所有区別所分の際に小繋山が民有地とされた。このときに発行された地券の名義人から譲渡を受けた者が、警察力などを使って立ち入りを実力で阻止するようになり、農民はこれを不服として1917年訴訟を起こし、この後すべての裁判が結審するまでに実に50余年、親子三代にわたって争われることになった。入会権を端緒とした公共事業、山林開発、環境問題を考えていく上で、本資料の意義は大きい。

●推薦＝戒能通厚・室田 武・山泉 進

公益財団法人渋沢栄一記念財団 編

渋沢栄一記念財団の挑戦

渋沢栄一記念財団は、新しい知の集積と発信を行う「文化資源館」を目指している。本書は、「渋沢史料館」「実業史研究情報センター」「研究部」の3つの組織が相互に協力しながら展開してきた実践報告である。

●A5判・並製・324頁・定価2,700円/'15年10月刊

田 彤 編／于 臣 訳

渋沢栄一と中国

——一九一四年の中国訪問

渋沢栄一の1914年の訪中は、当時の中国において大きな反響を呼んだ。本書は中国の新聞雑誌の報道を和訳したものであり、今まで欠落していた情報を補うことのできる重要資料である。

●四六判・並製・254頁・定価2,200円/'16年7月刊

渋沢雅英 著

太平洋にける橋

——渋沢栄一の生涯

本書は1970年に刊行された『太平洋にける橋——渋沢栄一の生涯』に入江昭の序文を付した復刻版である。日本最初の国際人とも呼ぶ渋沢栄一の生涯を軸に、日本における国際主義の系譜をたどる貴重な著作であると同時に、現代史の中で1970年代のもつ重要性をも認識させてくれる力作である。

●四六判・上製・500頁・定価3,800円/'17年8月刊〔復刻版〕

重松一義 著

日本流人島史

——その多様性と刑罰の時代的特性

「流刑」の起原は王朝時代に遡り、政争や宗教、また身分による縁坐・連坐も少なくなかった。蝦夷から先島に及ぶ流刑地別に、「島流し」の諸形態・時代的特性を分析し、学問的観点から考察。

●A5判・上製・208頁・定価3,800円/'11年11月刊

岡田和喜 著

金融雑誌の展開

『大阪銀行通信録』の復刻解題に係わる論稿を中心に、『銀行通信録』解題と、銀行業界3誌を統合した『全国金融統制会報』の解題を収録した、金融雑誌研究の集大成。

●A5判・上製・248頁・定価4,800円/'11年12月刊

李洙任 編著

在日コリアンの経済活動

——移住労働者、起業家の過去・現在・未来

日本社会において、マイノリティによる経済活動の研究は立ち遅れていた。在日コリアンの戦前期からの経済活動に目を向け、グローバル化した日本社会のあるべき姿をも投げかける意欲作。

●推薦＝韓 榮恵

●A5判・上製・274頁・定価3,800円/'12年3月刊

都市不燃化 53ページをご参照ください。

昭和10年全国商店街調査資料 53ページをご参照ください。

根岸侘著作集 69ページをご参照ください。

旧外地「工場名簿」集成 69ページをご参照ください。

「三鷹事件」裁判関係資料集 DVD-ROM版 86ページをご参照ください。

建築・都市・地理・民俗・観光

都市不燃化同盟 発行〔1949年～1959年刊〕

都市不燃化 全3巻・別冊1

別冊＝解説（初田香成）・総目次・索引
B 5判・上製・総1,604頁
揃定価 75,000円
'14年11月刊〔復刻版〕

都市不燃化運動は戦前からの防火・防空研究をもとに、戦後まもなくから1950年代を通じて隆盛を誇った運動である。本書はその推進団体である都市不燃化同盟の機関誌で、1949年から1959年まで全97号が刊行された。同盟には産官学から多様な分野の関係者が集まり、とりわけ建設省官僚たちが大きく関わっていたのが特徴であった。

今日においても尚、火災対策は喫緊の課題である。都市不燃化運動や、当時の各都市の状況を詳細に伝えた本書は、今後の災害対策においても示唆に富む重要資料である。

●推薦＝内田青蔵・鈴木 淳・田中喙義・西村幸夫

財都市計画協会 刊〔昭和20年～昭和35年刊〕

新都市 全20巻・別冊1

別冊＝解説（越澤 明）・総目次・索引
B 5判・上製・総8,900頁
揃定価 380,000円
'96年6月～'97年12月配本完結〔復刻版〕

戦前の都市計画は、後藤新平会長の都市研究会を中心とし、『都市公論』（大正7年～昭和20年）を発行、広く市政問題全体に論説・研究を発表してきた。

戦後、同研究会の流れを継承した、戦災復興院および都市計画協会は、それぞれ『復興情報』『新都市』を発刊、戦災復興という都市計画の重要なテーマに取り組んできた。特に、毎年度道府県ごとの特集号、また、海外の実情を紹介するなど、ユニークな誌面が見られる。同協会創立50周年を期して復刻。

●推薦＝石田頼房・西山康雄・八木田功・渡辺俊一

都市創作会 刊〔大正14年～昭和5年刊〕

都市創作 全10巻・別冊1

別冊＝解説（堀田典裕）・総目次・索引
A 5判・上製・総5,284頁
揃定価 200,000円
'05年5月～'09年9月配本完結〔復刻版〕

本誌は、大正14年に都市計画愛知地方委員会を中心として設立された「都市創作会」の機関誌であり、同年9月に創刊、昭和5年4月までの全55冊が確認されている。愛知県の都市形成史を中心に、戦前の主要都市における建築・交通・緑地・住宅・経済等を論じており、東京一極集中する以前の中央と地方の関係を省察する上で貴重な資料である。都市計画の揺籃期を代表する執筆者が多く寄稿しており、研究者のみならず、実務担当者にとっても必備の資料である。

●推薦＝片木 篤・鳴海邦碩・藤森照信

辻原万規彦・藤岡里圭 編・解説

昭和10年 全国商店街調査資料 全13巻・別巻1

別巻＝解説（辻原万規彦・藤岡里圭）・参考資料編
A 5判・A 4判・上製・総5,742頁
各巻定価 15,000円（揃定価 210,000円）
'07年7月～'08年5月配本完結〔編集復刻版〕

本資料は商店街におけるコミュニティの形成過程解明の基本文献である。商工省は昭和10年に商店街に関する、「詳細かつ大規模かつ網羅的な」調査を実施した。調査地域は、大都市圏を含む、北は旭川から南は那覇、さらに旧「満州国」や統治下の朝鮮半島まで、全国90余都市に及ぶ。戦災等により失われた戦前期の商店街の諸相を、文字、数字、写真、地図により再現。商業史、建築史、都市史、都市計画史、盛り場、露天等の研究者に提供する。

●推薦＝石原武政・北原理雄

都政人協会・社東京都自治振興会 発行

『町会』『町と生活』全11巻・別冊1

別冊＝解説（吉原直樹）・総目次・索引
A 5判・B 5判・上製・総6,248頁
揃定価 180,000円
'07年11月～'08年5月配本完結〔復刻版〕

本誌は、激動する1950年・60年代の町内会・自治会の動きを伝える唯一のコミュニティ情報誌として、1956年から1967年まで発行された。

東京都の町内会の実態を中心に、都政のPRや広く住民の声を誌面に反映させ、戦後の高度経済成長による人口の流動化や、新たに開発された住宅地の変化等に伴う新たな住民運動や地方自治の問題を伝えている。

コミュニティ政策・都市社会学・行政史研究の基礎資料として復刻。

●推薦＝雨宮昭一・中田 實・西尾 勝

新建築社 刊〔大正14年～昭和19年刊〕

新建築 全46巻・補巻1・別冊1

別冊＝解説（石田潤一郎）・総目次・索引
A 5・A 4・B 5 判・上製・総13,602頁
揃定価 900,000円
'06年11月～'10年2月配本完結〔復刻版〕

1925年創刊の本誌は、戦前期の建築ジャーナリズムの中で、編集方針の偏りや党派性をみせることなく、個々の作品に関する情報や矩計図も添えられた図面と鮮明な写真、要を得た取材文を掲載し、昭和戦前期の日本建築界の総体を丸ごと伝えている。

本誌を通覧することによって、合理主義と経験主義、コスモポリタニズムと超国家主義とが生まれ、争い、結ばれあう様を目の当たりにすることができる。

●推薦＝橋爪紳也・藤田治彦・藤森照信・八束はじめ

近代建築画譜刊行会 発行〔昭和11年刊〕

近代建築画譜 近畿編 全1巻

監修（橋爪紳也）
A 4判・上製・函入・672頁
定価 48,000円
'07年6月刊〔復刻版〕

本書は、昭和11年に大阪で刊行された建築物の写真集である。ここでは、明治・大正・昭和の三代にわたって建設された関西の主要な建築物（写真1,202点・図面269点）が網羅されている。対象にした建物は、官公庁、学校をはじめとする公的機関から、銀行、病院、駅、新聞社、百貨店、ホテル、アパート、映画館、料亭、工場、神社、仏閣など、都市のあらゆる施設を取り上げている。近代建築史研究の重要資料である。

●推薦＝陣内秀信・初田 亨

建築画報社 発行／黒田鵬心 編〔大正4年刊〕

東京百建築 全1巻

解説（石田潤一郎）
B 5横判・上製・総280頁
定価 12,000円
'08年11月刊〔復刻版〕

『東京百建築』は、明治初年より大正3年までに東京で竣工した百の建築物を収録した写真集である。震災前の東京における代表的な建築物を網羅し、各建築物の様式及び手法、起工及び竣工年月、設計者、監督者、施工者などのデータを収録している。それぞれの写真は鮮明である。

稀観本であった本書の復刻は日本の近代建築の誕生の過程の全体像を示すものであり、広く研究者に提供する。

大阪府 発行〔大正3年刊〕

大阪府写真帖 全1巻

橋爪紳也 監修・解題
B 4横判・上製・総186頁
定価 20,000円
'10年11月刊〔復刻版〕

本書は、大正3年、天皇行幸に際して、大阪の現状を報告するために大阪府が編集した。掲載された写真は、市街図、御陵、官幣社・府社、軍、官公庁、学校、港、川の景観、駅、商業会議所、各種の取引所や市場、水源地、官民の工場、農地、名所旧跡、公園、名刹など多岐に渡る。近代化途上の商都の繁栄を伝える貴重な写真集である。

京都地籍図編纂所 発行〔大正元年刊〕

京都地籍図 全4巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（河原典史）・付録解説（井上 学）
付録＝「土地台帳」データCD
A 4判・上製・総1,614頁
揃定価 180,000円
'08年10月～'09年4月配本完結〔復刻版〕

弊社では復刻版作成にあたり、上京・下京・接統町村部の地図図版3編分を1巻に合本し、3冊の「土地台帳」は原本通りとした。また、検索の便を図るために、「土地台帳」記載の7万件を越えるすべての記録を電子データ化し、CDに収録して付録とした。これは、地名の検索はもちろん、地目・地主などの集計に活用できる。つまり、地主ごとの地籍を集計することによって、いわゆる「名寄帳」が作成でき、所有面積・地代などを指標とした社会・経済構造を読み取ることが可能になる。

●推薦＝末永國紀・杉本秀太郎・高橋康夫・山田 誠

帝国古蹟取調会 編〔明治33年～明治37年刊〕

古蹟 全3巻・別冊1

別冊＝解説（丸山 宏）・総目次・索引
A 5判・上製・総1,536頁
揃定価 55,000円
'11年1月刊〔復刻版〕

明治期の産業発展の過程で土地開発が進み、文化遺産は破壊の危機に晒される。九条道孝らは1900年、文化遺産の保存顕彰を目的として帝国古蹟取調会を発足させ、喜田貞吉を編集主任として機関誌『帝国古蹟取調会会報』を創刊、1903年『古蹟』と改題する。わずか4年後には活動を停止するが、誌面には吉田東伍、小杉楹邨、三宅米吉ら代表的歴史学者・考古学者が寄稿し、個別の史蹟研究、地方の紹介、古代石碑の論稿も多い。前身誌『帝国古蹟取調会会報』も収録した本復刻版は、文化史・郷土史研究の重要資料である。

●推薦＝羽賀祥二

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編〔大正15年～昭和19年刊〕

史蹟名勝天然紀念物 昭和編 全52巻・別冊1

別冊＝解題（高木博志）・総目次・索引
 第Ⅰ期揃定価 200,000 円 全12巻
 第Ⅱ期揃定価 200,000 円 全12巻
 第Ⅲ期揃定価 200,000 円 全12巻
 第Ⅳ期揃定価 280,000 円 全16巻・別冊1
 A 5判・上製・総 21,882 頁
 '04年10月～'08年11月配本完結〔復刻版〕

本誌は、旧幕臣の侯爵徳川頼倫らが1911年に発足させた、史蹟名勝天然紀念物保存協会の会報である。その趣旨及び内容は、日露戦争後、国内産業の発展の裏で進む、文化的景観と記念物文化財破壊の危機を訴え、保存の啓発と法制化を目的とし、様々な分野から著名な学者が参加し、多岐にわたる見解・分析を寄稿している。

昭和編として、関東大震災を挟んで約三年の休刊後、大正15年1月の復刊から昭和19年8月の終刊までを、全4期に分けて復刻刊行する。昭和戦前期の文化財保護行政の足跡を辿り、その全貌を明らかにするものである。

●推薦＝荒山正彦・上田正昭・栄原永遠男・羽賀祥二

国立公園協会 発行〔昭和4年～昭和19年刊〕

国立公園 全12巻・別冊1

別冊＝解題（白幡洋三郎）・総目次・索引
 B 5判・上製・総 5,568 頁
 揃定価 312,000 円
 '10年7月～'11年12月配本完結〔復刻版〕

本書は、本多静六、田村剛、三好学、細川護立などにより昭和2年に設立された国立公園協会の機関誌である。昭和4年に創刊、太平洋戦争中の昭和18年に『国土と健民』と改題されるが、戦後の昭和23年『国立公園』の名で復刊し、今日まで刊行が続いている。国立公園法（昭和6年）制度の解説、同9年から指定が始まった国立公園の特質、保護や利用等の記事を通して国立公園の普及啓発に努めた。戦前戦中期、植民地をも含む国立公園の成立・運営とその意義、国立公園行政の全体像を捉える基本資料である。

●推薦＝小泉武栄・越澤 明・曾山 毅・西田正憲

内山模型製図社 発行〔昭和6年～昭和10年刊〕

東京地籍図 全26巻・別冊1・付録9

別冊＝解説（田中 傑・中島直人・野村悦子・初田香成）
 付録＝「地籍台帳」データ（CD 9 枚）
 B 5判・A 3判・上製・総 7,498 頁
 揃定価 510,000 円
 '10年7月～'12年11月配本完結〔復刻版〕

関東大震災により大被害を受けた東京は、下町を中心に震災復興区画整理事業が進められ、幹線道路が整備されるなど、大きく変貌しつつあった。本書は、この復興期の東京の土地所有状況を網羅した貴重資料である。復刻版では、16区の地籍図および地籍台帳に、検索の便を図るため地籍台帳データをCDに収め付録として付す。近代都市・東京を解析するデータベースであり、地理学、経済・経営史、都市工学研究必携の史料である。

●推薦＝伊藤 毅・北原糸子・松山 巖・水内俊雄

■十五年戦争極秘資料集 補巻㉔

外邦測量沿革史 草稿 全4冊・別冊1

別冊＝解説（小林 茂）・総目次
 A 4判・上製・函入・総 1,310 頁
 揃定価 113,000 円
 '08年6月～'09年3月刊〔復刻版〕

本書は、近隣アジア諸地域を測量するため、日清戦争を機に設けられた陸軍参謀本部陸地測量部関係者の行動記録（明治28年～大正15年）である。各年度における測量計画や実績報告、各種命令や関係者の往復書簡等が収められ、日清・日露戦争、韓国併合、シベリア出兵の過程で、中国、台湾、朝鮮各地で排日抵抗運動、現地官憲の反発に直面しながら、公然あるいは隠密の測量活動を拡大し、地図の精度を高めていった実情を生々しく伝える。日本軍の近隣アジアにおける陸地測量の実態を解明する上で不可欠の資料である。

●推薦＝石原 潤・村上勝彦

■十五年戦争極秘資料集 補巻㉕

研究蒐録 地図 全3冊

解説（小林 茂・渡辺理絵）・総目次・執筆索引付き
 B 5判・上製・函入・総 1,580 頁
 揃定価 54,000 円
 '11年2月～6月刊〔復刻版〕

『研究蒐録 地図』は陸軍参謀本部陸地測量部の編集により、1943年1月に発行され、現在1944年10月までの計22冊が確認されている。陸地測量部の教育機関誌である本誌は、「陸地測量に関する識能増進のため、教育或いは測量技術の統制、…公文による不備を補足し、研究・論説等を紹介」（発行の趣旨より）し、戦火の拡大した中国、東南アジア諸地域を含む広範囲の測量事情を収載している。未解明な部分の多い陸地測量部の活動や秘密測量を検証する基礎資料である。

●推薦＝佐藤 久

陸地測量部 編

陸地測量部沿革誌 全1巻・付録CD1枚

解説（小林 茂）付き
 付録CD＝陸地測量部沿革誌附図・附表
 A 5判・上製・函入・566 頁
 定価 28,000 円
 '13年7月刊〔復刻版〕

大正11年、昭和5年、昭和23年と三期に分けて発行された本誌は、明治から昭和戦前期まで、日本における地図製作を担っていた陸地測量部の変遷、活動内容を通覧することのできる数少ない資料である。

陸地測量部は日本の近代測量史において中枢を担っていたにも関わらず未解明な部分もまだ多い。また、学界だけでなく地図愛好者の間でも近代地図への関心も高まっており、その基本資料として、復刻するものである。

●推薦＝星屋由尚

寺田近雄 著／寺田事務所 発行【取扱図書】

皇室陵墓

昭和までの歴代天皇、皇室、皇族の墳墓をオールカラーで紹介、解説を付す。歴史愛好家、郷土史家、公共図書館必備の一冊。

● B 5 判・上製・266 頁・定価 20,000 円／'11年10月刊

沖繩文化

62ページをご参照ください。

新垂細亜

71ページをご参照ください。

南洋群島

71ページをご参照ください。

旧制成城高等学校尋常科地理自学書集

89ページをご参照ください。

月刊民藝・民藝

95ページをご参照ください。

工藝 DVD-ROM 電子版

95ページをご参照ください。

移民

日本力行会 発行〔大正2年～昭和20年刊〕

力行世界 全39巻・別冊1

別冊＝解説（和田敦彦）・総目次・索引
A 5判・B 5判・B 4判・上製・総20,078頁
揃定価762,000円
'12年11月～'15年2月配本完結〔復刻版〕

本誌は、1913年より現在も刊行中の日本力行会機関誌である。日本力行会は1897年、キリスト教徒であった島貫兵太夫が苦学生救済・海外発展の必要性を唱えるために設立された。『力行世界』は、世界各地に在住する会員の声、移民を希望している人との問答、渡航の方法等、移民に関する記事を豊富に提供する「移民情報の宝庫」であるが、揃いで所蔵している研究機関は皆無であり、容易に入手できなかった。今回の復刻により、移民史をはじめキリスト教史、教育史、広く近現代史研究に供するものである。

●推薦＝飯田耕二郎・根川幸男・日比嘉高・平井廣一

南米社 発行〔大正7年刊〕

週刊南米 全3巻

制作協力＝飯田耕二郎
B 5判・上製・総1,056頁
揃定価66,000円
'17年6月刊〔復刻版〕

『週刊南米』は星名謙一郎によって発行されたブラジル初の邦字紙である。現在その存在を確認できるのが1918年刊行の27号分で、これらを収録した。内容は多彩で、農牧業に関する記事を中心に、ブラジル国内外、時節柄第一次大戦の記事も多く、日本の様子、文芸欄もある。笠戸丸移民から10年、史料の乏しい時期であり、草創期ブラジル日系人の活躍について新たな側面を見出すことができるだろう。

●推薦＝吉田 亮・根川幸男

戦前期ブラジル移民日本語読本 全1巻

解題（根川幸男）付き
A 4判・上製・302頁
定価33,000円
'16年1月刊〔編集復刻版〕

1936年から翌年にかけて刊行された、ブラジル初の日本語読本教科書である『日本語読本』（ブラジル日本人教育普及会）全8冊を四面付け方式の1冊に合本、そしてカラーページをそのまま再現して復刻刊行する。この『日本語読本』は素材の多くを当時の国定教科書から取っているが、中にはブラジルの偉人・歴史上の人物の伝記が収録されている。また、ブラジルの日系女生徒の作文、ポルトガル語教科書からの翻訳教材も見られ、「日本の教育」と「ブラジルの教育」の融和への志向性を垣間見ることができる。

●推薦＝森本豊富・エドワード マック

日本移民協会 発行〔大正3年～大正8年刊〕

日本移民協会報告 全2巻

解説（坂口満宏）・総目次・索引付き
B 5判・上製・総680頁
揃定価36,000円
'06年9月刊〔復刻版〕

日露戦争後、日本の東アジアへの急激な進出を危惧したアメリカでは対日批判が高まり、1907年には新規移民禁止、1913年には第一次排日土地法成立により日本人の土地所有や借地等の権利が剥奪されるにまで至る。このような状況に鑑み、1914年2月に大隈重信を会頭として「日本移民協会」が設立された。本誌は同会の機関誌として、北米における日本移民の労働や就学状況調査、東南アジア・南米への移民の有望性・将来性、南洋諸島の移民地としての価値など、移民に関する幅広い論説と情報を提供している。

カナダ移民史資料 全5巻

佐々木敏二 編集・解説
A 4判・A 5判・B 6判・上製・総2,664頁
揃定価98,000円
'95年5月刊〔復刻版〕

本書は、明治～昭和戦前期のカナダ日本人移民に関する基本・重要文献を復刻したものである。
〈収録文献〉『加奈陀同胞発展史』（明治42年5月・大陸日報社編）『加奈陀同胞発展史 第二』（大正6年8月・大陸日報社編）『加奈陀同胞発展史 第三』（大正13年8月・大陸日報社編）『加奈陀同胞発展大鑑 附録』（大正10年7月中山昶二郎著）『須知武土道^{スチウストウ}漁者慈善団体三十五年史』（昭和10年11月小林貞二編）『足跡』（山崎寧翁伝記編纂会編著）

●推薦＝飯野正子・原口邦紘・三輪公忠

カナダ移民史資料Ⅱ 全6巻・別冊1

佐々木敏二・権並恒治 編集・解説
別冊＝全16点の英文目次+『加奈陀と日本人』の翻訳
B5判・A5判・上製・総4,116頁
揃定価 148,000円
'00年9月刊〔復刻版〕

本書は、『カナダ移民史資料』の第二集として10点の資料を収録した。

〈収録文献〉『加奈陀在留邦人々名録』（大正15年6月）『ピーシー州日本人電話帳』（1931年7月）『在加奈陀邦人々名録』（昭和16年9月）『加奈陀同胞発展大鑑 全』（大正10年7月）『在加同胞労働調査』（1923年）『加奈陀日本人農業発展号』（昭和5年10月）『加奈陀と日本人』（昭和15年10月）『海外移民が母村に及ぼした影響』（1953年2月）『湖東移民村の研究』（1964年3月）『黒潮の涯に』（1974年1月）

外務省通商局 編〔明治40年～昭和15年刊〕

海外各地在留本邦人職業別人口表 全5巻・附録1

解説（柳田利夫）付き
B4・B5判・上製・総1,800頁
揃定価 95,000円
'02年11月刊〔編集復刻版〕

『海外各地在留本邦（内地）人職業別人口表』（外務省通商局編）は、世界各地に居住する日本人についてその男女別、職業別（後に本業者、家族別）を一覧表にまとめ、何度かその形式やタイトルを変えながらも、明治40年以降年1回、30年以上にわたって印刷・刊行された調書である。弊社ではこれらの統計表を年次別に整理し、復刻刊行する。明治期以降の海外における日本人の活動の実態を把握するための第一級資料。移民研究、歴史地理研究等の基本文献。

●推薦＝兒玉正昭・佐々木敏二

外務省政務局ほか 編〔明治41年～昭和19年刊〕

戦前期中国在留日本人統計 全8巻

解説（木村健二・幸野保典）付き
B5・A5・A4判・上製・総3,470頁
揃定価 190,000円
'04年6月～11月配本完結〔編集復刻版〕

1909(明治42)年6月、外務省政務局編纂による『関東州並満洲在留本邦人及外国人人口統計表』が初めて刊行された。

以後、誌名を変えつつほぼ毎年刊行されたこれらの統計は、当該地域の各領事館・分館からの人口調査報告に基づいて作成され、内容も地域別(中国・「満洲国」・台湾)、民族別(日本人・中国人・朝鮮人・台湾人・及び外国人)に男女別人数とその合計を掲載し、1944(昭和19)年7月までの具体的な増加状況が概観できる。

戦前の中国における日本の支配地域や影響の拡大を知る好資料！

●推薦＝川島 真・高嶋雅明

外務省通商局 編〔大正11年～昭和6年刊〕

移民地事情 全10巻・別冊1

別冊＝解説（柳田利夫）・総目次
A5判・上製・総4,810頁
揃定価 191,000円
'99年11月～'00年12月配本完結〔復刻版〕

外務省通商局は、海外の領事館からの報告を『通商公報』として定期的に公表していた。『移民地事情』はその中から、中南米地域＝ブラジル・アルゼンチン・ボリヴィア・メキシコ・コロンビア・チリ・パラグアイ・ウルグアイ等についての、日本人移民地の「視察報告」を取りまとめ、不定期で全27冊刊行された。

これらの各地域には、既に邦人移民が相当数定住しており、その地の詳細な地図と共に、彼等の生活状態を報告した本書は、日本人移民地の実情を知る基本資料である。

ハワイ日本語学校教科書集成 全10巻

解説（高木〈北山〉眞理子）付き
A4判・上製・総3,627頁
揃定価 280,000円
'11年11月～'12年11月配本完結〔編集復刻版〕

ハワイへの日本人移民は、1885年の「官約」により本格化し、定住化の過程で、第2世代の教育問題が移民社会の懸案となる。アメリカの同化政策、外国語学校取締法、これに対する違憲裁判と勝訴という苦闘のなかで、多いときは日系2世の9割が日本語学校で学んだ。本集成は、1918年から41年までに布哇教育会、布哇中央学院、本派本願寺学務部、布哇教育局等が子弟教育のために独自に編纂出版した日本語読本と修身教科書を収録。教育史のみならず移民・民族史の貴重な史料である。

●推薦＝沖田行司・白水繁彦・バゼル山本登紀子・吉田 亮

篠田左多江・山本岩夫 編集・解説・解説

日系アメリカ文学雑誌集成 全22巻・別冊1

別冊＝日系アメリカ文学雑誌研究——日本語雑誌を中心に
A5判・B5判・上製・総11,420頁
揃定価 396,000円（各巻18,000円）
'97年6月～'98年12月配本完結〔編集復刻版〕

太平洋戦争中、アメリカにおける強制収容所内で発行された、日系人による文学雑誌（日本語）を、今日収集できるかぎり集め、解題を付して復刻。また、その後継誌である戦後の日系文学雑誌も、あわせて復刻出版。『収穫』『若人』『怒涛』『鉄柵』『ハートマウンテン文芸』『ポストン文芸』『NY文芸』『南加文芸』の八種の雑誌を全22巻に収録。日系移民の想像を絶する苦労の日々を、文学を通じて再現。日系移民史の研究にも、基礎史料となる。

●推薦＝阪田安雄・佐々木敏二・福田陸太郎

■十五年戦争重要文献シリーズ 補集③

かがやきごう

輝号〔ブラジル「勝ち組」広報誌〕

収録内容：創刊号（昭和24年3月）全頁・各号「目次」「編輯後記」

解説（岸和田 仁）付き

B5判・上製・函入・180頁

揃定価 19,000円

'12年7月刊〔編集復刻版〕

第二次大戦後のブラジル日系社会では「勝ち組」「負け組」というふたつの思想的な対立が顕著となった。「勝ち組」とは日本の敗戦を信じなかった日本人移民のことで「信念派」「強硬派」と呼ばれ、1946年から47年の時点ではブラジル日系人の八割が「勝ち組」だった。一方「負け組」の人たちは、「認識派」「敗戦派」と呼ばれ、ポルトガル語の新聞が読めた日系社会のエリートが多かった。情報が乏しい中、日本の勝利を信じていた「勝ち組」「信念派」の日本回帰運動の心理に迫る復刻。

●推薦＝三田千代子

飯田耕二郎 著

移民の魁傑・星名謙一郎の生涯

——ハワイ・テキサス・ブラジル

星名謙一郎(1866～1926)は、日本人移民の草創期に、ハワイ・テキサス・ブラジルという三つの地域をまたいで先駆的な役割を果たした。星名が発行したブラジル初の邦字紙『週刊南米』総目次も収録した、初の評伝である。

●A5判・並製・320頁・定価3,800円/'17年8月刊

兒玉正昭 著

日本人移民ハワイ上陸拒絶事件

——領事報告を中心に

1897年の事件当時、ハワイ駐在日本総領事が書き残した記録、及び諸文献の豊富なデータをもとに事件の全容を考察し、移民の視点で事件の要因を実証した重要な研究である。

●A5判・上製・192頁・定価2,500円/'11年6月刊

佐々木敏二 著

日本人カナダ移民史

本書は、戦前、カナダへ渡った「日本人移民」の歴史を、滋賀・和歌山両県を中心として、出移民と移住地での定住過程を結びつけ、体系化した、著者の永年の実証的研究成果が結実した労作。

●A5判・上製・304頁・定価6,000円/'99年8月刊

坂口満宏 著

日本人アメリカ移民史

20世紀前半、日米開戦に伴う日系人の強制収容直前までのアメリカ合衆国西北部に形成された日本人移民社会の展開と消滅の過程を歴史の流れの中で多角的に考察した書。

●A5判・上製・340頁・定価6,500円/'01年11月刊

立命館大学日系文化研究会 編著

戦後日系カナダ人の社会と文化

多文化主義社会カナダの戦後日系人の抱えた政治的・文化的問題を、組織・祭り・言語・文学・メディア等を通して多角的に追求した論文集。坂口満宏・佐々木敏二・彦坂佳宣・山本岩夫ほか著。

●A5判・上製・238頁・定価3,500円/'03年7月刊

■龍谷大学社会科学研究所叢書 第45巻

戸上宗賢 編著

交錯する国家・民族・宗教——移民の社会適応

グローバル化した20世紀の移民・移住現象を国家、民族、宗教そして教育などの側面から考察した共同研究書。執筆＝戸上宗賢・李洙任・糸井輝子・木村健二・横山勝英・島田法子・飯野正子・小島 勝

●A5判・上製・288頁・定価4,600円/'01年5月刊

蘭 信三 編著

日本帝国をめぐる
人口移動の国際社会学

本書は、朝鮮、満洲、樺太、台湾、南洋を舞台として、複雑に展開された《人口移動》の諸相を、国際社会学的視角から総体として捉えようとしたものである。

●推薦＝木村健二・山本有造

●A5判・上製・898頁・定価8,000円/'08年6月刊

三田千代子 著

「出稼ぎ」から「デカセギ」へ

——ブラジル移民100年にみる
人と文化のダイナミズム

1908年に始まるブラジル移民。ブラジルは、日本からの移民を70年にもわたり制度的に受け入れてきた唯一の国である。ヒトの移動によってもたらされた文化のダイナミックな変容を考察。

●A5判・並製・296頁・定価2,000円/'09年3月刊

木下 昭 著

エスニック学生組織に見る「祖国」

——フィリピン系アメリカ人のナショナリズムと文化

フィリピン系アメリカ人のアイデンティティを、主にエスニック学生組織を対象として考察。エスニシティとナショナリズムの交錯、遠隔地ナショナリズムの形成を丹念に描く。

●A5判・上製・340頁・定価5,800円/'09年5月刊

マイグレーション研究会 編

来日留学生の体験

——北米・アジア出身者の1930年代

満洲事変を機に十五年戦争に突入していく1930年代、留学生として来日した北米・アジア出身者(日系二世、台湾・朝鮮半島出身者、フィリピン人、中国人)は、二つの国や地域のはざままで何を思い、求め、生活し行動したのか。北米とアジア両地域からの日本への留学生の個人体験を比較することを主眼とした意欲作！

●A5判・並製・212頁・定価3,000円/'12年6月刊

移民

公益財団法人渋沢栄一記念財団研究部 編
実業家とブラジル移住

本書は、ブラジル移住事業を企画経営した岩崎久彌、渋沢栄一、武藤山治、平生鈞三郎という四人の実業家がどのような構想を抱き、それをどう実現させたのかを明らかにする。また、それらを支えた金融、海運、国際関係についても分析する。

● A 5判・上製・270頁・定価 3,800円/12年8月刊

吉田 亮 編著

アメリカ日系二世と越境教育
——1930年代を主にして

アメリカ日系二世の日本留学・就学という越境教育現象が、在米日本人移民社会および日米両国家・社会にもたらしたさまざまな影響や意味を、「地域」と「宗教」をキーワードに検証し、日本人移民越境史の一断面を分析する。

● A 5判・上製・256頁・定価 3,800円/12年2月刊

仏教海外開教史資料集成〈ハワイ編〉

30ページをご参照ください。

仏教海外開教史資料集成〈北米編〉

30ページをご参照ください。

仏教海外開教史資料集成〈南米編〉

30ページをご参照ください。

仏教海外開教史の研究

31ページをご参照ください。

成功

38ページをご参照ください。

通商彙纂

48ページをご参照ください。

通商公報

48ページをご参照ください。

日刊 海外商報

49ページをご参照ください。

海外日本実業者の調査

49ページをご参照ください。

戦前期 海外商工興信録集成

49ページをご参照ください。

満蒙

65ページをご参照ください。

拓け満蒙・新満洲・開拓

65ページをご参照ください。

満洲開拓関係雑誌集成

66ページをご参照ください。

満蒙開拓青少年義勇軍関係資料

66ページをご参照ください。

満洲泰阜分村

67ページをご参照ください。

南洋群島

71ページをご参照ください。

沖繩

沖繩文教部／琉球政府文教局 発行 [1946年～1972年刊]

文教時報 全18巻・付録1・別冊1

藤澤健一・近藤健一郎 編・解説
別冊＝解説・総目次・索引 (定価3,000円)
A4判・B5判・A5判・上製・総9,964頁
揃定価392,000円
'17年9月～'19年11月配本完結予定〔復刻版〕

第二次大戦後、米軍によって占領されていた時期(1945～1972年)、沖繩・宮古・八重山(一時期、奄美をふくむ)において、文教担当部局が刊行した『文教時報』を復刻する。統治者として君臨した米国側との関係、また、沖繩教職員会をはじめとした教員団体との関係、「復帰」に向けた日本政府や文部省との関係、さらに離島や村落の教育環境など、同誌は変動する沖繩現代史のダイナミズムを体現するかのような史料群となっている。物事を判断するためには事実経過が知らなければならない。第1回配本に解説のほか、総目次や執筆者索引などから構成される別冊(定価3,000円)をあわせて刊行する。教育行政側からみた沖繩現代史を総覧できる史料的环境を整備する。

四群島の各教員団体機関誌 [1947年～1953年]

占領下の奄美・琉球における 教員団体関係史料集成 全7巻・別冊1

編集＝(代表) 藤澤健一・近藤健一郎・櫻澤 誠・高橋順子・戸邊秀明
別冊＝解説・総目次・総索引・附表(藤澤健一・近藤健一郎・櫻澤 誠・高橋順子・戸邊秀明・田中萌葵)
A4判・上製・総2,444頁 揃定価196,000円
'15年12月～'16年7月配本完結〔編集復刻版〕

米軍統治下の奄美・琉球では、日本国憲法が定めた集会や結社、出版など表現の自由が規制され、検閲の禁止、通信の秘密(21条)は実質的には保障されなかった。その背景には基地の安定確保と反共を政策とした軍政府の強権があった。各教員団体は、こうした制約下、自らの意見を表明・共有化するための機関誌を刊行していた。『教育大島』『教育と文化』(奄美群島)、『宮古教育』『教育時報』(宮古群島)、『新世代』(八重山群島)、『新教育』(沖繩群島)である。いずれも47年以降に軍政府の認可を受けて創刊され、簡易な冊子として会員を中心に配布されていた。新たな史料発掘と精細な考証の成果にもとづく史料集成。 ●推薦＝弓削政己・仲宗根将二・大田静男・川井 勇

南西印刷出版部(ひるぎ社) 発行
[1980年～1996年刊]

地域と文化 全4巻・別冊1

別冊＝解説(高良倉吉)・総目次・索引
B5判・上製・総1,956頁
揃定価84,000円
'17年7月刊〔復刻版〕

雑誌『地域と文化』は、1980年8月の第1号から1996年8月の第95号まで刊行された。第一号の編集委員は池宮正治、上江洲均、我部政男、宜保栄治郎、高良倉吉、仲地哲夫であり、第24号からは真栄城守定が名を連ねた。「発刊にあたって」(池宮正治)には、「地域の文化と歴史に関する広場と言った冊子にしたいと思う」とあるように、沖繩の論文から共同研究の成果、資料紹介やエッセイ、短信など多種多彩で、同時に沖繩島北部・宮古・八重山・奄美など多くの地域が頻繁に登場する重要資料である。 ●推薦＝安里 進・大田静男

月刊文化沖繩社 発行 [1940年～1944年刊]

月刊 文化沖繩 全4巻・別冊1

別冊＝解説(栗国恭子・近藤健一郎・世良利和・新城栄徳)・総目次(新城栄徳)・索引
B5判・A5判・上製・総1,616頁
揃定価98,000円
'15年12月刊〔復刻版〕

本誌は、1940年に創刊され、1944年1月まで沖繩で刊行された雑誌である。創刊当初の編集発行人は本山豊、同人は本山豊・石川文一・金城安太郎の三人である。同時代では唯一の総合文化雑誌を目指し創刊した。全38号を復刻。戦時下、1944年3月には首里に三二軍の司令部が置かれ、十・十空襲、1945年の沖繩戦で戦前に刊行された雑誌の多くも失われている。映画・演劇・舞踊・音楽といった芸能分野に本誌の特徴があるが、観光、移民事情、政治・経済、教育など、さまざまな領域に関わる記事を掲載していた。主要執筆者：新崎盛珍、島袋盛敏、島袋全発、尚順、須藤利一、宮尾しげを、山里永吉、山城正忠、ほか ●推薦＝仲程昌徳・阪井芳貴

八重山文芸協会／八重山文化社 発行
[1946年～1950年刊]

八重山文化 全3巻・別冊1

別冊＝解説(三木 健)・総目次・索引
B5判・A5判・上製・総1,350頁
揃定価69,000円
'15年7月刊〔復刻版〕

自治意識の高まりの中で活字文化の「黄金時代」を迎えた戦後の八重山で「地方文化の確立」を掲げて創刊した総合文化雑誌を復刻。戦後の混乱から復興へと向かい始めていた1946年5月、八重山文芸協会は旗揚げした。主な会員は、桃原用永、大濱信光、喜友名英文、村山秀雄、坡名城長輝ら20人余である。協会は活動の中心を『八重山文化』の発行に置き、会長に大濱、副会長に喜友名、編集長に村山を選出、会誌は小説や短歌、俳句などの文芸ものから時事評論や歴史ものなど、幅広い分野にまたがっている。八重山音楽協会、八重山演劇協会との連携、引揚者の活躍など、南の島でともされた5年間の出版文化の灯を掘り起こす。 ●推薦＝砂川哲雄・仲程昌徳・近藤健一郎

沖繩文化協会 発行〔1961年～1983年刊〕

沖繩文化 全8巻

解説（波照間永吉）付き
B 5判・A 5判・上製・総4,608頁
揃定価 150,000円
'14年8月～11月配本完結〔復刻版〕

『沖繩文化』は、1947年8月に創設された沖繩文化協会の機関誌である。当誌は1953年の第27号で休刊となったが、1961年に復刊し、現在に至る。

沖繩文化協会は今日まで沖繩研究の柱として活動を進め、『沖繩文化』を通して沖繩研究の優れた成果を紹介し、多くの研究論文を収録してきた。それは「おもしろさうし」研究をはじめ言語学、歴史学、人類学、考古学、宗教学、文学、芸術学と多岐に渡る。協会の協力のもと復刊第1号から第60号までを復刻し、沖繩文化研究の基礎資料として供するものである。

●推薦＝我部政男・仲程昌徳

おきなわ社 発行〔1950年～1955年刊〕

おきなわ 全6巻・別冊1

別冊＝解説（仲程昌徳・松下博文・栗国燕子・酒井直子）
・総目次（新城栄徳）・索引
A 5判・上製・総2,538頁
揃定価 96,000円
'15年1月刊〔復刻版〕

1950年4月、「沖繩、日本、或いは海外にあって郷土の再建をひたすら祈り、各々その立場々々から力をつくしている人々の心の慰めとなり、力の泉たらんことを期して「おきなわ」が生まれました」（本誌創刊号編集後記より）。気宇壮大な出版人・神村朝堅らの志のもと、この総合雑誌は在京のおきなわ社から6年間発行された。主要執筆者は、仲原善忠・金城朝永・比嘉春潮・奥里将建・東恩納寛惇・宮良当壮・島袋盛敏。本誌創刊時、論壇誌『世界』岩波書店では、戦後知識人が結集した平和問題懇談会メンバーが全面講和論の論陣を展開していた。

●推薦＝我部政男・高橋敏夫

琉球政府 発行〔1954年版～1971年版〕

琉球要覧 全14巻

B 5判・A 5判・上製・総7,350頁
揃定価 272,000円（各巻分売可）
'13年5月～'14年8月配本完結〔復刻版〕

米国民政府による琉球政府設立の3年後にあたる1955年、琉球政府は『琉球要覧』を刊行する。本資料は「行政白書」の役割をもち、内容は土地・気象・人口統計・労働力調査・消費者実態調査・輸出入統計・犯罪統計・火災統計の「総括」から始まり、「政治」「財政金融」「産業」「教育」「社会」「建設通信」「労働」「治安」「文化・観光」まで沖繩に関するあらゆる事項を網羅したデータベースであり、占領下沖繩を知るための基礎資料である。

●推薦＝原洋之介

琉球政府 発行〔1955年版～1972年版〕

琉球統計年鑑 全14巻

B 5判・上製・総6,786頁
揃定価 294,000円（各巻分売可）
'13年4月～'14年6月配本完結〔復刻版〕

琉球政府は1955年刊行の『琉球要覧』に続いて、1957年に『琉球統計年鑑』の刊行を始めた。統計の項目は土地、気象、人口、労働力、経済、諸産業、インフラ、貿易、通貨、金融、雇用、家計、教育、衛生、行政、治安、軍事等と当時の沖繩に関する統計データを主に、戦前の統計や諸外国の統計まで、『琉球要覧』では掲載されていない詳細な情報まで網羅した総合的統計年鑑である。また、途中から英語による表記も追加され、米国人でも閲覧が可能ないようにされていた。『琉球要覧』とあわせて利用されたい。

●推薦＝原洋之介

琉球列島米国民政府 発行〔1957年～1970年〕

今日の琉球 全12巻・別冊1

巻頭解説（大城立裕）付き
別冊＝解説（鳥山 淳）・総目次・索引
B 5判・上製・総6,260頁
揃定価＝300,000円
'13年7月～'14年5月配本完結〔復刻版〕

戦後沖繩を統治した米国民政府の広報宣伝誌。沖繩の知識層、指導層を対象とし、公共機関、琉米文化会館に配布された。米軍による強制的な土地接収に対する島ぐるみ闘争のさなかに創刊された本誌は、琉米親善を基調とし、米占領下で築きあげられた経済的繁栄、資金援助、米事情の紹介に努める一方、沖繩人の自発性、沖繩の伝統文化への関心を鼓舞し、占領政策のプロパガンダを担った。米軍統治を検証し、「復帰」後も変わらない構造的差別の歴史を問い直す沖繩・日本現代史の資料。

●推薦＝新崎盛暉・吉見俊哉

琉球諸島米国民政府 発行
〔1959年～1972年刊〕

守礼の光 DVD版 全5枚・別冊1

別冊＝解説（仲程昌徳）・総目次・索引
揃定価 175,000円
'12年5月～10月配本完結

『守礼の光』とは、米占領下の沖繩で発刊された米国民政府の広報宣伝誌である。本誌は、沖繩住民に国内外のニュースを報じると共に、琉球文化の独自性を自覚させつつ日本志向を抑制し、軍政を円滑に推進する離日政策の狙いを持っていた。そのため、沖繩独特の文化面の記事内容が多く取り入れられ、琉米文化会館などを通して10万部近くもばら撒かれていたが、多くの沖繩県民は破棄したため図書館でも完全に揃っていないところはなく、今回復刻される運びとなった。

●推薦＝大田昌秀・我部政明

沖繩県教育会／沖繩教育会 発行〔1906年～1944年〕

沖繩教育 全39巻・別冊1

編集＝『沖繩教育』復刻刊行委員会
別冊＝解説（藤澤健一・近藤健一郎・梶村光郎・三島わか
かな）・総目次・索引
B4判・A5判・上製・総13,966頁
揃定価570,000円
'09年11月～'15年6月配本完結〔復刻版〕

戦前期沖繩における教育会誌『沖繩教育』は、1906年3月、『琉球教育』の後継誌として刊行された。沖繩における「大和化」政策など、近代沖繩における教育と文化の史実を解き明かす上で最も重要な資料であることはもちろん、広く沖繩近代史の基礎的資料でもある。本誌は、散在が著しい状態であったが、現存する原本をつぶさに調査し、全冊のうちおよそ半数強を発掘、復刻するに至ったものである。姉妹誌にあたる『島尻教育』と『八重山教育』の2冊ほかも付録として収録。

●推薦＝逸見勝亮・三木 健・屋嘉比収

うるま新報社 刊〔45年7月～51年9月刊〕

うるま新報 全6巻

解説（新崎盛暉・丹野喜久子）付き
B4判・上製・函入・総1,962頁
揃定価168,000円（各巻28,000円）
'99年4月～9月配本完結〔縮刷版〕

『うるま新報』は、日本の無条件降伏（8月15日）の前月、7月25日創刊された。日米戦の中で、唯一地上戦の闘われた沖繩において、印刷機もなく、当初はガリ版印刷で発行、防空壕の中から活字をひろい集め、第6号から活字印刷・タブロイド判となった。当時の沖繩において、ニュース源は米軍政府からのものが多く、本土からはラジオ放送を傍受して記事にしたものが多い。また、各地の収容所で窮乏生活を余儀なくされていた県民にとっては唯一の情報源であった。当時の県民の姿を知る貴重な資料として復刻刊行。

●推薦＝小川政亮・我部政男・福島鑄郎・宮城悦二郎

琉球新報社 刊〔51年9月～56年12月刊〕

琉球新報 全27巻

解説（新崎盛暉）付き
B4判・上製・総9,548頁
揃定価756,000円
'03年10月～'07年10月配本完結〔縮刷版〕

（注）本紙は『うるま新報』（全6巻・小社既刊）の継続後紙です。従って、縮刷版刊行に際して、巻数は第7巻から始まります。

本紙は、日本の無条件降伏の前月、1945年7月26日に創刊された『うるま新報』の継続改題紙である。戦後、アメリカ支配下に琉球政府を発足させた沖繩における最初の地元新聞であり、当時の沖繩県民の姿を映す貴重な資料である。弊社では、1951年9月10日（867号）から奄美大島日本復帰に至る1953年12月31日（1688号）までを第Ⅰ期、1955年6月までを第Ⅱ期、1956年12月までを第Ⅲ期として復刻し、戦後復興期の日本及び沖繩を知るための資料として提供する。

●推薦＝我部政男・門奈直樹

沖繩新民報・自由沖繩 全2巻

解説（新崎盛暉）付き
B4判・上製・総642頁
揃定価48,000円
'00年5月刊〔縮刷版〕

『沖繩新民報』は、1946年1月、九州各地に疎開していた沖繩出身者のための情報紙として、親泊政博によって福岡で創刊。『自由沖繩』は、1945年12月、沖繩人連盟の機関紙として、比嘉春潮を中心として、東京で創刊された。両紙は、沖繩が米軍占領下において、沖繩出身者の社会と完全に分断されている状況にあって、九州への疎開者や外地からの引揚者と結ぶ唯一のパイプであった。弊社では、『うるま新報』と共に、戦後日本の沖繩人社会を知る資料として、あるいは、占領下の日本を見なおす資料として復刻する。

●推薦＝我部政男

宮古民友新聞社・南西新報社ほか 刊
〔1945年～1953年刊〕

占領期・琉球諸島新聞集成 全16巻

監修（新崎盛暉）
解説（仲宗根将二・大田静男・弓削政己）
A4判・上製・総6,080頁
揃定価448,000円
'07年11月～'09年10月配本完結〔編集復刻版〕

奄美・沖繩・宮古・八重山の四諸島は、戦後初期の約8年間、琉球諸島として、共に米軍政下に置かれ、米軍はこれらの諸島を四群島別に統治していた。したがってこれらの地域は、この時期、社会的事情においてもかなりの地域差があり、政治的文化的諸活動において独自の歩みをしていた。こうした地域独自性を知る貴重な手がかりが、それぞれの地域で発行されていた新聞である。沖繩現代史を解明するために『宮古民友新聞』、『みやこ新報』、『南西新報』、『海南時報』、『奄美タイムス』の5紙を復刻刊行する。

近代沖繩新聞集成 DVD版 全12枚・別冊5

編集＝『近代沖繩新聞集成DVD版』刊行委員会（新崎盛暉ほか）
別冊＝（収録新聞発行年月日・号数一覧）
検索システムインストールCD全4枚 付き
揃定価570,000円
'10年11月～'14年2月配本完結

沖繩戦は、県内で発行されていた史・資料のほとんどすべてを焼き払った。本集成は、戦前に沖繩で発行され、半世紀に及ぶ調査によって県内外から掘り起こされた全新聞を、沖繩・日本近代史の資料として提供する。

【内容】琉球新報（1898～1918年、1938～1940年）、沖繩毎日新聞（1909～1914年）、沖繩日報（1938～1940年）、沖繩新聞、沖繩朝日新聞、沖繩タイムス、沖繩新報、その他

●推薦＝有山輝雄・仲程昌徳・三木 健・宮城晴美

戦後初期沖縄解放運動資料集

DVD版 全1枚・別冊1

編集・解説＝加藤哲郎・森宣雄・鳥山淳・国場幸太郎
別冊＝『「島ぐるみ闘争」はどう準備されたか——沖縄
が目指すくあま世への道』森宣雄・鳥山淳 編著
揃定価 30,000円
'13年10月刊行

森 宣雄・鳥山 淳編著／『戦後初期沖縄解放運動資料集
DVD版』別冊

「島ぐるみ闘争」はどう準備されたか
——沖縄が目指すくあま世への道

藤澤健一 編著／近藤健一郎・櫻澤 誠・高橋順子・
田中萌葵・戸邊秀明 著

移行する沖縄の教員世界
——戦時体制から米軍占領下へ

山口栄鉄 著

英人バジル・ホールと大琉球

——来琉二百周年を記念して

H・J・クリフォード 著／浜川 仁 訳・解説

クリフォード訪琉日記

——もうひとつの開国

沖縄秘密戦に関する資料

編集復刻版『戦後初期沖縄解放運動資料集』全3巻をDVD1
枚に収録し再刊。書籍版は2010年に品切となった。軍政下の弾
圧をのがれ秘密裡に進められた「島ぐるみ闘争」の準備活動を、
当時の合法・非合法の運動資料、関係者のインタビュー記録、
官憲がわの監視資料、関連記事・論文などにより総合的に明ら
かにした、画期的な歴史資料集総1,234頁を復刊。

〔第1巻〕米軍政下沖縄の人民党と社会運動（1947～58年）

〔第2巻〕沖縄の非合法共産党資料（1953～57年）

〔第3巻〕沖縄非合法共産党と奄美・日本（1944～63年）

●推薦＝新崎盛暉・富山一郎

1950年代、運動の中心的組織者の一人であった、故・国場幸
太郎の足跡を中心に、運動を担った人々の姿を振り返り、その
歴史的な意義を考える。●執筆＝国場幸太郎・新川 明・林
京子・由井晶子・新崎盛暉・加藤哲郎・長元朝浩・富山一郎

●A5判・並製・288頁・定価1,800円／'13年10月刊

沖縄に「戦後」はあるのか？ 「平和国家」日本と同時代の沖
縄。関係史料調査の成果を踏まえ、教員世界の変容から「戦前」
と「戦後」の連続と断絶を縦横に描き出す、沖縄教育史研究の
最前線。

●A5判・並製・348頁・定価4,000円／'16年10月刊

1816年9月16日、那覇港に姿を現した英軍艦船と琉球との
友好的な交流を、著者の数々の業績を踏まえて多角的に紹介。
かつて西歐中で起きた「琉球」大流行の軌跡を追う。

●四六判・並製・220頁・定価1,900円／'16年3月刊

新発見資料の全訳(挿絵20点はカラー口絵)。1816年9-10月の訪琉
日記著者のH・J・クリフォード英国海軍尉官は日本近代化の先
駆けとなったキーパーソンであり、新資料発見者・訳者による解
説はもうひとつの歴史評価の核。●推薦＝山口栄鉄・真栄平房昭

●四六判・並製・264頁・定価1,800円／'15年10月刊

78ページをご参照ください。

久米島住民虐殺事件資料

81ページをご参照ください。

琉大文学

109ページをご参照ください。

旧外地・アジア近現代史

【満洲・蒙古】

満蒙文化協会ほか 刊〔大正9年～昭和18年刊〕

満蒙 全121巻・別冊1

別冊＝総目次・執筆者索引
揃定価 2,145,000 円

本誌は、旧植民地・満洲に関する基本的資料のひとつである。創刊当初より、満鉄の庇護の下、満鉄調査部の研究成果を毎号掲載し、天野元之助、大塚令三、田中忠夫等の筆者が多数登場する。また、文学、言語、家族、宗教、考古学等、汎く「満蒙」に関する論文、翻訳を載せている。復刻にあたっては、『満蒙』の前身誌『満蒙之文化』をも含め、全281号を3期に分けて収録、刊行。

●推薦＝石堂清倫・岡部牧夫・川村 湊・鈴木隆史・西村成雄・波多野太郎・丸山 昇

第Ⅰ期 全31巻〔第1巻～第31巻／大正9年～昭和2年〕

A 4判・A 5判・上製・総14,222頁

揃定価 558,000 円

'93年12月～'96年5月配本完結〔復刻版〕

第Ⅱ期 全46巻〔第32巻～第77巻／昭和2年～昭和9年〕

A 5判・上製・総19,784頁

揃定価 792,000 円

'96年8月～'99年12月配本完結〔復刻版〕

第Ⅲ期 全44巻・別冊1〔第78巻～第121巻／昭和10年～昭和18年〕

A 5判・上製・総20,004頁

揃定価 795,000 円

'00年5月～'03年8月配本完結〔復刻版〕

〔誌名の変遷〕

『満蒙之文化』 大正9年9月～大正12年3月

『満蒙』 大正12年4月～昭和18年10月



■満州移民関係資料集成 第Ⅱ期

満州移住協会 編〔昭和11年～昭和20年刊〕

拓け満蒙・新満洲・開拓 全23巻・別冊1

別冊＝解説(岡部牧夫)・解題(小林弘二)・総目次

B 5判・A 5判・上製・総11,864頁

揃定価 506,000 円

'98年4月～'00年10月配本完結〔復刻版〕

弊社では、満州移民に関する立案計画から実施に至る文書類を中心にして、「満州移民関係資料集成」全40巻を刊行した。これに続き、満州移民に重要役割を果たした満州移住協会の機関誌を全号収集し、第Ⅱ期として刊行する。昭和11年4月創刊の『拓け満蒙』から、2回誌名を変更し、昭和20年1月までの間、移民の実態の変化、分村・分郷移民の具体的姿、そして農民の生の声などが満載されている。本誌は協会の「宣伝誌」ではあるが、基本資料の一つである。

●推薦＝安孫子麟・池田浩士・川村 湊・君島和彦・田中 学

旧外地・アジア近現代史

ジャパン・ツーリスト・ビューロー大連支部 発行
(昭和9年～昭和19年刊)

旅行満洲 全26巻・別冊1

別冊＝解説(孫安石・高媛・清水賢一郎・田島奈都子)
・総目次・索引

B5判・上製・総約13,500頁

揃定価650,000円

'16年12月～'19年8月配本完結予定〔復刻版〕

本誌は昭和9年にジャパン・ツーリスト・ビューロー大連支部より刊行された旅行雑誌である。『観光東亜』、『旅行雑誌』とタイトルを変え、昭和19年8月まで刊行が確認できている。その内容は多様で、巻頭には毎号10頁程のグラビア頁が設けられ、観光地案内、宿泊施設、土産、時刻表などの観光情報はもちろんのこと、スキーや狩猟、温泉などのレジャー情報も豊富である。また、漫画や文芸作品、芸術、歴史に関する記事も多く掲載されており、総合文化雑誌としての側面も強い。

●推薦＝荒山正彦・西原和海・三橋勇

■配本一覧

第1回配本(第1・2巻)	第1巻第1号～第3巻第8号	定価50,000円	'16年12月刊
第2回配本(第3～5巻)	第3巻第9号～第4巻第9号	定価75,000円	'17年4月刊
第3回配本(第6～8巻)	第4巻第10号～第5巻第9号	定価75,000円	'17年8月刊
第4回配本(第9～11巻)	第5巻第10号～第6巻第9号	定価75,000円	'17年12月刊
第5回配本(第12～14巻・別冊)	第6巻第10号～第7巻第6号	定価75,000円	'18年4月刊
第6回配本(第15～17巻)	第7巻第7号～第8巻第5号	定価75,000円	'18年8月刊
第7回配本(第18～20巻)	第8巻第6号～第9巻第5号	定価75,000円	'18年12月刊
第8回配本(第21～23巻)	第9巻第6号～第10巻第5号	定価75,000円	'19年4月刊
第9回配本(第24～26巻)	第10巻第6号～第11巻第8号	定価75,000円	'19年8月刊



満洲開拓関係雑誌集成 全11巻・別冊1

別冊＝解説(風間秀人)・総目次

A5判・B5判・上製・総5,798頁

揃定価220,000円

'15年4月～'16年2月配本完結〔編集復刻版〕

「満洲国」で移民政策を担った満洲拓植公社等の機関誌を収録。満洲拓植公社員による論考、業務紹介等、公社員を対象に編集した雑誌『借拓』(満洲拓植公社発行、1937/12～40/7)、満洲移民に関する訓令・法令等を漏らさず収録した内部資料『開拓月報』(満洲帝国政府開拓総局発行、40/1～41/3)、移民の同志の結束と自主的・実践的創造の場を任務とした第一次『開拓協和』(40/10～41/3)、及び「開拓総合指導誌」をめざした開拓総局・満拓公社・協和会中央本部の三者共同編集による第二次『開拓協和』(41/11～44/3)。「満洲開拓」の実態を明らかにし、満洲移民史の欠落を補うための重要資料。

●推薦＝蘭信三・白木沢旭児・白取道博

満蒙開拓

青少年義勇軍関係資料 全7巻

白取道博 編・解説

B5判・上製・総2,980頁

揃定価140,000円

'93年4月～7月配本完結〔復刻版〕

中国東北部を入植地とする移民は、1932年以降数次にわたる試験移民を経て、37年度から「20ヶ年100万戸送出計画」に基き本格化する。数え年16～19歳の男子を対象とする「満蒙開拓青少年義勇軍」は、38年から45年まで、満洲移民の主流となり、軍事・治安上の役割を補完し続け、その終焉は、多くの人々の心身の摩滅と破壊を伴った。「満蒙開拓青少年義勇軍編成ニ関スル建白書」ほか50編の資料を収録。

●推薦＝岡部牧夫・上笙一郎・佐藤秀夫・逸見勝亮

興亜会・亜細亜協会 刊(明治13年～明治19年刊)

興亜会報告・亜細亜協会報告 全2巻

黒木彬文・鱒澤彰夫 共編・解説

A4判・上製・総632頁

揃定価56,000円

'93年9月刊〔復刻版〕

明治初期、日本の近代化の過程には欧米列強に対抗するため、アジア諸国の事情収集、特に言語の習得が急務であった。興亜会は明治13(1880)年成立、自由民権運動の影響の下、日本で最初の「アジア主義」組織であった。会は明治16年には亜細亜協会と改名、明治33年に東亜同文会に吸収合併された。本書は、興亜会(亜細亜協会)のこれまでに発見された関連資料全ての復刻版であり、日中関係史、日朝関係史、中国語教育史等の重要な基本資料である。

●推薦＝伊東昭雄・波多野太郎・松本三之介

鹿地亘資料調査刊行会 編

日本人民反戦同盟資料 全12巻・別巻1

別巻＝解説・解説(井上 學)・総目次・関連年表

A4判・上製・総4,900頁

揃定価455,000円

'94年5月～'95年12月配本完結〔編集復刻版〕

日中戦争期に敢えて中国側に投じ、日本人兵士の反戦運動を組織し、指導した鹿地亘の残した資料の集大成。反戦運動に参加した兵士の手紙、鹿地亘の周辺にいた中国人文学者の手紙など、これまで未整理、未発表の資料を多数収録する。日本の戦争に反対し、生命をかけて反戦のために闘った日本人の貴重な反戦闘争の記録として、研究者必備の資料である。なお、別巻として、全収録資料の総目次、関連年表、解説・解説を付す。

●推薦＝犬丸義一・大江志乃夫・藤原 彰・小島晋治・丸山 昇・王曉秋

興農合作社関係資料

DVD版 全2枚・別冊1

別冊＝解説（福井紳一）・総目次
 揃定価 100,000円
 '10年9月刊

日本帝国主義の傀儡国家「満洲国」政府は、農業経済の疲弊を打破するため金融合作社（1934年）、農事合作社（1937年）、そして両者を統合した興農合作社を1940年に設立し、農民（漢族、満族、朝鮮族、モンゴル族）の組織管理を行った。過酷な搾取から農民を救済する協同組合の一面もあった農事合作社の地方機関誌には、佐藤大四郎ら北満型合作社運動の詳細が、また興農合作社中央機関誌『興農』には、「満洲」農村の実態を知る貴重なデータのほか、多数の論文、文芸作品が掲載されている。

●推薦＝西田 勝

植民地文化学会 編

近代日本と「満洲国」

本書は、1992年から1996年まで5年間にわたり開催された、日本と中国の「被害と加害」の歴史を文化的側面から検証するシンポジウム「日本帝国主義と《満洲国》の文化」の報告をまとめたものである。「満洲国」研究者、文学研究者必携の一冊。

●A5判・上製・592頁・定価6,000円／'14年7月刊

岡村敬二 著

「満洲国」資料集積機関概観

戦前期、「満洲国」の図書館・官庁資料室等の活動や蔵書目録の一覧、戦後の接收後の資料収蔵の変遷過程、そして現在中国の図書館に保存されている資料の現況と、その検索ツールズについての集成。

●A5判・上製・258頁・定価4,800円／'04年6月刊

植民地文化研究会 編

《満洲国》文化細目

本書は、「満洲国」で出版された書籍460点、同国居住者によって書かれ日本で出版された書籍105点についての個別の書誌（刊行年月日、発行者、頁数、定価、所蔵先など）と解題の集大成。

●A5判・上製・850頁・定価6,800円／'05年6月刊

満洲泰阜分村——70年の歴史と記憶編集委員会 編
 長野県泰阜村 発行

満洲泰阜分村——七〇年の歴史と記憶

本書は開拓団員20数名に上る生の声、研究者の学術論考、移民・引揚・帰国支援関連の村役場資料、丹念に作成された年表と名簿、さらに『満洲泰阜分村——後世に伝う血涙の記録』を一部再録した労作。

●A5判・上製・1,040頁・定価8,000円／'07年10月刊

天野弘之・井村哲郎 編

満鉄調査部と中国農村調査

——天野元之助中国研究回顧

新たに発見された天野博士・福島正夫氏・野間清氏3名による鼎談記録と、「海南島旅日誌」「文革期中国訪問の記録」の三点を収録。天野元之助の生涯を辿る好著！

●推薦＝田島俊雄・原 宗子

●四六版・上製・416頁・定価3,800円／'08年8月刊

【朝鮮・韓国】

朝鮮総督府 帝国議会説明資料 全17巻

A4判・上製・総5,240頁
 揃定価535,000円
 '94年4月～'98年6月配本完結〔編集復刻版〕

朝鮮総督府が、帝国議会答弁のため作成した『帝国議会説明資料』は、現在その大部分が散佚又は焼却され、その全容を把握することさえ不可能に近い。弊社では内外の研究者・各機関の協力を得て、現在収集可能なものを全てを網羅し、復刻刊行した。その分量は、21,000頁を超えるため、四面付方式により復刻。大正6年から昭和20年までの植民地朝鮮の「治安状況」を中心とする民衆の動向など、植民地支配の全分野を含む、近現代史研究の基本資料である。

●推薦＝海野福寿・朴慶植・水野直樹・宮田節子

朝鮮総督府 帝国議会説明資料

第4回配本（第18・19巻）

A 4判・上製・総 700 頁
 揃定価 56,000 円
 '13年12月刊〔編集復刻版〕

朝鮮総督府が、帝国議会答弁のため作成した『帝国議会説明資料』は植民地朝鮮の「治安状況」を中心とする民衆の動向など、植民地支配の全分野を含む近現代史研究の基本資料であるが、現在その大部分が散佚又は焼却され、その全容を把握することは不可能に近い。弊社ではこれまで、収集可能なものを収録し1994年に第1、2回配本、98年に第3回配本を刊行してきた。今回復刻する第4回配本の資料群はこれまでの欠落を補う貴重資料である。

●推薦＝水野直樹

海野福寿 編・解説

外交史料 韓国併合 上・下

A 5判・上製・函入・総 806 頁
 揃定価 48,000 円
 '03年11月刊

本史料集は、「韓国併合」に関して「歴史の共通認識という国際共通財を創り出す出発点」として編まれたものである。日本の韓国植民地化過程（1904～10年）に締結された日韓旧条約の日本側の政府関係史料を中心に400点余を収録。日韓外交関係の基本史料である。【内容】上＝論点／日韓議定書／第一次日韓協約／韓国通信機関委託ニ関スル取極書／第二次日韓協約 下＝第三次日韓協約／韓国司法及監獄事務委託ニ関スル覚書・韓国警察事務委託ニ関スル覚書／韓国併合ニ関スル条約／年表

●推薦＝宮田節子

滝尾英二 編・解説

植民地下 朝鮮における
 ハンセン病資料集成 全8巻

A 5判・上製・函入・総 2,927 頁
 揃定価 101,500 円
 '01年11月～'03年7月配本完結〔編集復刻版〕

今日、日本政府のハンセン病対策が、多くの患者の人権を侵害してきた事実は明らかになりつつあるが、戦前、朝鮮で植民地政策の一環として、強制隔離・強制収容はもとより日本国内以上に過酷な強制労働と懲罰としての断種が強行され、ついに療養所の日本人園長が患者によって刺殺される事態にまで至ったことは知られていない。本集成は、諸刊行物や小鹿島更生園の年報、雑誌・新聞などの諸資料によって、その問題のありかを浮かび上がらせるものである。

●推薦＝秋定嘉和・海野福寿

朝鮮憲兵隊歴史 全6巻

解説（松田利彦）付き
 A 4判・上製・総 1,580 頁
 揃定価 180,000 円
 '00年10月刊〔復刻版〕

本書は、防衛庁防衛研究所図書館所蔵の資料「朝鮮憲兵の起源及び沿革概要」「朝鮮憲兵隊歴史」を収録した。韓国併合の直前、1910年6月、日本政府は韓国政府から警察権を奪い、韓国駐箚憲兵隊が韓国人民を支配・統合する「武断政治」を開始する。この憲兵隊による植民地統治の方式は、その後の日本の植民地各地に「輸出」され、原型となるに至る。本資料は、この間の資料の空白を埋めるのに極めて重要である。

●推薦＝海野福寿・水野直樹

朝鮮総督府警務局 編

朝鮮の治安状況 大正13年12月

解題（宮本正明）付き
 B 5判・上製・396 頁
 定価 20,000 円
 '06年7月刊〔復刻版〕

植民地下朝鮮の警察の元締めである朝鮮総督府警務局は、朝鮮の民衆を支配する治安維持対策として、個々の民族運動についての調査や各道警察部の報告を整理統合し、「治安状況」と題して定期的に作成していた。本復刻版はこの「治安状況」の大正13年12月のものであるが、特に「関東震災ノ民心ニ及ホシタル影響」など、大正12年の関東大震災に関連する報告を含んでいることに特徴がある。（原題＝「治安状況 大正13年12月」）

河合和男・金早雪・羽鳥敬彦・松永達 共著

国策会社・東拓の研究

本書は、1908年、朝鮮に設立された東拓（東洋拓殖株式会社）の多面的な事業活動を総体的に把握し、それを通じて、国策会社・東拓の全体像や歴史的意義に迫ろうとした共同研究書である。

●A 5判・上製・328 頁・定価 7,800 円／'00年1月刊

山田寛人 著

植民地朝鮮における朝鮮語奨励政策

——朝鮮語を学んだ日本人

植民地下の朝鮮で、日本人を対象としたさまざまな朝鮮語試験が行われていた。朝鮮総督府による、教師や警察官などを対象とした朝鮮語奨励政策の実態を、幅広い資料群の分析を通して考察した書。

●A 5判・上製・268 頁・定価 4,800 円／'04年6月刊

在日コリアンの経済活動	51ページをご参照ください。
旧外地「工場名簿」集成	69ページをご参照ください。
十五年戦争極秘資料集	78ページをご参照ください。
十五年戦争重要文献シリーズ	81ページをご参照ください。
朝鮮戦争下 公安関係資料——光永源植資料	86ページをご参照ください。
在日朝鮮人関係資料集成〈戦後編〉	86ページをご参照ください。

【中国・その他】

根岸^{ただし}侷著作集 全5巻

三好 章 編・解説
B 5判・上製・総約2,600頁
揃定価 110,000円（分売可 各巻定価 22,000円）
'15年8月～'17年9月配本完結予定〔編集復刻版〕

中国研究者、根岸侷は明治34年に上海に渡り、東亜同文書院創立期の若き教授として活躍した。大正6年には東京高等商業学校（現一橋大学）教授となって後進の指導育成にあたり、その生涯で多くの研究書を残した。根岸の中国研究は、現在の中国を研究、理解するためにも大きな示唆を与えるものであることを確信し、本著作集を刊行する次第である。

『支那ギルドの研究』『中国のギルド』『上海のギルド』『支那買辦制度』『買辦制度の研究』『華僑襟記』『中国社会に於ける指導層』『支那特別関税会議の研究』ほか多数収録。

旧外地「工場名簿」集成 全21巻

解説（堀 和生）付き
A 5判、A 4判、B 4判・上製・総6,832頁
揃定価 385,000円
'10年11月～'13年2月配本完結〔編集復刻版〕

本資料集成は、日本の植民地支配・占領下の台湾、朝鮮、樺太、関東州朝鮮、満洲国、華北における「工場名簿」45点を収録した。各「工場名簿」には、工場名、住所、経営者名、主要生産品、職工数、開業年月等が掲載されており、具体的な経営実態を知ることができる。戦前期日本の植民地の工業発展をめぐっては近代化論と収奪論が激しく対立しているが、本資料は、1930年代日本帝国の工業構造、戦前期東アジアの社会経済の研究活性化に資する貴重資料である。

●推薦＝柳沢 遊・やまだあつし

修文書館 発行〔明治23年～明治24年刊〕

上海新報 全2巻

解説（高綱博文）・総目次付き
A 4判・上製・総796頁
揃定価 48,000円
'11年7月刊〔復刻版〕

『上海新報』は、上海における最初の日本語新聞として、明治23年6月より翌年5月まで全52号が刊行された。発行元は修文書館、長崎出身の松野平三郎が週刊紙として創刊した。上海に最も早く進出した三井物産が後援し、創刊目的も「日清間の通商貿易を奨励誘導する」とある。上海の商況や物価、清国内各都市の通商情報のほか、中国人の風俗、上海日本人居留民社会の様子、小説、英・日・中三国対照会話等の記事が掲載され総合誌の役割も果たした。近代日中関係史の第一級・稀覯資料である。

●推薦＝陳祖恩

天野元之助 著

中国農業経済論 全3巻

A 5判・上製・函入・総2,200頁
 揃定価 28,000円
 '84年11月刊〔復刻版〕

本書は、天野元之助博士の戦前における中国農村実態調査の集大成といべき『支那農業経済論』上巻（昭和15年刊）・中巻（昭和17年刊）、及びその「下巻」にあたる『中国農業の諸問題』上・下巻（昭和27・28年版）の改訂復刻版である。氏は新中国成立後も前記2著を常に手元におき、誤植を訂正しつつ内容を補充し、中国農村社会の学問的研究に全生涯をかけた。本復刻版は、天野博士の手元の補充訂正版をそのまま復刻し、今日の研究者に提供するものである。

■十五年戦争極秘資料集 補巻③⑤
 興亜院政務部・大東亜省 刊
 [昭和14年～昭和17年・昭和18年～昭和20年]

情報 全9冊・別冊1

別冊＝解題（三好 章）・総目次
 B 4判・上製・函入・総3,160頁
 揃定価 136,000円
 '10年1月～11月刊〔復刻版〕

1938年に設立された興亜院は、日中戦争下における対中国政策、占領地統治政策を統括する機関である。『情報』はその内部資料で、翌年興亜院政務部より全76号が発行された。アジア太平洋地域へと戦争が拡大したのち大東亜省より同じ誌名で発行されたが、39号までが現在確認されている。情報収集活動の重点を「防共」に置き、重慶国民政府、中国共産党、汪精衛政権の関係情報を多く収め、占領地各連絡部からの現地情報も報告されている。日中戦争史研究をさらに深めるための有用な資料である。

●推薦＝本庄比佐子・森 久男

■十五年戦争極秘資料集 補巻④⑥

特調班月報・通訊 全4冊

解題（三好 章）・総目次付き
 B 4判・A 4判・上製・函入・総1,280頁
 揃定価 64,000円
 '11年7月～10月刊〔復刻版〕

『特調班月報』（1939年～42年）、『通訊』（1940年～44年）は、上海日本総領事館特別調査班（特調班、のち上海日本大使館特別調査班）が編集発行した、日中戦争下のマル秘扱い中国情報誌である。両誌は、中国「奥地」（国民党、共産党の支配地域）はじめ中国各地で刊行された新聞雑誌の論説・記事から編集されているが、『特調班月報』は論説を、『通訊』は記事を主に収録している。現在では入手困難なこれら新聞類により、当時の中国国内情勢、日本の対中認識の検証が深められるであろう。

●推薦＝本庄比佐子

藤田佳久 編著

東亜同文書院 中国調査旅行記録

- 第1巻『中国との出会い』・A 5判・上製・函入・284頁・定価2,718円／'94年6月刊【取扱図書】
- 第2巻『中国を歩く』・A 5判・上製・函入・848頁・定価7,500円／'95年8月刊【取扱図書】
- 第3巻『中国を越えて』・A 5判・上製・函入・690頁・定価6,000円／'98年11月刊【取扱図書】
- 第4巻『中国を記録する』・A 5判・上製・函入・580頁・定価6,200円／'02年3月刊【取扱図書】【品切】
- 第5巻『満州を駆ける』・A 5判・上製・函入・608頁・定価8,000円／'11年2月刊

1901年、日中間の貿易実務担当を養成するために、上海に誕生した東亜同文書院。書院生が行った調査旅行の膨大な記録から、テーマごとに一部を収録、解題を付す。

反帝同盟会 編／井上 學 解題

反帝新聞

アジア唯一の帝国主義国内で、反帝国主義・民族独立の旗を掲げ、侵略戦争に反対し、国際的な反戦運動に取組んだ日本反帝同盟の機関誌紙・パンフレット類を収録。

●B 5判・上製・518頁・定価28,000円／'84年10月刊〔復刻版〕

初期コミンテルンと東アジア研究会 編

初期コミンテルンと東アジア

東アジアの社会主義運動とコミンテルンの関係は如何にして始まったのか。モスクワ・アルヒーフを駆使した7編の論文により、日本、朝鮮、中国、モンゴルとコミンテルンとの接点が初めて明かされる。

●A 5判・上製・312頁・定価4,286円／'07年2月刊

松村高夫 著／杉原 達 解説

日本帝国主義下の植民地労働史

本書は、1966年から2006年にわたって発表された、日本帝国主義と植民地労働史に関する6編の論文を集成したものである。今後の東アジア各国との関係を捉え直す上でも貴重な研究書。

●A 5判・上製・384頁・定価5,800円／'07年5月刊

井上 學 著

日本反帝同盟史研究

——戦前期反戦・反帝運動の軌跡

反戦・反帝国主義運動に正面から取り組んだ「日本反帝同盟」研究の集大成！ 多くの資料や当事者からの聞き書き等を駆使して、1920年・30年代の活動の足跡を明らかにする。

●推薦＝伊藤 晃

●A 5判・上製・528頁・定価8,500円／'08年4月刊

佟岩・浅野慎一 監訳

中国残留日本人孤児に関する
調査と研究 上・下

本書は、関亜新・張志坤著『日本遺孤調査研究』(社会科学文献出版社、2005年刊)の全訳。政府の档案(個人の詳細な人事資料)から3千8百余人を抽出し分析、聞き取りも実施。

- 推薦=井出孫六
- A 5判・上製・函入・総 956 頁・揃定価 30,000 円/08年12月刊

李 紅衛 著

清水安三と北京崇貞学園

—近代における日中教育文化交流史の一断面

戦前、宣教師として中国に渡り、「崇貞学園」を創設した清水安三(桜美林大学創設者)の諸活動と思想形成を、档案馆等の新資料や卒業生からの聞き取りをもとに解明。

- 推薦=阿部 洋・樽松かほる
- A 5判・上製・348 頁・定価 4,800 円/09年2月刊

戦前期中国在留日本人統計

58ページをご参照ください。

台湾教育〈大正期〉

88ページをご参照ください。

【台湾・南洋・東南アジア・西アジア】

満鉄東亜経済調査局 発行〔昭和14年～昭和20年〕

新亜細亜 全19巻・別冊1

別冊=解題(白杵 陽)・総目次・索引
A 5判・上製・総 10,020 頁
揃定価 418,000 円
'11年12月～'13年9月配本完結〔復刻版〕

本誌は、1939年から1945年まで、満鉄東亜経済調査局が発行した雑誌である。中心となった大川周明が、創刊の辞及び毎号巻頭言を執筆している。創刊の辞では「国民は亜細亜のことに関して無関心である」とし、「西南亜細亜並びに南洋諸島に関する知識の普及に努める」とある。地理的には西アジア、東南アジアからオセアニアまで、また内容的には政治・経済・宗教・民族・美術・文学と幅広く、イスラーム関連の記事に力を入れているのも大きな特徴である。当時の日本のアジア認識を知るための必須の資料である。

- 推薦=大塚健洋・倉沢愛子・中島岳志・山内昌之

南洋群島文化協会 発行〔昭和10年～昭和18年〕

南洋群島 全26巻・別冊1

別冊=解説(仲程昌徳)・総目次・索引
A 5判・上製・総 10,018 頁
揃定価 416,000 円
'09年6月～'11年2月配本完結〔復刻版〕

かつて「海の生命線」と称された島々——南洋群島。多くの沖縄出身者を含む日本人移民たちは、原野を拓き、産業を興し、約10万人の町を築いた。本誌は、南洋庁の宣伝雑誌という一面はあるが、南方の委任統治領における日本人の動向や生活の実態を具体的に知る上で最も貴重な資料である。誌面には南洋庁長官などの論説、視察記事、経済・産業、民族・民俗に関する研究報告に加えて、随筆や紀行文、日本人移民による文芸作品も掲載されている。

- 推薦=石川友紀・今泉裕美子・須藤健一・山口洋兒

河原 功 編・解題

資料集 終戦直後の台湾 全3巻

B 5判・上製・総 1,146 頁
揃定価 75,000 円
'15年5月刊〔編集復刻版〕

本資料集は、終戦前後に台湾総督府総督官房秘書官、外務省管理局総務部南方課長を務めた斎藤茂氏が収集・記録した1945、6年の資料を「台湾情報」「布告・通牒・覚書・要望・検討事項」「中華民国(台湾省行政長官公署)からの通告・通達・命令」「成田一郎総務長官の帰台に関する件」「非日本人の台湾への帰還・邦人の台湾引揚げ」等に分類し、復刻したものである。

- 推薦=園部逸夫・何義麟・斎藤 毅

台湾引揚者関係資料集 全7巻・付録2

解題（河原 功）付き

付録＝『台湾引揚史』『琉球官兵顛末記』

B4判、A5判（付録）・上製・総2,522頁

揃定価 170,000円

'11年11月～'12年4月配本完結〔編集復刻版〕

敗戦後まもなく、台湾からの引揚者は日本各地で引揚者の相互支援活動を開始し、他地域からの引揚者団体とともに、1948年「引揚者団体全国連合会」を結成、翌年には『全国引揚者新聞』を創刊した。1950年には台湾協会を設立し、後継紙といえる『台湾協会報』を発行、以後紙名を変えながら台湾引揚者に関する情報を発信し続けた。戦後60余年を経た現在、台湾引揚当事者の追跡調査が困難になりつつあるなか、本資料集はその足跡を辿るための重要かつ貴重な資料である。

●推薦＝浅野豊美・斎藤 毅・陳培豊・春山明哲

旧外地「工場名簿」集成

69ページをご参照ください。

台湾出版警察報

75ページをご参照ください。

植民地文化研究 植民地文化学会 編・発行 (第6号までは植民地文化研究会)

資料と分析の研究論文誌【取扱図書】

A 5判・並製【既刊分合計価格 33,600円】

創刊号—特集・「満洲国」文化と台湾① 232頁・定価2,000円/'02年7月刊	第12号—特集・日中戦争の勃発と東アジア 240頁・定価2,100円/'13年7月刊
第2号—特集・「満洲国」文化と台湾② 240頁・定価2,100円/'03年7月刊	第13号—特集・「在日」とは何か 232頁・定価2,000円/'14年7月刊
第3号—特集・「満洲国」文化と台湾③ 240頁・定価2,100円/'04年7月刊	第14号—特集・内なる植民地 248頁・定価2,100円/'15年7月刊
第4号—特集・「満洲国」文化と台湾④ 248頁・定価2,100円/'05年7月刊	第15号—特集・内なる植民地 再び 232頁・定価2,000円/'16年7月刊
第5号—特集・「満洲国」文化と台湾⑤ 240頁・定価2,100円/'06年7月刊	第16号—特集・内なる植民地 三たび 232頁・定価2,000円/'17年7月刊
第6号—特集・「満洲国」文化と台湾⑥ 240頁・定価2,000円/'07年7月刊	
第7号—特集・「満洲国」文化と台湾⑦ 256頁・定価2,200円/'08年7月刊	
第8号—特集・朝鮮・台湾・「満洲」 272頁・定価2,300円/'09年7月刊	
第9号—特集・インドネシア・朝鮮・「満洲」・台湾 232頁・定価2,000円/'10年7月刊	
第10号—特集・植民地主義と女性 264頁・定価2,200円/'11年7月刊	
第11号—特集・植民地解放後の東アジア 272頁・定価2,300円/'12年7月刊	

戦時下統制関係資料

荻野富士夫 編・解説

文部省思想統制 関係資料集成 全11巻

A 4判・上製・総 4,620 頁
揃定価 275,000 円
'07年12月～'08年12月配本完結〔編集復刻版〕

本資料集成は、これまで顧みられなかった戦前文部省の治安機能に焦点をあて、主に1930年代以降の教育・学術・思想の領域における「統制」から「動員」への流れを明らかにするものである。

具体的には、大学・高校などの学生思想運動の取締・思想善導から出発した教育方策・原理が、教育全般・学術研究の統制・動員に拡張され、「教学錬成」の施風を巻き起こし、戦争遂行体制の主導役となりつつ、教育の自壊に至る軌跡を、文部省学事部・思想局・教学局作成の資料を中心に全50点を収録し解説を付して刊行する。

●推薦＝額綱 厚・逸見勝亮・前田一男・松尾尊発

情報局関係極秘資料 全8巻

解説（荻野富士夫）付き
A 4判・上製・総 2,730 頁
揃定価 240,000 円
'03年5月～9月配本完結〔編集復刻版〕

戦前の日本の情報機関の創設は、昭和7年外務省に「情報委員会」が設置され、その後、昭和11年「同盟通信社」と「内閣情報委員会」の設立に始まる。のち、「内閣情報委員会」は「内閣情報部」「情報局」と改組発展し、十五年戦争をにう重要な情報・宣伝機関となる。この間の情報局等の刊行物は膨大な量と種類があるが、その全容は未だはっきりしない。本書は、内閣情報委員会・内閣情報部および情報局の刊行物のうち、極秘（あるいは秘）扱いのものを出来る限り収集し、復刻。日本近現代史・メディア史の基本資料。

●推薦＝有山輝雄・内川芳美・山本武利

廣畑研二 編・解説

戦前期警察関係資料集 第I期 全4巻

A 4判・上製・総 1,366 頁
揃定価 112,000 円
'06年10月刊〔編集復刻版〕

戦前期の社会運動に対する警察認識を示す歴史的資料を編集復刻。第1巻は、水平社綱領改正を指標として、第二次綱領を採択した1926年5月の第5回大会までの初期水平運動に関する資料。第2巻は、日露国交回復交渉前後に外事警察体制が整えられ、ロシアの極東戦略を警戒して作られた外事関係資料。第3巻は、1928年の昭和天皇即位大礼の警衛資料。第4巻は、知事交替時に作成された「知事事務引継書」のうち京都府と大阪府の資料を収録。新発見資料多数収録。

●推薦＝秋定嘉和・荻野富士夫

廣畑研二 編・解説

戦前期警察関係資料集 第II期 岡山県特高警察資料 全4巻

A 4判・上製・総 1,906 頁
揃定価 120,000 円
'12年11月刊〔編集復刻版〕

岡山県は社会運動史において戦前から重要な活動家を輩出してきたことで有名であるが、本資料集はその岡山県の一警察官が警察部在職中に、自ら編集に携わった特高警察関係資料を編集復刻したもので、岡山県の特高事務25年間のうち初期10年間（1920～1929年）の内容を通覧することができる。

一地方警察官所蔵資料の範疇にとどまらず、内務省警保局、警視庁など中枢機構の新資料も多く収録した本資料集は、大逆事件以降の特高警察体制がどのように全国に構築されていったのかを示す貴重資料群である。

●推薦＝秋定嘉和・加藤哲郎

特高警察関係資料集成 第I期 全30巻・別冊1

荻野富士夫 編・解説
別冊＝『特高警察関係資料解説』（分売可＝25,000 円）
A 4判・上製・総 14,300 頁
揃定価 775,000 円
'91年6月～'95年3月配本完結〔編集復刻版〕

本書は、特高警察に関する膨大な資料の中から、今日重要と思われるものを整理・復刻したものである。これまでにほとんど知られていなかった米騒動、1920年代の社会運動、3・15事件関係等の資料群も収録し、12のテーマに分け、編年体により編集。権力の弾圧・抑圧の幅と奥行きを示すことにより、特高警察体制の全体像を提示する。従来公刊されてきた外事警察や出版警察、在日朝鮮人運動関係の復刻版・資料集等の欠落を補完するものである。

●推薦＝今井清一・奥平康弘・松尾尊発・由井正臣・渡部 徹

特高警察関係資料集成 第Ⅱ期 全8巻

荻野富士夫 編・解題

A 4判・上製・総3,208頁

揃定価 200,000円

'04年6月～12月配本完結〔編集復刻版〕

『特高警察関係資料集成 第Ⅰ期 全30巻 別冊1』は、1995年に配本を完結した。本書は、前回収録できなかった資料、また新たに発掘された資料を、第Ⅰ期と同様に12のテーマに分類し、かつ「資料番号」も継承して編集。米国議会図書館所蔵の、いわゆる米軍没収資料の中から、MOJ 4231及び4232を中心に、また外務省外交史料館所蔵、国立公文書館に移管された旧中野警察学校所蔵資料等も収録した。

●推薦＝伊藤 晃・加藤哲郎・田中真人

台湾総督府警務局保安課図書掛 編〔昭和5年～昭和7年刊〕

台湾出版警察報 全5巻・別冊1

別冊＝解説（河原 功）・発禁図書新聞リスト

B 5判・上製・総2,444頁

揃定価 96,000円

'01年2月刊〔復刻版〕

戦前の台湾にも、新聞・雑誌・単行本に対する検閲とその結果を示す月間報告書があった。日本国内では『出版警察報』がすでに復刻刊行されているが、今回発見された『台湾出版警察報』は、第6号（昭和5年1月）から第35号（昭和7年6月）の短期間とはいえ、極めて価値の高い資料である。とくに、矢内原忠雄著『帝国主義下の台湾』は、1930年1月9日付けで発売頒布禁止の処分になっていることが、本書第7号で証明された。

●推薦＝若林正丈・呉密察

内務省警保局 編〔昭和3年～昭和19年刊〕

出版警察報 全40巻・補巻1・付録1

付録＝出版警察関係資料 解説（由井正臣・赤澤史朗・北河賢三・豊沢 肇）・総目次

A 5判・上製・函入・総27,950頁

揃定価 475,000円

'82年4月配本完結〔復刻版〕

『出版警察報』（全149号）は、昭和初期から敗戦まで、内務省警保局の手により編纂、配布された書籍雑誌を中心とするあらゆる出版物の取締状況、発禁および注意処分、新聞記事の差止通牒調、主要新聞雑誌の記事内容、外国の出版事情など、およそ公に印刷されたものすべてにわたり国家としての取組み方を細大もろさず記録しマル秘文書とした唯一月報形式の資料である。

●推薦＝家永三郎・大久保利謙・奥平康弘・小田切秀雄・中村尚美・松浦総三・渡部 徹

内務省警保局 編〔昭和10年～昭和15年刊〕

出版警察資料 全15巻・付録1

付録＝出版警察関係資料 解説（由井正臣・赤澤史朗・北河賢三・豊沢 肇）・総目次

A 5判・上製・総8,538頁

揃定価 147,000円

'82年9月刊〔復刻版〕

旧内務省警保局による出版物の取締状況を報ずる『出版警察報』は、「概況」「資料」「思潮」によって構成されているが、昭和10年6月から昭和15年6月まで「思潮」だけ分離して『出版警察資料』として刊行された。第1号から第47号までの全号を復刻する。

出版統制（新聞・雑誌・単行本および1935年以後はレコードまで含まれた）研究に欠かせない資料のひとつである。

●推薦＝家永三郎・大久保利謙・奥平康弘・小田切秀雄・中村尚美・松浦総三・渡部 徹

内務省警保局 編〔昭和5年～昭和10年刊〕

出版警察概観 全3巻・付録1

付録＝出版警察関係資料 解説（由井正臣・赤澤史朗・北河賢三・豊沢 肇）・総目次

A 5判・上製・函入・総2,462頁

揃定価 75,000円

'88年4月刊〔復刻版〕

『出版警察概観』は、旧内務省警保局のマル秘資料で、第二次大戦敗戦までのいわゆる昭和前期のマス・メディア統制、とくにそのうちの出版統制研究には、欠くことのできない重要資料である。

『出版警察概観』は、『出版警察報』で取扱われている毎月ごとの出版警察概況を、年単位でまとめたもので、各種の統計をはじめ出版警察の年次的な傾向をみるには大変便利である。

●推薦＝家永三郎・大久保利謙・奥平康弘・小田切秀雄・中村尚美・松浦総三・渡部 徹

外務省 編

外務省警察史 全53巻・別冊1

別冊＝解題（荻野富士夫）・総目次

A 4判・上製・総18,790頁

揃定価 1,242,000円

'96年6月～'01年12月配本完結〔復刻版〕

外務省警察（領事館警察ともいう）は、日本帝国主義の植民地政策の中で、「大東亜治安体制圏」の担い手として、不平等条約にもとづく領事裁判権を盾に、「領事警察権」の行使を既成事実化し、大陸進出・侵略の先兵的役割を持っていた。

朝鮮民族独立運動の取締り、中国民衆の抗日運動の監視など特高警察の機構をもった外務省警察の記録は、昭和19年タイプ刷りで一応完成した。本復刻版は、その全体を原本のまま復刻、日本近代史の基本資料として公開。

●推薦＝海野福寿・荻野富士夫・木坂順一郎・副島昭一

戦時下統制関係資料

内務省警保局 編〔昭和10年～昭和17年刊〕

外事警察概況 全8巻

解題（石堂清倫）付き
A 5判・上製・函入・総 4,220 頁
揃定価 95,000 円
'87年 9 月刊〔復刻版〕

戦前日本の内務省警保局による諜報活動は、対ソ・中を中心に、『外事警察報』に掲載され、各年度毎に『外事警察概況』に集約・刊行された。外事警察関係の各種統計表約 250 点を含んだ、近現代史研究必備の資料である。とくに「ゾルゲ事件」を始めとする戦前期の大日本帝国の対外情報活動を刻明に記録したものと第一級の価値をもつ。

内務省警保局 編〔大正13年～昭和19年刊〕

外事警察報 全67巻・別冊 1

別冊＝解説（石堂清倫）・総目次・索引
A 5判・上製・函入・総約42,000 頁
揃定価 990,000 円
'87年 5 月～'89年 2 月配本完結〔復刻版〕

戦前の日本帝国主義国家権力を維持するための諜報活動は、内務省警保局が担当し、国内に対しては特高警察が、国外に対しては外事警察がその任にあたり、在日外国人の行動だけでなく、海外における共産主義運動、主にソヴェト連邦及び中国における運動の情報蒐集につとめた。『外事警察報』は、これら蒐集した資料を整理し、極秘のうちに少数者に頒布した月刊誌である。これを年毎に集約し、概況を述べたものが『外事警察概況』であり、本誌の姉妹誌である。

●推薦＝石堂清倫・奥平康弘・尾崎秀樹・菊地昌典

内務省警保局 編〔大正10年～昭和14年〕

外事警察報 補巻 全8巻・別冊 1

別冊＝解題（荻野富士夫）・総目次・索引
A 5判・上製・総 2,764 頁
揃定価 129,000 円
'00年 9 月刊〔復刻版〕

1999年 8 月、警察大学の旧蔵資料が国立公文書館に移管公開された。その中には、内務省警保局の刊行物が多数含まれ、弊社が10年以上前に復刻刊行した『外事警察報』の欠号を補うことが可能となった。今回公開された29号分を、全 8 巻として復刻し、あわせて新たに「解題」を付し刊行する。特に、今回公開された中には、創刊号（大正10年 2 月）から第23号（大正13年 5 月）までが含まれ、本書の刊行の経緯を知ることが出来る。

内務省警保局 編〔昭和13年～昭和19年刊〕

外事月報 全11巻

解説（荻野富士夫）付き
A 5判・上製・総 4,500 頁＋表多数
揃定価 165,000 円
'94年 6 月刊〔復刻版〕

内務省警保局刊行の社会運動関係の定期刊行物のうち、月報形式のものは『特高月報』が有名で、すでに復刻版（昭和 5 ～19年・政経出版社）が刊行されている。しかし、同誌は昭和10年10月に『特高外事月報』と改題し、また昭和13年 8 月に『特高月報』と誌名をもどすが、同時に、『外事月報』を分離刊行する。

弊社では、日本国内外の永年の調査により、昭和19年 9 月までの月報を収録した。十五年戦争中の外国人迫害問題等の基本資料。

●推薦＝石堂清倫・今井清一・木坂順一郎・茶園義男

内務省警保局 編〔昭和10年～昭和19年刊〕

外事警察資料 全4巻

解説（荻野富士夫）付き
A 5判・上製・総 1,400 頁
揃定価 60,000 円
'94年 6 月刊〔復刻版〕

内務省警保局刊行の外事警察関係の定期刊行物は、『外事警察報』（月報）、『外事警察概況』（年報）、それに『外事月報』などがあり、既に弊社より復刻刊行されている。『外事警察資料』は、これらに対して、不定期刊行物で、第 1 輯（昭和10年11月、「フリーメーソンリー」）から、第30輯（昭和19年 3 月、「中国の命運」）までが確認されている。警保局外事課は、中ソの国際的共産主義運動のみならず、エスペラント運動や藍衣社の運動にも関心をもっていた。

●推薦＝石堂清倫・今井清一・木坂順一郎・茶園義男

内務省警保局 編〔昭和11年～昭和13年刊〕

海外よりの 左翼宣伝印刷物集 全3巻

解題（石堂清倫）付き
A 5判・上製・函入・総 1,634 頁
揃定価 28,000 円
'84年11月刊〔復刻版〕

「国際通信」「太平洋労働者」「海上通信」等は、アメリカ共産党日本人部の刊行物である、コミンテルン第7回大会の方針の紹介を中心に、外国から指導的論文を日本に送り込むことが主要な目的であった。

本書は内務省警保局が収拾した資料を、年 1 回刊行する形で出版されたものの復刻版である。今日なお不明部分の多い昭和10年代の日本共産党史研究にとって不可欠の資料であり、また、『社会運動の状況』『特高月報』を補うものである。

■十五年戦争極秘資料集 補巻㉔
 満洲国国務院総務庁弘報処 発行
 [昭和12年～昭和20年]

宣撫月報 全8冊・別冊1

別冊＝解説（山本武利）・総目次・索引
 B 4判・上製・函入・総2,436頁
 揃定価 145,000円
 '06年1月～'07年3月刊〔復刻版〕

『宣撫月報』は1936（康德3）年、「満洲国」の中央宣撫小委員会が発行、満洲国の宣伝担当職員に配布された内部資料である。各地方の「弘報宣伝実施工作」「特別治安工作」等報告・宣伝資料は詳細で、満洲国内各民族の支配・統治についての考え方や手法が、率直かつぶさに記録されている。映画・演劇・放送も「宣撫工作」の有効な手段として動員され、この点においても見逃せない。一部未見のものを除き、第2巻第1号（1937年1月）から通巻73号までの計58号分を復刻収録する。

●推薦＝荻野富士夫・佐藤卓己・西田 勝

■十五年戦争極秘資料集 補巻㉕

陸軍省『調査彙報』 全5冊・別冊1

別冊＝解説（松野誠也）・総目次
 A 4判・上製・函入・総1,536頁
 揃定価 76,000円
 '07年9月～'08年5月刊〔復刻版〕

『調査彙報』は、1928年6月の第1号から1936年12月の第53号まで陸軍省が発行、内部配布したマル秘調査報告書である。現在、号外等を含め79冊が確認できているが、本書では内9冊が未収録である。社会運動の高揚、とりわけ共産党による反戦・反軍闘争が活発化した1920年代半ば、陸軍にとって一般兵士たちの動静掌握、統制・管理は極めて重要な課題であった。国内における反戦・反軍運動や右翼の動向、兵士の思想状況、海外の動向等、陸軍中央の社会情勢認識、軍隊内統制を伝える貴重な資料である。

●推薦＝吉田 裕

荻野富士夫 著

特高警察関係資料解説

『特高警察関係資料集成』全30巻の完結を期に、同集成の解題、および『外事月報』『外事警察資料』『社会運動の状況（大正15年・昭和2年版）』の解題を収録。特高警察に関する資料解題の集大成。

●B 5判・上製・函入・400頁・定価 25,000円／'95年3月刊

映画検閲時報

95ページをご参照ください。

一九二〇年代社会運動関係警察資料

97ページをご参照ください。

高崎隆治 編・解説 ①大東亜戦争ニ伴フ我カ人的 国力ノ検討 200 頁・定価 3,500 円	茶園義男 編・解説 ⑪俘虜ニ関スル諸法規類聚 420 頁・定価 6,500 円	清水勝嘉 編・解説 ⑩戦時下国民栄養の現況調査 報告書 320 頁・定価 5,000 円
武富登巳男 編・解説 ②ババル島事件関係書類 100 頁・定価 2,500 円	北 博昭 編・解説 ⑫軍律会議関係資料 250 頁・定価 3,500 円	茶園義男 編・解説 ⑪満州移民拓務局原資料 410 頁・定価 7,500 円
大城将保 編・解説 ③沖縄秘密戦に関する資料 204 頁・定価 3,500 円	井上久士 編・解説 ⑬華中宣撫工作資料 300 頁・定価 4,500 円	北 博昭 編・解説 ⑫国民義勇隊関係資料 180 頁・定価 3,500 円
岡部牧夫 編・解説 ④満洲事変における憲兵隊の行動 に関する資料 394 頁・定価 5,000 円	吉田 裕 編・解説 ⑭思想彙報（上・下） 総 1,174 頁・定価 18,000 円	武富登巳男 編・解説 ⑬久留米師団召集徴発雇用書類 226 頁・定価 4,000 円
北 博昭 編・解説 ⑤東京裁判 大山文雄関係資料 232 頁・定価 3,500 円	宮田節子 編・解説 ⑮朝鮮軍概要史 258 頁・定価 5,500 円	春山明哲 編・解説 ⑭台湾霧社事件軍事関係資料 418 頁・定価 18,000 円
宮田節子 編・解説 ⑥高等外事月報 550 頁・定価 9,500 円	内海愛子 編・解説 ⑯俘虜取扱に関する諸外国か らの抗議集 532 頁・定価 9,500 円	岡部牧夫 編・解説 ⑮初期の満州国軍に関する資料 17頁+表 9 + 地図 4・定価 18,500 円
原田勝正 編・解説 ⑦大東亜縦貫鉄道関係書類 200 頁・定価 3,500 円	山中 恒 編・解説 ⑰在満軍法会議處刑特殊犯罪集 170 頁・定価 3,000 円	北 博昭 編・解説 ⑯陸海軍省法務局長巡察報告 248 頁・定価 4,500 円
姫田光義 編・解説 ⑧重慶中国国民党在港秘密機 関検挙状況 400 頁・定価 6,500 円	栗屋憲太郎・吉見義明 編・解説 ⑱毒ガス戦関係資料 600 頁・定価 9,500 円	宮田節子 編・解説 ⑰朝鮮思想運動概況 312 頁・定価 14,000 円
大江志乃夫 編・解説 ⑨支那事変動員概史 500 頁・定価 12,000 円	春山明哲 編・解説 ⑲台湾島内情報・本島人の動向 190 頁・定価 4,000 円	田中 明・松村高夫 編・解説 ⑱七三一部隊作成資料 362 頁・定価 14,500 円
清水勝嘉 編・解説 ⑩戦争栄養失調症関係資料 290 頁・定価 4,000 円	北 博昭 編・解説 ⑳海軍法務資料 <small>ば ばとうさくつづり</small> 馬場東作綴 330 頁・定価 4,500 円	藤原 彰 編・解説 ⑳外邦兵要地図整備誌 364 頁+地図18・定価 18,500 円

十五年戦争極秘資料集 補巻

上製・函入／刊行中(分売可)【既刊分合計価格1,706,800円】

<p>内藤裕史 編・解説</p> <p>①毒ガス戦教育関係資料</p> <p>B5判・542頁 定価18,000円</p>	<p>金子俊 編・解説</p> <p>⑫東亜諸民族の死亡に関する衛生統計的調査</p> <p>B5判・360頁 定価12,000円</p>	<p>常石敬一 解説</p> <p>⑬陸軍軍医学校防疫研究報告 全8冊・別冊1</p> <p>B4判・総3,876頁 定価161,000円</p>
<p>吉見義明・松野誠也 編・解説</p> <p>②毒ガス戦関係資料Ⅱ</p> <p>A4判・400頁 定価18,000円</p>	<p>永島勝介・安富歩 編・解題</p> <p>⑬関東軍参謀部作成 総動員関係調査資料</p> <p>B5判・200頁 定価8,500円</p>	<p>福島幸宏 編・解説</p> <p>⑭山東出兵時における「第三師団特種研究記事」</p> <p>B5判・656頁 折込図表16点 定価28,000円</p>
<p>荻野富士夫 編・解説</p> <p>③思想彙報Ⅱ</p> <p>B5判・838頁 定価15,000円</p>	<p>北博昭 編・解説</p> <p>⑭軍律法廷審判例集</p> <p>B5判・134頁 定価8,500円</p>	<p>山本武利 解説</p> <p>⑮宣撫月報 全8冊・別冊1</p> <p>B4判・総2,436頁 定価145,000円</p>
<p>金子俊 編・解説</p> <p>④戦時下国民栄養の現況調査報告書(昭和18年)</p> <p>B5判・428頁 定価15,000円</p>	<p>野田勝久 編・解説</p> <p>⑮南方方面海軍資料</p> <p>B5判・244頁 定価9,500円</p>	<p>北博昭 編・解説</p> <p>⑯五・一五事件期憲兵司令部関係文書</p> <p>B5判・356頁 定価12,000円</p>
<p>野田勝久 編・解説</p> <p>⑤第一次上海事変における第九師団軍医部「陣中日誌」</p> <p>B5判・448頁 定価18,000円</p>	<p>早川紀代 編・解説</p> <p>⑯陸軍に於ける花柳病</p> <p>B5判・232頁 定価9,500円</p>	<p>松村高夫・松野誠也 編・解説</p> <p>⑰関東軍化学部・毒ガス戦教育演習関係資料</p> <p>A4判・366頁 定価20,000円</p>
<p>北博昭 編・解説</p> <p>⑥盧溝橋事件期支那駐屯憲兵隊 重松関係文書</p> <p>B5判・220頁 定価9,000円</p>	<p>内藤裕史 編・解説</p> <p>⑰毒ガス戦教育関係資料Ⅱ</p> <p>B5判・208頁 定価8,500円</p>	<p>清水寛 編</p> <p>⑱資料集成 戦争と障害者 第Ⅰ期 全7冊</p> <p>A4判・総2,532頁 定価140,000円</p>
<p>海野福寿 編・解説</p> <p>⑦韓国併合始末 関係資料</p> <p>B5判・286頁 定価9,500円</p>	<p>北博昭 編・解説</p> <p>⑱十五年戦争末期国内憲兵分遣隊報告</p> <p>B5判・222頁 定価9,000円</p>	<p>松野誠也 編・解説</p> <p>⑲陸軍省『調査彙報』 全5冊・別冊1</p> <p>A4判・総1,678頁 定価76,000円</p>
<p>北博昭 編・解説</p> <p>⑧軍隊警察の対立と憲兵司令部 重松関係文書Ⅱ</p> <p>B5判・230頁 定価9,000円</p>	<p>高綱博文 編・解説</p> <p>⑲日本占領下上海における日中要人インタビューの記録</p> <p>A4判・162頁 定価9,500円</p>	<p>小林茂 解説</p> <p>⑳外邦測量沿革史 草稿 全4冊・別冊1</p> <p>A4判・総1,444頁 定価113,000円</p>
<p>野田勝久 編・解説</p> <p>⑨南方地域現地自活教本</p> <p>B5判・204頁 定価8,500円</p>	<p>松野誠也 編・解説</p> <p>⑳満洲国軍ノ現況</p> <p>B5判・16頁+図表多数 定価18,000円</p>	<p>藤野豊 解説</p> <p>㉑大同保育隊報告</p> <p>B5判・470頁 定価15,000円</p>
<p>北博昭 編・解説</p> <p>⑩戦後の皇軍 重松憲兵少佐綴</p> <p>B5判・254頁 定価9,000円</p>	<p>倉橋正直 編・解説</p> <p>㉑ベンゾイリン不正輸入事件関係資料</p> <p>A4判・176頁 定価8,500円</p>	<p>岡田靖雄 解説</p> <p>㉒戦場心理の研究 全4冊</p> <p>B5判・総998頁 定価32,000円</p>
<p>倉橋正直 編・解説</p> <p>⑪二反長音蔵・アヘン関係資料</p> <p>B5判・164頁 定価8,500円</p>	<p>茶園義男 編・解説</p> <p>㉒終戦後の法令 制定・改正・廃止 経過一覧</p> <p>A4判・230頁 定価9,800円</p>	<p>芳井研一 解説</p> <p>㉓満洲事変日誌記録 全3冊</p> <p>B5判・総654頁 定価36,000円</p>

十五年戦争極秘資料集 補巻

「合作社事件」研究会 編・解説 ③④「合作社事件」関係資料 全2冊 A4判・総690頁 定価40,000円	北 博昭 編・解説 ④⑥陸軍軍法会議判例類集 全2冊 B5判・総942頁・定価38,000円
三好 章 解説 ③⑤情 報 全9冊・別冊1 B4判・総3,160頁 定価136,000円	栗屋憲太郎・中村 陵 編・解説 ④⑦総力戦研究所関係資料集 全9冊・別冊1 A4判・総約3,600頁・定価153,000円
芳井研一 解説 ③⑥南満州鉄道株式会社 帝国議会説明資料・別冊 A4判・254頁 定価12,000円	以後新資料発見次第、逐次刊行予定
中野 良 解説 ③⑦陸軍経理学校五十年史 全3冊 B5判・総1,380頁 定価36,000円	
小林 茂・渡辺理絵 解説 ③⑧研究蒐録 地図 全3冊 B5判・総1,580頁 定価54,000円	
芳井研一 解説 ③⑨東京時事資料月報 A4判・350頁 定価12,000円	
三好 章 解説 ④⑩特調班月報・通説 全4冊 B4判・A4判・総1,280頁 定価64,000円	
塚崎昌之 解説 ④⑪大阪府特高警察関係資料 ——昭和二〇年 A4判・270頁 定価20,000円	
北 博昭 編・解説 ④⑫憲兵隊が記す日中開戦時の 国内状況 B5判・290頁 定価19,000円	
北 博昭 編・解説 ④⑬内外地憲兵隊にみる検閲鍊 成 B5判・412頁 定価20,000円	
古川隆久 編・解説 ④⑭戦時下政治行政活動史料 1941-1945 全3冊 B5判・総1,392頁・定価57,000円	
北 博昭 編・解説 ④⑮海軍軍法会議判例類集 B5判・200頁・定価19,000円	

十五年戦争重要文献シリーズ 全 20 集

上製・函入
揃定価 190,000 円 (分売可)

高崎隆治 編・解説 ①軍医官の戦場報告意見集 B 5 判・200 頁 定価 3,000 円	金英達 編・解説 ⑪朝鮮徴兵準備読本 B 5 判・120 頁 定価 4,500 円
山中徳雄 編・解説 ②『集報』—南京日本人収容所新聞 B 5 判・150 頁 定価 2,500 円	飛田雄一 編・解説 ⑫特殊労務者の労務管理 B 5 判・300 頁 定価 7,500 円
③中華民國よりの掠奪文化財総目録 B 5 判・422 頁 定価 7,500 円	藤田富士男 編・解説 ⑬大東亜舞台芸術研究所関係資料 B 5 判・140 頁 定価 4,500 円
北 博昭 編・解説 ④興亜青年勤労報国際 <small>あずまあさよし</small> 東朝義記録 B 5 判・297 頁 定価 5,500 円	北 博昭 編・解説 ⑭満州建設勤労奉仕隊関係資料 B 5 判・626 頁 定価 18,000 円
北 博昭 編・解説 ⑤火焰樹——東南アジア強制労働下の機関誌 B 5 判・286 頁 定価 5,500 円	小川 博 編・解説 ⑮『中国人日本留学史稿』 B 5 判・230 頁 定価 5,500 円
額 纈 厚 編・解説 ⑥軍紀・風紀に関する資料 B 5 判・164 頁 定価 4,500 円	北 博昭 編・解説 ⑯興亜学生勤労報国際隊関係資料 B 5 判・598 頁 定価 17,000 円
北 博昭 編・解説 ⑦支那駐屯憲兵隊関係盧溝橋事件期資料 B 5 判・300 頁 定価 7,500 円	井村哲郎 編・解説 ⑰興亜院刊行図書・雑誌目録 B 5 判・300 頁 定価 7,500 円
茶園義男 編・解説 ⑧俘虜情報局・俘虜取扱の記録 (付)海軍兵学校『国際法』 B 5 判・420 頁 定価 15,000 円	吉浜 巖 編・解説 ⑱久米島住民虐殺事件資料 B 5 判・210 頁 定価 6,500 円
茶園義男 編・解説 ⑨GHQ (マ元帥) 処刑命令書 (上・下) B 5 判・803 頁 定価 28,000 円	北 博昭 編・解説 ⑲学生義勇軍関係資料 B 5 判・325 頁 定価 15,000 円
北 博昭 編・解説 ⑩昭和十年前後期支那駐屯軍憲兵部文書 B 5 判・266 頁 定価 9,000 円	北 博昭 編・解説 ⑳二・二六事件 警察秘録 B 5 判・380 頁 定価 16,000 円

十五年戦争重要文献シリーズ 補集

十五年戦争重要文献シリーズ 補集①～③

上製・函入
揃定価 99,500 円

大滝英征 解題

補集①原子爆弾災害調査報告 全5冊

B 5判・総1,794頁 定価61,500円

渋谷一夫・北林雅洋 解説

補集②唯研ニュース

A 4判・424頁 定価19,000円

岸和田仁 解説

かがやきごう

補集③輝 号 [ブラジル「勝ち組」広報誌]

B 5判・180頁 定価19,000円

以後新資料発見次第、逐次刊行予定

十五年戦争重要文献シリーズ
補集

戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史

■十五年戦争極秘資料集 補巻⑦

総力戦研究所関係資料集
全9冊・別冊1別冊＝解説（栗屋憲太郎・中村 陵）・総目次
A 4判・上製・総約3,600頁
揃定価 153,000円
'16年2月～'18年2月配本完結予定〔編集復刻版〕

極東国際軍事裁判（東京裁判）において検察側がその役割に注目し、一般的戦争準備段階の立証審議で取り上げたことにより関心が寄せられてきた「総力戦研究所」（1940年10月～1945年3月）。しかしこれまで資料的制約により、その研究対象は一部にならざるを得なかった。

今回、国際検察局文書（IPS文書）を中心とした膨大な諸資料から、総力戦研究所作成資料の丹念な抽出・編集を行い、これまでほとんど明らかにされてこなかった開戦以降の諸資料を多数収録した。総力戦研究所の全貌を迫る第一級資料である。
●推薦＝瀧野 厚・安達宏昭

■十五年戦争重要文献シリーズ 補巻①

原子爆弾災害調査報告 全5冊

解題（大滝英征）付き
B 5判・上製・函入・総1,794頁
揃定価 61,500円
'11年8月～11月刊〔復刻版〕

本書は、日本学術会議 原子爆弾災害調査報告書刊行委員会が、1951年から53年にかけて刊行した、広島と長崎に投下された原子爆弾災害に関する報告書の復刻版である。原本は、『原子爆弾災害調査報告書 総括編』（1951年）、『原子爆弾災害調査報告集』第1分冊および第2分冊（1953年）の3冊で構成されている。今日、福島第一原発で不幸にも繰り返された放射能禍の悲劇にどのように向き合うべきかを考えるための原点として、示唆に富む記録であると確信する。

●推薦＝西田勝・矢吹晋

■十五年戦争極秘資料集 補巻②

陸軍軍医学校防疫研究室 編〔昭和14年～昭和19年〕
陸軍軍医学校防疫研究報告 全8冊・別冊1別冊＝解説（常石敬一）・総目次＋付録（山中恒氏所蔵資料10点）
B 4判・上製・函入・総3,876頁
揃定価 161,000円
'04年5月～'05年12月刊〔編集復刻版〕

本書は、戦前の「七三一部隊」「一〇〇部隊」等を統轄する陸軍軍医学校防疫研究室による研究、『陸軍軍医学校防疫研究報告』（石井四郎主幹）第1号～第90号のほぼ全容を復刻収録した。原本は米国議会図書館所蔵の同『報告』全8リール及び山中恒氏所蔵本の、一部欠号を除く約800号分である。米国内での書込みも貴重な記録としてそのまま留めた。旧日本陸軍の人体実験の真相に迫り、日本の医学界と七三一部隊の関係、医学界の戦争加担をさらに解明するための基本的かつ重要な資料である。

●推薦＝常石敬一・内藤裕史・西山勝夫・松村高夫・吉見義明

艦内新聞集成 全11巻

解説（寺田近雄）付き
B 5判・上製・総4,850頁
揃定価 275,000円
'13年12月～'16年12月配本完結〔復刻版〕

戦前期、旧日本海軍の遠洋航海などの際に乗組員によって発行された『艦内新聞』は公式記録からは見えない、軍人の時局感覚や海軍の体質を知ることのできる貴重資料である。紙面は、時事ニュースや寄港地情報、艦内行事の案内などから、漫画や川柳、投稿記事などバラエティに富んでいる。艦内の乗組員のために少数発行されたものであるため、残存するものは非常に少ない。当集成には昭和7年～16年の間に出された「浅間」「勝力」「五十鈴」「日向」「陸奥」「出雲」「榛名」「磐手」「愛宕」「蒼龍」の艦内新聞を収録。

●推薦＝辻田文雄・戸高一成

大東亜戦争 俘虜関係外交文書集成 全3巻

茶園義男 編・解説
B 5判・上製・函入・総1,146頁
揃定価 60,000円
分売可＝定価 各巻20,000円
'93年9月～'96年1月配本完結〔復刻版〕

敗戦時、日本国内外に収容されていた連合国防虜は、12万3千余の多きのにぼる。戦後、これらの俘虜の多くは故国に送還されたが、彼らが受けた処遇についての「宣誓供述書」が多数残され、戦後の戦犯裁判に重要な意味を持つことになる。例えば、BC級戦犯裁判の横浜法廷では、その8割が俘虜不法取扱いによる被告である。これは、日本人の国際法に対する無知が引き起こした罪過への告発でもあった。弊社では、外務省外交史料館に所蔵されている俘虜関係外交文書を整理し、全3巻として復刻刊行する。

「すがも新聞」編集部 編 (昭和23年～昭和27年刊)

すがも新聞 DVD版 全1枚・別冊1

別冊＝解題(内海愛子)・総目次・年表
画像数 808点
定価 20,000円
'13年9月刊

「すがも新聞」はスガモプリズンに収容されていたBC級戦犯たちの獄中紙である。同紙は東京裁判が結審して間もない1948年6月5日に創刊され、サンフランシスコ条約発効を目前にした1952年3月29日付193号まで、ワラ半紙にガリ版で印刷された。米軍管理下の獄中で、BC級戦犯らの思想と心情、当時の様子を伝える数少ない貴重資料である。

弊社ではこの「すがも新聞」を1985年に復刻したが、その後品切れとなっていた。再版を望む多くの声に応え、新しくDVD版として復刊する次第である。

飯塚浩二 編集／飯田 進 解説

巣鴨プリズン三部作

A 5判・上製・函入・824頁
定価 15,000円
'13年8月刊〔編集復刻版〕

本書は、戦後にBC級戦犯としてスガモプリズンに収監された囚人たちが獄中から寄せた手記や日記を編集して刊行された『われ死ぬべしや』、『壁あつき部屋』、『あれから七年』を1冊にまとめて復刻したものである。戦後、いわゆる逆コースの流れは朝鮮戦争をきっかけにさらに加速することとなるが、そのような状況下で平和を希求したものの生の声が、本書ではまざまざと描かれている。戦争体験者や関係者、歴史研究者のみならず、戦争を知らない世代にもおすすめする1冊である。

戦犯裁判の実相 全2巻

(上巻) 巢鴨法務委員会 編
(下巻) 茶園義男・重松一義 共著
B 5判・上製・総980頁
揃定価 30,000円
(上巻) 20,000円
(下巻) 10,000円／'96年1月刊

BC級戦犯裁判の全法廷における被告と裁判内容を伝える唯一の資料。蘭領印度地区、米国関係、仏領印度支那、英領地区(以上、上巻)、中国、豪軍、比軍マニラ(以上、下巻)の各地におけるケース別起訴理由、被告の所属・階級・判決・弁護人名を記載。

上巻は、1952年スガモプリズン内のBC級戦犯の手によってガリ版にて刊行、槇書房によって活字化された。下巻は、上巻に未収録の地域を補い、解説と上巻の正誤表及び解題を付す。
●推薦＝重松一義・茶園義男・福岡千代吉

清水勝嘉 著

生物兵器防御研究

新たな生物兵器の脅威に対する防御研究の最新知見を網羅した本格的な研究書。大量破壊兵器である核、生物及び化学兵器についての防御研究を体系立てて記述し、研究の新たな方向性を提示している。

●A 4判・上製・344頁・定価 18,000円／'05年4月刊

小林英夫・兒島俊郎 編・解説／林 道生 訳

七三一細菌戦部隊・中国新資料

「悪魔の所業」といわれる人体実験を含む関東軍731及び100部隊に関する遼寧省档案馆所蔵の資料。写真及び原文を全面復刻し、翻訳文・解説を付す。原本資料名「侵華日本軍細菌戦部隊保存資料」

●B 5判・上製・函入・360頁・定価 12,000円／'95年10月刊

中国 吉林人民出版社 発行【取扱図書】

「七三一部隊」罪行鉄証

——特移扱・防疫文書編集

本書は、中国吉林省档案馆(公文書館)所蔵の旧日本軍関東憲兵隊作成の「特移扱」文書及び731部隊が新京(現在の長春)農安で実施した「防疫」に関する文書140点をカラー印刷し収録したもの。

●A 4判・上製・528頁・定価 25,000円／'03年9月刊

中国 黒龍江人民出版社 発行【取扱図書】

「七三一部隊」罪行鉄証

——関東憲兵隊「特移扱」文書

本書は、中国黒龍江省档案馆(公文書館)所蔵の旧日本軍関東憲兵隊が作成した捕虜取扱いに関する極秘書類51件を収録する。資料は全てカラー印刷にて収録。他に詳細な解説及び関係年表を付す。

●A 4判・上製・394頁・定価 15,000円／'01年12月刊

高杉晋吾 解題／原題＝細菌戦兵器ノ準備及ビ使用ノ廉デ 起訴サレタ元日本軍軍人ノ事件ニ関スル公判書類

公判記録 七三一細菌戦部隊

侵略された民衆の側が、侵略した日本人の側を裁いた記録である本書は、「悪魔の所業」といわれる関東軍731部隊の生体実験の状況をなまなましく伝えている。●推薦＝家永三郎

●四六判・並製・738頁・定価 7,500円／'93年6月再刊(復刻版)

茶園義男 編・著

シンガポール 華僑虐殺事件起訴詳報

英軍法廷

「南京大虐殺」同様に、日本軍の犯罪行為として東京裁判において裁かれた「シンガポール華僑虐殺事件」(昭和17年2月18日～3月3日)の起訴状・証拠書類・宣誓陳述書などの公判資料を収録。

●A 4判・上製・309頁・定価 16,000円／'95年9月刊

茶園義男 編・解説

B C級戦犯関係資料集成

- ①日本B C級戦犯資料 ● B 5判・上製・函入・244頁・定価5,800円/'83年8月刊
- ②B C級戦犯軍事法廷資料—広東編 ● B 5判・上製・函入・196頁・定価4,800円/'84年8月刊
- ③B C級戦犯横浜裁判資料 ● B 5判・上製・函入・260頁・定価6,800円/'85年8月刊
- ④巢鴨プリズン・シベリア日本新聞 ● B 5判・上製・函入・246頁・定価4,800円/'86年3月刊
- ⑤B C級戦犯米軍マニラ裁判資料 ● B 5判・上製・函入・264頁・定価5,800円/'86年8月刊【品切】
- ⑥大日本帝国 内地 俘虜収容所 ● B 5判・上製・函入・278頁・定価6,800円/'86年12月刊【品切】
- ⑦大東亜戦下 外地 俘虜収容所 ● B 5判・上製・函入・280頁・定価6,800円/'87年5月刊【品切】
- ⑧B C級戦犯フィリピン裁判資料 ● B 5判・上製・函入・264頁・定価5,800円/'87年12月刊【品切】
- ⑨B C級戦犯英軍裁判資料(上) ● B 5判・上製・函入・284頁・定価6,800円/'88年8月刊【品切】
- ⑩B C級戦犯英軍裁判資料(下) ● B 5判・上製・函入・270頁・定価5,800円/'89年4月刊【品切】
- ⑪B C級戦犯米軍上海等裁判資料 ● B 5判・上製・函入・254頁・定価6,800円/'89年11月刊【品切】
- ⑫B C級戦犯豪軍ラバウル裁判資料 ● B 5判・上製・函入・274頁・定価6,800円/'90年5月刊【品切】
- ⑬B C級戦犯豪軍マヌス等裁判資料 ● B 5判・上製・函入・280頁・定価6,800円/'91年2月刊
- ⑭B C級戦犯中国・仏国裁判資料 ● B 5判・上製・函入・306頁・定価9,800円/'92年3月刊【品切】
- ⑮B C級戦犯和蘭裁判資料・全巻通覧 ● B 5判・上製・函入・306頁・定価9,800円/'92年3月刊【品切】

戦後史

『三鷹事件』裁判関係資料集』刊行会 編
 「三鷹事件」裁判関係資料集 全3枚・別冊1
 DVD—ROM版
 別冊＝解説（落合雄三・松村高夫）・資料目録
 揃定価 120,000 円
 '10年1月刊

1949年7月、国鉄中央線三鷹駅構内で7両編成の無人電車が暴走し、死者6名、重軽傷者20名を出す大惨事となった。警察当局は国鉄労働組合の共産党員数名と非党員竹内景助を逮捕・起訴した。裁判では、党員被告全員は無罪。竹内は1番で無期懲役、2番で死刑、無罪を主張した最高裁でも上告を棄却される。そして1967年再審の機運が高まる中、竹内は獄死する。本資料集は、今なお謀略性、不可解さを残す事件をあらためて検証するため、裁判記録と救援活動を主とした資料を収録したものである。

●推薦＝阿部三郎・伊部正之・大石 進

戦後社会運動未公開資料集刊行委員会 編
 戦後日本共産党関係資料 全40リール・別冊1・付録1
 [35ミリポジティブ・ロールフィルム]
 別冊＝解題・解説(井上 學・井上敏夫・来栖宗孝・由井格)
 付録＝収録資料目録
 揃定価 600,000 円
 '07年12月～'08年12月配本完結〔マイクロフィルム版〕

日本共産党の戦後再建初期から、1950年1月6日付のコミンフォルム機関紙に掲載された論評「日本の情勢について」をめぐる党の分裂、1955年7月の6全協をへて1958年の第7回党大会に至るまでの党の内実を示す8000余点の原資料を収録。中央部重要会議（「党拡大強化促進委員会」等）の資料、また、全国の地方組織の機関紙・誌・ピラ等を多数含む「水野資料」は、これまで目にふれることのなかった、全党組織の動きを示す貴重な資料であり、共産党史研究、政治史研究等に不可欠の資料である。

●推薦＝伊藤 晃・加藤哲郎

朝鮮戦争下 公安関係資料
 —光永源植資料 全5巻・別冊1

編・解説・解題＝井上敏夫・井上 學・渡部富哉
 B5判・上製・総2,006頁
 揃定価 100,000 円
 '11年4月刊〔編集復刻版〕

本資料集は、弊社刊行のマイクロフィルム版『戦後日本共産党関係資料』、復刻版『特審月報』とともに、朝鮮戦争期に展開された日本共産党とそれを監視し弾圧する公安機関双方の活動を克明に解き明かす。原資料は、山口県地方公安調査局調査官を務めた光永源植氏の遺した職務資料。1952年～55年間の、朝鮮戦争、日本共産党「50年問題」、在日朝鮮人運動に関する、山口県を中心とした詳細かつ貴重な史資料 136 点を復刻。

●推薦＝加藤哲郎

法務府特別審査局 刊〔1950年～1952年刊〕
 特審月報 全7巻・別冊1

別冊＝解説（荻野富士夫）・総目次
 A5判・上製・総3,244頁
 揃定価 140,000 円
 '08年11月～'09年4月配本完結〔復刻版〕

本誌は、現在の公安調査庁の前身・法務府特別審査局（戦前の特高警察と思想検察の流れを汲む）の内部資料である。敗戦後日本の民主化・非軍事化に逆行する「逆コース」のなかで、特別審査局は主には日本共産党の、そして在日朝鮮人団体、学生運動、平和団体、労働組合のほか軍国主義団体などの対象組織内部にスパイを送り込み、諜報活動をおこなった。戦後治安体制の一翼を担った特審局の実態を明らかにする貴重資料である。

●推薦＝小田中聰樹・加藤哲郎・小林知子

朴 慶植 編
 在日朝鮮人関係資料集成〈戦後編〉 全10巻

小林知子・宮本正明・長澤 秀・金 栄・高柳俊男 解題
 A4判・上製・函入・総4,100頁
 揃定価 280,000 円（各巻 28,000 円）
 '00年6月～'01年2月配本完結〔編集復刻版〕

朴慶植氏は『在日朝鮮人関係資料集成』（三一書房）を刊行後、「戦後編」の資料を収集し、構成・目次まで作成されていた。氏の突然の死（98年2月）によって中断したこの作業は、在日朝鮮人運動史研究会が引きつぎ、遺族の了解を得て全10巻で刊行することとなった。①②在日本朝鮮人連盟関係、③在日本大韓民国居留民団関係、④在日朝鮮統一民主戦線関係、⑤在日朝鮮人職業名鑑・文化年鑑、⑥教科書・教育関係雑誌、⑦都立朝鮮人学校関係、⑧～⑩朝鮮人刊行新聞・雑誌。解放直後のこれまで見る事ができなかった貴重資料多数を含む。

●推薦＝姜在彦・姜徳相・宮田節子・山田昭次

国際調査団報告書／藤目ゆき 編・解説 (1952・53年刊) 国連軍の犯罪——民衆・女性から見た朝鮮戦争	虐殺・細菌兵器使用・性暴力等々、朝鮮戦争時の国連軍による戦争犯罪の実態を国際民主法律家協会・国際科学委員会・国際婦人調査団のそれぞれの報告により明らかにする。●推薦＝林哲 ●四六判・並製・356頁・定価3,000円／'00年9月刊〔復刻版〕
飯田 進 著 昭和の闇を生きて——BC級戦犯最後の生き証人	戦犯裁判、スガモ・プリズンでの日々、そして薬害。数々の苦難や理不尽と向き合わざるをえなかった著者が、それでもなぜ未来に希望を見いだそうとするのか。戦争を知らない世代に向けて送る、戦後思想の潮流・思索の記録。●推薦＝内海愛子 ●四六判・上製・300頁・定価1,800円／'13年4月刊
飯田 進 著 顔のない国——戦後の虚妄と国の品位喪失を問う	現代日本の政治には倫理と品位が欠如しているという。その根源は……。BC級戦犯の一人として収監されていたスガモ・プリズンで、朝鮮戦争勃発のニュースを耳にしたところから本書ははじまる。 ●四六判・上製・184頁・定価1,600円／'01年5月刊
ベトナム通信社 編 (1967年～1974年刊) ベトナム通信	戦後市民運動の原点であるベ平連運動の京都での機関誌『ベトナム通信』全65号に座談会「京都ベ平連をめぐって」(飯沼二郎・小田実・北沢恒彦・鈴木正穂・鶴見俊輔)、総目次・索引を付して復刻。 ●B5判・上製・函入・740頁・定価12,000円／'90年7月刊〔復刻版〕
夕刊 新大阪	28ページをご参照ください。
新都市	53ページをご参照ください。
今日の琉球	62ページをご参照ください。
守礼の光	62ページをご参照ください。
うるま新報	63ページをご参照ください。
琉球新報	63ページをご参照ください。
沖縄新民報・自由沖縄	63ページをご参照ください。
占領期・琉球諸島新聞集成	63ページをご参照ください。
資料集 終戦直後の台湾	71ページをご参照ください。
台湾引揚者関係資料集	72ページをご参照ください。
【戦後文化運動雑誌叢書】	107ページをご参照ください。

教育

台湾教育会 発行〔大正2年～大正15年〕

台湾教育〈大正期〉 全31巻・別冊1

別冊＝総目次・索引〔大正・昭和期〕
(PDFデータ付き)

A5判・B5判・上製・総16,314頁

揃定価 702,000円

'14年1月～'16年10月配本完結〔復刻版〕

『台湾教育』は植民地下台湾で刊行されていた教育雑誌である。内容は教育論説、教授法、教材の紹介、行事、台湾総督府の公報などであるが、文芸、時事ニュース欄もあり、単なる機関誌に留まらない。時代を経るごとに比較対象として朝鮮・満洲での教育記事も掲載されている。本誌明治期(第1～128号)は既にひるぎ社より復刻版が刊行されているため、弊社では大正期(第129号)から復刻する。台湾教育行政の空白を埋める第一級の資料である。

●推薦＝陳雪玉・河原功・春山明哲・又吉盛清

戦後改革期文部省実験学校 資料集成〈第Ⅰ期〉 全9巻

水原克敏 編・解題

A4判・上製・総3,994頁

揃定価 225,000円

'15年6月～'16年5月配本完結〔編集復刻版〕

戦後改革期における文部省の動向が分かる資料を含む、「東京高等師範」「東京学芸大学第一～第三師範」「千葉師範」「長野師範」「奈良女子高等師範」の各附属小学校(一部中学校・高等学校)が報告した資料を収録。カリキュラム史、教育実践史研究に必須の資料であり、これらによって戦後改革期の文部省が、実験学校を中心にどのような新しい学校教育を創ろうとしていたのか、その内実を把握することができる。戦後改革の教育実践・カリキュラム開発そして教育課程行政の研究に新たな知見を創出したい。

戦後改革期文部省実験学校 資料集成〈第Ⅱ期〉 全6巻

水原克敏 編・解題

A4判・上製・総2,504頁

揃定価 150,000円

'17年3月～8月配本完結〔編集復刻版〕

〈第Ⅰ期〉に続き、〈第Ⅱ期〉を刊行。第Ⅱ期では昭和26年学習指導要領改訂以降、昭和33年改訂に至る過程の文部省初等教育実験学校の研究報告書及び研究発表要項を収録した。当時としてはかなり詳細に実験データをとりながら成果を検証し研究課題を析出するなど、信頼性の高い実験研究を行っていたことがうかがえる。この時期の実験学校の成果は戦後改革期の経験主義教育から系統主義教育への転換を示すもので、教科内容の系統性を確保して能率的で効果的な教育を目指していたことが確認できる。

東京府教育会 発行〔明治21年～明治31年刊〕

東京府教育会雑誌

全9巻・別冊1

別冊＝解説(白石崇人)・総目次・索引

A5判・上製・総約4,200頁

揃定価 164,000円

'16年9月～'17年11月配本完結予定〔復刻版〕

本誌は明治21年に発足した東京府教育会の機関誌で、東京府の教員や地域住民がそれぞれ知力と人脈を駆使し、協働して教育の改良・進取に取組んだ軌跡が豊富に記されている。具体的には、地域の公私立学校の実践・実態や、教員・教育関係者の論説、教員人事の動向など、当時の東京府内の教育事実を示す記事が数多く収録されている。

第1～102号(明治21～31年)までの内、新発見の第1～5号を含む78号分を復刻。

●推薦＝梶山雅史・渡部宗助

山本瀧之助 編〔明治44年～大正8年刊〕

良民 全9巻・別冊1

別冊＝解説(多仁照廣)・総目次

A5判・上製・総4,356頁

揃定価 150,000円

'98年10月刊〔復刻版〕

雑誌『良民』は、編集を山本瀧之助、挿絵を竹久夢二、そして出版元を河本亀之助の3人によって、明治44年2月創刊された。「地方青年」であった3人は、「大正デモクラシー」の生成期の時代相をとらえ、今日においてもなお、近代日本の青年・壮年層の形成過程を知る貴重な資料を提供している。『山本瀧之助日記』(全4巻)の編者の解説を付し、広島県沼隈郡の山本家に残る唯一の原本をもとに、本書は復刻された。教育史、とくに近代社会教育史の資料である。

●推薦＝大濱徹也・小川利夫・金原左門

中央報徳会・日本青年館ほか 発行(大正5年～昭和20年刊)

『帝國青年』『青年』 全48リール・別冊1

別冊＝解説(多仁照廣)・総目次・索引

揃定価 1,000,000円

'06年7月～'07年1月配本完結〔マイクロフィルム版〕

本誌は中央報徳会の機関誌として、同青年部より発行された。後に誌名を『青年』と変え、発行所も日本青年館・大日本連合青年団・大日本青年団・大日本青少年団本部と変遷しつつ、当時の青年の修養・覚悟・態度等を論じ、戦時体制下には、農村青年と戦争について指導性を発揮する記事を掲載するなど、青年団活動の情報を提供し、かつ当時の青年層に大きな影響を与えた。

近代日本の社会教育史の歩みを体現する、5万頁に及ぶ本誌を、(財)日本青年館の協力によりマイクロフィルム版にて刊行。

●推薦＝上野景三・小里貞利・菅原亮芳・渡邊洋子

戦後新教育・「実力の検討」

実践資料集 全4巻

解説(須田将司)付き

B5判・上製・総2,836頁

揃定価 98,000円

'13年6月刊〔編集復刻版〕

戦後新教育の「花形」と言われた「社会科」。戦前以来の報徳教育を土台に形作られた神奈川県足柄上郡福沢小学校の「福沢プラン」は、社会科の創設・推進者の一人であった石山脩平をはじめ多数の研究者が関わり、全国から注目を集めた。当資料集は、戦前期の資料から1946年段階の井上喜一郎校長による草稿メモ類、そして1948年以降に福沢小学校作成『実力の検討シリーズ』等を収録した。社会科に留まらず、多様なテーマを含み独自の教育論を模索していった同校の歩みを通覧できる貴重な資料群である。

●推薦＝影山清四郎・梶山雅史

旧制成城高等学校尋常科

地理自学書集

解題(萩原真美)付き

A5判・上製・函入・426頁

定価 18,000円

'14年8月刊〔編集復刻版〕

旧制成城高等学校の母体となった成城小学校は、日本で最初にドルトンプランを採用した学校のひとつである。当時、画一的な授業が中心の日本では「自由」と「協同」の原理によるドルトンプランは画期的であり、大正自由教育運動のなかで注目された。

本書は、これに基づき旧制成城高等学校教員の仲原善忠と小菌榮によって執筆された地理科のオリジナルのテキスト(自学書)を4冊収録した。ドルトンプランによる教育の実態を物語る貴重な資料であると同時に、生徒が自主的に学習に取り組むための示唆に富む参考資料としても重要である。

鳥居和代 著

青少年の逸脱をめぐる教育史

——「処罰」と「教育」の関係

野中正孝 編・著

東京外国語学校史

——外国語を学んだ人たち

湯川次義 著

近代日本の女性と大学教育

——教育機会開放をめぐる歴史

(財)日本青年館 発行【取扱図書】

田澤義鋪選集

多仁照廣 著

山本瀧之助の生涯と社会教育実践

多仁照廣 著

(財)日本青年館 発行【取扱図書】

若者仲間の歴史

青少年への働きかけが備えていた実質を、1922年少年法の成立過程から、1920～30年代設立の校外教護、補導機関の取組み、総力戦体制下の勤労青少年輔導政策の展開を通して考察する。

●A5判・上製・288頁・定価5,800円/'06年11月刊

「東京外国語学校」(現・東京外国語大学)の知られざる実像、近代日本の国際化を担ったその出身者たちの忘れられた活動の軌跡を、残された関係資料を克明に調査し精細に明す大著。

●推薦＝寺崎昌男

●A5判・上製・函入・1,620頁・定価9,800円/'08年11月刊

戦前日本における女性への大学教育機会の開放をめぐる史的展開に着目し、その理念・制度構想・門戸開放の実態を考察し、性に基づく大学教育機会の差別がどのように克服されたかを究明した書。

●A5判・上製・732頁・定価8,500円/'03年4月刊

青年団の育ての親である田澤義鋪の著作の中から「政治教育講話」「青年団の使命」など主要なものを収録し、青年団の発達、政治教育の普及に腐心した田澤の精神を凝縮した貴重な文献。1969年刊。

●A5判・上製・函入・1,140頁・定価5,000円/'89年5月再版

近代化を支えた無名の若者たちの全国組織化、青年団運動をリードし「青年の父」「青年団の母」と称された山本瀧之助(1873～1931年)の生涯を紹介する。

●A5判・上製・264頁・定価3,500円/'11年11月刊

日本の民衆社会がもつ最大の集団エネルギーである「若者仲間」、無名の人々の関係史を、近世から近代への社会変遷の中で実証的にとらえた書。日本図書館協会選定。

●四六判・上製・268頁・定価2,200円/'84年10月刊

教育

新聞学院『学報』	26ページをご参照ください。
児童と宗教	31ページをご参照ください。
成功	38ページをご参照ください。
力行世界	57ページをご参照ください。
戦前期ブラジル移民日本語読本	57ページをご参照ください。
ハワイ日本語学校教科書集成	58ページをご参照ください。
アメリカ日系二世と越境教育	60ページをご参照ください。
文教時報	61ページをご参照ください。
沖縄教育	63ページをご参照ください。
清水安三と北京崇貞学園	71ページをご参照ください。
文部省思想統制関係資料集成	74ページをご参照ください。
記録映画	93ページをご参照ください。
家庭科学〈戦前編〉	94ページをご参照ください。
学園評論	108ページをご参照ください。
処女の友	112ページをご参照ください。
明治漢文教科書集成	119ページをご参照ください。

【学校新聞】

帝國大學新聞社 刊〔大正12年～昭和23年刊〕

帝國大學新聞 全17巻・別冊1

別冊＝記事・執筆索引

「帝国大学新聞の歴史」(殿木圭一)

A 4判・上製・函入・総7,746頁

揃定価300,000円

'84年4月～'85年5月配本完結〔復刻版〕

本紙は東京帝国大学の学生新聞として学内記事、学問・研究動向を報道したが、単なる学内新聞にとどまらず、日本のジャーナリズム全体のなかで特異な位置を占め、思想・学術動向に少なからざる影響を及ぼした。また、第二次大戦の暗黒の時代状況下においても、時代への静かな抵抗を試みた新聞の1つである。

●推薦＝石堂清倫・伊藤 隆・内川芳美・扇谷正造・大河内一男・小田切秀雄・勝本信之助・千葉雄次郎・辻 清明・寺崎昌男・殿木圭一・野沢隆一・樋口恵子・平岡敏男・福武 直

東京大学新聞社 刊〔昭和24年～昭和45年刊〕

東京大学新聞 全11巻・別冊1

別冊＝記事・執筆索引

A 4判・上製・函入・総4,276頁

揃定価200,000円

'85年6月～'86年5月配本完結〔復刻版〕

戦後東京大学における学生新聞は、『帝国大学新聞』のあとを受け、昭和24年『東京大学学生新聞』としてスタートする。その後、昭和32年『東京大学新聞』となり今日まで継続刊行されている。

今回の縮刷版の刊行は、昭和24～45年までであり、戦後日本の激動期を最もビビッドに反映した学生運動とその中で揺れ動く大学の姿を克明に記録している。

●推薦＝天野勝文・伊藤成彦・内川芳美・江副浩正・伴野文夫・樋口恵子

三田新聞学会 刊〔大正6年～昭和46年刊〕

三田新聞 全14巻・別冊1

別冊＝記事・執筆索引

A 4判・上製・函入・総5,154頁

揃定価260,000円

'87年5月～'88年2月配本完結〔復刻版〕

『三田新聞』は、日本における最初の学生新聞であり、大正デモクラシーの所産ともいべき資料である。創刊号の一面中央に、福沢諭吉の「慶応義塾は一所の学塾として……」を掲げ、同紙の創刊の言葉には「三田輿論を喚起し、慶応義塾の一報道機関たるべし」と述べられている。以後、50余年、「東洋創始」のスローガンを常に紙面にかかげ、三田新聞会によって継続・発行されてきた。

●推薦＝阿利資之・石川忠雄・加藤 寛・佐藤公偉・寺尾 誠・富田正文

成城学園新聞部 発行〔昭和4年～昭和24年刊〕

成城学園時報 全2巻・付録1・別冊1

別冊＝解説(青柳恵介)・総目次・索引

付録＝『成城文化史』(分売可 定価10,000円)

B 4判(付録A5判)・上製・総824頁

揃定価66,000円

'17年5月刊〔復刻版〕

大正15年に開校した旧制成城高等学校では、昭和4年に『成城学園時報』が創刊された。既に刊行されていた校友会雑誌『城』の部報欄を独立させ、学園全体の機関新聞とするのが本紙の主旨であった。紙面は学園行事の報告、運動部の試合結果や活動内容紹介の記事をはじめ、教師や卒業生の投稿、学生が書いた政治・文化評論等、多様な記事が収載されており、当時の学生生活の様子を生き生きと伝えている。また文面は本格的で、学生の文章表現能力の高さを垣間見ることできる。成城学園創立百周年を記念して復刻。

●推薦＝岩田一正・木村 元

大倉高等商業学校新聞部ほか 刊〔昭和3年～昭和153年〕

大倉高商新聞・東京経済大学新聞 全5巻 別冊1

別冊＝解説(橋谷 弘)・総目次・索引

A 3判・上製・函入・総1,506頁

揃定価100,000円

'10年1月刊〔復刻版〕

本紙は、大倉喜八郎によって開校された大倉商業学校から大倉高等商業学校に昇格後の1928年4月に創刊された。当時としても、全国高等商業学校の中で発行されていた、数少ない学生新聞の1つであった。論文や文化欄の寄稿者には、学外の著名な知識人も多く、戦後、東京経済大学となった後も、学園内外の動向を敏感に捉え、報道し続けた。大学の歴史を克明に記録するとともに、激動の時代を映し出す貴重な資料である。『大倉高商新聞』から『東京経済大学新聞』にいたる50年の軌跡。

●推薦＝石井寛治・有山輝雄

一橋新聞発行所 刊〔大正13年～昭和35年刊〕
いっしょ

一橋新聞 全7巻・別冊1

別冊＝記事・執筆者索引
B4判・上製・函入・総2,592頁
揃定価155,000円
'88年10月～'89年2月配本完結〔復刻版〕

東京商科大学＝一橋大学は、戦前・戦後にわたって、日本経済・政治の担い手を輩出してきた。一方、学問と学園の自由を追究し、官僚主義に抗してきた歴史をもつ。『一橋新聞』は、数ある大学新聞の中でも、社会科学の総合大学にふさわしい立場から、時代の動きを最も批判的に受けとめようと努めた新聞のひとつであり、激動の近・現代史の証言というべき重要資料である。
●推薦＝伊東光晴・滝沢正樹・増田四郎・水田 洋・山田欣吾・山村喜晴

小樽高等商業学校編纂部 刊〔大正14年～昭和55年刊〕

小樽商科大学新聞『緑丘』全3巻

記事・執筆者索引付き
B4判・上製・函入・総1,200頁
揃定価75,000円
'92年3月刊〔復刻版〕

本紙は、大正14（1925）年6月5日、小樽高等商業学校編纂部によって創刊され、大学名の変遷と共に数度改題しながらも、昭和55年まで、学内外の動きを敏感に捉え報道しつづけてきた。創刊の年の10月に起きた「軍教反対事件」は、小樽高商の名を全国に知らしめるとともに、本紙の存在意義を一気に高めることとなった。本紙は、小樽商大の歴史を語るにとどまらず、広く時代の移り変わりを映し出し、日本近現代史の貴重な資料として活用できる。
●推薦＝野口正二郎・藤井栄一・松本忠司

小樽商科大学 編纂・発行〔昭和36年刊〕

緑丘五十年史

本書は、小樽商科大学の創立50周年を記念して刊行された。明治44年、小樽高等商業学校として、全国の官立商業学校の第5番目として開校され、小樽経済専門学校を経て、90余年の歴史をもつ。
●B5判・上製・286頁・定価6,500円/'01年4月刊

【近代社会教育史料集成】

■近代社会教育史料集成③
財日本青年館 発行【取扱図書】

大日本青年團史

A5判・上製・函入・総776頁
定価14,000円
'89年6月刊〔復刻版〕

戦前、日本の社会教育の中心は青年団であり、政策的にも重視されてきた。その意味で日本の社会教育を語る時、青年団の歴史はさけて通れない。
本書は、昭和17年に日本の青年団の歴史を初めて体系づけた唯一のものである。内容は、江戸時代初期の若連中から説きおこし、大正期の大日本連合青年団の統一、大日本青年団、そして昭和16年の大日本青少年団へ再編成する前までを記録している。
歴史学・教育学・政治学・民俗学研究に極めて有用な書である。

■近代社会教育史料集成④
財日本青年館 発行〔昭和45年刊〕

大日本青少年団史

A5判・上製・函入・総1,072頁
定価18,000円
'96年4月刊〔復刻版〕

戦前の青少年団の活動記録は、昭和16年までを『大日本青年団史』に詳述し、昭和17年から20年までは『大日本青少年団史』にまとめられた。
戦時下の昭和16年1月、大日本青年団・大日本連合女子青年団・大日本少年団連盟（ボーイスカウト）・帝国少年団協会の四団体が統合され「大日本青少年団」が結成された。その数1千5百万の青少年が組織され、戦時下の後方援護、食料増産、民間防衛などに従事、敗戦までの国家総力戦体制にまきこまれていく過程を記録。

■近代社会教育史料集成⑤／日本青年館発行〔昭和16年刊〕
岡田洋司 解題

山本瀧之助全集

近代日本の青年・壮年層の社会教育の上で、重要な役割を果たした山本瀧之助(1873～1931)の著作・論文のエッセンスの集大成。近代日本の農村青年の自己形成史を知る上で貴重な書である。
●A5判・上製・函入・1,220頁・定価20,000円/'85年12月刊〔復刻版〕

生活・文化・芸術・映画

産業組合中央会 刊〔大正14年～昭和24年刊〕

家の光 全138巻・補巻1

揃定価 2,460,000 円

第Ⅰ期 全25巻〔第1巻～第25巻〕

菊判・上製・総 11,388 頁
 揃定価 450,000 円（配本毎 90,000 円）
 '93年11月～'95年12月配本完結〔復刻版〕

第Ⅱ期 全25巻〔第26巻～第50巻〕

菊判・上製・総 12,888 頁
 揃定価 450,000 円（配本毎 90,000 円）
 '96年5月～'97年5月配本完結〔復刻版〕

第Ⅲ期 全52巻〔第51巻～第102巻〕

菊判・上製・総 26,440 頁
 揃定価 920,000 円
 '97年8月～'99年11月配本完結〔復刻版〕

第Ⅳ期《都市版》全36巻〔第103巻～第138巻
+補巻1〕

菊判・上製・総 18,730 頁
 揃定価 640,000 円
 '00年2月～'01年8月配本完結〔復刻版〕

解説（古桑 実）は第103巻に収録

本誌は、現在の J A 全中の前身である産業組合の機関誌。農村が慢性的貧困にあえぎ、小作争議が急増するなか、農村生活の向上と自立、相互扶助・協同に基づく「共存同栄」社会の実現を謳った。「一家一冊万能雑誌」と称されたように、内容は修養・解説・農業・婦人・子供等多岐に亘る。近代日本の基底をなした農村の歴史を明らかにする重要資料として、地方文化史、女性史研究にも資するものである。

●推薦＝井出孫六・川野重任・佐藤喜春・竹部喜代子・樋口恵子・宮崎礼子・矢口光子



記録映画作家協会 発行〔1958年～1964年〕

記録映画 全6巻・別冊1

別冊＝解説（阪本裕文・佐藤 洋）・総目次・索引
 B5判・上製・総 2,694 頁
 揃定価 150,000 円
 '15年12月～'16年5月配本完結〔復刻版〕

記録映画作家協会 発行〔1955年～1964年刊〕

記録映画作家協会会報

全2巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（阪本裕文・佐藤 洋）・総目次・索引
 付録＝「定例総会議案書」ほか
 B5判（付録B4判）・上製・総 1,386 頁
 揃定価 75,000 円
 '17年5月刊〔復刻版〕

『記録映画』（1960年まで「教育映画作家協会」発行）は当時唯一の「記録/教育映画」専門誌でありながら、映画監督はじめ技術者・作家・芸術家等、多ジャンルの表現者が寄稿している。1964年3月に終刊となったが、全65冊に記された言葉と写真には、映画や教育の問題に限られない、立ち戻って考えるに足る豊かな源泉がある。ドキュメンタリー映画のみならず、教育映画・劇映画・テレビドキュメンタリー・文学・美術・写真など、様々な領域の諸動向の線は、その全てが何らかの形で『記録映画』という点を通過していたことが分かるだろう。

●推薦＝川本博康・マーク ノーネス・松本俊夫

本誌は、記録映画作家協会（1955年から1960年まで「教育映画作家協会」）が1955年3月から現在も刊行している会報である。復刻版では第1号から第96号（1955～1964年）までと、協会が作成・配布したビラ類、定例総会議案書、また前身にあたる記録教育映画製作協議会が作成した資料も可能な限り収集し収録した。

協会発足当初の様子から、作家協会内部の労働運動に関わる議論や上映会・研究会の情報、『記録映画』終刊後の状況などを詳細に把握することができる。

日本美術新報社 発行〔昭和16年～昭和18年刊〕

旬刊美術新報

全6巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（飯野正仁）・目録

付録＝『戦時記録版 日本画及工芸』

A4判（付録B5判）・上製・総2,758頁

揃定価170,000円

’17年5月～11月配本完結予定〔復刻版〕

本誌は、1941年7月の「第一次美術雑誌統合」時に創刊され、1943年10月の「第二次美術雑誌統合」時に廃刊した美術雑誌である。月に三回発行の旬刊雑誌という性格上、他誌がとりあげないような小さな情報も丁寧に拾われており、アジア・太平洋戦争下における日本の美術界の状況を詳細に知る上で貴重な資料である。

発行者・猪木卓爾は、1944年2月に『戦時記録版 日本画及工芸』誌を会員制により創刊し、「戦時下に於ける美術誌の矜持」を示した。

●推薦＝青木 茂・丹尾安典

ソヴェト文化社 発行〔昭和21年～昭和24年刊〕

ソヴェト文化 全2巻・別冊1

別冊＝解説（吉田則昭）・総目次・索引

B5判・上製・総640頁

揃定価46,000円

’16年7月刊〔復刻版〕

本誌は、1945年12月、ソヴェト研究者協会が設立され、翌年五月に同協会が中心となって日ソ文化連絡協会（会長・土方与志）が生まれたことで、両者共同編集によって発行された雑誌である。

内容は文化活動の紹介、論考記事が大半を占める。占領期におけるこの『ソヴェト文化』が文化受容に果たした役割を検討することは、戦後日本における対ソ認識形成の端緒を知る上で、たいへん有益である。

●推薦＝谷川建司・土屋礼子・メリニコワ イリーナ

北星商事ほか 発行〔昭和25年～昭和29年刊〕

ソヴェト映画 全4巻・別冊1

別冊＝解説（フィオードロワ アナスタシア）・総目次・索引

B5判・上製・総1,406頁

揃定価96,000円

’16年7月刊〔復刻版〕

本誌は、1950年代前半に発行された日本で唯一のソビエト映画専門誌である。その誌面には、世界映画史に軌跡を残したソビエト映画や、当時のソビエト映画界に関する情報、戦前の日本でソビエト映画の宣伝に携わってきた文化人の証言など、20世紀のロシア文化と、日本におけるその受容を考える上で貴重且つ稀有な資料が揃っている。また本誌は、1950年代初頭の日本で台頭した左翼運動の重要な記録でもある。そこには、戦後の日本でマルクス主義を支持し、その普及に努めた人々の文化や政治に対するあらゆる見解が凝縮されている。

●推薦＝谷川建司・土屋礼子・メリニコワ イリーナ

三好十郎著作集 全12巻・別冊1

別冊＝解説（山口謙吾）・回想（三好まり）・総目次

A5判・上製・総7,730頁

揃定価192,000円

’14年11月～’16年4月配本完結〔復刻版〕

本著作集は、1960年から66年まで、ガリ版で全63巻・附録として刊行されたものを復刻したものである。

孤高の劇作家、三好十郎が生涯にわたり書き残したもの——戯曲、詩、小説、評論、随筆、書簡、ノート他を最も詳細に知ることのできる重要資料である。

国家主義、社会主義、宗教といったイデオロギーを前提としない道を選んだ三好の発する言葉を再読する意義は、今日において極めて大きい。

●推薦＝穴戸基一

文化普及会 刊〔大正12年～昭和5年刊〕

森本厚吉 主宰

文化生活 全17巻・別冊1

別冊＝解説（石川寛子）・総目次・索引

A5判・上製・総7,822頁

揃定価255,000円

’97年6月～’98年1月配本完結〔復刻版〕

1923年5月、森本厚吉は、かつて21年に有島武郎・吉野作造らと創設した文化生活研究会と一線を画し、「文化生活運動」を現実化するために文化普及会を設立。文化アパートメント建築・女子文化高等学院設立などの実践活動とともに、より生活学の色濃い機関誌として本誌『文化生活』を創刊する。（このとき文化生活研究会の『文化生活』は、巻号は継承するものの誌名を変える。）近代教育史・女性史・家政学・住居学研究に必須の資料である。

●推薦＝小川信子・佐藤全弘・西川祐子・ヘンリー スミス

家庭科学研究所 刊〔昭和9年～昭和19年刊〕

家庭科学〈戦前編〉 全12巻・別冊1

別冊＝解説（竹中はる子）・総目次・索引

菊判・B5判・上製・総6,698頁

揃定価211,000円

’99年5月～12月配本完結〔復刻版〕

本誌は、十五年戦争下、大日本連合婦人会と大日本連合女子青年団の合同施設として作られた家庭科学研究所の機関誌である。

家事全般についての高度な研究雑誌として食物・洗濯・住居・家計・育児・医事・教育・作法などを対象とし、家庭生活の科学化・合理化を探究した。国民更生運動とも連動して刊行された本誌は、戦争下の日本人の生活及び生活観の変遷を辿れる貴重資料であり、家政史・女性史研究に必須の文献である。

●推薦＝高橋信孝・丹羽雅子・宮本美沙子・吉川弘之

昭和戦前期 日本公衆衛生史

清水勝嘉 著
B 5判・上製・函入・768頁
定価 24,000円
'97年7月再刊

本書は、前著『日本公衆衛生史 昭和前期編』の全面改訂版である。昭和13年、国民保健の向上と国民生活安定のために厚生省が設置された。しかし、その真の目的は軍部による「健兵健民方策」の要請を満たすことにあり、衛生行政が超国家主義的な長期総力戦体制の一翼を担うことにあった。昭和戦前期のこうした公衆衛生活動の特異性を、多数の資料を駆使し明らかにする好著である。

〈目次抜粋〉公衆衛生行政／急性伝染病対策／性病（花柳病）対策／国民の栄養問題／学校保健／人口政策／健民運動

内務省衛生局 刊〔大正7年～昭和3年刊〕

農村保健衛生実地調査

解説（清水勝嘉）付き
B 5判・上製・函入・総 674頁
定価 20,000円
'90年9月刊〔復刻版〕

本書は、1918年より1928年までの11年間にわたる、全国的な農村保健衛生の実地調査報告書であり、調査範囲は全国134村に及び、戦前期最大規模のものである。

〔目次抄録〕

第一、人口及戸数／第二、生産、死産及死亡／第三、妊産育児／第四、住民の体格／第五、寄生虫／第六、住民の疾病／第七、飲食物／第八、飲酒及喫煙／第九、飲料水／第十、住宅／第十一、医療費ト売薬費／第十二、総括／統計表／付録

日本民藝協会 発行〔昭和14年～昭和21年刊〕

月刊民藝・民藝 全12巻・別冊1

別冊＝解説（水尾比呂志・尾久彰三・杉山享司・村上豊隆・白土慎太郎）・総目次・索引
A 5判・上製・総 4,930頁
揃定価 180,000円
'08年7月～12月配本完結〔復刻版〕

『月刊民藝』は、日本民藝協会の機関誌として、昭和14（1939）年4月に創刊、同17年1月から『民藝』と改称されて同21（1946）年7月発行の第70号まで刊行された。ただし、第69号は未見である。

本資料によって、世界の生活文化史上稀有な事跡と考えられるべき民藝運動の、戦時下の実情を知る場を広げるとともに、それを現在の生活文化に照応させて在り様在り方を検証するよすがともなり得るだろう。

●推薦＝大城立裕・鶴見俊輔・水尾比呂志

日本民藝協会ほか 発行〔昭和6年～昭和26年刊〕

工 藝 DVD—ROM電子版

構成＝DVD—ROM 全3枚
検索システムCD 1枚・別冊1
別冊＝解説（水尾比呂志）・総目次・索引
総約14,000頁
揃定価 280,000円
'10年1月刊

本誌は、民芸研究の創始者・柳宗悦が監修し、ほぼすべての編輯に携わった、民芸分野の啓蒙的研究誌である。各号ごとに主題を定め、挿絵や写真のみならず、漆や手織物といった実物を貼り込むなど、戦前から戦後を通じて、民芸運動の理論と実践の場となった。

全120冊、総約14,000頁に及ぶ、雑誌『工芸』の全貌がDVDによってオールカラーでよみがえる。号数、発行年月からの検索だけでなく、主題・標題・執筆者・挿絵からの詳細なキーワード検索機能も付加。

●推薦＝大原謙一郎・鶴見俊輔

内務省警保局 編〔大正14年～昭和19年刊〕

映画検閲時報 全40巻

解題（牧野 守）付き
A 5判・上製・函入・総 23,200頁
揃定価 520,000円
'85年1月～'86年5月配本完結〔復刻版〕

『映画検閲時報』は月報形式であり、毎月「査閲フィルムノ部」「制限ノ部」「輸出フィルムノ部」「附録」に分類され、映画の題名、巻数、製作者、および検閲の内容、制限事項等が記録されている。

弊社既刊『出版警察報』（全40巻）が出版物に対する検閲記録であるのに対して、本書は、戦前期に製作された全映画についての唯一の全体的な検閲記録である。映画関係者のみならず、日本近現代史の研究者にも貴重な資料である。

●推薦＝家永三郎・内川芳美・佐藤忠男・篠田正浩・富士田元彦

〔昭和11年～昭和13年刊〕

映画創造 全2巻

解題（富士田元彦）・総目次付き
菊判・上製・函入・総 1,110頁
揃定価 18,000円
'86年6月刊〔復刻版〕

プロキノ（日本プロレタリア映画同盟）は、昭和4（1929）年2月創設、「プロレタリア映画生産発表のために闘ふ」をスローガンに、製作上映運動を積極的に推し進めた、戦前の日本映画史における最も戦闘的な集団であった。プロキノは昭和8年以降、権力の弾圧のため活動不能に追いこまれ、その2年後、合法的な理論活動の場として創刊されたのが、『映画創造』であり、岩崎昶、今井正、戸坂潤、中条百合子らの寄稿が見られる。全12号を収録。

●推薦＝北川鉄夫・佐藤忠男・祖父江昭二

東京音楽学校校友会 発行 (明治43年~大正11年刊)

音楽 DVD版 全4枚・別冊1

別冊=総目次・索引
 揃定価 240,000 円
 '13年1月刊

雑誌『音楽』は、東京音楽学校(現・東京藝術大学)校友会が発行していた月刊誌である。楽譜、詩歌、評論、講義、戯曲翻訳、公演や国内外の音楽情報などを多数収録し「音楽総合情報誌」として充実していった。音楽関係者に限らず、大熊信行、白鳥省吾、富田碎花、柳沢健など多くの大正文化人が寄稿したのも特徴のひとつだ。日本人の西洋式音楽創作の足跡が刻まれた本誌は、近代日本において西洋の伝統文化をどのように眺め、取り組み、取り入れようとしてきたかをひも解くための一次資料である。
 ●推薦=細川周平

東京演芸画報社・演芸倶楽部 刊 (昭和2年~昭和18年刊)

演芸画報 昭和編 全68巻

B 6判・上製・函入・総 30,038 頁
 揃定価 1,088,000 円
 '90年4月~'94年1月配本完結〔復刻版〕

『演芸画報』は、東西の大小劇場の、とくに歌舞伎を中心に、その舞台写真、劇評、評論、脚本、考証、談話、芸談等を掲載した総合演芸雑誌である。本誌の創刊は明治40年、以後戦時下に雑誌統合されるまで、37年間刊行され続け、その冊数は440を数える。本誌は、歌舞伎を中核としながら、ひろく新派、新劇、邦楽、人形浄瑠璃、落語、講談、活動写真、大道芸まで、当時の芸術・娯楽を網羅している。弊社では、大正期に刊行された169冊および昭和期に刊行された202冊を復刻する。
 ●推薦=有光次郎・倉橋 健・千田是也・北條秀司・南 博

小山内薫・土方与志ほか 編 (大正13年~昭和5年刊)

築地小劇場 全63冊・別冊1・付録1

付録=ポスター4枚・プログラム75枚
 A 5・菊判・並製・函入・総約4,000 頁
 揃定価 87,000 円
 '86年7月刊〔復刻版〕

大正13年、小山内薫、土方与志の手で築地小劇場が創設され、日本の新劇運動の幕が開かれた。それは劇場と劇団とが一体となったまさに画期的な運動であり、演劇を愛する若者たちのむせかえるような活気がみなぎった。その機関誌『築地小劇場』は、今日、近代演劇史の研究家にとって貴重な文献であるばかりでなく、近代演劇の原点として、芝居を志す人、そしていま、舞台に情熱を傾ける人必読の資料である。当時の上演ポスター(色刷り)、プログラムを付す。
 ●推薦=飯沢 匡・千田是也・滝沢 修・松本克平・水品春樹・山本安英

『築地小劇場』ポスター・プログラム

日本の新劇の青春期を象徴する「築地小劇場」の面影を今に蘇えらせる、ポスター4枚と公演プログラム75枚を当時のままの姿で復刻。〈ポスター〉「役の行者」「マクベス」「桜の園」「夜の宿」〈プログラム〉「空気饅頭」「大塩平八郎」「マクベス」「国性爺合戦」ほか全75枚
 ●実物大・函入・揃定価 12,000 円/86年7月刊〔復刻版〕

調査研究動員本部 刊 (昭和20年4月刊)
 清水勝嘉 解説

戦時国民生活最低基準ニ関スル答申書

本書は、十五年戦争末期、内閣の委嘱により調査研究動員本部が調査した、「戦時国民生活ニ関スル調査研究」の一部である。高橋亀吉、羽仁説子らの学者・文化人を動員し、最低生活基準を示す。
 ●B 5判・上製・函入・228 頁・定価 4,000 円/97年10月刊〔復刻版〕

昭和10年全国商店街調査資料

53ページをご参照ください。

『町会』『町と生活』

53ページをご参照ください。

家庭雑誌

110ページをご参照ください。

処女の友

112ページをご参照ください。

農家経済調査簿

118ページをご参照ください。

労働・社会運動

安全第一協会 発行〔大正6年～大正8年刊〕

安全第一 全4巻・別冊1

別冊＝解説（堀口良一）・総目次・索引
A 5判・上製・総2,092頁
揃定価 70,000円
'07年10月刊〔復刻版〕

近代日本の産業革命期、多数の工場労働者が生み出され、それにともない様々な問題が生じた。初期の労働事情については『職工事情』に詳しいが、安全の問題はどうであったのか。工場法施工の翌年に創刊された本誌は、単に労働災害防止だけにとどまらない幅広い視点から、社会の安全化を図ろうとした日本で最初の社会安全運動の記録であり、現在に至る安全・安心社会への取り組みの原点である。社会政策史、近代史の基本資料として復刻。

●推薦＝玉井金五・村上陽一郎

福田狂二ほか 編〔大正12年～昭和6年・9年刊〕

進め 全12巻・別冊1

別冊＝解説（田中真人）・総目次・索引
B 5判・B 4判・上製・函入・総4,280頁
揃定価 240,000円
'89年9月～'90年2月配本完結〔復刻版〕

本誌は、第一次世界大戦後の労働運動・社会運動の高揚期に創刊された社会運動機関誌である。その執筆陣は豊富で、堺利彦・荒畑寒村・山川均ら社会主義者、アナキストの中浜鉄、共産党の徳田球一ほか麻生久・鈴木文治・浅沼稲次郎・山川菊栄そして小川未明・小牧近江・前田河広一郎など多彩を極めている。大正デモクラシーの高揚とともに生成・発展し、やがてその終焉とともに思想的位相を大きく変質させていった本誌は、社会運動史資料の宝庫といえよう。

●推薦＝小松隆二・斎藤 勇・渡辺悦次・渡部 徹

内務省警保局 編

社会運動の状況 大正15年版 昭和2年版 全2巻

解題（荻野富士夫）付き
A 4判・上製・総812頁
揃定価 50,000円
'94年12月刊〔復刻版〕

内務省警保局刊行の社会運動関係の定期刊行物のうち、年報形式のものは『社会運動の状況』があり、復刻版（昭和3～17年・三一書房刊）が刊行されている。しかし、『社会運動の状況』として一冊にまとめられ活版印刷にされるのは、昭和4年以降であり、それ以前は、社会主義運動・労働運動・農民運動・水平運動・在留朝鮮人・無産政党運動などに分かれて謄写版印刷で刊行されていた。

弊社では、日本大学法学部図書館・山岡文庫所蔵本の発掘により、大正15年、昭和2年の2年分を復刻刊行した。

廣畑研二 編・解説

一九二〇年代

社会運動関係警察資料 全12リール・別冊1

別冊＝解説（廣畑研二）・総目録・索引
揃定価 200,000円
'03年11月刊〔マイクロフィルム版〕

本マイクロフィルム版に収録した115点の文書は、1920年代の国内外での社会運動取り締りに関する警察資料である。文書の資料源は内閣書記官室（13点）、内務省警保局（4点）、警視庁警視総監室（98点）であり、新発見文書が多数含まれている。これらの文書の中には、内務省警保局『大正十四年中ニ於ケル労働運動ノ状況』のように、『社会運動ノ状況』のシリーズのうち発掘が待望されてきた「大正14年版」3分冊も含まれている。本資料群は、戦前期警察資料の空白を補うものとして貴重である。

●推薦＝荻野富士夫

映像で見る

賀川豊彦とその時代

DVD-Video 全1枚・別冊1

別冊＝解説（鈴木裕子・加山久夫）
定価 8,000円
'09年12月刊

【収録内容】全97分
『灯をともした人々―大正十年・川崎・三菱大争議の記録』（1921年撮影・1958年再編集、22分）
『A DAY WITH KAGAWA』
英語版（無声・1938年、49分）
日本語版（1988年再編集、20分）
『賀川豊彦氏の一曰』（無声・1956年、6分）

堀口良一 著

安全第一の誕生

——安全運動の社会史〔増補改訂版〕

日本において、「安全第一」という概念がいかに誕生し、浸透していったのか。その運動の思想と活動を浦生俊文（1883～1966年）に焦点をあて、実証的に解き明かす。

● A5判・上製・418頁・定価2,700円／'15年3月刊

琴坂守尚 編・解説

磯野小作争議・小樽港湾争議 資料集

1927年におこった「労農共闘」の典型といわれるこの2つの争議は、わが国労働運動史上注目すべきものであり、小林多喜二をして数多くの作品を生ましめ、革命家たらしめた。

● B5判・上製・函入・282頁・定価8,000円／'90年7月刊〔復刻版〕

労働週報社 刊〔大正11年～大正12年刊〕

藤田富士男 解説

労働週報

労働組合同盟会共同機関紙。平沢計七ほか編。各地の労働争議・小作争議をつぶさに報道した、当時唯一の労働者のための報道機関紙。

● 推薦＝鎌田 慧
● B4判・上製・函入・202頁・定価16,000円／'98年10月刊〔復刻版〕

賀川豊彦 著・画／義根益美 解説

空中征服——賀川豊彦、大阪市長になる

眠れない真夏の夜、貧困者支援をおこなう伝道師であり、労働争議の指導者であった賀川豊彦が、貧民窟で見た夢は……。ユーモアに満ちた挿絵と、SF仕立てで痛快に綴る、大正期のベストセラー。

● 四六判・並製・280頁・定価1,800円／'09年4月刊〔復刻版〕

渡部 徹 解説／堀切利高 編・解題〔大正8年～大正10年刊〕
大正労働文学研究会 発行【取扱図書】

日本労働新聞

本紙は、大正8年3月、岩出金次郎により労資協調を標榜し創刊された月刊の労働運動評論紙である。社会主義運動史・労働運動史研究上で、きわめて高い史料の価値をもっている。全28号を収録。

● A4判・上製・函入・272頁・定価12,000円／'83年10月刊〔復刻版〕

飯田 進 著

青い鳥はいなかった

——薬害をめぐる一人の親のモノローグ

著者は、1963年「子どもたちの未来をひらく父母の会」を創設した。本書は、障害児の親の会運動の葛藤を痛恨の思いをこめて語る。

● 四六判・上製・320頁・定価2,000円／'03年7月刊

佐々木敏二・小田切明德編集

山本宣治写真集

民衆と自由と平和を愛し、無産階級の解放運動に身を投じた山本宣治の生涯と人柄を辿る写真集。1979年に生誕90周年・没後50周年を記念して刊行されたものの増補改訂版。

● B5判・上製・106頁・定価3,800円／'02年2月刊

岡田洋司 著

大正デモクラシー下の“地域振興”

——愛知県碧海郡における
非政治・社会運動的改革構想の展開

本書は、第一次世界大戦後から昭和恐慌期にかけて、愛知県碧海郡一帯で展開した“地域振興”の動きを解明し、この時期の農村社会＝地域社会の民衆の意識・行動を検証する。

● A5判・上製・函入・444頁・定価9,000円／'99年10月刊

岡林伸夫 著

ある明治社会主義者の肖像

〔山根吾一覚書〕

『渡米雑誌』主幹山根吾一——片山潜・西川光次郎・幸徳秋水・堺利彦・木下尚江・石川三四郎・山路愛山といった著名な名前に囲まれて登場する——の人物像。その生涯を数少ない資料から描き出す。

● 四六判・上製・356頁・定価3,800円／'00年3月刊

瀬戸口勝義 著

「我が職業は普通選挙なり」

——中村太八郎とその周辺

中村太八郎(1868—1935)は、日本の普通選挙権獲得運動の基礎を築き、生涯を「貧者弱者労働者小作人及婦人」のために捧げた。本書は、埋もれたその生涯を運動を闘った人々とともに描き出す。

● 四六判・上製・316頁・定価3,200円／'01年1月刊

近現代文学

改造社 発行〔昭和8年～昭和19年刊〕

文藝 全60巻・別冊1

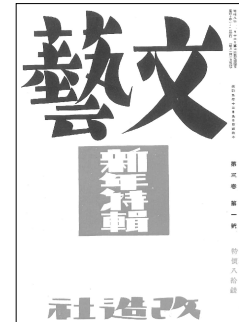
別冊＝解説(山下真史)・総目次・索引
A5判・上製・総31,286頁
揃定価956,000円
'11年6月～'15年1月配本完結〔復刻版〕

『文藝』は、満洲事変を境に思想弾圧が強化されプロレタリア文学が壊滅するなか、新たな文芸復興の機運を背景として、『文學界』にひと月遅れて創刊され、『新潮』とならぶ昭和10年代の代表的文芸雑誌となった。創作、評論を中心とし、海外文学も積極的に紹介したが、太平洋戦争開戦後の文芸雑誌に対する一層の監視下、戦時色が際立つ誌面となり、1944年軍部の圧力により廃刊に至った。同時期に刊行された『文學界』(弊社より復刻版既刊)とあわせて、昭和戦前・戦中期の文壇状況を研究する上で必須の文芸雑誌である。

●推薦＝安藤 宏・太田哲男・川津 誠・木村一信

■配本一覧

第1回	第1～5巻	(昭和8年11月～昭和9年3月)	定価54,000円	'11年6月
第2回	第6～10巻	(昭和9年4月～昭和10年1月)	定価82,000円	'11年9月
第3回	第11～15巻	(昭和10年2月～昭和10年11月)	定価82,000円	'12年1月
第4回	第16～20巻	(昭和10年12月～昭和11年9月)	定価82,000円	'12年5月
第5回	第21～25巻	(昭和11年10月～昭和12年7月)	定価82,000円	'12年9月
第6回	第26～30巻	(昭和12年8月～昭和13年5月)	定価82,000円	'13年1月
第7回	第31～35巻	(昭和13年6月～昭和14年3月)	定価82,000円	'13年5月
第8回	第36～40巻	(昭和14年4月～昭和15年1月)	定価82,000円	'13年9月
第9回	第41～45巻	(昭和15年2月～昭和15年11月)	定価82,000円	'14年1月
第10回	第46～50巻	(昭和15年12月～昭和16年9月)	定価82,000円	'14年5月
第11回	第51～55巻	(昭和16年10月～昭和17年11月)	定価82,000円	'14年9月
第12回	第56～60巻+別冊	(昭和17年12月～昭和19年7月)	定価82,000円	'15年1月



文藝春秋社 発行〔昭和11年～昭和19年刊〕

文學界 全42巻・別冊1

別冊＝解説(櫻原 修・田中勸儀)・総目次・索引
A5判・上製・総21,852頁
揃定価630,000円
'08年9月～'11年1月配本完結〔復刻版〕

本誌は昭和8年に創刊された文芸雑誌の雄である。

創刊当時の編集同人は武田麟太郎、林房雄、小林秀雄、川端康成、深田久弥、広津和郎、宇野浩二の7名。創刊以来、個人主義と芸術主義を積極的に主張する立場を明確に掲げ、昭和10年代文学に主導的な、極めて大きな役割をはたした。弊社では、未復刻であった、3巻7号から戦前の終刊号となる11巻4号までを復刻し、文学空間を埋め江湖に提供する次第である。

●推薦＝池内輝雄・栗原 敦・紅野敏郎・長谷川啓

少年園 刊〔明治28年～明治43年刊〕

文庫 全40巻・別冊1

別冊＝解題(関 肇)・総目次・索引
A5判・B4判・上製・総25,510頁
揃定価898,000円
'05年11月～'08年9月配本完結〔復刻版〕

『文庫』は、明治28年に創刊され、明治43年の終刊まで、全246冊が刊行された投書雑誌である。編集は河井醉茗・五十嵐白蓮・小島烏水・千葉亀雄らが当り、自由な自己表現を追究し、文学青年の「共和国」を形成した。内容は論説・紀行文・小説・詩・俳句・和歌・漢詩など多岐にわたり、とりわけ詩においては、横瀬夜雨、伊良子清白らの「文庫派」と呼ばれる詩人を輩出した。教育、歴史、思想・出版等の研究に欠くことのできない貴重雑誌である。

●推薦＝上笙一郎・紅野謙介・近藤信行・野山嘉正

近現代文学

日光社 発行〔大正13年～昭和2年刊〕

日光全10巻・別冊1

別冊＝解説（田中 綾）・総目次・索引
A 5判・上製・総4,688頁
揃定価180,000円
'16年10月～'17年6月配本完結〔復刻版〕

本誌は大正13年に創刊された短歌雑誌である。北原白秋、前田夕暮、古泉千櫻、土岐善麿、川田順、釈迦空（折口信夫）、石原純らが編集同人として参加した。

当時の最有力誌『アララギ』の歌風に飽き足りない人々が発表の場を求めて集まり、自由で清新な誌上の雰囲気の中で互いに切磋琢磨し後世に名作を残していき、口語短歌運動の流れを勢いづけた。昭和期に活躍した女性歌人が多く参加したのも特徴のひとつである。

●推薦＝佐佐木幸綱・北原東代・山田 航

後藤宙外 主宰〔明治30年～明治31年刊〕

新著月刊 全15冊・別冊1

別冊＝解説（山本昌一）・総目次・索引
A 5判・並製・函入・総4,270頁
揃定価110,000円
'88年10月～'89年4月配本完結〔復刻版〕

小説を中心とする月刊の文学雑誌。編集は後藤宙外、ほかに島村抱月、伊原青々園、水谷不倒、小杉天外ら東京専門学校（現在の早稲田大学）出身者が同人として関わった。寄稿はほかに広津柳浪、坪内逍遙、泉鏡花などで、自然主義文学の草創期を体現している。また、島崎藤村、薄田泣菫らが新体詩を発表していることも見逃せない。明治20年代、紅露追鷗時代の継承と後進世代の小説台頭の機運形成に大いに寄与した雑誌、全15号を原本通り復刻。

●推薦＝清水 茂・畑 実・平岡敏夫・三瓶達司

田岡嶺雲・山県五十雄 主筆／少年園 発行
〔明治28年～明治30年〕

青年文全4巻・別冊1

別冊＝解説（西田 勝）・総目次・索引
B 5判・上製・総1,412頁
揃定価60,000円
'03年12月刊〔復刻版〕

のちに反骨の文芸評論家として知られることになる田岡嶺雲（1870～1912）が友人の山県五十雄とともに責任編集した文芸投稿雑誌。発行所は五十雄の兄・山県悌三郎が経営する少年園。

大学を卒業したばかりの嶺雲が、佐々醒雪・笹川臨風らと果敢な文芸批評を展開し、投書欄では若き日の徳田秋声も激しい社会批判を展開している。投稿雑誌の枠を越えた文芸批評誌として近代文学・近代史研究に必須の文献である。

●推薦＝楨林混二・平出 隆

陽 其二・堀越修一郎ほか 編〔明治10年～明治31年刊〕

穎才新誌 全20巻・別冊1

別冊＝解説（上 笙一郎）・総目次・索引
B 5判・上製・総9,732頁
揃定価460,000円
'91年12月～'93年12月配本完結〔復刻版〕

本誌は、自由民権運動のただ中に創刊された全国的規模の投稿雑誌の先駆である。明治初期・中期の青少年たちの文章・絵画・詩歌・書の晴舞台であった本誌は、「明治文学の幼稚園」と呼ばれるほど、のちに多くの作家・政治家・学者を輩出した。1870～90年代日本の、地方も含めた文化・社会状況を生々しく体現する第一級資料として近代思想史・教育史・文学史研究に提供するものである。

●推薦＝大久保利謙・上笙一郎・唐澤富太郎・佐藤秀夫・久木幸男・堀越克明・本田和子

石井研堂 主宰〔明治22年～明治28年刊〕

小国民全16巻・別冊1

復刻版編集＝上 笙一郎・上田信道
別冊＝解説（上 笙一郎）・解題（上田信道）・総目次・索引
／付＝『「小国民」綜覧（石井研堂編）』（1941年）
B 6判・A 5判・上製・総7,980頁
揃定価288,000円
'98年11月～'99年10月配本完結〔復刻版〕

本誌は、児童文学・児童文化の草創期に創刊された少年・少女向け児童総合雑誌の嚆矢である。のちに創刊された博文館の『幼年雑誌』と人気を二分したが、あくまで優位を保ち、多くの読者を取りこにした。執筆はほとんど石井研堂ひとりが行なったが、ほかにも幸田露伴・小山西薫・金田一京助・鈴木三重吉などが寄稿した。本復刻では、創刊から誌名が「少国民」に改まる1895年までを対象とし、児童文学史及び近代教育史・文学史研究に呈するものである。

●推薦＝勝尾金弥・本田和子・山口昌男・山住正己

貴司山治 主宰〔昭和10年～昭和12年刊〕

文学案内 全10巻・別冊1・付録1

別冊＝解題（浦西和彦）・総目次・索引
付録＝「小さい花束」／ハイン・バルザック肖像写真／
「文学新聞」（2号・8号）
菊判・上製・総3,452頁
揃定価140,000円
'05年6月～10月配本完結〔復刻版〕

本誌は、大衆小説作家であり、プロレタリア文化運動の中心人物の一人として知られる貴司山治が主宰し、昭和10年10月に創刊された。文学好きの勤労大衆に創作の見本を示し、「生産・勤労の場を描いた小説」を募集・掲載し、労働者の中から作家を養成することを目的とし、アジアの文学作品の紹介、全世界の労働者文学の現状を報告するなど、労働運動史・プロレタリア文学史・旧植民地文学史の研究者にとって貴重な資料である。全22号を復刻。

●推薦＝伊藤共治・浦田義和・黒古一夫・紅野敏郎

犬田 卯・鐘田研一ほか主宰〔昭和2年～昭和8年刊〕

農民全5巻・別冊1

別冊＝解説（高橋春雄）・総目次・索引
 A 5判・上製・総2,542頁
 揃定価 85,000円
 '90年10月刊〔復刻版〕

シャルル・ルイ・フィリップの記念講演会をきっかけに農民文学運動が興隆した1920年代、本誌は犬田卯らが農民文芸会の機関誌として創刊した。大同団結をうたって都市のプロレタリア文学と一線を画しての農民自身による解放・文化創造を目的としたが、政府側の弾圧と運動内部の思想的対立によって幾度かの創廃刊を繰り返す。戦前の農民運動・農民文学運動研究に必須の重要資料として、付録の「農民リーフレット」「農民自治」をも合わせて復刻する。

●推薦＝小田切秀雄・住井すゑ・林 有一

現代日本詩集

1927年～1944年 全5巻・別冊1

別冊＝解説（澤 正宏）・執筆者索引
 A 4判・上製・総1,770頁
 揃定価 125,000円
 '09年12月～'10年5月配本完結〔編集復刻版〕

昭和戦前・戦中期にかけて、その年に活躍した詩人とその作品を紹介する「年鑑詩集」がほぼ毎年刊行されていた。有名無名を問わず多くの詩人を紹介するこの詩集は、まさに当時の「詩壇の縮図」ともいべきものである。本資料集成には、1927年から1944年にわたって刊行された「年鑑詩集」22点が収録され、総1,100名にもおよぶ詩人のデータおよび3,800の作品が含まれている。

昭和戦前・戦中期における「現代詩アンソロジー」の集大成。
 ●推薦＝阿毛久芳・佐々木幹郎

エポック社 発行〔大正13年～大正15年刊〕

ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム 全10冊・別冊1

別冊＝解説（梅宮弘光・五十殿利治・澤 正宏・西田勝）・総目次・索引
 B 5判変形・並製・函入・総258頁
 揃定価 30,000円
 '07年7月刊〔復刻版〕

築地小劇場が開場した1924年6月、野川隆、橋本健吉（北園克衛）、玉村善之助ら若き詩人たちが「既成文壇への挑戦」を掲げて、様々な「言語実験」をちりばめた詩雑誌を創刊した。この『G・G・P・G』は震災後の状況を背景に出現した詩誌であり、日本のダダイズムの詩が最もピークに達した時に創刊され、日本のシュールレアリスムの詩がスタートしようとした年に終刊したことの意味は大きくて深い。

『マヴォ』に匹敵する幻の文芸雑誌、待望の復刻！
 ●推薦＝五十殿利治・澤 正宏

富士正晴・野間宏・桑原静雄 主宰〔昭和7年～昭和17年〕

三人全6巻・別冊1

別冊＝解説（山田博光）・回想（荒木 傳、伊東幹治、大川公一、尾末奎司、北野昭彦、野間光子、平林 一、廣重 聰、富士正夫）・総目次・索引
 B 5判・A 5判・上製・総2,334頁
 揃定価 90,000円／'02年7月刊〔復刻版〕

本誌は、象徴派詩人・竹内勝太郎に師事した三高の3人の学生が創刊した詩雑誌である。同人誌『三人』には、富士正晴の後半生を予感させる詩生活第1作「神々の宴」や野間宏の戦後の文壇出世作『暗い絵』の原型となった初めての小説「車輪」など、目を瞠る多くの習作が収録されている。1942年、内務省の指示による同人雑誌統合をきらい、第28号で廃刊した。創刊号から終刊号までの全28号を復刻し、近代文学・思想研究者に提供するものである。

●推薦＝川村 湊・黒井千次・長谷川龍生

文芸時報社 刊〔大正14年～昭和5年刊〕

文芸時報 全3巻・別冊1

別冊＝解説（山内祥史）・総目次・索引
 B 4判・上製・函入・総1,208頁
 揃定価 70,000円
 '87年12月刊〔復刻版〕

本紙は、「文芸界に於ける唯一の文芸新聞」として創刊された文壇情報紙である。執筆者も当時の文壇を代表する、芥川龍之介・菊池寛を始めとする大型・中堅の作家・評論家を揃え、また1920年代後半の文壇の状況を舞台裏など様々な面から照射し、いきいきと映しだしている点でも貴重な資料である。美術を中心に芸術関係の記事が多いことも特色のひとつである。本紙の復刻は、文学史・近代史研究に新たな書き換えを迫るものとなる。全150号を収録。

●推薦＝青山 毅・匠 秀夫・保昌正夫・森本 修

日本文学報国会 刊〔昭和18年～昭和20年刊〕

文学報国

解説（山内祥史）・解説（高橋新太郎）・総目次・索引付き
 A 3判・上製・函入・総160頁
 定価 18,000円
 '95年2月再刊〔復刻版〕

本紙は、太平洋戦争下の昭和17年5月に、国策の周知徹底と宣伝普及のため情報局の指導により発足した日本文学報国会の機関紙である。その後期に同じ役割を果たした日本文芸中央会の機関紙『日本文学芸新聞』（弊社にて復刻刊行済み）の後継紙でもある。言論の自由を完全に奪い去った後の文化統制下の知識人・文化人の状況を明らかにし、帝国主義戦争と文学とアジアの問題を考える重要な材料として復刻するものである。

●推薦＝尾崎秀樹・小田切進・久保田正文

近現代文学

文芸懇話会 刊〔昭和11年～昭和12年刊〕

文芸懇話会 全2巻・別冊1

別冊＝解説（高橋新太郎）・総目次・索引
A 5判・上製・総1,516頁
揃定価 53,000円
'97年6月刊〔復刻版〕

本誌は、文壇・文学者のファシズム統合への道を拓いた官民合同の文学団体＝文芸懇話会の機関誌である。同会は1934年3月、内務省警保局長松本学が文化統制を目的に直木三十五らファシショ作家を抱え込んで創立、大衆文学・自由主義までの多くの作家を取り込むことに成功した。編集は交代制で、川端康成・菊池寛・室生犀星・吉川英治・徳田秋声・島崎藤村・佐藤春夫ら。国家の文化政策とそれに対峙する文学者とのせめぎ合いを明らかにする。

●推薦＝海野福寿・榎本隆司

武田麟太郎 主宰〔昭和11年～昭和13年刊〕

人民文庫 全26冊・別冊1

別冊＝解説（小田切秀雄）・総目次・索引
菊判・B 6判・並製・総5,034頁
揃定価 180,000円
'96年6月刊〔復刻版〕

二・二六事件のまさに10日前に創刊された本誌は、内務省の後押しで文芸統制のために結成された文芸懇話会や一部にファシショ的傾向のある『日本浪漫派』などの文学の体制内化を厳しく糾弾し、被抑圧階級＝庶民に文学の起点を求めた。

反ファシズム・人民文学志向の文学雑誌として、苦悩する若い左翼文学者たちの戦前最後の砦となつた本誌が、文学史上・近代史上に占める位置は重要である。

●推薦＝池田浩士・小田 実・長谷川啓・水上 勉

図書新聞社 刊〔昭和24年～昭和63年刊〕

図書新聞 全四期 全37巻・別冊4

解説＝矢口進也（第一期別冊に収録）
第1期揃定価 234,000円 全9巻・別冊1
第2期揃定価 234,000円 全9巻・別冊1
第3期揃定価 258,000円 全10巻・別冊1
第4期揃定価 245,000円 全9巻・別冊1
B 4判・A 4判・上製・総15,962頁
'89年5月～'92年2月配本完結〔復刻版〕

『図書新聞』は、1949（昭和24）年6月、『日本読書新聞』編集長であった田所太郎によって創刊された。戦後の混沌のなかにも新しい日本創造の機運が大きく高まっていた頃に登場し、現在も引き続き刊行されている本紙は、戦後から現在にかけての日本の出版事情及び文化状況をそのまま伝える書評紙である。先行の書評紙『日本読書新聞』とともに、戦後の日本社会・思想界・文化界の状況を伝える貴重な資料である。

●推薦＝稲葉三千男・瀬戸内寂聴・布川角左衛門・野間 宏

株式会社 読書人 発行〔昭和24年～昭和58年刊〕

週刊 読書人 全Ⅲ期 全27巻

第Ⅰ期揃定価＝252,000円 全9巻
第Ⅱ期揃定価＝252,000円 全9巻
第Ⅲ期揃定価＝252,000円 全9巻
B 4判・上製・総11,524頁
'96年5月～'98年12月配本完結〔縮刷版〕

『日本読書新聞』『図書新聞』と共に、我が国の代表的書評紙の一角をなす『週刊読書人』は1958年5月に創刊され今日まで継続して刊行されている。本紙は、先行2紙がその創立者の個性や編集者の思想的傾向を強く出した紙面構成であるのに対し、どちらかといえば、出版界全体を俯瞰した紙面が多いことを特徴とする。戦後の出版史を知る上で、また戦後の日本の文化状況を知る上で貴重な資料である。前身紙『全国出版新聞』『読書タイムズ』も収録。

●推薦＝栗原 均・田村紀雄・服部敏幸・松本健一

坪田譲治・藤井真澄ほか 主宰〔大正8年～大正9年刊〕

近代文学資料保存会刊(1963年)の増補復刻版

黒煙 全10冊・別冊1

別冊＝回想（坪田譲治、新井紀一、内藤辰雄、吉田金重）
・解説（西田勝）・総目次
菊判・並製・帙入・総578頁
揃定価 35,000円
'92年11月刊〔復刻版〕

本誌は小川未明の青鳥会を母胎にして生まれた新浪漫主義的・反資本主義的文学雑誌として出発したが、のちに社会的文芸雑誌としての傾向を強め、民衆芸術を主張し、労働文学の機関となった。執筆者に未明・譲治・真澄のほか、丹潔・内藤辰雄・吉田金重・伊藤松雄・渡平民・新井紀一・馬場孤蝶・大庭柯公・堺利彦など。

1963年3月に日本近代文学研究所＝編集、近代文学資料保存会＝発行によって一部不備のまま復刻されたものを新たな原本の発見によってほとんどを補って販売するものである。

【取扱図書】

武者小路実篤 主宰〔大正10年～大正13年刊〕

生長する星の群 全10巻・別冊1

別冊＝解説（田中榮一）・総目次・索引
A 5判・上製・函入・4,914頁
揃定価 140,000円
'89年9月～'90年4月配本完結〔復刻版〕

「白樺」派と「新しき村」の人々を総動員した本誌は、個性豊かな武者小路実篤の大山脈を知る手掛りとなろう。各々の個性が花開くかのような「白樺」派の面々による翻訳の数々、岸田劉生の愛らしい表紙画――大正期の文壇・文学史を多面的に研究する上で不可欠の文献。雑誌『新しき村』と合併・改題した『人間生活』もあわせて全39冊を合本し復刻。

●推薦＝今井信雄・紅野敏郎・渡辺貫二

中里介山 主宰〔昭和10年～昭和11年刊〕

峠 全7冊・別冊1

別冊＝解説（伊藤和也）・総目次・索引
菊判・並製・函入・総1,050頁
揃定価 18,000円
'87年8月刊〔復刻版〕

本誌は、「大菩薩峠」で知られる作家・中里介山の「純粋個人雑誌」である。やはり介山の編集による『隣人の友』（大正15年創刊）とともに、介山とその周辺を辿るには必須の文献である。

〈第1号の内容〉

峠といふ字／わが元旦／著作道徳及著作権論（第一）／五日の旅／続日本武術神妙記／背景画家オツルナーの心境（創作）／紅雪記（長篇小説）／交遊録（其一）／わが古今人物観（其一）／漢詩提唱／李白（其一）／大菩薩峠脚本（東海道白根山連幕の巻終）／聖徳太子の研究／編輯餘録

荻原井泉水 主宰〔明治44年～昭和19年刊〕

層雲 全97巻

A5判・上製・総38,722頁
揃定価 1,652,000円
'96年6月～'02年9月配本完結〔復刻版〕
第I期（明治・大正期）全47巻（揃定価 752,000円）
第II期（昭和戦前期）全50巻（揃定価 900,000円）

本誌は、形式をきらい、内在的・主観的立場から句を生み出すために、季語無用・定型破壊を掲げた自由律俳句の舞台となった俳句雑誌である。創刊時には新傾向運動の河東碧梧桐を戴いたが、碧梧桐が去ったあとは、自由律俳句の牙城として野村朱鱗洞・芹田鳳車・尾崎放哉・種田山頭火・栗林一石路などの俳句作家を輩出した。

近代文学史上、また近代俳句史上、重要な位置を占める本誌を復刻し、研究機関・研究者諸氏に呈する。

●推薦＝金子兜太・佐佐木幸綱・坪内稔典・夏石番矢・山下一海

貴司山治研究会編

貴司山治全日記 DVD版 全4枚・別冊1

別冊＝『貴司山治研究』（解説＝伊藤純・浦西和彦・鳥羽耕史・中川成美・森久男・安岡健一、解題＝貴司山治研究会、分売可・定価 7,000円）
検索システムインストールディスク CD（1枚）付き
揃定価 287,000円
'11年1月刊

貴司山治はプロレタリア文学運動のなかで、多くの作品を生み、一貫して芸術の大衆化の問題を追究し続けた。創作活動を軸に、労働運動の「同伴者」としての立場を貫くが、1937年治安維持法違反による3度目の検挙ののち「完全転向」、戦争末期に京都で開拓に従事し、敗戦直後は開拓農民運動に参加、その後も多くの大衆小説を発表する。本資料は、1919年から71年までの日記と関連資料を完全デジタル化し、人名検索機能を付した。プロレタリア文学研究の新たな一頁を開く。

●推薦＝佐藤卓己・鶴見俊輔・ノーマ フィールド

趙 夢雲 編・著

「日本近代文学における上海」研究文献目録

1840年—1945年

本書は1840年から1945年までの間に日本人によって発表された上海を舞台とする小説、随筆、従軍記、詩及び上海に関する人文・社会関係の資料等を年表形式で網羅した。当時の社会情勢や文芸事象を付し、日本と上海との関係を通覧することもできる。

●A5判・上製・函入・260頁・定価 5,800円／'14年2月刊

宮嶋資夫 著／西田 勝 解説〔1916年刊〕
法政大学西田研究室 編【取扱図書】

坑夫

発行と同時に「残忍」な個所があるという理由で発売禁止となり紙型も押収されたため稀覯本となっている本書は、日本プロレタリア文学の先駆的作品である。序文＝堺 利彦・大杉 栄

●四六判・並製・200頁・定価 2,000円／'92年7月刊〔復刻版〕

文学時標社 刊〔昭和21年刊〕

文学時標

敗戦直後に創刊された本誌は、文学者の戦争責任を問い、様々な立場の人々との連帯を目差した、文学史上重要な存在である。回想（小田切秀雄・小田切進・佐々木基一）・解説（伊藤成彦）・総目次・索引付き。

●B5判・上製・90頁・定価 2,000円／'86年11月刊〔復刻版〕

大和田 茂 著

社会文学 一九二〇年前後

——平林初之輔と同時代文学

「民衆」が歴史の表舞台に初めて登場し、労働運動が開いた1920年前後の軍縮と「デモクラシー」の時代、文学は何を表現したのか。知られざる文学史の一面を鮮明に照射した意欲作。

●四六判・上製・344頁・定価 2,800円／'92年6月刊

田岡嶺雲 著／西田 勝 解説〔1910年刊〕
西田 勝・平和研究室 発行【取扱図書】

病中放浪

1906年7月から1909年11月までに書かれたエッセイを集めた、嶺雲最後の著作集。手記や書簡の形式で文明評論を展開。序＝大町桂月ほか、跋＝斎藤弔花、装丁＝小杉未醒、挿画＝小川芋銭。

●四六判・並製・函入・250頁・定価 3,500円／'00年6月刊〔復刻版〕

田岡嶺雲・小川芋銭 著／西田 勝 解説〔1908年刊〕
西田 勝・平和研究室 発行【取扱図書】

有聲無聲

老荘の世界に遊んだ芋銭の27枚の漫画と自賛、それらに嶺雲の1907年夏から歳末までに書かれた、鋭い文明批評を潜めたエッセイを加えた画文集。

●四六判・並製・函入・158頁・定価 2,000円／'00年6月刊〔復刻版〕

近現代文学

平沢計七 著／西田 勝 解説〔1919年刊〕
西田 勝・平和研究室 発行【取扱図書】

創作 労働問題

労働運動の天才的指導者・平沢計七が生前に残した唯一の小説戯曲集。本書の序で予言したとおり、関東大震災の混乱のさなかに軍警によって虐殺(亀戸事件)された平沢の真骨頂を示す。
● 四六判・並製・函入・288頁・定価6,000円／'03年10月刊

『安成貞雄文芸評論集』編集委員会 編・著
やす なり さだ お
安成貞雄——その人と仕事

「高等顧問」を自称、大正文壇の三奇人のひとりとして知られ、論壇の鬼才と謳われ、社会主義文芸評論家にしてエンサイクロペディスト=安成貞雄(1885~1924)の全貌を浮かび上がらせる。
● A5判・並製・228頁・定価2,500円／'04年7月刊

犯罪科学

36ページをご参照ください。

精神分析

37ページをご参照ください。

成功

38ページをご参照ください。

検証 藤村操

39ページをご参照ください。

日系アメリカ文学雑誌集成

58ページをご参照ください。

三好十郎著作集

94ページをご参照ください。

映画創造

95ページをご参照ください。

明治漢文教科書集成

119ページをご参照ください。

創刊号—特集・民権と文学 168頁・定価1,500円/'95年11月再刊	第12号—特集・第二次世界大戦と文学者 182頁・定価1,800円/'98年6月刊	第23号—特集・記憶と文学 186頁・定価1,800円/'06年2月刊
第2号—特集・女性解放と文学 182頁・定価1,500円/'97年10月再刊	第13号—特集・ポストコロニアリズムへの視点 156頁・定価1,800円/'99年6月刊	第24号—特集・詩 196頁・定価1,800円/'06年6月刊
第3号—特集・天皇制と文学 164頁・定価1,500円/'97年2月再刊	第14号—特集・中野重治 198頁・定価1,800円/'00年6月刊	第25号—特集・〈働くこと〉と〈戦争すること〉 176頁・定価1,800円/'07年2月刊
第4号—特集・核と文学 183頁・定価1,500円/'90年7月刊	第15号—特集・「女」と行為主体 160頁・定価1,800円/'01年6月刊	第26号—特集・「在日」文学 252頁・定価1,800円/'07年6月刊
第5号—特集・言論の自由と文学 218頁・定価1,800円/'04年3月再刊	第16号—特集・読むことの倫理 204頁・定価1,800円/'01年12月刊	第27号—特集・アジアの女性表現 196頁・定価1,800円/'08年2月刊
第6号—特集・環境と文学 160頁・定価1,800円/'92年7月刊	第17号—特集・海峡 212頁・定価1,800円/'02年8月刊	第28号—特集・文学の〈今〉を問う 168頁・定価1,800円/'08年7月刊
第7号—特集・近代文学研究のパラダイム 206頁・定価1,800円/'93年7月刊	第18号—小特集・文学へどう向き合うか 180頁・定価1,800円/'03年1月刊	第29号—特集・環「日本海」文学の可能性 180頁・定価1,800円/'09年2月刊
第8号—特集・関東大震災と文学 156頁・定価1,800円/'94年7月刊	第19号—特集・幻想としての〈地方〉 196頁・定価1,800円/'03年9月刊	第30号—特集・女性文学は、いま 198頁・定価1,800円/'09年6月刊
第9号—特集・戦争と文学 196頁・定価1,800円/'95年7月刊	第20号—特集・二つの帝国の狭間で 196頁・定価1,800円/'04年6月刊	第31号—特集・テキストの中の「戦争」 171頁・定価1,800円/'10年2月刊
第10号—特集・文学における社会性 120頁・定価1,800円/'96年7月刊	第21号—特集・帝国の周縁 206頁・定価1,800円/'05年4月刊	第32号—特集・日露戦争と文学 194頁・定価1,800円/'10年6月刊
第11号—特集・ジェンダーの探求 172頁・定価1,800円/'97年6月刊	第22号—小特集・現代文化の臨界点 144頁・定価1,600円/'05年6月刊	第33号—特集・一九五〇年代文学の可能性を探る 219頁・定価1,800円/'11年2月刊

近現代文学

第34号—特集・詩的言語の可能性
184頁・定価1,800円/'11年6月刊

第46号—特集・「労働文学」成立
百年
166頁・定価1,800円/'17年7月刊

第35号—特集・「種蒔く人」と秋田
186頁・定価1,800円/'12年2月刊

第36号—特集・〈3・11〉以降の社会
と文学
176頁・定価1,800円/'12年8月刊

第37号—特集・転向点・1933
210頁・定価1,800円/'13年2月刊

第38号—特集・大量死に立ち向かう
150頁・定価1,800円/'13年7月刊

第39号—特集・関東大震災90年とア
ナキズム文学
216頁・定価1,800円/'14年2月刊

第40号—特集・沖縄
162頁・定価1,800円/'14年7月刊

第41号—特集・グローバルアジアと
社会文学
192頁・定価1,800円/'15年3月刊

第42号—特集・歴史の岐路
212頁・定価1,800円/'15年8月刊

第43号—特集・貧困×ジェンダー×
戦争
166頁・定価1,800円/'16年2月刊

第44号—特集・震災後の文学は
可能か
174頁・定価1,800円/'16年8月刊

第45号—特集・日本とアメリカ
166頁・定価1,800円/'17年2月刊

【戦後文化運動雑誌叢書】

■戦後文化運動雑誌叢書①

南風書房 発行／北川晃二 編〔昭和21年～昭和24年刊〕

午前 全5巻・別冊1

解説(狩野啓子・長野秀樹・深野 治)・回想(北川晃二・伊藤桂一・大西巨人・風木雲太郎・都筑 均・那珂太郎・星加輝光・眞鍋呉夫)・総目次・索引

A 5判・上製・総 2,104 頁

揃定価 90,000 円 '04年 6月刊〔復刻版〕

本誌は昭和21年福岡の出版社・惇信堂が南風書房という発行所を立ち上げて、北川晃二を編集長として刊行した商業文芸誌である。敗戦直後で東京が未だ完全に機能していなかったことや、惇信堂が良質の紙を持っていたことなど、いくつかの条件が重なり、中央での出版ではなかったにもかかわらず、三島由紀夫、庄野潤三、中村真一郎、三好達治らにも作品発表の場を提供するなど、高い水準を保っていた。戦後直後の日本の状況をも伝える貴重資料。全25号。

●推薦＝大西巨人・紅野敏郎

■戦後文化運動雑誌叢書②

三帆書房 発行／大西巨人ほか 編〔昭和21年～昭和23年刊〕

文化展望 全3巻・別冊1

解説(赤塚正幸・大西巨人・狩野啓子)・総目次・索引

B 4判並製・B 5判上製・総 666 頁

揃定価 28,000 円 '04年 6月刊〔復刻版〕

『文化展望』は、敗戦直後の福岡で新しい文化への欲求の発露として昭和21年に発行された。その創刊号には太宰治の「15年間」が掲載され、坂口安吾、野間宏なども作品を発表している。「この時代における新しいジェネレーションの役割をいつも念頭に置き、「絶えず“第一義”を目指して努力する」ことを掲げ、戦後の新しい時代への第一歩を模索しその答えを発信している。全13号。

●推薦＝大西巨人・紅野敏郎

■戦後文化運動雑誌叢書③

鵬・ピオネ・藝術前衛 全2巻・別冊1

別冊＝解説(赤塚正幸・麻生 久・出海溪也)・総目次・索引

菊判・上製・総 886 頁

揃定価 35,000 円 '04年 6月刊〔復刻版〕

戦後という未知の時代を迎えるにあたり、自らの位置を詩によって築こうと集った若き詩人たちの軌跡を辿る資料。『鵬』(第6号から『F O U』に改題)〔昭和20年10月～昭和24年9月(全17号)〕発行＝鵬同人社(北九州八幡)編集人＝岡田芳彦／『ピオネ』〔昭和24年3月～同年6月(全3号)〕発行＝詩郷社 編集人＝出海溪也／『藝術前衛』(『鵬』『ピオネ』の合併改題誌)〔昭和25年2月～12月(全3号)〕付録＝『日本前衛詩集』『世界前衛詩集』発行＝藝術前衛グループ 編集人＝出海溪也

●推薦＝大西巨人・紅野敏郎

■戦後文化運動雑誌叢書④

九州サークル研究会 発行〔1958年～1961年刊〕

サークル村 全3巻・付録1・別冊1

別冊＝解説(松下博文・坂口 博・井上洋子)・回想(小日向哲也・うえだ ひろし・加藤重一・河野信子)・総目次・索引
付録＝「労働藝術」(創刊号)／「地下戦線」(全五号)／「炭砒長屋」(全五号)

A 5判・B 5判・上製・総 1,904 頁

揃定価 65,000 円 '06年6月刊〔復刻版〕

九州全県と山口県の地域や職場のサークル相互の交流と連帯を目的として1958年9月に創刊された〈サークル交流誌〉。発行主体は九州サークル研究会。創刊時の編集委員は上野英信、木村日出夫、神谷国善、田中巖、谷川雁、田村和雅、花田克己、森一作、森崎和江。会員は数十のサークルに所属する200余名であった。1959年に模索された〈全国サークル交流誌〉の提案と計画作成に大きな衝撃を与えた関連三誌と併せて復刻。敗戦後、集団の戦後思想史を形成したサークル運動の実相を伝える。

●推薦＝有馬 学・池田浩士・上野千鶴子・鶴見俊輔

■戦後文化運動雑誌叢書⑤

人民戦線社 発行／中西伊之助 編〔1945年～1949年刊〕

人民戦線 全5巻・別冊1

別冊＝解題(勝村 誠・秦 重雄)・総目次・索引

A 5判・上製・総 1,700 頁

揃定価 68,000 円 '06年10月刊〔復刻版〕

多様な知識人や作家に誌面を提供した本誌は、敗戦直後の労働組合運動、総選挙、食糧危機問題、女性の権利等を論じる一方で、多彩な文芸作品と批評を幅広く掲載し、エスペラントの普及にもつとめた。1949年7月の第33号を以って終刊となるが一貫して「日本人民による民主主義の実現をはかるために、全ての民主主義諸勢力を結集して民主人民戦線をつくる必要がある」という理念を貫いた。

●推薦＝高柳俊男・西田 勝

■戦後文化運動雑誌叢書⑥
大阪朝鮮詩人集団機関誌〔昭和28年～昭和38年刊〕

ヂンダレ・カリオン 全3巻・別冊1

別冊＝解説(宇野田尚哉・細見和之)・鼎談(金時鐘・鄭仁・梁石日)・総目次・索引
A 5判・上製・総 922 頁
揃定価 36,000 円 '08年11月刊〔復刻版〕

■戦後文化運動雑誌叢書⑦

東京南部サークル雑誌集成 全3巻・付録1・別冊1

別冊＝解説・解題(道場親信・浜賀知彦)・回想(浅田石二・桂川寛・丸山照雄・望月新三郎)・総目次・索引
付録＝「松川報告詩集、松川構成詩」「東京文学新聞」ほか
B 5判・上製・総 1,864 頁
揃定価 68,000 円 '09年7月刊〔編集復刻版〕

■戦後文化運動雑誌叢書⑧
総合文化協会機関誌／眞善美社 発行〔昭和22年～昭和24年〕

総合文化 全3巻・別冊1

別冊＝解説(鳥羽耕史)・総目次・索引
A 5判・上製・総 1,318 頁
揃定価 48,000 円 '09年10月刊〔復刻版〕

■戦後文化運動雑誌叢書⑨
新女性社 刊〔昭和25年～昭和31年〕

新女性 全16巻・別冊1

別冊＝解題(伊藤康子)・総目次・索引＋DVD-ROM(全号表紙画像及び総目次・索引データ)付き
A 5判・上製・総 9,496 頁
揃定価 370,000 円
'10年6月～'11年12月刊〔復刻版〕

■戦後文化運動雑誌叢書⑩
人民文学社 発行〔昭和25年～昭和30年刊〕

人民文学 全15巻・付録1・別冊1

別冊＝解説(道場親信・鳥羽耕史)・解題(鳥羽耕史)・回想(柴崎公三郎)・総目次索引＋DVD(表紙画像データ、総目次索引 PDF データ) 付録＝『別冊 文学の友』／『小林多喜二～人と作品』
A 5判・上製・総 6,750 頁
揃定価 256,000 円 '10年11月～'11年11月刊〔復刻版〕

■戦後文化運動雑誌叢書⑪
学園評論社 発行〔昭和27年～昭和31年刊〕

学園評論 全9巻・付録1・別冊1

別冊＝解題(中西直樹)・総目次・索引 付録＝『わだつみに誓う一京大天皇事件の記録』／『もう黙ってはいられない—東大事件はこれからもおこる』／『日本学生詩集—ささやくように』／『水爆よりも平和を』／『世界の学生運動の新しい方向—第九回国際学連評議会報告・勧告集』
A 5判・上製・総 4,230 頁 揃定価 170,000 円
'11年7月～'12年7月配本完結〔復刻版〕

ここに復刻する『ヂンダレ』『カリオン』『原点』『黄海』は、在日朝鮮人文化運動・在日朝鮮人文学・サークル詩運動といった観点から今後詳細に検討されるべき資料であり、オルグされた側がオルグした側の意図を超えて自己主張を始めるという、そのダイナミズムが特に重要である。50年代という在日朝鮮人にとってはとりわけ困難が多かった時代に、詩をもってその時代と真摯に向きあった若き詩人たちの言葉をいかに汲み取るかが、我々の課題であろう。

●推薦＝金時鐘・梁石日・鶴飼 哲・米谷匡史

敗戦後、労働者らを主体とするサークル運動が全国各地で展開され、多くの雑誌や詩集を生み出した。本資料集成は東京南部におけるサークル運動を中心に、浜賀知彦氏によって蒐集された膨大な資料を復刻。戦後史研究の空白を埋める貴重な資料群。

第1巻＝『詩集下丸子』『京浜文学新聞』『くらしのうた』『石ツブテ』『文学南部』『京浜のうたごえ』『下丸子通信』『南部文学通信』／第2巻＝『突堤』(第13号～第19号)／第3巻＝『突堤』(第20号～第24号)『南部のうた』『版画集』『京浜絵の会』『生活版画集』

●推薦＝小関智弘・坪井秀人・西川祐子・ハリー ハルトゥーニアン

本誌は1947年7月から49年1月にかけて眞善美社より刊行された。戦時下における花田清輝、中野秀人らの〈文化再出発の会〉と、加藤周一、中村真一郎、福永武彦らの〈マチネ・ポエティック〉のグループとの合流によってはじめられ、そこに安部公房、野間宏など若き作家が集い、野心的な誌面を創出した。ここは敗戦後に解放された文学・思想空間における世代間の交流と論争の場であり、前衛芸術運動の拠点でもあった。「戦後文学」もう一つの起点。

●推薦＝池田浩士・高良留美子・鶴見俊輔・成田龍一

本誌は、GHQ占領政策が右旋回し、新憲法下で再出発した女性運動も冷戦激化の影響を大きく受けた時代のなかで、性差別や政治弾圧事件、生活や職場の問題、平和擁護の闘いなど、懸命に生きる女性たちの姿を記録した。女性たちの生活の経験を綴った「真実の記」は本誌の特徴である。また、新作映画、献立、洋裁などの娯楽記事、松田解子、佐多稲子、野間宏らによる文芸・教養記事などの誌面づくりにも努めた。戦後女性史、近代史の重要資料である。

●推薦＝犬丸義一・坪井秀人・橋本宏子・藤目ゆき

敗戦後、各地で文化運動が勃興しサークル雑誌が誕生するなか、本誌は1950年、『新日本文学』を離れた江馬修、藤森成吉らにより創刊された。安部公房、野間宏、労働者作家の小林勝、春川鉄男、さらに金時鐘、松田解子らに在日朝鮮人、女性の執筆者も多い。誌面には、占領から単独講和の激動下における〈人民〉の、東アジアとの連帯、現状変革のまなざし、文学活動が浮かびあがる。共産党の50年分裂を色濃く反映しながらも、1950年代の時代と文化を考察するうえで貴重な雑誌である。後継誌『文学の友』も併せて復刻。

●推薦＝加納実紀代・島村 輝・坪井秀人・成田龍一

占領から単独講和・日米安保条約へ、そして朝鮮戦争、レッドパージの嵐のなかで、学生たちは各地で反戦平和運動、社会運動を展開した。このようななかで創刊された本誌(のち『学生生活』と改題)は、全学連ときわめて密接に関わりながら、全国各地の学生が編集に携わった。誌面には、学生運動、大学自治と学問の自由等のテーマのほか、評論や小説、広く学生生活全般に関わる記事が掲載され、また主要大学の男子学生に限られない多様な若者の声も収められた。1950年代学生運動史の貴重な資料として復刻刊行する。

●推薦＝宇野田尚哉・西山 伸

■戦後文化運動雑誌叢書⑫
琉球大学芸部(琉大文藝クラブ)発行〔1953年～1978年刊〕

琉大文学 全5巻・付録1・別冊1

別冊＝解説(我部 聖)・総目次・索引
A5判・上製・総2,556頁
揃定価96,000円
'14年4月～11月配本完結〔復刻版〕

1953年7月、米軍の強い取締りの中『琉大文学』は創刊された。誌面で多くの同人がペンネームを使用していたのは、名前を秘することが必要な時代であったからだ。同人にとって、「米軍統治下の現実といかに立ち向かうか」が文学・思想上の大きな問題であった。「島ぐるみ闘争」、ベトナム戦争、そして高度経済成長に突き進む日本「本土」との間で「復帰」に向かう時代状況と切り結びながら文学表現を試みてきた。同誌と同時期に足跡を残した『前衛地帯』『沖繩文学』『サチュリコン』『原点』とともに復刻する次第である。

●推薦＝小森陽一・新城郁夫・仲程昌徳・目取真俊

■戦後文化運動雑誌叢書⑬
河北新報社発行〔昭和21年～昭和25年刊〕

東北文学 全8巻・別冊1

別冊＝解説(高橋秀太郎)・総目次・索引
A5判・上製・総4,134頁
揃定価145,000円
'16年9月～'17年1月配本完結〔復刻版〕

本誌は1946年1月に仙台の河北新報社より創刊された総合文芸誌である。久板栄二郎、日比野士朗が編集人を務めた。創刊号では武者小路実篤が巻頭を埋めた他、以降寄稿者として太宰治、壺井栄、舟橋聖一、石坂洋次郎、飯田蛇笏、室生犀星、青野季吉、桑原武夫、大池唯雄、白鳥省吾、草野心平ら多くの疎開作家、東北出身者が名を連ねる。文学作品だけでなく、他地域の文学状況や最新の文学事情について鼎談や記事を載せ今後の文学展望を示し、東北出身の新人作家の発掘に努める等、「新しい文学」を東北から発信していく強い意欲を持ち続けた。

●推薦＝安藤 宏・石川 巧・澤 正宏・山田有策

【社会文学雑誌叢書】

■社会文学雑誌叢書①

堺 利彦・大杉 栄ほか 主宰〔明治36年～明治42年刊〕

家庭雑誌 全6巻・付録1・別冊1

別冊＝解題（鈴木裕子）・総目次・索引

付録＝第6巻第3・4号

菊判・並製・函入・総2,550頁

揃定価 48,000円

'83年1月刊〔復刻版〕

堺利彦が由分社より創刊した『家庭雑誌』は、西村渚山、大杉栄、深尾韶、堀保子等の編集の手を経ながら、一貫して家庭の中から社会主義を発展させ、かつ家庭の近代化をはかることを目的とした啓蒙雑誌である。その誌上では新しい家庭のあり方、夫婦のあり方、戦争の問題等がユーモアを交え、温かくかつ鋭く論じられている。日本近代史研究のみならず、女性問題・家族問題研究の大きな手がかりとなるものである。総54冊を収録。

●推薦＝小田 実・向坂逸郎・西田 勝・樋口恵子

■社会文学雑誌叢書②

堺 利彦 主宰〔大正4年～大正10年刊〕

新社会 全7巻・別冊1

別冊＝解題（堀切利高）・総目次・索引

A5判・上製・函入・総3,500頁

揃定価 75,000円

'82年7月刊〔復刻版〕

本誌は、『へちまの花』を改題して売文社から創刊された社会主義理論誌である。大逆事件以来隠忍を強いられてきた、堺利彦を中心とする明治の社会主義者たちが、第一次世界大戦後の状況の変化から復活した、その運動の中軸となったのがこの『新社会』である。総合啓蒙雑誌的な性格からマルクス主義理論誌の性格を強めてゆき、特にロシア革命の紹介、資本論の解説等、当時の社会主義運動に果たした役割は大きい。誌名は『新社会』『新社会評論』『社会主義』と変遷するが、本復刻版にはこれら全62冊を収録している。

●推薦＝近藤真柄・向坂逸郎・隅谷三喜男・西田 勝・山川振作

■社会文学雑誌叢書③

高島素之 主宰〔大正8年刊〕

国家社会主義

解題（田中真人）・総目次・索引付き

A5判・上製・函入・総272頁

定価 4,800円

'84年2月刊〔復刻版〕

『新社会』の中心人物の一人高島素之は、堺利彦・荒畑寒村らと袂を分かち売文社の名を引き継ぎ『国家社会主義』（全4号）を刊行した。

日本マルクス主義学の第一人者を自他共に認じ、のちに『資本論』を日本で最初に完訳する高島をはじめとし、遠藤友四郎、尾崎士郎ら国家社会主義者は、マルクス経済学説に立脚して日本国体の上に社会主義を実現することを主張した。のちに猛威をふるう昭和ファシズムの先駆けともいふべき本誌は、近代史・思想史研究に必須の資料である。全4号を合本し復刻。

●推薦＝伊藤 隆・都築久義

■社会文学雑誌叢書④

茅原華山 主宰〔大正5年刊〕

洪水以後 全1巻・別冊1

別冊＝解題（福田久賀男）・総目次・索引

B5判・上製・函入・総598頁

揃定価 18,000円

'84年3月刊〔復刻版〕

本誌は、大正デモクラシーの総合誌『第三帝国』が分裂したのち、茅原華山が後継誌として発刊した総合雑誌である。14号という短命にもかかわらず、広津和郎の初期文芸評論が毎号載るなど、文学研究の上からも貴重な資料であるだけでなく、大正デモクラシーの息吹きをいきいきと伝える資料として、近代史研究にも見逃せない稀観雑誌である。全14号を合本し復刻。

●推薦＝小田切秀雄・渋川 驍

■社会文学雑誌叢書⑤

大杉 栄 主宰〔大正7年刊〕

文明批評

付録＝跋（荒畑寒村・西田 勝）・

解題（堀切利高）・総目次

菊判・上製・函入・総152頁

定価 4,600円

'84年3月刊〔復刻版〕

大正5（1916）年11月の葉山日蔭茶屋事件で、社会的にもそして運動仲間からも全くの孤立状態にあった大杉栄の再生の第一声ともいえる思想文芸雑誌。全2号分を合本し復刻。

第三次『近代思想』の観を呈している本誌は、荒畑寒村、山川均らも寄稿している。出色というべきは、大杉による大山郁夫・吉野作造らの民本主義批判、伊藤野枝による宮本百合子論及び社会文学として特筆すべき佳作「転機」が掲載されており、日本文学史を語る上で欠かすことのできない重要資料である。

■ 社会文学雑誌叢書⑬

内藤民治 主宰〔大正6年～大正10年刊〕

中外全11巻・別冊1

別冊＝解説（岩井忠熊・堀切利高）・総目次・索引
 B5判・上製・函入・総7,148頁
 揃定価 220,000円
 '88年5月～12月配本完結〔復刻版〕

本誌は『改造』『解放』に先駆けた大正デモクラシー期の進歩的総合雑誌で、自由主義的雑誌の中では最も発行部数が多かった。軍国主義者や国家主義者が筆を執る一方、編集部は一貫して平和優先と民主主義を標榜し、当時公然と本名を名乗って執筆することが不可能だった社会主義者、そして女性作家・女性解放論者にも積極的に誌面を提供している。一方、「創作」欄も充実しており、大正期文学研究の宝庫といえる。発禁号及び復刊号を含めた全22号を収録。

● 推薦＝江口朴郎・西田 勝・松尾尊兌・三國一朗

■ 社会文学雑誌叢書⑭

茅原華山 主宰〔大正5年～大正6年刊〕

日本評論 全4巻・別冊1

別冊＝解説（茅原 健）・総目次・索引
 B5判・A5判・上製・函入・総2,470頁
 揃定価 65,000円
 '89年6月刊〔復刻版〕

大正デモクラシーの気運が高揚する中で、自らの思潮的命題を「第三帝国」という言葉に託した逸民華山。その『第三帝国』そして『洪水以後』の後継誌が本誌である。華山のもとに集まった、当時の知識人を総動員しての内容は、大正デモクラシー期の思潮の1つと言えよう。また自由律俳句にその発表場所を提供していることも見逃せない。小川未明・岩野泡鳴・金子洋文等の油のりきった文学作品の数々が、興味を増す。全17号のうち欠号3号を除く14号を合本。

● 推薦＝太田雅夫・松尾尊兌・福田久賀男

■ 社会文学雑誌叢書⑮

生方敏郎 主宰〔大正5年～大正6年刊〕

文芸雑誌 全2巻

解説（福田久賀男）・総目次・索引付き
 A5判・上製・函入・1,034頁
 揃定価 25,000円
 '89年9月刊〔復刻版〕

本誌は、大正文壇の裏面史を垣間見せると共に、投稿雑誌として重要な研究資料である。特に、サンボリズムの竹内勝太郎、新感覚派の川端康成をはじめとして、久保栄、近藤憲二等、次代をになう個性がしのぎをけずる投稿欄は見逃せない。後に戦時体制に抵抗していった生方敏郎の文壇への大きな貢献がここにある。生方敏郎そして『文芸雑誌』を見ることで、文学界の大きな流れをつかむことができる。まさに近代文学研究者にとって必読の書である。

● 推薦＝鶴見俊輔・山敷和男

■ 社会文学雑誌叢書⑯

加藤一夫 主宰〔大正8年刊〕

労働文学

解説（大和田茂）・総目次・索引付き
 A5判・上製・函入・総258頁
 定価 8,000円
 '89年12月刊〔復刻版〕

本誌は、加藤一夫が「労働者の思想や感情を発表する」ことを目的に創刊した文芸雑誌である。ロシア革命や米騒動に象徴される労働運動の高揚を背景に、藤井真澄の『黒煙』とともに1910～20年代労働文学の拠点としての役割を担った。

トルストイアンで人道主義者であった加藤が翌年、自由人連盟を結成してアナキズム運動に身を投じてゆく過程で見せる重要なターニングポイントを明らかにする資料としても貴重である。

● 推薦＝伊藤信吉・祖父江昭二

■ 社会文学雑誌叢書⑰

加藤一夫 主宰〔大正14年～昭和2年刊〕

原始 全3巻・別冊1

別冊＝解説（紅野敏郎・小松隆二）・総目次・索引
 A5判・上製・函入・総1,256頁
 揃定価 30,000円
 '90年5月刊〔復刻版〕

本誌は、自由人連盟の設立にかかわったころの加藤一夫が思索の生活の発露を求めた個人雑誌として出発した。2年目からは文芸を重要な柱として多くの寄稿者を得、第3巻からは「無産階級文芸雑誌」と銘打って、アナキスト系文芸雑誌としての性格をはっきりと打ち出していった。古田大次郎や朴烈・金子文子らへ深い思いを寄せた本誌は、大杉栄死後のアナキスト陣営の中心として文芸における「アナ・ボル」論争で先陣を切る役割も果たした。

● 推薦＝奥野健男・山極圭司

女性史・女性文学・ジェンダー

処女会中央部 発行〔大正7年～大正11年刊〕

処女の友 全5巻・別冊1

別冊＝解説（渡邊洋子）・総目次・索引
A 5判・上製・総3,054頁
揃定価 90,000円
'14年11月刊〔復刻版〕

1918(大正7)年11月、処女会中央部によって創刊された、尋常小学校を卒業した後、農山漁村で生活する女性、都市部の紡績工場などで働く女性を読者対象にした教育、啓蒙雑誌である。処女会中央部は、「処女会の父」と呼ばれ、内務省に嘱託勤務をしていた天野藤男の尽力により、地方で女子の修養のために活動していた婦女団体の連絡機関として同年設立された。巡廻講演、職業紹介などの身の上相談が主な事業内容であった。大正期の農山漁村での女子教育の必要性はどのような現実で求められたのか。総力戦体制、国策「大陸の花嫁」に繋がった女子教育の前史としても重要な資料である。

●推薦＝橋本紀子・辻 智子

東京連合婦人会 発行〔昭和3年～昭和17年〕

連合婦人 全9巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（後藤明日香）・総目次・索引
付録＝『昭和十四年婦人年鑑』東京連合婦人会 発行
『沿革史』大日本連合婦人会 発行
A 4判・B 5判・上製・総3,842頁
揃定価 200,000円
'12年12月～'13年10月配本完結〔復刻版〕

1923(大正12)年の関東大震災を機縁に大同団結した東京市内外の婦人団体30有余(第1号発刊時)は、東京連合婦人会に集合した。その連絡機関誌の本誌は、婦選獲得同盟、日本基督教婦人矯風会など、政治的主張の明確な団体の連絡提携の機能を果たした。委員長の吉岡彌生、副委員長の守屋東をはじめ、教育者や女性活動家の多彩な論評・時評が掲載され、当時の婦人問題を浮き彫りにしている。昭和戦前期の外交・経済・思想の非常時局面を伝える誌面は、ジェンダー研究の宝庫である。

●推薦＝加納実紀代・酒井シヅ・吉岡博光

大日本婦人会 発行〔昭和17年～昭和20年〕

日本婦人 全5巻・別冊1

別冊＝解説（小山静子）・総目次・索引
B 5判・A 5判・上製・総1,686頁
揃定価 80,000円
'11年11月刊〔復刻版〕

本誌は、戦時下の成人女性のほとんどを統合・網羅した最大の官製女性団体「大日本婦人会」の機関誌として、国のために戦う兵士の妻、母として銃後を守る役割を女性たちに説き、総力戦体制に女性たちを動員した。前線の兵士の活躍や戦況、各地の大日本婦人会支部の活動、銃後家庭の衣食住、育児情報を伝え、わずかながら文芸記事も掲載された。この時期社会で活躍した知識層女性たちも多く執筆している。女性たちが銃後をどのように担ったのか、「戦争と女性」という問題を考える上で貴重な資料である。

●推薦＝一ノ瀬俊也・木村涼子・佐藤卓己

鈴木裕子 編・解説

日本女性運動資料集成 全10巻・別巻1

A 5判・上製・函入・総8,604頁
定価 各巻15,000円
'93年11月～'98年12月配本完結

女たちの近代を女たち自身の運動によって記録する、女性史研究にとって待望の基本資料集。ピラ・パンフ、運動体の機関誌類をはじめ、官憲側の資料、一般紙誌を駆使して、自由民権期以降敗戦までの激動の時代を生きた女たちの実像に迫る。女性労働運動・無産婦人運動・廃娼運動・婦選運動・職業婦人運動、翼賛運動について多数の資料を提供、全編にわたり戦争協力の問題を取り上げた。

●推薦＝上野千鶴子・落合恵子・金森トシエ・加納実紀代・住井すゑ・高橋喜久江・土井たか子・松尾尊発・もろさわようこ・米田佐代子

改造社 発行〔大正11年～大正13年刊〕

女性改造〈戦前編〉 全12巻・別冊1

別冊＝解説（尾形明子・鈴木裕子）・総目次・索引
A 5判・上製・総7,224頁
揃定価 240,000円
'07年6月～'08年12月配本完結〔復刻版〕

1922年、「不当なる忍従を強いられ、奴隷として待遇されつつある幾百万姉妹解放のために」(創刊号巻頭言)本誌は誕生した。

社会主義色の濃い総合雑誌として成功していた『改造』の姉妹誌として文学・評論・科学分野での豪華な執筆陣を擁し、1920年代のフェミニズムの旗手である女性たちが多数執筆した。高踏的な女性解放雑誌として一時代を画した『女性改造』の戦前分を復刻し、女性史・文学史・近代思想史研究に資するものである。

●推薦＝石月静恵・佐藤卓己・成田龍一

婦選獲得同盟 刊〔昭和2年～昭和16年刊〕

婦選 全19巻・別冊1

別冊＝解説（松尾尊発・兒玉勝子）・総目次・索引
A 4判・A 5判・B 5判・上製・総7,572頁
揃定価 295,000円
'92年12月～'94年12月配本完結〔復刻版〕

本誌は、婦選運動の中核となって参政権・公民権・結社権の獲得を目指した婦選獲得同盟の機関誌として創刊された。婦選運動は各層の女性を結集し1930年には第1回全国婦選大会開催にいたるが、ファッション時代の到来とともに活動の比重を母子保護法制定・選挙粛正等の活動に比重を移し次第に体制側に組み込まれてゆく。戦前女権運動の最も大きなうねりを築いた活動の軌跡を刻む資料。

●推薦＝伊藤康子・土井たか子・縫田輝子・バーバラ モロニー・もろさわようこ

奥むめお 主宰〔大正12年～昭和16年刊〕

婦人運動 全30巻・別冊1

別冊＝解説（鈴木裕子）・総目次・索引
A 5判・B 5判・上製・総9,938頁
揃定価 300,000円
'90年6月～'91年12月配本完結〔復刻版〕

本誌は、1923年、奥むめおが若い職業婦人たちとともにつくった職業婦人社の機関誌である。誌名は『職業婦人』、『婦人と労働』、そして『婦人運動』と変遷する。1941年に廃刊されるまで、19年の間、常に生活者であり労働者である女性の立場にたち、「婦人消費組合協会」、「婦人セツルメント」、「働く婦人の家」を設立するなど、女性の連帯を求めた運動の記録として今日の女性問題に多くの示唆を与えている。女性史、社会運動史の研究に不可欠の資料。

●推薦＝一番ヶ瀬康子・兒玉勝子・中村紀伊・松尾尊発・丸岡秀子

全関西婦人連合会 刊〔大正13年～昭和12年刊〕

婦人 全24巻・別冊1

別冊＝解説（藤目ゆき）・総目次・索引
B 5判・上製・総9,860頁
揃定価 480,000円
'96年5月～'97年12月配本完結〔復刻版〕

本誌は、西日本全域の中産階級の女性を中心に300万人もの会員を擁し、戦前では世界でも最大規模の女性団体であった全関西婦人連合会の機関誌である。職業婦人団体・基督教婦人矯風会のほか官製・半官製女性団体をも含めた連合体であった同会は、女性運動の統合をもくろむ体制側の意図を越え、大正デモクラシーの風を受け、女性差別的な法律の改正・廃娼運動など女性問題に取り組み、とくに婦選運動では西日本の一大拠点として大きな役割を果たした。

●推薦＝石月静恵・上野千鶴子・小山仁示・宋連玉・松尾尊発

廓清会 刊〔明治44年～昭和20年刊〕

廓清 全33巻・別冊1

別冊＝解説（竹村民郎）・総目次・索引
B 5判・上製・総16,500頁
揃定価 495,000円
'95年11月刊〔復刻版〕

明治44（1911）年の吉原遊廓の大火の後、明治政府は、遊廓再興に反対する声を裏切って復活を許可した。本誌は、これを契機に結成され以降30年間、底辺女性の救済を訴え続けた廃娼運動体＝廓清会の機関誌である。その内容は、島田三郎・安部磯雄・山室軍平ら運動推進者の思潮、悲惨な娼妓の生涯・検閲制度・業者と警察の結託等遊廓の実態報告、そして運動の経過・資料統計を常に掲載するなど、まさに廃娼運動史の宝庫と言える。新たに発見された第35巻第3・4合併号も含め、15年ぶりに再復刻。

●推薦＝一番ヶ瀬康子・高橋喜久江・竹村民郎・松井やより

伊藤秀吉 著〔昭和6年刊〕

紅燈下の彼女の生活

日本廃娼運動史

四六判・上製・函入・解題（高橋喜久江）付き
『紅燈下の彼女の生活』＝694頁 定価8,000円
『日本廃娼運動史』＝610頁 定価7,000円
'95年11月再刊〔復刻版〕

吉原遊廓大火（明治44年）の後、公娼廃止を目指して設立された廓清会は、婦人矯風会とともに明治一大正一昭和期の公娼廃止運動の重要な支柱であった。

この廓清会の中心的人物である伊藤秀吉が著した本書は、その視点に多少の時代的制約があることは免れないにせよ、男女の民主主義者・キリスト者の良心が貫かれている。両書によって多くの人が、買売春の歴史と同時に廃娼を目指した人々の苦闘の歴史を知り、その根源を考える上で恰好の書。

●推薦＝高橋喜久江・吉見周子

買売春問題資料集成〈戦前編〉 全31巻・別冊1

別冊＝解説（第Ⅰ期＝ゆのまえ知子・秋定嘉和／第Ⅱ期＝藤野 豊）・総目次・索引
A 4判・B 5判・上製・総11,500頁
揃定価 760,000円
第Ⅰ期＝'97年4月～'98年4月配本完結
第Ⅱ期＝'02年10月～'04年2月配本完結〔編集復刻版〕

戦前期70年に及ぶ公娼制度をめぐる廃娼運動と存娼運動との攻防。そして良質の兵士増産のために性病管理＝買売春管理に腐心し、国際的な人身売買批判への対応に苦慮した、国家の性管理政策。廃娼運動関係資料中心の第Ⅰ期に引き続き、買売春管理政策と貸座敷業者側の機関紙類などに重点を置いた第Ⅱ期を刊行。さまざまな視点から考察されている買売春問題研究に必須の資料群・全945点。

●推薦＝江原由美子・小倉襄二・高橋喜久江・竹村民郎・もろさわようこ／浅野千恵・小野沢あかね・大日方純夫・酒井シツ

性暴力問題資料集成〈第Ⅰ期〉 **全25巻・別冊1**

別冊＝解説（藤目ゆき）・総目次
A 4判・B 5判・上製・総9,814頁
揃定価 600,000円
'04年7月～'06年12月配本完結〔編集復刻版〕

廃娼運動・存娼運動・買売春管理の資料を網羅した『買売春問題資料集成〈戦前編〉』に続く、戦後日本の性暴力／買売春問題を俯瞰する資料集成。占領期、米軍兵士による性暴力、警察と業者が占領軍に女性を提供した「慰安」機関・R A A協会、GHQの公娼廃止命令下の各自治体の買売春取締条例、売春女性を処罰の対象としたまま成立した売春防止法——1945～60年までの再編成された女性の売買の様相を700余点の資料群によって浮かび上がらせる。
●推薦＝高里鈴代・高橋喜久江・角田由紀子・宮本潤子・吉見周子

性暴力問題資料集成〈第Ⅱ期〉 **全11巻**

解説（藤目ゆき）付き
A 4判・上製・総3,930頁
揃定価 275,000円
'09年12月～'10年12月配本完結〔編集復刻版〕

【内容】第26巻＝1955年、全国性病予防自治会の協力のもとでおこなわれた、業者・従業婦を対象とする全国的調査の項目及び結果、そして東京の赤線のうち洲崎・向島・北品川の3カ所の業者アンケート記録183点を収録。／第27巻～第36巻＝売春女性の保護と、生活苦やDVなどに苦しむ女性たちの支援をおこなった神奈川県婦人相談所の資料。1950年から60年までの「身上調査票」「婦人相談票」「婦人保護台帳」など、2800件近くの事例によって様々な困難を抱えた女性の実態が浮かび上がる。
●推薦＝戒能民江・小野沢あかね・横田千代子・後藤弘子

荻野美穂・松原洋子・斎藤 光 編・解説

性と生殖の人権問題資料集成 **全35巻・別冊1**

別冊＝解説（荻野美穂・松原洋子・斎藤 光）・総目次・索引
A 4判・上製・総12,250頁
揃定価 875,000円
'00年6月～'03年2月配本完結〔編集復刻版〕

19世紀末から20世紀半ばまで、戦前戦後を通しての約80年間の性と生殖をめぐる繰り広げられた様々な動きを、500点の書籍・パンフレット・公文書など貴重資料であつづける初の資料集成。
〈収録内容〉
産児調節運動編——第1～14巻（解説＝荻野美穂）
優生問題・人口政策編——第15～26巻（解説＝松原洋子）
性科学・性教育編——第27～35巻（解説＝斎藤 光）
●推薦＝市野川容孝・川村邦光・柘植あづみ・成田龍一・樋口恵子・廣嶋清志

古川 誠・赤枝香奈子 編・解説

戦前期 同性愛関連文献集成 **全3巻**

解説（古川 誠・赤枝香奈子）付き
A 4判・上製・総1,080頁
揃定価 75,000円
'06年9月刊〔編集復刻版〕

「衆道」「男色」「鶏姦罪」「硬派」「美少年」などのキーワードに表されるオルタナティブな性愛の様相だけでなく、「同性心中」「エス」「男装」やスターの存在への憧憬も含めた女性たちの親密な関係をも包括した資料を収録。性的マイノリティとしての同性愛者、そして家父長制下における女性たちの親しいつながりが、どのようなまなざしで見つめられ、扱われたのか——近代日本における、同性愛をめぐるさまざまな言説を収集した待望の資料集成。
●推薦＝氏家幹人・川村邦光

太田武夫（典礼） 主宰〔昭和11年～12年刊〕

性科学研究〈改題 性教育〉 **全2巻**

解説（斎藤 光）・総目次・索引付き
A 5判・上製・総1,468頁
揃定価＝45,000円
'01年6月刊〔復刻版〕

産児調節運動家の医師で性科学者のパイオニアである太田典礼が主宰した性科学雑誌。性風俗、性教育、大学生への性意識・体験調査、性の歴史研究、性犯罪、生殖科学、売春の歴史、性病、産児調節・墮胎・恋愛論まで、広く性全般を網羅し「真面目な性科学の確立と普及」を目的とした。性教育普及会を発足させ、途中「性教育」と改題、刊行の意図をより鮮明に打ち出し、早くからの性教育の必要性を訴え、老人の性も含めた多様な性へのアプローチを行った。
●推薦＝赤川 学・館かおる

山本宣治 主宰〔大正14年～大正15年刊〕

『産児調節評論』改題

性と社会 **全2巻**

付録＝解説（佐々木敏二）・総目次・索引
『山峨女史家族制限法批判』
菊判・上製・函入・総1,118頁
揃定価 15,000円
'95年11月再刊〔復刻版〕

『産児調節評論』は、大正14年2月、研究会の機関誌及び啓蒙雑誌として刊行され、第九号より『性と社会』に改題された。本誌は14号で廃刊になるまで産児制限の合理性、道徳性を訴え、避妊法を説き、性教育・人口問題を論じ続けた。三田村四郎、九津見房子などの論客を見てもわかるように、本誌は困窮する労働者の立場から産児制限を唱えたものである。女性問題・社会運動史・性教育研究に貴重な文献といえよう。
●推薦＝荻野美穂・松尾章一・松尾尊兌・山本直英

廃娼雑誌社 発行／竹村民郎 解説〔明治23年～明治24年刊〕 廃娼	東京や群馬など各地で廃娼運動が盛り上がっていた1890年に創刊された本誌は、草創期廃娼運動の各地の状況を克明に伝える貴重資料。佐々城豊寿、島田三郎、巖本善治らが廃娼論を展開している。 ●菊判・上製・函入・326頁・定価9,000円／'93年5月刊〔復刻版〕
上毛青年社 発行／片野真佐子 解説〔明治22年～明治29年刊〕 上毛之青年 全2巻・別冊1	群馬県西上州の「上毛青年会」の機関誌。同会は日本の廃娼運動をリードし、県議会で廃娼令をかちとるも廃娼運動が再燃するや一度は終刊した本誌を再刊した。廃娼運動の先駆の貴重な記録である。 ●A5判・上製・総1,234頁・定価36,000円／'93年5月刊〔復刻版〕
相馬黒光 著／鈴木裕子 解説〔昭和15年刊〕 明治初期の三女性 ——中島湘煙・若松賤子・清水紫琴	「男女の対等な人間関係を希求し、その啓蒙と実現につとめた近代史上の第1世代であり、この世の改革を目指した人生の戦士」(山口玲子氏)であった3人の啓蒙的女性の生涯を描く。 ●四六判・上製・函入・332頁・定価3,600円／'85年3月刊〔復刻版〕
松田解子 著／土井大助 解題〔1935年刊〕 辛抱づよい者へ	プロレタリア詩人・作家＝松田解子が世に問うた初めての著書であり、厳しい検閲による伏せ字・空白にもかかわらず、発禁にされた詩集。60年ぶりに伏せ字箇所、切り取り部分を組み起こして復刻。 ●四六判・並製・144頁・定価1,500円／'95年7月刊〔復刻版〕
藤目ゆき 著 性の歴史学 ——公娼制度・墮胎罪体制から売春防止法・優生保護法体制へ	日本近現代史を性と生殖の視点から照射し、底辺の女性から大日本帝国のフェミニストたちまで、日本女性のあゆみを鋭く描きだす。これまでの女性史の常識を問い直す待望の著。 ●A5判・並製・448頁・定価4,800円／'97年3月刊
藤野 豊 著 性の国家管理——買売春の近現代史	国家による買売春管理を性病予防の観点から解き明かし、存娼派＝業者側の論理も明らかにしながら、買売春の近現代史を照射する。これまでの買売春史の書き換えを迫る意欲作。 ●A5判・並製・304頁・定価2,800円／'01年10月刊
村田静子・大木基子 編 ^{ひでこ} 福田英子集	女性自由民権運動家として、後年は社会主義者として一貫して女性の自由と解放を求めた先駆的フェミニスト・福田(景山)英子の全貌を明らかにする著作集。著作・関連記事・資料・書簡・年表を所収。 ●A5判・上製・函入・672頁・定価16,000円／'98年2月刊
金子幸子 著 近代日本女性論の系譜	一夫一婦論・母性保護論争・主婦論・自発的母性論・産児制限論・身の上相談にみる女性論などを検討することで、明治から昭和戦前期にかけての近代日本の女性論の系譜を辿った意欲作。 ●A5判・上製・296頁・定価3,800円／'99年1月刊
地の塩	33ページをご参照ください。
女子青年界	33ページをご参照ください。
婦人新報	33ページをご参照ください。
近代日本の女性と大学教育	89ページをご参照ください。
家庭科学〈戦前編〉	94ページをご参照ください。
新女性	108ページをご参照ください。

【女性文学】

日本女性詩集 1930年～1943年

全2巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（澤 正宏）・総目次・索引
A 4判・A 5判・上製・総 1,162 頁
揃定価 70,000 円
'14年7月刊〔編集復刻版〕

当資料集は昭和戦前・戦中期に女性の作品のみを集めた詩集、及び関連する雑誌群を収録した。昭和初期は女性詩人への評価が低く、女性詩集はあまり作られなかった。しかし満州事変がおきた1931年から戦時色が強くなるにつれて女性の戦争協力体制も強化され、女性詩は「母性の文学」として隆盛をみせるようになる。また「銃後のつとめ」として学生の詩集も刊行された。

当時の女性詩人がおかれた状況を俯瞰することができ、また戦時体制にどう組み込まれていったのかをうかがえる、近現代文学史・女性史研究のための貴重資料である。

●推薦＝宮崎真素美

叢書『青鞜』の女たち 全20巻(総21冊)

函入・総 7,720 頁
揃定価 150,000 円（各巻分売可）
'03年9月刊〔編集復刻版〕

今、女性史は「忘れられてきた歴史」としてあらゆる分野で注目されている。雑誌『青鞜』も近代日本の女性解放史の重要な指標としてだけでなく、その現代的意味もあわせて関心をあつめている。本叢書は、その同人たち及び『青鞜』周辺の女たちひとりひとりへのアプローチを試みるため、1910～20年代に活躍した女性たちを選び、その代表的著書20点を集め、解説を付して復刻したものである。

●推薦＝瀬戸内寂聴・羽田澄子・米田佐代子

女子文壇社 刊〔明治38年～大正2年刊〕

女子文壇 全54巻・別冊1

別冊＝解説（渡邊澄子）・総目次・索引
菊判・上製・総 24,210 頁
揃定価 990,000 円
'02年6月～'05年8月配本完結〔復刻版〕

日本最初の女性文学雑誌・フェミニスト雑誌『青鞜』に先立つこと6年、20世紀初頭に10年にわたって若い女性たちの自己表現への渴望を存分に汲み上げた投稿雑誌。文壇への登竜門であるばかりでなく、のちに広く社会に影響を与えた女性たちを輩出した。大正デモクラシー前夜に開花した10代の女性たちの熱い思いがあふれる本誌は、女性文化の原点ともいえるべき可能性を秘めた資料であり、近代教育史・女性史・女性文化研究に大きく寄与するものである。

●推薦＝阿木津英・飯田祐子・上笙一郎・竹盛天雄・米田佐代子

『女子文壇』執筆名・記事名データベース

全1枚(DVD)・解説ブックレット

監修・解説＝金子幸代
定価 20,000 円
'11年10月刊

明治38年、『青鞜』に先立ち刊行された『女子文壇』（大正2年終刊）は、全国各地の若い女性たちに表現活動の場を提供した、明治期を代表する女性文芸投稿雑誌である。本資料は、無名の地方の投稿者（誌友）に焦点をあて、「短篇小説」「新体詩」「短歌」「俳句」「美文」「消息文」「雑文」などのジャンル別に、執筆者名、その居住地、掲載号と頁数、作品名、入賞の有無等、本文を除く個々の情報を完全データベース化したものである。本誌『女子文壇』（弊社既刊）と併せて活用されたい。

山田美妙 主宰〔明治20年～明治24年刊〕

以良都女 全5巻・別冊1

別冊＝解題（山田有策）・総目次・索引
A 5判・B 5判・上製・函入・総 2,100 頁
揃定価 60,000 円
'83年1月刊〔復刻版〕

『以良都女』は当初、女子教育を論じ、婦徳を高め、その地位の向上を期すると共に、言文一致の文体を世にひろめることを主としていたが、14号からは編集人となった山田美妙の活躍によって小説・翻訳・新体詩・評論などすべてに美妙の独り舞台の感を呈した。また、婦人雑誌として『女学雑誌』とともに先駆的な役割を果たし、投書雑誌としてもものちの『文庫』と並称されるような役割を果たした。全84号を収録。

●推薦＝岡 保生・前田 愛・三好行雄・山田有策

西川文子・木村駒子・宮崎光子 主宰
〔大正2年～大正5年刊〕

新真婦人 全6巻・付録1・別冊1

別冊＝解説（岡野幸江）・総目次・索引
菊判・上製・総4,112頁
揃定価120,000円
'94年10月刊〔復刻版〕

『新真婦人』は、1913（大正2）年5月、新真婦人社の機関誌として創刊された。初期の女性社会主義者西川文子、木村駒子、宗教家宮崎光子らの主宰による、明確に女性問題・女性解放を見据えた評論雑誌である。男性中心社会を糾弾する筆は厳しく、また執筆者も多彩で大正デモクラシー期の女性運動の息吹を十分に伝えており、新真婦人社を単なる青鞥社の対抗者あるいは亜流としてきた女性史・近代史に書替えを迫る内容をもつ。

●推薦＝天野 茂・井手文子・小田切秀雄・渡邊澄子

長谷川時雨 著〔昭和16年～昭和17年刊〕

長谷川時雨全集 全5巻・付録1

付録＝解説（尾形明子）
B6判・上製・函入・総2,272頁
揃定価48,000円
'93年9月刊〔復刻版〕

戦前期、脚本家・小説家・評伝作家として第一線で活躍した女性文学者長谷川時雨（1879～1941年）の著作集の復刻版。本書は、時雨の没後に刊行されたが、岡田八千代・上村松園らをはじめとする編集者・装丁者のそうそうたる顔ぶれは、時雨の幅広く温かい交流を表している。

第1巻＝小説、第2巻＝女性伝、第3巻＝美人伝、第4巻＝隨筆ほか、第5巻＝戯曲ほか、で構成されている。

●推薦＝紅野敏郎・佐多稲子

神近市子 主宰〔昭和9年～昭和12年刊〕

婦人文芸 全10巻・別冊1

別冊＝解説（黒澤亜里子）・総目次・索引
菊判・上製・函入・総6,362頁
揃定価150,000円
'87年4月～7月配本完結〔復刻版〕

女性文芸雑誌『女人芸術』『火の鳥』が相次いで終刊になった昭和10年代、女性の表現の場として求められたのが本誌である。

主宰者・神近市子がジャーナリスト・翻訳家・評論家としてすぐれた女性解放思想家・実践者であっただけに、本誌は単なる文芸雑誌に終わらず、フェミニズムをはっきりと意識した雑誌となっている。女性史・昭和文学研究に新しい示唆を与えるものとして全37号を復刻する。

●推薦＝佐多稲子・田中和子・渡邊澄子

ビアトリス社 刊〔大正5年～大正6年刊〕
解説（岩田ななつ）・総目次・索引 付き
ビアトリス

『青鞥』廃刊直後に創刊された本誌は『女子文壇』『青鞥』に連なる、女性に開放された自己表現の場であった。執筆者は平塚らいてう・岡本かの子・吉屋信子など。近代女性史・文学史の貴重文献。

●菊判・上製・650頁・定価18,000円/'03年6月刊〔復刻版〕

吉屋信子 主宰〔大正14年刊〕

黒薔薇

若い女性に圧倒的な支持を得ていた、フェミニスト作家の先駆・吉屋信子が自ら創刊した個人雑誌。性差別社会を撃ち、同性愛を堂々と謳った本誌は、吉屋の真骨頂を示す最重要資料。推薦＝駒尺喜美

●四六判・上製・630頁・定価20,000円/'01年10月刊〔復刻版〕

渡邊澄子 著

青鞥の女・尾竹紅吉伝

青鞥社での在籍期間わずか九カ月。そのとき紅吉18歳。『青鞥』を『青鞥』たらしめた天性のフェミニストは、自由恋愛と性差別の桎梏に苦悩もした、女の近代を体現した存在だった。初の本格的評伝。

●四六判・上製・380頁・定価3,500円/'01年3月刊

岩田ななつ 著

文学としての『青鞥』

『青鞥』の本質は文学にある——女性による女性のための文学雑誌として登場した『青鞥』の小説及び作家たちに焦点を当て、『青鞥』の文学史上での役割を再評価する意欲作！

●四六判・上製・280頁・定価1,800円/'03年4月刊

岩田ななつ 編・解説

青鞥文学集

日本最初のフェミニスト雑誌として知られる『青鞥』（平塚らいてう他主宰、1911年～16年刊）。その出発点であった「女性と文学」にこだわって全52冊から小説を中心に珠玉の20点を選び収録。

●A5判・並製・256頁・定価2,000円/'04年9月刊

金子幸代 編・解説

鷗外女性論集

1890年代に入り、論壇・文壇に登場した女性を性の枠組みに関係なく評価し、創作の中では自ら道を切り拓く女性を描いた森鷗外の、女性に関する評論や創作をまとめたアンソロジー。

●A5判・並製・344頁・定価2,800円/'06年4月刊

農業史

京都帝国大学農林経済学教室 調査・作成〔昭和2年～8年〕

農家経済調査簿

DVD-ROM版 全6枚・別冊1 揃定価 280,000円
マイクロフィルム版 全63リール・別冊1

揃定価 756,000円

別冊＝解説（野田公夫・水田隆太郎）・復刻「農家経済調査簿記入上の心得」・収録農家一覧
'06年11月刊

京都帝国大学農学部農林経済学教室が昭和2年～8年にかけて行なった近畿5府県の104世帯に対する、総314冊、総頁数15万頁の生活経済調査簿をDVD版とマイクロフィルム版にて復刻。

各冊の構成は財産台帳・農家の概況・日誌・現物整理帳であり、付録として農具表・家具家財表を収録。日誌には、各農家の家族の労働の役割と時間、現物出納と現金出納が克明に記録されている。農家経営と消費生活が一体となった戦前農家の歴大な記録。 ●推薦＝岩本純明・大門正克・香月洋一郎・小山静子・野本京子・細谷 昂

古瀬伝蔵 編〔大正11年～昭和15年刊〕

農政研究 全38巻

A5判・上製・函入・総28,000頁

揃定価460,000円

'85年3月～'86年2月配本完結〔復刻版〕

大正11年5月創刊の本誌は、古瀬伝蔵を編集者として、当時の農業問題に幅広い論陣を張った。執筆者には、政治家、学者、行政家、教育家、新聞記者、農業指導者らが登場し、大正・昭和初期の激動する農村問題を各号に特集を組み入れながら、極めてユニークな農政誌として昭和15年12月まで刊行された。

本誌は、農村政治史・思想研究の第一級資料であり、農政史研究のみならず、日本近代史研究の資料としても活用されんことを望む。

●推薦＝近藤康男・鈴木正幸・田中 学

■日本近代農政史料集成⑥～⑧

東北振興計画集覧 全3巻

■日本近代農政史料集成⑯～⑳

大日本地主協会機関誌〔大正14年～昭和8年刊〕

農政時報 全4巻・別冊1

別冊＝解説（清水洋二）・総目次

本書は、昭和9年12月、内閣総理大臣の諮問機関として勅令によって設置された「東北振興調査会」において論議された恒久的東北開発策としての国段階、県段階の東北振興計画を収録している。 ●B5判・上製・函入・総2,340頁・揃定価38,000円/'85年7月刊〔復刻版〕

『農政時報』は、大正末から昭和初期の農業恐慌に直面した地主層のうち、近畿地方を中心とする地主が「解明的」な土地解決をめざし設立した大日本地主協会の機関誌で全九五号を刊行。 ●A5・B5判・上製・函入・総2,494頁・揃定価60,000円/'87年6月刊〔復刻版〕

■日本近代農政史料集成㉑～㉒

岐阜県小作争議資料集成 全3巻

第1巻＝『岐阜県下ニ於ケル小作紛争ニ関スル調査復命書』〈上〉／第2巻＝同上〈下〉／第3巻＝『小作問題紛擾編』『岐阜県ニ於ケル農業争議ノ状況』を収録。解説（森武磨）付。 ●B5判・上製・函入・総1,584頁・揃定価38,000円/'87年9月刊〔復刻版〕

愛知県立安城農林学校同窓会機関誌〔大正14年～昭和18年刊〕

流芳 全8巻・別冊1

別冊＝解題（『流芳』復刻版刊行会）・総目次・索引

本誌は「農聖」山崎延吉の指導の下、多くの人材を県内外に送り出した安城農林学校の同窓会誌で、地域社会の中心的な担い手、また農政の中堅をつくる教育機関として大きな役割を果たした。 ●A5判・上製・函入・総5,602頁・揃定価80,000円/'87年8月刊〔復刻版〕

家の光

93ページをご参照ください。

処女の友

112ページをご参照ください。

中国語・中国文学・漢文

明治漢文教科書集成〔全Ⅲ期〕

全7巻・別冊2

加藤国安 編・解説

別冊1=第Ⅰ期・第Ⅱ期解説

別冊2=第Ⅲ期解説・総索引

A4判・上製・総3,254頁

揃定価194,000円

'13年11月～'15年9月配本完結〔編集復刻版〕

本集成は明治期に刊行された漢文教科書を年代で3期に分け、儒教主義復古から教科書検定までの期間を第Ⅰ期「初学漢文教科書編」（収録資料明治10～20年刊）、日本の漢文教育史上もっとも内容的に充実した国民教育が実施された教科書検定下の第Ⅱ期「中等漢文教科書編」（同24～34）、国語調査委員会発足の第Ⅲ期「多様な漢文教科書編」（同32～44）とした。

本集成が近代日本教育史における漢文の苦闘と変遷を実見することのできる貴重資料であることは自明であるが、国内外から広く収集された作品群は東アジア漢文傑作選としても価値がある。

●推薦=石川忠久・鈴木貞美・辻本雅史

中国書籍総目録 総142冊・補巻1

補巻=中国雑誌所蔵目録('49年～'65年)

A5判・B5判・上製・総86,946頁

揃定価2,470,000円

'81年6月～'07年4月配本完結〔復刻版〕

本書は、1949年から2003年までの中華人民共和国建国後の出版物を網羅し、全書籍の編著者、発行年月、出版社、頁数、定価を詳細に記録し、社会科学、自然科学はもちろんのこと、児童読物、教科書、少数民族の出版物、外国の翻訳図書、さらに新聞、雑誌の出版状況を全て収録している（原書名=全国総書目）。

各年度に「書名索引」及び「少数民族文字図書目録」「叢書目録」付き。1991年版よりISBN番号、全国出版社名目録が付く。

●推薦=波多野太郎

人民日報索引 全32巻・付録1

付録=人民日報社論索引

B5判・上製・函入・総16,000頁

揃定価260,000円

'83年12月刊〔復刻版〕

『人民日報』は1946年5月15日創刊され今日まで続けている、中国共産党中央委員会機関紙である。『人民日報索引』は『人民日報』の記事を各分野に分類してあり、膨大な量の新聞を検索するためには必要不可欠のものである。本復刻版は、1946年5月15日から48年6月14日までの『晋冀魯豫人民日報』を含む、1979年までの索引の集大成である。また、一部分ではあるが、『人名索引』が付いているのも重宝である。

●推薦=阪本楠彦

中国語辞典集成 全16巻

六角恒廣 編・解説

A4判・上製・総5,503頁

揃定価384,000円

'03年6月～'04年8月配本完結〔編集復刻版〕

明治から昭和戦前期の間で中国語学習に使用された、今日入手困難な辞・字書を36点収録。

〈収録内容〉

第1回配本——『日華語学辞林』『井上支那語辞典』など9点を収録

第2回配本——『日華新辞典』『注音対訳華語辞典』など5点を収録

第3回配本——『支那語中辞典』『新時文辞典』など10点を収録

第4回配本——『日台新辞典』『日満会話辞典』など12点を収録

●推薦=波多野太郎

中国語学資料叢刊 第1篇・全4巻

白話研究篇

波多野太郎 編・解説

A4判・上製・函入・総2,544頁

揃定価95,000円

'84年7月刊〔復刻版〕

直接会話を交える現場から生まれた研究書・実用書の集大成。〈目次抜粋〉支那語異同弁（原口新吉） 訳註声音重念附支那語難語句例解（飯河道雄） 支那語疑問例解（張毓靈・権寧世） 中国慣用語句例解（三原増水） 支那語諺語研究（河野通一） 支那語諺語彙（河野通一） 北京俗語兒典（下永憲次） 北京語集解（下永憲次） 満洲国礼俗調査彙編（満洲国文教部礼教司） 必携満洲土語解説（川瀬侍郎） 北京語の味（大山聖華） 他27種を収録。

●推薦=太田辰夫・輿水 優

中国語学資料叢刊 第2篇・全4巻
燕語社会風俗・官話翻訳古典小説・精選課
本篇

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・函入・総 2,366 頁
揃定価 95,000 円
'85年11月刊〔復刻版〕

北京の風俗社会関係書及び伝統的旧京の応酬言語のテキスト。
〈目次抜粋〉支那語教科書北京風土編(張廷彦) 言文対照北京
紀聞(岡本正文) 官話北京事情(英繼撰・宮島吉敏) 京華
事略(金醒吾) 北京市井風俗篇(写本) 北京風俗問答(岡
本正文・加藤鎌三郎) 北京官話今古奇観(金国璞) 北京官話
今古奇観 第2編(金国璞) 三国選萃支那最新通用官話(張廷
彦) 北京官話搜奇新編(管窺居士・石山福治) 他29種を収録。

●推薦=太田辰夫・輿水 優

中国語学資料叢刊 第3篇・全4巻
せきとく
尺牘篇

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・函入・総 2,526 頁
揃定価 95,000 円
'86年6月刊〔復刻版〕

尺牘(書簡文)に関する日中両国の重要な研究文献を網羅。
〈目次抜粋〉新訂17帖説鈴(津田鳳卿) 居家必用事類(無名
氏) 新鐫時用通式翰墨全集(王宇・陳端錫) 翰墨琅函(陳
翊九) 尺牘診解(著者不詳) 玉堂尺牘彙書(陳太士・蔡九
霞) 新鐫尺牘青錢広編(蔡九霞) 尺牘簡要(陸九如) 尺
牘活套(柳美啓) 尺牘笞(木煥卿) 尺牘式(釋大典) 尺
牘式補遺(釋大典) 尺牘彙材(戸崎允明) 他30種を収録。

●推薦=太田辰夫・輿水 優

中国語学資料叢刊 第4篇・全4巻
尺牘・方言研究篇

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・函入・総 2,574 頁
揃定価 95,000 円
'86年10月刊〔復刻版〕

上海語・広東語の方言研究の基本的文献を収録。
〈目次抜粋〉増訂約解尺牘雙魚(岩垂柳塘閣) 詳注嚶求集
(繆良・個照) 箋註歐蘇手簡(大槻東陽) 滄溟尺牘診解
(北越山人) 広注語訳秋水軒尺牘(宗晶如) 広注語訳雪鴻軒
尺牘(宗晶如) 国語注解小倉山房尺牘(芸美図書館) 信
札幼学(李春山) 華英尺牘(何燦) 増註通問便集(南窗侍・
子虚) 増広応酬彙選(茹古齋主人) 他30種を収録。

●推薦=太田辰夫・輿水 優

中国語学資料叢刊 第5篇・全4巻
公文研究・日語中譯・聲音研究篇・補遺

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・函入・総 2,276 頁
揃定価 95,000 円
'87年5月刊〔復刻版〕

第4篇までを補充し、新発見資料を追加収録。
〈目次抜粋〉日粵會話讀本(長野政来) かなつき広東語會話
(江川金吾) 南京(市来義道) 福建語入門(市成乙重)
蘇州方言字音及声調(坂本一郎) 卽墨方言音韻語彙(坂本一
郎) 現代の上海語について(坂本一郎) 現代上海方言並に
私案注音符號(坂本一郎) 貴陽方言に就いて(坂本一郎)
西安方言に就いて(坂本一郎) 支那語の訳方(佐藤留男)
他27種を収録。

●推薦=太田辰夫・輿水 優

中国文学語学資料集成 第1篇・全4巻

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・函入・総 1,850 頁
揃定価 75,000 円
'88年4月刊〔復刻版〕

日中両国の優れた中国文学・語学研究の古典的名著、および
欧米語による中国語辞典計24冊を収録。

〔目次抄録〕
金瓶梅訳文(岡南閑喬) 小説字彙(秋水園主人) 雅俗漢語
訳解(市川清流) 俗語訓訳支那小説辞彙(藤井理伯) 小説
字林(桑野鋭) 俗語録(野子苞) 常語數(岡田挺之) 物
數称謂(同) 官話問答(写本) 支那語會話篇(傅芸子)
支那童話読本(矢野藤助) 蘇州注音符號(陸基・方資観) ほ
か12種を収録

中国文学語学資料集成 第2篇・全4巻

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・函入・総 1,788 頁
揃定価 75,000 円
'88年10月刊〔復刻版〕

『海南語読本』を含む中国各地の方言研究書等30冊を収録。
〔目次抄録〕

『中央日報』(上海版) 碧巖録方語解(服部蘇門) 中夏俗
語數(岡崎元軌) 日台俚諺詳解(片岡巖) 官話談論新篇
(金国璞・平岩道知) 燕語新編(馮世傑 他) 趣味の日語華
訳(中谷鹿二) 日華合璧辞典(梅村美誠) 支那語新式學習法
(石山福治) 言文対照初等支那時文(幸勉) 最新公私尺牘教
科書(原田龍一) 支那言語組織論(呉主恵) 上海俗語図説(汪
仲賢) ほか17種を収録。

中国文学語学資料集成 第3篇・全4巻

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・函入・総1,858頁
揃定価 75,000円
'89年4月刊〔復刻版〕

『社会小説北京』を初め中国文学・語学の研究書等27冊を収録。
〔目次抄録〕
白話三國志（新華編譯社） 註解支那短篇小説萃選（神谷衡平）
註解支那長篇小説選鈔（神谷衡平） 支那小説戯曲讀本（宮原民平） 尺牘禮贊（波多野太郎） 東坡尺牘（黃始箋） 唐宋八家手翰（村田徽典） 普通尺牘文例集（福田勝藏） 華語跬歩（御幡雅文） 最新北京官話典型（好富道明） 支那笑話新篇（矢野藤助） 支那語正音發微（伊澤修二） 姑胥（許雲樵）ほか14種を収録。

中国文学語学資料集成 第4篇・全4巻

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・函入・総1,898頁
揃定価 75,000円
'89年12月刊〔復刻版〕

今日まで、未だ解明されていない「俗曲」「曲本」類の基本資料合計95点を収録。他に、語学資料31冊を収録。
〔目次抄録〕
金瓶梅拔萃（岡南間喬訳） 書式拔萃（水野宗伯写） 和漢対照書札（劉貞訳・秦星池書） 翰墨因縁（水越成章編） 詳註通用尺牘（中華書局編） 交際大尺牘（吳潤芝編） 医案類語（皆川淇園訳） 作文須知（平山政瀆編） 文法詳論（石川英） 詩法詳論（同） 北京通俗諺語（陳小山） 支那語教程（西島良爾）ほか19種を収録。

中国文学語学資料集成 第5篇・全4巻

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・函入・総1,816頁
揃定価 75,000円
'90年6月刊〔復刻版〕

会話教科書等の資料と中国文学・語学研究書39点を収録し復刻。第5篇刊行により、本シリーズ全5篇（総収録文献151点）完結！
〔目次抄録〕
海南詞謠集（吳乾章） 到最艱苦的地方去（羅希、陶安） 謎語研究（陳光堯） 作文必備（庄司秀鷹） 童蒙一介詩文活要（櫻井穎麻呂） 改撰名語林集（關口宇之助） 國語普通會話（馬國英） 支那語教科書（岡本正文） 傳式華語教科書 第1編 第2編（傅蔭蔭） 現代模範官話（幸勉）ほか28種を収録。

中国語文資料彙刊 第1篇・全4巻

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・総1,780頁
揃定価 88,000円
'91年11月刊〔復刻版〕

『中国語学資料叢刊』、『中国文学語学資料集成』に続く、中国文学・語学研究の基本資料。
〈収録内容〉 金瓶梅 燕説（史夢蘭著） 社会小説「小額」（横浜市立大学紀要）（松友梅著） 社会小説「小額」語釋及索引（太田辰夫著） 繪圖精選崑曲大全—第1～4集（怡庵編） 元曲助字雜考 上海俗語圖説（汪仲賢著 許曉霞繪圖） 支那語（張滋昉 林久昌講述） よくわかる自修者の支那語（包翰華 舒啓祥 宮島吉敏共著） 和文奇字解（陶珉編刊）ほか9点。

中国語文資料彙刊 第2篇・全4巻

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・総1,748頁
揃定価 88,000円
'92年11月刊〔復刻版〕

本資料彙刊第1篇に続き、中国文学・語学研究の基本資料27点を復刻刊行。
〈収録内容〉 南曲譜（張漢重編校） 元曲集折套数曲牌索引（蘇人編） 校注劉知遠諸官調（東北大学文学部研究年報第14号） 醉經堂排印本客途秋恨校注（波多野太郎校注） 伶史（穆辰公著） 京劇2百年史（波多野乾一・鹿原学人編） 新刻滄溟尺牘（蘭陵） 滄溟尺牘考（写本） 精註雅俗故事讀本（平岡龍城）ほか

中国語文資料彙刊 第3篇・全4巻

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・総1,832頁
揃定価 88,000円
'93年11月刊〔復刻版〕

本編は、中国文学・語学の基本資料22点を収録。
〈収録内容〉 照世盃（孔雀道人訓点旁訳） 五色石（服部誠一評点） 事物異名類編（荒井甲四郎編次） 日清字音鑑（伊沢修二著）
滿漢合璧子弟書尋夫曲校証（波多野太郎撰） 四声実験録（劉復著） 北京語の発音（魚返善雄訳） 広東語の発音（魚返善雄訳） 集洪州黄龍山南禪師書尺（明 慧南禪師著） 新体書翰便蒙（荻原乙彦著） 上海語独案内（杉江房造著） 華語新捷徑（麥克猷、周克允共著） 支那時文教科書（青柳篤恒、渡俊治共編）ほか

中国語文資料彙刊 第4篇・全4巻

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・総1,638頁
揃定価 88,000円
'94年11月刊〔復刻版〕

本編は、中国文学・語学の基本資料21点を収録。
〈収録内容〉 宋元以来俗字譜（劉復、李家瑞共編） 子弟書集第1輯増提要校記（波多野太郎編） 詩家法語（河世寧編、積虎云校正 学語編（積大典編輯） 藻語箋（松本慎編） 虚字註積備考（張明德著、萩原裕校点） 増補頭書禪林句集（英明禪師編） 宗門方語（不明） 尺牘集要（謝君度編） 新花様生意尺牘（知愧生撰） 普通書信大観（董堅志編著） 日清会話辞典（池田常太郎編） 支那語会話教本（辻章吉著） ほか

中国語文資料彙刊 第5篇・全4巻

波多野太郎 編・解題
A 4判・上製・総1,820頁
揃定価 88,000円
'95年11月刊〔復刻版〕

本編は、中国文学・語学の基本資料41点を収録。
〈収録内容〉 戲学大全附太鼓書（劉達著） 南北小曲大観（競智図書館編） 四大景（写本） 灘簧考（不詳） 歌謡選（平民文学部同人序） 華南民間音楽文学研究—附載「粵謳」—（波多野太郎著） 白川集（傅芸子著） 美人百咏（鈴木道編） 新增百美图説（李世捷序刊） 美人千態詩詞（雷璿編） 艷情奇観（鹿又常編） 吏学指南（葉潜昭校訂） 駢字分箋（程際盛著、林厚徳補注） 雅俗共賞（不詳） 尺牘典刑（半井源吉編集、桜井菊太郎校正） ほか

中国語教本類集成

第I期（第1集～第5集）・全20巻

六角恒廣 編・解題
A 4判・上製・総9,238頁
各集揃定価 85,000円（各集=全4巻）
'91年4月～'95年4月配本完結〔復刻版〕

明治初年以降、日本における中国語教育において使用された、教科書・辞典・文法書等の教本類を収集し、中国語教育史研究の資料として復刻刊行。現在の中国語および日本語教育にも必備の参考書。

〈収録内容〉 第1集——一般学習書（1）24点の文献を収載
第2集——一般学習書（2）33点の文献を収載
第3集——英仏語版・時文・商業文30点を収載
第4集——文法書・発音・辞典類23点を収載
第5集——台湾語・試験問題集ほか27点を収載

中国語教本類集成

第II期（第6集～第10集）・全15巻

六角恒廣 編・解題
A 4判・上製・総6,012頁
各集揃定価 60,000円（各集=全3巻）
'96年5月～'98年5月配本完結〔復刻版〕

第II期では、戦争語学とまで言われた過去の中国語の戦時期の会話書をはじめ、昭和期の新しい傾向を示す小説や語法書、さらには講義録、学習誌、軍用語など中国語教育史研究のための資料を収録。

〈収録内容〉 第6集—日露戦争期の会話書など18点を収載
第7集—小説・時文・翻訳語法書など24点を収載
第8集—講義録を中心に7点の資料を収載
第9集—講座・ラジオテキスト・学習誌27点を収載
第10集—実務用語・警務・軍用語など32点を収載

中国語教本類集成 補集・全5巻

六角恒廣 編・解題
B 5判・上製・総1,522頁
揃定価 90,000円
'98年12月刊〔復刻版〕

補集は江戸時代唐話篇として、特に享保の時期（1716～1735年）に刊行された、主として岡島冠山の手によって編纂された教本を収録。『唐詩選唐音』を加えた6点を全5巻にまとめ完結。

〈収録内容〉 1 唐話纂要（5巻5冊）～岡島冠山編 2 唐譯便覧（5巻5冊）～岡島冠山編 3 唐話使用（6巻6冊）～岡島冠山編 4 唐音雅俗語類（5巻5冊）～岡島冠山編 5 唐詩選唐音（1巻1冊）～李攀龍編 6 經學字海便覧（7巻7冊）～岡島冠山編

北京図書館 編印〔1959年刊〕

中国社会主义經濟建設文献目録 全3巻

B 5判・上製・函入・総2,420頁
揃定価 45,000円
'84年12月刊〔復刻版〕

本書は1959年北京図書館により編集発行された『十年来我国社会主义經濟建設成就資料目録』（初稿）の復刻版である。本目録は、1949—58年の10年間に刊行された經濟建設に関する書籍、および新聞・雑誌に掲載された論文を網羅し、項目別に分類整理し、専門分野の研究者にとって非常に便利な目録となっている。言うまでもなく、この期間は、中国社会主义の草創期であり、文献・論文の刊行数も膨大であるが、今日までにこのような分類目録は正式には刊行されていない。研究者必携の工具書。

鱗澤彰夫 編

紅衛兵新聞目録

毛沢東の指導のもと、文化大革命初期に中国全土を席卷した青年層を主体とした大衆運動組織＝紅衛兵の機関誌「紅衛兵新聞」の総目録。1966年8月から68年末まで刊行された2,183種を収録。

●A4横判・上製・602頁・定価28,000円／05年3月刊・推薦＝矢吹晋

波多野太郎 編・解題

中文資料叢刊 補遺

本編は、小社既刊の『中国語学資料叢刊』『中国文学語学資料集成』『中国語文資料彙刊』に未収録の資料、官話應酬新篇(渡俊治)、支那語自習完璧(東亜実進社)ほか8種を収録。

●A4判・上製・348頁・定価24,000円／03年10月刊(編集復刻版)

何 旭 著

『談藪』研究

散佚してしまった文言小説集『談藪』について、類書より余すところなく網羅して106条を拾い出し、これに分析、考証、比較、註釈を加えたものである。中国文学史における貴重な研究書。

●A5判・上製・578頁・定価7,500円／10年1月刊

中嶋幹起 著

呉語の研究——上海語を中心にして

〈文部省科学研究費補助金「研究成果刊行費」出版物〉

本書は、著者が、1978年以来、中国の呉語方言圏各地を踏査し、採集した口語資料をもとに、当該方言の音韻と語彙の整理・分析を行ない、中国語学研究所のひとりの成果として公開されたものである。

●B5判・上製・函入・752頁・定価25,000円／83年2月刊

六角恒廣 著

近代日本の中国語教育

本書は、近代日本の中国語教育をふり返り、今日の中国語教育のための礎を作ろうとの意図によって書かれた。中国語の学校、テキスト、教師等の問題を中心に、戦前の「支那語教育」全般にメスを入れる。

●B6判・並製・280頁・定価1,500円／96年2月再刊

那須 清 著

旧外地における中国語教育

本書は、旧「外地」(中国)における中国語教育の歴史を、教科書および制度等について検討し、また北京にあった無名の中国語学校である支那語研究舎についても論述する。詳細な関連年表を付す。

●A5判・並製・130頁・定価2,000円／92年1月刊

折戸洪太 著

中国における社会主義経済理論の展開

本書は、マルクス主義経済学、社会主義経済理論が中国へどのように伝播し、それが社会主義建設のなかでどのように展開されたかを跡づけ、伝播・展開に関わった人々にも言及している。

●A5判・並製・212頁・定価2,000円／05年1月刊

六角恒廣 著

中国語教育史論考

著者の退官記念論文集。近代日本の中国語教育史を戦前と戦後に分けて論述。また、日清戦争後、植民地統治のために中国(閩南)語等を教授した台湾協会学校(後の拓殖大学)についても言及。

●A5判・並製・184頁・定価2,000円／89年3月刊

六角恒廣 著

中国語教育史稿拾遺

日本における中国語教育史の研究が発足して半世紀になる。その間、著者は多くの著書を刊行している。本書は、最近執筆した論稿を整理しまとめて刊行する。

●四六判・上製・296頁・定価2,800円／02年2月刊

六角恒廣 著

中国語書誌

明治初年から戦前までの、日本における中国語教科書・辞典類について、詳細な解題を記す。その数150点の書誌解題。弊社刊行の『中国語教本類集成』と、あわせてご利用下さい。

●A5判・並製・250頁・定価2,500円／94年8月刊

六角恒廣 著

中国語関係書書目 [増補版]

明治以降の近代日本における中国語教育に使用された教科書を全て収録。旧版(1867—1945)につづき、増補版では2000年までを発行年月日の順に配列している。

●A5判・並製・181頁・定価2,000円／01年12月刊

那須 清 編

北京同学会の回想

北京同学会は、明治36年支那語研究舎として北京に開設、6回校名を変え、昭和22年廃校。この専門学校出身の中国語教師・研究者は多く、戦後の中国語教育に大きな足跡を残した。

●A5判・並製・300頁・定価2,800円／95年11月刊

波多野太郎 著

波多野太郎博士 覆印語文資料提要

中国語学及び文学に関する資料収集についての第1人者・波多野太郎博士編纂の『中国語学資料叢刊』『中国文学語学資料集成』『中国語文資料彙刊』等に収載の全文献の解題と索引。

● B 5判・並製・382頁・定価5,000円/’96年2月刊

東京外国語大学A・A言語文化研究所 発行
李範文・中嶋幹起 編・著

電腦処理 西夏文雜字研究

世界に先駆けて開発された西夏文字のコンピューター処理により、ロシアのコズロフ探検隊収集品、西夏文刊本『雜字』を分析し、漢語拼音檢字索引・西夏字音檢字索引などを作成。国際共同研究の成果。

● A4判・上製・函入・408頁・定価18,000円/’97年7月刊

東京外国語大学A・A言語文化研究所 発行
中嶋幹起・今井健二・高橋まり代 編・著

電腦処理 西夏文字諸解対照表 (稿)

今日までの西夏文字の諸家の研究を、コンピューター処理によって対照表とし、様々な分類法によっても検索可能とした。西夏文字の秘密を解き明かす有力な手がかりとなる、画期的な研究工具書。

● A4判・上製・函入・866頁・定価25,000円/’98年7月刊

中嶋幹起 編/今井健二・高橋まり代 協力

清代中国語 滿洲語辞典

清代に編纂された『御製増訂清文鑑』(全32巻+補編4巻)をコンピューター処理し、「現代中国語索引」と「滿洲語索引」を付す。滿洲語学、中国語学、東洋史学の基本工具。

● B 5判・上製・函入・2,168頁・定価38,000円/’99年5月刊

東京外国語大学A・A言語文化研究所 発行
史金波・中嶋幹起・大塚秀明・今井健二・高橋まり代 編・著

電腦処理 《文海宝韻》研究

1909年ロシアのコズロフがチベットから入手した書籍巻物の中に、『雜字』と共に、『文海宝韻』(写本)も含まれていた。本書は史金波教授との共同研究の成果。『文海宝韻』の全文の復刻。

● A4判・上製・函入・911頁・定価37,000円/’00年5月刊

東京外国語大学A・A言語文化研究所 発行
中嶋幹起・今井健二・高橋まり代 編・著

電腦処理 西夏文献《文海》反切法解析

「写本」である『文海宝韻』の研究と平行して、「刻本」である『文海』の研究を開始し、西夏文字の字形と音韻の反切の記述についての研究が急務となった。本書は、西夏文字の理想型を追求する。

● A4判・上製・函入・749頁・定価27,000円/’00年5月刊

東京外国語大学A・A言語文化研究所 発行
中嶋幹起・今井健二・高橋まり代 編・著

電腦処理 西夏文字字素分析

西夏文字は漢字をヒントに作られたとはいえ、字形は極めて複雑である。今まで漢字の扁旁、四角号碼、あるいは画数によっていた発想を転換し、チベット語の文字を手掛りに、新しい分析方法を追求。

● A4判・上製・函入・1,192頁・定価45,000円/’00年5月刊

東京外国語大学A・A言語文化研究所 発行
中嶋幹起 著

海南島方言基礎語彙集

著者は、『閩語東山島方言基礎語彙集』『福建漢語方言基礎語彙集』など閩方言に関する研究があり、本書はその延長線上にある。閩方言のひとつの異種として、ユニークな形態を残す。

● B 5判・上製・321頁・定価15,000円/’02年5月刊

東京外国語大学A・A言語文化研究所 発行
清格爾泰 編・著

契丹小字釋讀問題

編著者の清格爾泰 (Qinggeertai) 教授は、『契丹小字研究』(1985)を著し、その後、AA研に留学、拓本資料を提示するとともに、各研究者のこれまでの契丹文字解読の諸見解を吟味する。

● A4判・上製・422頁・定価25,000円/’02年5月刊

【中国共産党史資料叢書】

■ 中国共産党史資料叢書③

新中華報（刷新版）全2巻

A 4判・上製・函入・総 988 頁
 揃定価 45,000 円
 '86年 3月刊〔復刻版〕

刷新版『新中華報』の前身は陝甘寧辺区政府機関紙『新中華報』であり、その後身は今日の『人民日報』の前身に当たる『解放日報』である。

刷新版『新中華報』は、抗日戦争における第2次国共合作の危機と破綻（二度の反共高潮）をはらむ時期の中国共産党中央機関紙として、その名と『紅色中華』（のち『新中華報』と改題）の後身という性格と全 230 号の影印本の存在は1950年代末から中国の党史家の論文によって知られていたが、今回、その全号を復刻刊行する。

● 推薦 = 宇野重昭・小島晋治・藤田正典

■ 中国共産党史資料叢書④

闘争（瑞金版）全2巻

B 5判・上製・函入・総 1,280 頁
 揃定価 28,000 円
 '86年 5月刊〔復刻版〕

『闘争』（1933年2月4日～1934年9月30日、全73期）は、博古、洛甫の握る中国共産党ソ区中央局機関紙であり、その紙名の如く党内闘争の経過と結果をあらわにする文献である。

だが、『闘争』の論客の多くは延安期にも活躍しており、中国共産党史における瑞金期、延安期の路線闘争問題は単純な図式では解明できず、様々な鍵と新たな謎が瑞金版『闘争』に見出される。本復刻版には、これまで未発見の、32、33、36、37、39期をも収録。

● 推薦 = 宇野重昭・小島晋治・藤田正典

■ 中国共産党史資料叢書⑤

布爾塞維克 全7巻

B 5判・B 6判・上製・函入・総 4,032 頁
 揃定価 95,000 円
 '86年 10月刊〔復刻版〕

『布爾塞維克』は、中国共産党最初の中央機関誌『嚮導』の後身として1927年10月24日創刊され、『紅旗』創刊（1928年11月20日）を前に2巻1期（1928年11月1日）から月刊（のち隔月刊）の中央理論機関誌となり、5巻1期（1932年7月）まで全52期が、断続的に刊行された。中国共産党史における瞿秋白路線期の中央機関紙として、また、李立三路線形成期や王明路線初期の中央理論機関誌として、その党史研究上の資料価値は甚大である。

● 推薦 = 宇野重昭・小島晋治・藤田正典

解説・解題・総目次・索引シリーズ

■ ジャーナリズム・新聞

甘利璋八 解説

『横浜毎日新聞』解説・総目次 全3巻

● A 4判・上製・1,830頁・揃定価60,000円／'93年1月刊

水野公寿 解説

『近事評論・扶桑新誌』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・206頁・定価2,000円／'90年10月刊

松尾章一 解説

『自由燈』解説・主要記事索引

● A 4判・上製・260頁・定価16,000円／'07年3月刊

門奈直樹・武内善信 解説

『牟婁新報』第1期 解説・執筆者索引

● A 5判・並製・136頁・定価2,000円／'02年10月刊

武内善信・中瀬喜陽 解説

『牟婁新報』第2期・第3期 解説・執筆者索引

● A 5判・並製・140頁・定価2,000円／'06年1月刊

松野良一・大久保謙 解説

『新聞学院『学報』』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・約108頁・定価1,000円／'15年2月刊

門奈直樹 解説

『現代新聞批判』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・300頁・定価3,000円／'95年9月刊

赤澤史朗 解説

『言論報国』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・42頁・定価1,000円／'98年10月刊

荒瀬 豊 解説

『他山の石』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・86頁・定価1,000円／'87年9月刊

田中秀臣 解説

『サラリーマン』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・244頁・定価3,000円／'00年11月刊

河原 功 解題

『号外』解題・総目次・索引

● A 5判・並製・54頁・定価1,000円／'04年10月刊

尾崎秀樹 解説

『人物評論』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・66頁・定価1,000円／'96年11月刊

浦西和彦 解説

『夕刊 新大阪』解説・主要記事索引

● A 5判・並製・292頁・定価3,000円／'07年5月刊

茅原 健 編【取扱図書】

茅原華山年譜・著作目録稿

● B 5判・並製・216頁・定価5,000円／'84年10月刊

牛島秀彦 解説

『近きより』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・70頁・定価1,000円／'89年8月刊

■ 宗教

中西直樹 編・解題

『雑誌『國教』と九州真宗』解題・総目次・索引

● A 5判・並製・104頁・定価1,000円／'16年7月刊

下西 忠 解説

『遍路』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・86頁・定価1,000円／'16年3月刊

佐賀枝夏文 解説

『児童と宗教』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・156頁・定価2,000円／'13年12月刊

佐賀枝夏文 解説

『救済』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・104頁・定価1,000円／'01年10月刊

樽松かほる・影山礼子 解説

『地の塩』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・194頁・定価1,800円／'14年12月刊

武田清子 解説

『女子青年界』解説・総目次・索引

・A 5判・上製・650頁・定価 22,000円／'94年1月刊

和田敦彦 解説

『救世』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・87頁・定価 1,000円／'12年7月刊

室田保夫 解説

『ときのこゑ』解説・総目次・
執筆者索引 全2巻

・A 4判・上製・総636頁・揃定価 40,000円／'89年12月刊

五味百合子 解説

『婦人新報』解説・総目次・索引

・A 5判・上製・658頁・定価 18,000円／'98年6月刊

門奈直樹 解説

『聖化』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・104頁・定価 1,000円／'90年11月刊

山口光朔 解説

『七一雑報』解説・総目次・索引

・A 4判・上製・192頁・定価 10,000円／'89年2月刊

對馬路人 解説

『人類愛善新聞』解説

・A 5判・並製・48頁・定価 1,000円／'13年11月刊

柏木隆法 解説

『無我の愛』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・226頁・定価 5,000円／'86年12月刊

鈴木範久 解説

『六合雑誌』^{りくごう}解説・執筆者・作品名索引
付『創造者』第1号

・A 5判・上製・358頁・定価 10,000円／'88年2月刊

武 邦保 解説

『上毛教界月報』解説・総目次・索引

・B 5判・上製・200頁・定価 3,000円／'85年3月刊

坂口満宏 解題

『近代日本「平和運動」資料集成』解題・総目次・索引

・A 5判・並製・92頁・定価 1,000円／'05年11月刊

■心理・医学

中馬充子 解説

『優生學』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・約144頁・定価 2,000円／'15年3月刊

曾根博義 解説

『変態心理』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・154頁・定価 3,000円／'99年11月刊

斎藤 光 解説

『変態性欲』解説・総目次

・A 5判・並製・46頁・定価 500円／'02年10月刊

馬場伸彦 解説

『犯罪科學』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・118頁・定価 1,000円／'08年8月刊

サトウタツヤ・曾根博義 解説

『精神分析』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・122頁・定価 1,000円／'08年6月刊

松原洋子 解説

『人性』解説・総目次・索引

・B 5判・並製・118頁・定価 2,000円／'01年6月刊

藤野 豊 解説

『優生運動』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・86頁・定価 1,000円／'99年6月刊

■思想・哲学

三上敦史 解題

『成功』解題・総目次

・B 5判・上製・358頁・定価 8,000円／'15年11月刊

■社会福祉

岩田正美 解説／養育院を語り継ぐ会 回想

『東京都養育院月報』解説・回想・総目次

・A 5判・並製・122頁・定価 1,000円／'17年4月刊

清水 寛・室田保夫 解説

『東京市養育院月報』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・280頁・定価 2,000円／'09年12月刊

丹野喜久子 解説

『東京孤児院月報』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・114頁・定価1,000円/'03年6月刊

室田保夫 解説

『獄事叢書』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・52頁・定価1,000円/'98年9月刊

長谷川匡俊・土井直子 解説

『労働共済』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・72頁・定価1,000円/'05年7月刊

元村智明 解説

『石川県之社会改良』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・60頁・定価1,000円/'06年6月刊

寺脇隆夫 解説

『社会事業彙報』解説・事項索引

• A 5判・並製・190頁・定価3,000円/'12年7月刊

■ 人権

藤野 豊 解説

『近現代日本ハンセン病問題資料集成』〈戦前編・戦後編〉
解説・総目次

• A 5判・並製・192頁・定価2,000円/'04年1月刊

藤野 豊 解説

『近現代日本ハンセン病問題資料集成』

〈補巻1~15〉解説・総目次

• A 5判・並製・220頁・定価2,000円/'07年5月刊

平田勝政 解説

『近現代日本ハンセン病問題資料集成(補巻16~19) 日本MTL』
解説・総目次・索引

• A 5判・並製・156頁・定価1,800円/'09年5月刊

蒲生俊宏 解説

『愛護』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・82頁・定価1,000円/'06年7月刊

藤野 豊 解説

『更生』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・80頁・定価1,000円/'88年4月刊

藤野 豊 解説

『初期水平運動資料集』解説・
総目次・索引

• A 5判・並製・102頁・定価1,000円/'89年10月刊

蓮城寺秋幸 解説

『創立期水平社運動資料』解説・細目次

• A 5判・並製・60頁・定価1,000円/'94年9月刊

平山和彦・朝治 武・吉田栄治郎・のび しょうじ 解説

『民族と歴史』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・136頁・定価2,000円/'97年11月刊

■ 法律・政治・経済・統計

『法律新聞』総目次 全2巻

• B 5判・上製・1,260頁・揃定価25,000円/'83年12月刊

高嶋雅明 解説

『通商公報』解説・総索引 全4巻

• B 5判・上製・1,980頁・揃定価95,000円/'97年8月刊

高嶋雅明 解説

『日刊 海外商報』解説・総目次

• A 4判・並製・202頁・定価3,000円/'05年5月刊

岡田和喜 編・著

『中央銀行会通信録』解題・記事総索引

• B 5判・上製・625頁・定価25,000円/'98年1月刊

作道洋太郎・岡田和喜・高嶋雅明・本間靖夫 解説

『大阪銀行通信録』解説・総目次

• B 5判・上製・724頁・定価19,000円/'02年10月刊

原田政美 編・解説

『近代日本「市場」関係資料集』解説／近代日本「市場」関
係資料目録(CD付)

• A 5判・並製・104頁・定価2,000円/'11年7月刊

西田美昭・荻野富士夫 解題

『経済月報』解題・総目次

• A 5判・並製・204頁・定価2,000円/'02年11月刊

金澤史男 解説／酒田正敏 解題

『斯民』目次総覧 〈新版〉

• B 5判・上製・450頁・定価8,000円/'01年5月刊

西 秀成・荻野富士夫・藤野 豊 著

『昭和大礼記録資料』解説

• B 5判・並製・90頁・定価1,500円/'90年10月刊

畑 穰・棚澤能生 解説／棚澤能生・早坂啓造 解題
『小繋事件裁判資料集』解説・
解題・各裁判記録細目次
● B 5判・並製・256頁・定価5,000円／'13年3月刊

■ 建築・都市・地理・民俗・観光

初田香成 解題
『都市不燃化』解題・総目次・索引
● A 5判・並製・94頁・定価1,000円／'14年11月刊

越澤 明 解説
『新都市』解説・総目次・索引
● B 5判・並製・218頁・定価3,000円／'97年12月刊

堀田典裕 解説
『都市創作』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・76頁・定価1,000円／'05年5月刊

辻原万規彦・藤岡里主 解題
昭和10年全国商店街調査資料 別巻=解題・
参考資料編
● A 5判・上製・352頁・定価15,000円／'07年12月刊

吉原直樹 解説
『町会』『町と生活』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・138頁・定価1,000円／'08年5月刊

石田潤一郎 解説
『新建築』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・137頁・定価2,000円／'10年2月刊

橋爪紳也 監修／中島直人 解説
『都市美』監修の辞・解説・総目次・索引
● A 5判・並製・68頁・定価1,000円／'07年11月刊

河原典史 解説
『京都地籍図』解説
● A 5判・並製・28頁・定価1,000円／'09年4月刊

丸山 宏 解説
『古蹟』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・64頁・定価1,000円／'11年1月刊

丸山 宏 解説
『史蹟名勝天然紀念物』〈大正編〉解説・総目次・索引
● A 5判・並製・90頁・定価1,000円／'03年6月刊

高木博志 解題
『史蹟名勝天然紀念物』〈昭和編〉解説・総目次・索引
● A 5判・並製・202頁・定価2,000円／'08年11月刊

白幡洋三郎 解題
『国立公園』解題・総目次・索引
● A 5判・並製・80頁・定価1,000円／'11年12月刊

田中 傑・中島直人・野村悦子・初田香成 解説
『東京地籍図』解説
● A 5判・並製・130頁・定価1,000円／'12年12月刊

小林 茂 解説
『外邦測量沿革史 草稿』解説・総目次
● A 5判・並製・67頁・定価1,000円／'09年3月刊

山形政昭 解説
『建築と社会』解説・総目次・索引
● A 4判・上製・234頁・定価18,000円／'97年7月刊

『都市公論』総目次・索引
● A 5判・並製・224頁・定価3,000円／'92年2月刊

■ 移民

和田敦彦 解説
『力行世界』『力行』『力行網』『渡米
新報』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・428頁・定価3,000円／'13年6月刊

権並恒治 編集
『カナダ移民史資料』別冊 (英文)
Historical Materials of Japanese Immigration to Canada
● B 5判・上製・288頁・定価4,000円／'01年2月刊

柳田利夫 解説
『移民地事情』解説・総目次
● A 5判・並製・100頁・定価1,000円／'00年12月刊

篠田左多江・山本岩夫 共編・著
日系アメリカ文学雑誌研究——日本語雑誌を中心に
● B 5判・並製・262頁・定価3,000円／'98年12月刊

兒玉正昭 解説
『殖民協会報告』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・82頁・定価1,000円／'87年2月刊

■ 沖縄

編集委員＝(代表) 藤澤健一・近藤健一郎・櫻澤 誠・高橋順子・戸邊秀明・(編集協力) 田中萌葵
『占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成』解説・総目次・索引
● A 5判・並製・194頁・定価2,000円/'16年10月刊

高良倉吉 解説

『地域と文化』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・56頁・定価1,000円/'17年7月刊

栗国恭子・近藤健一郎・世良利和・新城栄徳 解説
新城栄徳 総目次

『月刊 文化沖縄』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・108頁・定価1,500円/'15年12月刊

三木 健 解説

『八重山文化』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・102頁・定価1,000円/'15年6月刊

仲程昌徳・松下博文・栗国恭子・酒井直子 解説
新城栄徳 総目次

『おきなわ』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・106頁・定価1,500円/'15年1月刊

鳥山 淳 解説

『今日の琉球』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・198頁・定価2,000円/'14年5月刊

仲程昌徳 解説

『守礼の光』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・152頁・定価3,000円/'12年11月刊

藤澤健一・近藤健一郎・梶村光郎・三島わかな 解説

『沖縄教育』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・330頁・定価2,000円/'09年11月刊

■ 旧外地・アジア近現代史

『満蒙』総目次・執筆者索引

● A 5判・並製・360頁・定価3,000円/'03年8月刊

岡部牧夫 解説/小林弘二 解題

『拓け満蒙』『新満洲』『開拓』解説・解題・総目次

● B 5判・並製・80頁・定価2,000円/'98年4月刊

風間秀人 解題

『満洲開拓関係雑誌集成』解題・総目次

● A 5判・並製・128頁・定価1,500円/'15年4月刊

鹿地亘資料調査刊行会 編/『日本人民反戦同盟資料』別巻

日本人民反戦同盟資料 解説・解題・総目次

● A 4判・上製・346頁・定価35,000円/'95年12月刊

福井紳一 解説

『興農合作社関係資料』解説・総目次

● A 5判・並製・222頁・定価2,000円/'10年9月刊

三好 章 解題

『情報』解題・総目次

● A 5判・並製・87頁・定価1,000円/'10年1月刊

臼杵 陽 解題

『新亜細亜』解題・総目次・索引

● A 5判・並製・96頁・定価1,000円/'11年12月刊

仲程昌徳 解説

『南洋群島』解説・総目次・索引

● A 5判・並製・135頁・定価1,000円/'10年2月刊

岡部牧夫 解説

『満州移民関係資料集成』解説

● B 5判・並製・50頁・定価1,000円/'90年6月刊

■ 戦時下統制関係資料

河原 功 解説

『台湾出版警察報』解説・発禁図書新聞リスト

● A 5判・並製・80頁・定価1,000円/'01年2月刊

由井正臣・北河賢三・赤澤史朗・豊沢 肇 共編・著

出版警察関係資料 解説・総目次

● A 5判・並製・196頁・定価1,800円/'83年1月刊

荻野富士夫 解題

『外務省警察史』解題・総目次

● B 5判・並製・174頁・定価3,000円/'01年12月刊

石堂清倫 解説

『外事警察報』解説・総目次・索引

● A 5判・上製・282頁・定価5,000円/'89年2月刊

荻野富士夫 解題

『外事警察報 補巻』 解題・総目次・索引

● A 5判・並製・52頁・定価1,000円/'00年9月刊

山本武利 解説

『宣撫月報』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・120頁・定価1,000円/'06年1月刊

松野誠也 解説

陸軍省『調査彙報』 解説・総目次

● A 5判・並製・96頁・定価1,000円/'07年9月刊

■ 戦争犯罪・戦犯裁判・軍事史

栗屋憲太郎・中村 陵 解説

『総力戦研究所関係資料集』 解説・総目次

● A 5判・並製・94頁・定価1,200円/'16年2月刊

常石敬一 解説

『陸軍軍医学校防疫研究報告』 解説・総目次

● A 5判・並製・100頁・定価1,000円/'05年12月刊

内海愛子 解題

『すがも新聞』 解題・総目次・年表

● A 5判・並製・106頁・定価2,000円/'13年9月刊

■ 戦後史

落合雄三・松村高夫 解説

『「三鷹事件」裁判関係資料集』 解説・資料目録

● B 5判・並製・100頁・定価2,000円/'10年1月刊

『戦後日本共産党関係資料』 収録資料目録

● A 4横判・並製・328頁・定価5,000円/'07年12月刊

井上 學・井上敏夫・来栖宗孝・由井 格 解題・解説

『戦後日本共産党関係資料』 解題・解説

● A 5判・並製・112頁・定価1,000円/'08年1月刊

渡部富哉 解説／井上學・井上敏夫 解題

『朝鮮戦争下 公安関係資料——光永源槌資料』 解説・解題・収録資料目録

● B 5判・並製・64頁・定価1,000円/'11年4月刊

荻野富士夫 解説

『特審月報』 解説・総目次

● A 5判・並製・64頁・定価1,000円/'08年11月刊

■ 教育

『台湾教育』 総目次・索引

● A5判・上製・746頁・定価19,000円/'16年10月刊

多仁照廣 解説

『良民』 解説・総目次

● A 5判・並製・82頁・定価1,000円/'98年10月刊

多仁照廣 解説

『帝國青年』『青年』 解説・総目次・索引

● A 5判・上製・540頁・定価5,000円/'07年1月刊

『帝國大學新聞』 記事・執筆者索引

● A 4判・上製・272頁・定価18,000円/'85年5月刊

『東京大学新聞』 記事・執筆者索引

● A 4判・上製・168頁・定価15,000円/'86年5月刊

『三田新聞』 記事・執筆者索引

● A 4判・上製・206頁・定価18,000円/'88年2月刊

青柳恵介 解説

『成城学園時報』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・206頁・定価2,000円/'17年5月刊

『^{いっきょう}一橋新聞』 記事・執筆者索引

● A 4判・上製・126頁・定価15,000円/'89年2月刊

北河賢三 解説

『壯年團』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・84頁・定価1,000円/'85年9月刊

■生活・文化・芸術・映画

阪本裕文・佐藤 洋 解説

『記録映画』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・186頁・定価2,000円/'15年12月刊

阪本裕文・佐藤 洋 編・解説

『記録映画作家協会会報』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・158頁・定価2,000円/'17年5月刊

飯野正仁 編・解説

『旬刊美術新報』解説・目録

・B 5判・並製・108頁・定価2,000円/'17年5月刊

吉田則昭 解説

『ソヴェト文化』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・54頁・定価1,000円/'16年7月刊

フィオードロフ・アナスタシア 解説

『ソヴェト映画』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・92頁・定価1,500円/'16年7月刊

山口謙吾 解説／三好まり 回想

『三好十郎著作集』解説・回想・総目次

・A 5判・並製・86頁・定価1,000円/'15年5月刊

石川寛子 解説

文化普及会 刊

『文化生活』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・146頁・定価2,000円/'97年6月刊

竹中はる子 解説

『家庭科学』〈戦前編〉解説・総目次・索引

・A 5判・並製・106頁・定価1,000円/'99年12月刊

水尾比呂志・尾久彰三・杉山享司・村上豊隆・白土慎太郎 解説

『月刊民藝・民藝』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・112頁・定価1,000円/'08年7月刊

水尾比呂志 解説

『工藝』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・170頁・定価1,000円/'10年1月刊

『音楽』総目次・索引

・A 5判・並製・156頁・定価2,000円/'13年1月刊

祖父江昭二 解説

『築地小劇場』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・88頁・定価1,000円/'86年7月刊

高原二郎・西川祐子 解説

文化生活研究会 刊

『文化生活』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・72頁・定価1,000円/'95年12月刊

■労働・社会運動

堀口良一 解説

『安全第一』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・52頁・定価1,000円/'07年10月刊

廣畑研二 解説

『一九二〇年代社会運動関係警察資料』
解説・総目録・索引

・A 5判・並製・146頁・定価2,000円/'03年11月刊

渡部 徹 解説

『社会運動通信』解説・総目次
記事・地方別索引 全2巻

・A 4判・上製・総1,136頁・揃定価50,000円/'87年1月刊

■近現代文学

山下真史 解説

『文藝』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・174頁・定価3,000円/'15年1月刊

榎原 修・田中励儀 解説

『文學界』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・138頁・定価2,000円/'09年4月刊

関 肇 解題

『文庫』解題・総目次・索引

・A 5判・上製・334頁・定価18,000円/'06年12月刊

田中 綾 解説

『日光』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・114頁・定価1,000円/'16年10月刊

山本昌一 解説

『新著月刊』解説・総目次・索引

・A 5判・並製・52頁・定価1,000円/'89年4月刊

西田 勝 解説

『青年文』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・50頁・定価1,000円/'03年12月刊

上 笙一郎 解説

『穎才新誌』解説・総目次・索引

• B 5判・上製・750頁・定価20,000円/'93年12月刊

上 笙一郎 解説/上田信道 解題

『小国民』解説・解題・総目次・索引
付=『小国民』綜覧

• A 5判・並製・288頁・定価3,000円/'99年10月刊

浦西和彦 解題

『文学案内』解題・総目次・索引

• A 5判・並製・82頁・定価1,000円/'05年6月刊

高橋春雄 解説

『農民』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・92頁・定価1,000円/'90年10月刊

澤 正宏 解説

『現代日本詩集』(1927年~1944年)解説・索引

• A 5判・並製・100頁・定価2,000円/'10年5月刊

梅宮弘光・五十殿利治・澤 正弘・西田 勝 解説

『ゲエ・ギムギガム・プルルル・ギムゲム』
解説・総目次・索引

• A 5判・並製・72頁・定価1,000円/'07年7月刊

山田博光 解題

『三人』解題・回想・総目次・索引

• A 5判・並製・88頁・定価1,000円/'02年7月刊

山内祥史 解題

『文芸時報』解題・総目次・索引

• A 5判・並製・224頁・定価2,500円/'87年12月刊

高橋新太郎 解説

『文芸懇話会』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・54頁・定価1,000円/'97年6月刊

小田切秀雄 解説

『人民文庫』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・68頁・定価1,000円/'96年6月刊

矢口進也 解説

『図書新聞』解説・記事・
執筆者・書評索引 I ('49~'59年)

• A 4判・上製・430頁・定価18,000円/'90年2月刊

『図書新聞』記事・執筆者・
書評索引 II ('60~'68年)

• A 4判・上製・400頁・定価18,000円/'91年2月刊

『図書新聞』記事・執筆者・
書評索引 III ('69~'79年)

• A 4判・上製・320頁・定価18,000円/'92年2月刊

『図書新聞』記事・執筆者・
書評索引 IV ('80~'88年)

• A 4判・上製・400頁・定価20,000円/'93年2月刊

田中榮一 解説

『生長する星の群』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・54頁・定価1,000円/'90年4月刊

伊藤和也 解説

『峠』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・24頁・定価500円/'87年8月刊

狩野啓子・長野秀樹・深野 治 解説

『午前』解説・回想・総目次・索引

• A 5判・並製・88頁・定価1,000円/'04年6月刊

赤塚正幸・大西巨人・狩野啓子 解説

『文化展望』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・50頁・定価1,000円/'04年6月刊

赤塚正幸・麻生 久・出海溪也 解説

『鵬』『ピオネ』『藝術前衛』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・78頁・定価1,000円/'04年6月刊

松下博文・坂口 博・井上洋子 解説

『サークル村』『労働藝術』『地下戦線』『炭砒長屋』
解説・回想・総目次・索引

• A 5判・並製・86頁・定価1,000円/'06年6月刊

勝村 誠・秦 重雄 解題

『人民戦線』解題・総目次・索引

• A 5判・並製・58頁・定価1,000円/'06年10月刊

宇野田尚哉・細見和之 解説/金時鐘・鄭仁・梁石日 鼎談

『GINGALE・カリオン』解説・鼎談・総目次・索引

• A 5判・並製・130頁・定価1,000円/'08年11月刊

道場親信 解説

『東京南部サークル雑誌集成』
解説・解題・回想・総目次・索引

• A 5判・並製・142頁・定価1,000円/'09年7月刊

鳥羽耕史 解説

『総合文化』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・76頁・定価1,000円/'09年10月刊

伊藤康子 解題

『新女性』解題・総目次・索引(DVD-ROM付)

• A 5判・並製・252頁・定価2,000円/'10年6月刊

鳥羽耕史・道場親信 解説/鳥羽耕史 解題/柴崎公三郎 回想

『人民文学』解説・解題・回想・総目次・索引(DVD付)

• A 5判・並製・222頁・定価2,000円/'10年9月刊

中西直樹 解題

『学園評論』解題・総目次・索引

• A 5判・並製・138頁・定価2,000円/'12年1月刊

我部 聖 解説

『琉大文学』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・64頁・定価1,000円/'14年11月刊

高橋秀太郎 解説

『東北文学』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・70頁・定価1,000円/'16年9月刊

鈴木裕子 解題

堺利彦 主宰

『家庭雑誌』解題・総目次・索引

• 菊判・並製・70頁・定価1,000円/'83年3月刊

堀切利高 解題

『新社会』解題・総目次・索引

• A 5判・並製・138頁・定価1,000円/'82年7月刊

福田久賀男 解題

『洪水以後』解題・総目次・索引

• A 5判・並製・66頁・定価1,000円/'84年3月刊

岩井忠熊・堀切利高 解説

『中外』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・114頁・定価1,000円/'88年12月刊

茅原 健 解説

『日本評論』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・74頁・定価1,000円/'89年6月刊

福田久賀男 解説

『文芸雑誌』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・102頁・定価1,000円/'89年9月刊

紅野敏郎・小松隆二 解説

『原始』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・68頁・定価1,000円/'90年5月刊

香内三郎・定村忠士 解説

『日本読書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引

• A 4判・上製・510頁・定価25,000円/'88年2月刊

山田有策 解題

『都の花』解題・総目次・索引

• 菊判・並製・90頁・定価1,000円/'85年3月刊

尾形国治 解説

『趣味』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・156頁・定価2,000円/'86年12月刊

尾形国治 編・著

『新小説』解説・総目次・索引

• B 5判・上製・452頁・定価15,000円/'85年1月刊

西田 勝 解説

『天鼓』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・44頁・定価500円/'85年9月刊

西田 勝 解説

『火鞭・ヒラメキ』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・40頁・定価500円/'85年9月刊

堀切利高 解題

『近代思想』解題・総目次・索引

• 菊判・並製・80頁・定価1,000円/'82年11月刊

浦西和彦 解題

『反響』解題・総目次・索引

• 菊判・並製・40頁・定価500円/'85年1月刊

紅野敏郎・大和田茂 解説

『科学と文芸』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・96頁・定価1,000円/'87年10月刊

吉田正信 解説

徳富蘇峰 主宰

『家庭雑誌』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・160頁・定価2,000円/'87年1月刊

大津山国夫 解説

『新しき村』解説・総目次・索引

• A 5判・並製・82頁・定価1,000円/'88年6月刊

■ 女性史・女性文学・ジェンダー

渡邊洋子 解題

『処女の友』 解題・総目次・索引

● A 5判・並製・94頁・定価1,000円/'14年11月刊

後藤明日香 解説

『連合婦人』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・202頁・定価2,000円/'13年10月刊

小山静子 解説

『日本婦人』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・78頁・定価1,000円/'11年11月刊

鈴木裕子 編・著・解説

日本女性運動資料集成 別巻＝索引

人名・団体名・執筆者名索引／日本女性運動史人名事典

● A 5判・上製・556頁・定価15,000円/'98年12月刊

尾形明子・鈴木裕子 解説

『女性改造』〈戦前編〉 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・94頁・定価1,000円/'08年6月刊

松尾尊兌・兒玉勝子 解説

『婦選』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・310頁・定価3,000円/'94年12月刊

鈴木裕子 解説

『婦人運動』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・206頁・定価2,000円/'91年12月刊

藤目ゆき 解説

『婦人』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・336頁・定価3,000円/'96年5月刊

竹村民郎 解説

『廓清』 解説・総目次・索引

● B 5判・上製・238頁・定価4,000円/'85年10月刊

ゆのまえ知子・秋定嘉和・藤野 豊 解説

『買売春問題資料集成』〈戦前編〉 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・140頁・定価2,000円/'02年10月刊

藤目ゆき 解説

『性暴力問題資料集成』 解説・総目次

● A 5判・並製・70頁・定価2,000円/'06年12月刊

荻野美穂・松原洋子・斎藤 光 解説

『性と生殖の人権問題資料集成』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・148頁・定価1,000円/'00年6月刊

斎藤 光 解説

『性科学研究』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・54頁・定価1,000円/'01年6月刊

佐々木敏二 解説

『性と社会』 解説・総目次・索引

● 菊判・並製・62頁・定価1,000円/'83年12月刊

片野真佐子 解説

『上毛之青年』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・62頁・定価1,000円/'93年5月刊

澤 正宏 解説

『日本女性詩集 1930年～1943年』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・66頁・定価1,000円/'14年7月刊

渡邊澄子 解説

『女子文壇』 解説・総目次・索引

● A 5判・上製・492頁・定価18,000円/'05年8月刊

山田有策 解題

『以良都女』 解題・総目次・索引

● A 5判・並製・70頁・定価1,000円/'82年12月刊

岡野幸江 解説

『新真婦人』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・88頁・定価1,000円/'94年10月刊

尾形明子 解説

『輝ク』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・106頁・定価1,000円/'88年12月刊

黒澤亜里子 解説

『婦人文芸』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・100頁・定価1,000円/'87年7月刊

井手文子 解説

『青鞥』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・80頁・定価1,000円/'83年6月刊

紅野敏郎 解説

『女人藝術』 解説・総目次・索引

● A 5判・並製・162頁・定価2,000円/'87年9月刊

■ 農業史

清水洋二 解説

『農政時報』解説・総目次

• A 5判・並製・110頁・定価1,000円/'87年7月刊

『流芳』復刻版刊行会 解題

『流芳』解題・総目次・索引

• A 5判・並製・138頁・定価1,000円/'87年8月刊

楠本雅弘 解説

『清明心』あかき ころ解説・資料編

• A 5判・並製・126頁・定価1,000円/'82年6月刊

■ 中国語・中国文学・漢文

加藤国安 解説

『明治漢文教科書集成』第Ⅰ期・第Ⅱ期解説

• A 5判・並製・240頁・定価2,300円/'13年11月刊

加藤国安 解説

『明治漢文教科書集成』第Ⅲ期解説・総索引

• A 5判・並製・314頁・定価3,000円/'15年9月刊

竹中憲一 編

中国雑誌所蔵目録

• B 5判・上製・305頁・定価8,500円/'94年7月再刊

人民日報社論索引 ('48~'58年)

• B 5判・上製・108頁・定価2,500円/'83年12月刊

蜂屋亮子 解題

『紅旗週報』解題・総目次・索引

• B 5判・並製・88頁・定価1,000円/'85年10月刊

執筆者・推薦者索引

* 目録本文の執筆者名・推薦者名を収載しています。

あ					
相澤 仁	44	飯田耕二郎	57, 59	猪瀬直樹	27
青木 茂	94	飯田 進	84, 87, 98	伊部正之	86
碧海純一	47	飯田祐子	116	今井健二	124
青柳恵介	91, 131	飯野正子	57	今井清一	47, 74, 76
青山 毅	101	飯野正仁	94, 132	今井信雄	102
赤枝香奈子	114	家永三郎	26, 27, 75, 84, 95	今泉裕美子	71
赤川 学	114	池内輝雄	99	井村哲郎	67, 81
赤澤史朗	27, 75, 126, 130	池田浩士	95, 102, 107, 108	色川大吉	26
赤塚正幸	107, 133	池田敬正	41	岩井忠熊	111, 134
赤松徹眞	26, 29, 30	石井寛治	49, 91	岩田ななつ	117
秋定嘉和	45, 46, 68, 74, 113, 135	石川一雄	43	岩田一正	91
阿木津英	116	石川 巧	109	岩田正美	40, 127
栗国恭子	61, 62, 130	石川忠雄	91	岩本純明	118
朝治 武	46, 128	石川忠久	119	岩本由輝	50
浅田石二	108	石川友紀	71	于 臣	51
安里 進	61	石川寛子	94, 132	上田音市	46
浅野慎一	71	石田潤一郎	54, 129	上田信道	100, 133
浅野千恵	113	石田頼房	53	うえだひろし	107
浅野豊美	72	石月静恵	112, 113	上田正昭	46, 55
朝野 洋	33	石堂清倫	65, 76, 91, 130	上野景三	89
飛鳥井雅道	25	石原武政	53	上野千鶴子	107, 112, 113
麻生 久	107, 133	石原 潤	55	鶴飼 哲	108
安達宏昭	83	出海溪也	107, 133	宇佐美英機	50
安孫子麟	65	市野川容孝	36, 114	氏家幹人	114
阿部三郎	86	一ノ瀬俊也	112	牛島秀彦	126
阿部志郎	32, 41	一番ヶ瀬康子	33, 44, 113	白杵 陽	71, 130
阿部 洋	71	一柳廣孝	37	右田紀久恵	41
天野勝文	91	井手文子	117, 135	内川芳美	25, 74, 91, 95
天野 茂	117	井出孫六	27, 71, 93	内田青蔵	53
天野弘之	67	伊東昭雄	66	内田博文	43
甘利璋八	25, 126	伊藤 晃	70, 75, 86	内海愛子	78, 84, 87, 131
雨宮昭一	53	伊藤和也	103, 133	宇都榮子	40, 44
阿毛久芳	101	伊東幹治	101	宇野重昭	125
新井紀一	102	伊藤共治	100	宇野田尚哉	108, 133
新川 明	64	伊藤桂一	107	梅宮弘光	101, 133
荒木 傳	101	伊藤 純	103	浦田義和	100
新崎盛暉	62, 63, 64	伊藤信吉	111	浦西和彦	28, 100, 103, 126, 133, 134
荒瀬 豊	25, 26, 27, 126	伊藤 隆	91, 110	海野福寿	50, 67, 68, 75, 79, 102
荒山正彦	55, 66	伊藤 毅	55	江口朴郎	111
蘭 信三	59, 66	伊藤成彦	91	江副浩正	91
阿利資之	91	伊東光晴	92	江連恭弘	43
有馬 学	107	伊藤康子	108, 113, 134	榎本隆司	102
有光次郎	96	稲葉三千男	102	江原由美子	113
有山輝雄	63, 74, 91	犬丸義一	26, 66, 108	王曉 秋	66
栗屋憲太郎	78, 80, 83, 131	井上敏夫	86, 131	扇谷正造	91
安在邦夫	26	井上順孝	35	大石 進	86
安藤 宏	99, 109	井上久士	76	大内三郎	34
飯沢 匡	96	井上 学	54	大浦克彦	50
		井上 學	66, 70, 86, 131	大江志乃夫	66, 78
		井上洋子	107, 133	大門正克	118

執筆者・推薦者索引

大川公一	101	尾末奎司	101	金子兜太	103	
大河原礼三	34	小田 晋	36	狩野啓子	107, 133	
大木基子	115	小田 実	102, 110	加納実紀代	108, 112	
大久保謙	26, 126	小田切明德	98	我部 聖	109, 134	
大久保利謙	75, 100	小田切進	101	我部政明	62	
大河内一男	91	小田切秀雄	27, 75, 91, 101, 102, 110, 117, 133	我部政男	25, 62, 63	
大澤広嗣	29	小田中聰樹	86	鎌田 慧	98	
大城立裕	62, 95	落合恵子	112	上笙一郎	66, 99, 100, 116, 133	
大城将保	78	落合雄三	86, 131	蒲生俊宏	44, 128	
太田 明	43	小野沢あかね	113, 114	茅原 健	28, 111, 126, 134	
大田静男	61, 63	大日方純夫	113	加山久夫	44, 97	
太田辰夫	119, 120	大見川正治	44	唐澤富太郎	100	
太田哲男	99	五十殿利治	101, 133	川井 勇	61	
太田雅夫	27, 111	折戸洪太	123	河合和男	68	
大田昌秀	62	か			川上 武	43
大滝英征	82, 83	何 旭	123	川島 真	58	
大竹 章	43	何 義 麟	71	川田悦子	43	
大谷栄一	29	戒能民江	114	川津 誠	99	
大塚健洋	71	戒能通厚	51	川戸れい子	33	
大塚秀明	124	影山清四郎	89	川野重任	93	
大津山国夫	134	影山礼子	33, 126	河原 功	27, 71, 72, 75, 88, 126, 130	
大友昌子	40	風木雲太郎	107	河原典史	54, 129	
大西巨人	107, 133	笠原芳光	33, 34	川村邦光	114	
大濱徹也	88	風間秀人	66, 130	川村 湊	65, 101	
大原謙一郎	95	桒原 修	99, 132	川本博康	93	
大原健士郎	36	梶村秀樹	48	姜 在 彦	25, 86	
大村英昭	30	梶村光郎	63, 130	姜 徳 相	86	
大和田茂	103, 111, 134	梶山雅史	88, 89	菊地昌典	76	
岡 保生	116	柏木隆法	127	菊池正治	30, 31	
岡田和喜	49, 50, 51, 128	片木 篤	53	菊池義昭	40, 41	
岡田靖雄	37, 79	鹿地巨資料調査刊行会	66, 130	木坂順一郎	75, 76	
岡田洋司	92, 98	片野真佐子	44, 115, 135	岸和田仁	59, 82	
尾形明子	112, 117, 135	片山邦雄	48	北 博昭	78, 79, 80, 81	
尾形国治	134	勝尾金弥	100	北川勝彦	48	
岡野幸江	117, 135	香月洋一郎	118	北河賢三	75, 130, 131	
岡林伸夫	98	「合作社事件」研究会	80	北川晃二	107	
岡部伊都子	39	勝村 誠	107, 133	北川鉄夫	95	
岡部牧夫	65, 66, 78, 130	勝本信之助	91	北沢清司	44	
岡村敬二	67	桂川 寛	108	北根 豊	25	
岡本道雄	34	加藤一郎	47	北野昭彦	101	
小川利夫	88	加藤国安	119, 136	北林雅洋	38, 82	
小川信子	94	加藤重一	107	北原糸子	55	
小川晴久	38	加藤秀一	36	北原理雄	53	
小川 博	81	加藤哲郎	64, 74, 75, 86	北原東代	100	
小川政亮	63	加藤 寛	91	北山 修	37	
沖田行司	58	加藤陽子	51	木下 昭	59	
荻野富士夫	38, 50, 51, 74, 75, 76, 77, 79, 86, 97, 128, 130, 131	金井英樹	46	君島和彦	65	
荻野美穂	114, 135	「神奈川の部落史」編集委員会	45	金 時 鐘	108, 133	
尾久彰三	95, 132	金澤史男	50, 128	金 早 雪	68	
奥平康弘	27, 74, 75, 76	金森トシエ	112	金 栄	86	
奥野健男	111	金子幸子	115	金 英 達	81	
小倉襄二	33, 44, 113	金子幸代	116, 117	木村一信	99	
尾崎秀樹	26, 27, 76, 101, 126	金子 俊	79	木村健二	49, 58, 59	
小里貞利	89			木村 元	91	
				木村涼子	112	

金原左門	88	五味百合子	33, 127	宍戸恭一	94
楠 淳澄	29	小峯和茂	36	篠田左多江	58, 129
楠本雅弘	136	小森陽一	109	篠田正浩	95
久野 収	26	小山静子	112, 118, 135	柴崎公三郎	108, 134
久保田正文	101	小山仁示	113	渋谷 駿	110
倉沢愛子	71	近藤健一郎	61, 63, 64, 130	渋谷栄一記念財団	51, 60
倉橋 健	96	近藤俊太郎	29, 31	渋谷雅英	51
倉橋正直	79	近藤信行	99	渋谷一夫	38, 82
倉持史朗	44	近藤真柄	110	島蘭 進	35
栗原 彬	36	近藤康男	118	島村 輝	108
栗原 敦	99	権並恒治	58, 129	清水勝嘉	78, 84, 95, 96
栗原 均	102	ん		清水賢一郎	66
来栖宗孝	86, 131	斎藤 勇	97	清水 茂	100
訓覇 浩	43	斎藤 毅	71, 72	清水 寛	40, 43, 44, 79, 127
棚澤能生	51, 129	齊藤智朗	35	清水洋二	118, 136
樽松かほる	33, 71, 126	斎藤 光	36, 114, 127, 135	下西 忠	30, 126
黒井千次	101	斎藤 眞	47	姜 克 實	38
黒川みどり	46	斎藤美奈子	43	初期コミンテルンと東アジア研究会	70
黒木彬文	66	酒井シヅ	112, 113	植民地文化学会	67
黒古一夫	100	酒井直子	62, 130	植民地文化研究会	67
黒澤亜里子	117, 135	阪井芳貴	61	白石崇人	88
桑尾光太郎	26	佐賀枝夏文	31, 126	白木沢旭児	66
呉 密 察	75	栄原永遠男	55	白土慎太郎	95, 132
小泉武栄	55	坂口 博	107, 133	白取道博	66
高 媛	66	坂口満宏	30, 33, 57, 59, 127	白幡洋三郎	55, 129
神美知宏	43	酒田正敏	50, 128	白水繁彦	58
香内三郎	134	阪田安雄	58	陣内秀信	54
額 厚	74, 81, 83	阪本楠彦	119	新城郁夫	109
紅野謙介	99	阪本是丸	35	新城栄徳	61, 62, 130
紅野敏郎	99, 100, 102, 107, 111, 117, 134, 135	阪本裕文	93, 132	新保 博	49
河野信子	107	坂本義和	47	新谷恭明	38
幸野保典	58	向坂逸郎	110	末永國紀	54
高良留美子	108	作道洋太郎	50, 128	菅原亮芳	38, 89
国場幸太郎	64	櫻澤 誠	61, 64, 130	杉井六郎	33, 34
越澤 明	53, 55, 129	佐々木敏二	57, 58, 59, 98, 114, 135	杉原 薫	48
小路田泰直	50	佐々木幹郎	101	杉原四郎	27, 49
小島晋治	66, 125	佐佐木幸綱	100, 103	杉原 達	70
児嶋草次郎	41	笹栗俊之	36	杉原泰雄	47
兒島俊郎	84	佐多稲子	117	杉本秀太郎	54
輿水 優	119, 120	佐高 信	27	杉山享司	95, 132
小関智弘	108	定村忠士	134	杉山博昭	40
兒玉勝子	113, 135	佐藤公偉	91	鈴木晃仁	36
兒玉正昭	58, 59, 129	佐藤卓己	77, 103, 112	鈴木貞美	119
冨 雄二	43	佐藤忠男	95	鈴木 淳	53
後藤明日香	112, 135	サトウタツヤ (佐藤達哉)	36, 37, 127	鈴木善次	36
後藤弘子	114	佐藤 久	55	鈴木隆史	65
後藤 靖	25	佐藤秀夫	66, 100	鈴木則子	43
琴坂守尚	98	佐藤全弘	94	鈴木範久	34, 127
小林弘二	65, 130	佐藤 洋	93, 132	鈴木正幸	118
小林 茂	55, 79, 80, 129	佐藤喜春	93	鈴木裕子	97, 110, 112, 113, 115, 134, 135
小林知子	86	澤 正宏	101, 109, 116, 133, 135	須田将司	89
小林英夫	84	澤山信一	42	須藤健一	71
小日向哲也	107	史 金 波	124	ストーカー, ナンシー	35
小松隆二	97, 111, 134	重松一義	41, 51, 84	砂川哲雄	61

執筆者・推薦者索引

住井すゑ	101, 112
スミス, ヘンリー	94
隅谷三喜男	110
関 肇	99, 132
関井光男	36
関屋綾子	33
瀬戸内寂聴	102, 116
瀬戸口勝義	98
世良利和	61, 130
千田是也	96
副島昭一	75
曾根博義	36, 37, 127
園部逸夫	71
園部裕之	46
祖父江昭二	95, 111, 132
曾山 毅	55
宋 連 玉	113
孫 安石	66

た

高石史人	30, 31
高木四郎	47
高木博志	55, 129
高木〈北山〉眞理子	58
高崎隆治	78, 81
高里鈴代	114
高嶋雅明	26, 48, 49, 50, 58, 128
高杉晋吾	84
高綱博文	69, 79
高橋喜久江	33, 112, 113, 114
高橋秀太郎	109, 134
高橋淳子	44
高橋順子	61, 64, 130
高橋新太郎	26, 27, 101, 102, 133
高橋敏夫	62
高橋信孝	94
高橋春雄	101, 133
高橋まり代	124
高橋康夫	54
高原二郎	132
高柳俊男	86, 107
高良倉吉	61, 130
滝尾英二	68
滝沢 修	96
滝澤民夫	34
滝沢正樹	92
匠 秀夫	101
武 邦保	127
竹内 洋	33, 38
武内善信	26, 126
武田清子	33, 127
武富登巳男	78
竹中憲一	136
竹中はる子	94, 132
竹中正夫	34

竹部喜代子	93
竹村民郎	113, 115, 135
竹盛天雄	116
田島俊雄	67
田島奈都子	66
館かおる	114
田中 明	78
田中 綾	100, 132
田中榮一	102, 133
田中和子	117
田中喙義	53
田中秀臣	27, 126
田中真人	45, 51, 75, 97, 110
田中正俊	48
田中 傑	55, 129
田中 学	65, 118
田中萌葵	61, 64, 130
田中励儀	99, 132
田辺聖子	28
多仁照廣	88, 89, 131
谷 昌恒	41
谷川恵一	26
谷川建司	94
谷川 穰	31
谷沢永一	28
玉井金五	97
田村紀雄	102
丹尾安典	94
丹野喜久子	41, 63, 128
千葉雄次郎	91
茶園義男	76, 78, 79, 81, 83, 84, 85
中馬充子	36, 127
趙 夢雲	103
長 幸男	50
鄭 仁	108, 133
陳 雪 玉	88
陳 祖 恩	69
陳 培 豊	72
清格爾泰	124
塚崎昌之	80
柘植あづみ	114
辻 清明	91
辻 智子	112
辻 誠	47
辻田文雄	83
辻原万規彦	53, 129
對馬路人	35, 127
辻本雅史	38, 119
土屋礼子	26, 94
都築久義	110
都筑 均	107
常石敬一	79, 83, 131
角田由紀子	114
角山 栄	48
坪井秀人	36, 108

坪内稔典	103
坪田譲治	102
津曲裕次	44
鶴見和子	26
鶴見俊輔	27, 95, 103, 107, 108, 111
出村 彰	33
寺尾 誠	91
寺崎昌男	38, 89, 91
寺田近雄	56, 83
寺脇隆夫	41, 128
田 彤	51
土井大助	115
土井たか子	112, 113
土井直子	41, 128
佟 岩	71
戸上宗賢	59
徳田靖之	43
利谷信義	47
戸高一成	83
殿木圭一	91
鳥羽耕史	103, 108, 134
戸邊秀明	61, 64, 130
富田正文	91
富山一郎	64
豊沢 肇	75, 130
鳥居和代	89
鳥山 淳	62, 64, 130

な

内藤辰雄	102
内藤裕史	79, 83
那珂太郎	107
永岡正己	40, 41, 43
中川成美	103
中川洋子	31
長澤 秀	86
中島岳志	71
中島直人	55, 129
中島三千男	51
中嶋幹起	123, 124
永島勝介	79
中瀬喜陽	26, 126
仲宗根将二	61, 63
中田 實	53
中西直樹	29, 30, 31, 108, 126, 134
中野次雄	47
中野 良	80
長野秀樹	107, 133
仲程昌徳	61, 62, 63, 71, 109, 130
中村紀伊	113
中村民男	36
中村尚美	75
中村満紀男	44
中村政則	50
仲村優一	41

中村 陵	80, 83, 131	畑 穰	51, 129	深野 治	107, 133
長元朝浩	64	波多野太郎	65, 66, 119, 120, 121, 122, 123, 124	福井紳一	67, 130
中山和子	27	蜂谷俊隆	44	福岡千代吉	84
那須 清	123	蜂屋亮子	136	福島鑄郎	63
夏石番矢	103	初田香成	53, 55, 129	福島幸宏	79
成田龍一	108, 112, 114	初田 亨	54	福田久賀男	110, 111, 134
鳴海邦碩	53	服部一馬	25	福田陸太郎	58
二井仁美	42, 44	服部敏幸	102	福武 直	91
西 秀成	51, 128	波照間永吉	62	富士正夫	101
西尾 勝	53	羽鳥敬彦	68	藤井栄一	92
西川祐子	94, 108, 132	羽田澄子	116	藤井淑禎	37
西田正憲	55	馬場伸彦	36, 127	藤岡里圭	53, 129
西田 勝	67, 77, 83, 100, 101, 102, 103, 104, 107, 110, 111, 133, 134	浜賀知彦	108	藤澤健一	61, 63, 64, 130
西田美昭	50, 128	浜川 仁	64	藤田光寛	31
西原和海	66	早川紀代	79	藤田貞一郎	50
西村成雄	65	早坂啓造	51, 129	藤田治彦	54
西村幸夫	53	林 京子	64	藤田富士男	81, 98
西山勝夫	83	林 千代	33	藤田正典	125
西山 伸	108	林 道生	84	富士田元彦	95
西山康雄	53	林 宥一	101	藤田佳久	70
丹羽雅子	94	林 行夫	29	藤野 豊	43, 44, 45, 46, 51, 79, 113, 115, 127, 128, 135
縫田燐子	113	原 朗	50	藤目ゆき	87, 108, 113, 114, 115, 135
布川角左衛門	102	原 武史	35	藤森照信	53, 54
根川幸男	57	原 宗子	67	藤原 彰	66, 78
野口正二郎	92	原洋之介	62	古川孝順	41
野沢隆一	91	原口邦紘	57	古川隆久	51, 80
野田勝久	79	原田勝正	78	古川 誠	114
野田公夫	118	原田政美	50, 128	古桑 実	93
野田正彰	44	ハルトゥーニアン, ハリー	108	逸見勝亮	63, 66, 74
野中正孝	89	春原昭彦	26	北條秀司	96
ノーネス, マーク	93	春山明哲	72, 78, 88	星加輝光	107
のびしょうじ	46, 128	韓 哲 曦	34	星埜由尚	55
野間 宏	102	韓 榮 恵	51	保昌正夫	101
野間光子	101	伴野文夫	91	細井 勇	34, 41
野村悦子	55, 129	樋口恵子	91, 93, 110, 114	細川周平	96
野本京子	118	久木幸男	100	細見和之	108, 133
野山嘉正	99	飛田雄一	81	細谷 昂	118
は		日比嘉高	57	堀田典裕	53, 129
羽賀祥二	54, 55	姫田光義	78	堀 和生	69
萩原 進	34	平井廣一	57	堀切利高	26, 27, 39, 98, 110, 111, 134
萩原真美	89	平出 隆	100	堀口良一	97, 98, 132
朴 慶 植	67, 86	平岩昭三	39	堀越克明	100
橋爪紳也	54, 129	平岡敏男	91	本庄比佐子	70
羽島知之	25	平岡敏夫	100	本田和子	100
橋本紀子	112	平田勝政	43, 44, 128	本間靖夫	50, 128
橋本宏子	108	平野龍一	47	ま	
橋谷 弘	91	平林 一	101	マイグレーション研究会	59
長谷川啓	99, 102	平山和彦	46, 128	前田 愛	116
長谷川匡俊	30, 31, 40, 41, 128	廣重 聰	101	前田一男	74
長谷川龍生	101	廣嶋清志	114	真栄平房昭	64
バゼル山本登紀子	58	廣畑研二	74, 97, 132	牧野 守	95
秦 重雄	107, 133	フィオードロワ, アナスタシア	94, 132	槇林混二	100
畑 実	100	フィールド, ノーマ	103	鱒澤彰夫	66, 123

執筆者・推薦者索引

増田四郎	92	宮崎礼子	93	山口栄鉄	64
又吉盛清	88	宮田節子	67, 68, 78, 86	山口和雄	48
松井やより	113	宮地正人	50	山口謙吾	94, 132
松浦総三	27, 75	宮本潤子	114	山口光朔	33, 34, 127
松尾章一	26, 114, 126	宮本正明	68, 86	山口幸照	31
松尾尊兌	45, 47, 74, 111, 112, 113, 114, 135	宮本又次	50	山口昌男	100
マック, エドワード	57	宮本美沙子	94	山口洋兒	71
松下博文	62, 107, 130, 133	三好 章	69, 70, 80, 130	山崎由可里	44
松田利彦	68	三好まり	94, 132	山敷和男	111
松永昌三	25	三好行雄	116	山下一海	103
松永 達	68	三輪公忠	57	山下 武	36
松野誠也	77, 79, 131	武藤整司	39	山下真史	99, 132
松野良一	26, 126	むのたけじ	27	山住正己	100
松原洋子	37, 114, 127, 135	村上勝彦	48, 55	やまだあつし	69
松村高夫	70, 78, 79, 83, 86, 131	村上豊隆	95, 132	山田寛人	68
松本克平	96	村上陽一郎	97	山田欣吾	92
松本健一	102	村田静子	115	山田昭次	86
松本三之介	66	室田 武	51	山田博光	101, 133
松本忠司	92	室田保夫	30, 33, 40, 41, 42, 44, 127, 128	山田 誠	54
松本俊夫	93	目取真俊	109	山田有策	109, 116, 134, 135
松山 巖	55	メリニコワ, イリーナ	94	山田 航	100
真鍋呉夫	107	望月新三郎	108	山中徳雄	81
真鍋俊照	30	元村智明	41, 128	山中 恒	78
馬原鉄男	45	本山幸彦	39	山内祥史	28, 101, 133
丸岡秀子	113	森 久男	70, 103	山村喜晴	92
丸山照雄	108	森 正人	30	山室徳子	33
丸山 昇	65, 66	森 宣雄	64	山本岩夫	58, 129
丸山 宏	54, 129	森崎和江	33	山本昌一	100, 132
満洲泰阜分村70年の歴史 と記憶編集委員会	67	森田 明	44	山本武利	25, 28, 74, 77, 79, 131
三上敦史	38, 127	森長英三郎	47	山本直英	114
三瓶達司	100	森本 修	101	山本安英	96
三木 健	61, 63, 130	森本豊富	57	山本有造	59
三國一朗	111	もろさわようこ	112, 113	山領健二	27
三島わかな	63, 130	モロニー, バーバラ	113	梁 石 日	108, 133
水内俊雄	55	門奈直樹	25, 26, 34, 63, 126, 127	由井晶子	64
水尾比呂志	95, 132	や		由井 格	86, 131
水上 勉	102	屋嘉比収	63	由井正臣	45, 50, 51, 74, 75, 130
水品春樹	96	八木田功	53	湯川次義	89
水田珠枝	33	矢口進也	102, 133	弓削政己	61, 63
水田 洋	92	矢口光子	93	ゆのまえ知子	113, 135
水田隆太郎	118	矢沢康祐	25	横田千代子	114
水野直樹	67, 68	安岡健一	103	芳井研一	79, 80
水野公寿	25, 126	安岡重明	50	吉岡博光	112
水原克敏	88	安富 歩	79	吉川弘之	94
三田千代子	59	八束はじめ	54	吉田栄治郎	46, 128
道場親信	108, 133, 134	柳沢 遊	49, 69	吉田金重	102
三橋 勇	66	柳田利夫	49, 58, 129	吉田久一	31, 32, 41
南 博	36, 96	矢吹 晋	83, 123	吉田則昭	94, 132
宮城悦二郎	63	山泉 進	51	吉田正信	134
宮城晴美	63	山内昌之	71	吉田司雄	36
宮城洋一郎	31	山形政昭	129	吉田 裕	44, 77, 78
宮崎真素美	116	山川振作	110	吉田 亮	57, 58, 60
宮崎隆次	50	山極圭司	111	吉永進一	29
				吉原直樹	53, 129
				吉浜 巖	81

吉見周子	113, 114
吉見俊哉	62
吉見義明	78, 79, 83
義根益美	98
米田佐代子	112, 116
米谷匡史	108

ら

李 紅 衛	71
李 洙 任	51
李 範 文	124
立命館大学日系文化研究会	59
龍谷大学アジア仏教文化研究センター	29
林 哲	87
蓮城寺秋幸	46, 128
六角恒廣	119, 122, 123

わ

若林正丈	75
和田敦彦	33, 57, 127, 129
和田 守	50
渡辺悦次	97
渡辺貫二	102
渡辺俊一	53
渡邊澄子	116, 117, 135
渡部宗助	88
渡部 徹	45, 74, 75, 97, 98, 132
渡邊洋子	89, 112, 135
渡辺理絵	55, 80
渡部富哉	86, 131

書 名 索 引

あ

愛護	44
『愛護』解説・総目次・索引	128
愛国新聞	46
愛知県農地史【品切】	
青い鳥はいなかった——葉書をめぐる一人の親のモノローグ	98
青森県農地改革史【品切】	
清明心【品切】	
『清明心』解説・資料編	136
秋田県農地改革史【品切】	
新しき村〈大正期〉【品切】	
『新しき村』解説・総目次・索引	134
アメリカ日系二世と越境教育——1930年代を主にして	60
ある明治社会主義者の肖像 [山根吾一覚書]	98
安全第一	97
『安全第一』解説・総目次・索引	132
安全第一の誕生——安全運動の社会史〈増補改訂版〉	98
家の光	93
移行する沖縄の教員世界——戦時体制から米軍占領下へ	64
石川県農地改革史【品切】	
石川県之社会改良	41
『石川県之社会改良』解説・総目次・索引	128
石つぶての中で【品切】	
磯野小作争議・小樽港湾争議 資料集	98
一橋新聞	92
『一橋新聞』記事・執筆者索引	131
伊藤証信とその周辺【品切】	
移民地事情	58
『移民地事情』解説・総目次	129
移民の魁傑・星名謙一郎の生涯	
——ハワイ・テキサス・ブラジル	59
以良都女	116
『以良都女』解題・総目次・索引	135
岩手県農地改革史【品切】	
浮田和民の思想史的研究——倫理的帝国主義の形成	38
埋もれた明治の青春——松岡荒村【品切】	
うるま新報	63
映画検閲時報	95
映画創造	95
穎才新誌	100
『穎才新誌』解説・総目次・索引	133
英人バジル・ホールと大琉球	
——来琉二百周年を記念して	64
映像で見る賀川豊彦とその時代 DVD版	97
江口きち資料集成〈塔影詩社蔵〉【品切】	
エスニック学生組織に見る「祖国」	
——フィリピン系アメリカ人ナショナリズムと文化	59

愛媛県農地改革概要【品切】	
演芸画報〈大正編〉【品切】	
演芸画報〈昭和編〉	96
鷗外女性論集	117
大分県農地改革史【品切】	
大倉高商新聞・東京経済大学新聞	91
大阪銀行通信録〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉	50
『大阪銀行通信録』解説・総目次	128
大阪府写真帖	54
大阪府特高警察関係資料——昭和二〇年	80
岡山県農会三十年史【品切】	
岡山県農地改革誌【品切】	
岡山孤児院関係資料集成	41
おきなわ	62
『おきなわ』解説・総目次・索引	130
沖縄教育	63
『沖縄教育』解説・総目次・索引	130
沖縄新民報・自由沖縄	63
沖縄秘密戦に関する資料	78
沖縄文化	62
小樽商科大学新聞『緑丘』	92
音楽 DVD版	96
『音楽』総目次・索引	132

か

海外各地在留本邦人 職業別人口表	58
海外日本実業者の調査	49
海外よりの左翼宣伝印刷物集	76
海軍軍法会議判例類集	80
海軍法務資料 馬場東作 綴	78
外交史料 韓国併合 上・下	68
外事警察概況	76
外事警察資料	76
外事警察報	76
『外事警察報』解説・総目次・索引	130
外事警察報 補巻	76
『外事警察報 補巻』解題・総目次・索引	131
外事月報	76
開知新聞	35
外邦測量沿革史 草稿	55, 79
『外邦測量沿革史 草稿』解説・総目次	129
外邦兵要地図整備誌	78
外務省警察史	75
『外務省警察史』解題・総目次	130
火焰樹——東南アジア強制労働下の機関誌	81
顔のない国——戦後の虚妄と国の品位喪失を問う	87
科学と文芸【品切】	

『科学と文芸』解説・総目次・索引	134	救世	33
輝号 <small>かがやきごう</small>	59, 82	『救世』解説・総目次・索引	127
輝ク【品切】		旧制成城高等学校尋常科地理自学書集	89
『輝ク』解説・総目次・索引	135	恐慌下の東北農村【品切】	
香川県農地改革三年史【品切】		京都大学新聞【品切】	
学園評論	108	『京都大学新聞』記事・執筆者索引【品切】	
『学園評論』解題・総目次・索引	134	京都地籍図	54
各県産業組合史料集成【品切】		『京都地籍図』解説	129
廓清 <small>かくせい</small>	113	京都府農会史【品切】	
『廓清』解説・総目次・索引	135	京都府農地改革史【品切】	
学生義勇軍【品切】		キリスト教社会福祉思想史の研究	
学生義勇軍関係資料	81	——「一国の良心」に生きた人々【品切】	
核戦争の危機に文学者はどのように対するか【品切】		基督教青年	34
学徒勤労報国隊〈増補改訂版〉【品切】		記録映画	93
歌集 巢鴨【品切】		『記録映画』解説・総目次・索引	132
華族財産関係資料【品切】		記録映画作家協会会報	93
華中宣撫工作資料	78	『記録映画作家協会会報』解説・総目次・索引	132
学校保健の近代	42	近現代日本ハンセン病問題資料集成〈戦前編〉	43
「合作社事件」関係資料	80	近現代日本ハンセン病問題資料集成〈戦後編〉	43
家庭科学〈戦前編〉	94	『近現代日本ハンセン病問題資料集成』	
『家庭科学』〈戦前編〉解説・総目次・索引	132	〈戦前編・戦後編〉解説・総目次	128
家庭雑誌〈堺利彦 主宰〉	110	近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻1~5〉	43
『家庭雑誌』〈堺利彦 主宰〉解題・総目次・索引	134	近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻6~9〉	43
家庭雑誌〈徳富蘇峰 主宰〉【品切】		近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻10~12〉	43
『家庭雑誌』〈徳富蘇峰 主宰〉解説・総目次・索引	134	近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻13~15〉	44
加藤完治の世界【品切】		近現代日本ハンセン病問題資料集成〈補巻16~19〉	
加藤時次郎【品切】		日本MTL	44
神奈川県農地改革史【品切】		『近現代日本ハンセン病問題資料集成』	
神奈川の部落史	45	〈補巻1~15〉解説・総目次	128
カナダ移民史資料	57	『近現代日本ハンセン病問題資料集成』〈補巻16~19〉	
カナダ移民史資料 II	58	日本MTL』解説・総目次・索引	128
『カナダ移民史資料』別冊〈英文〉	129	近事評論・扶桑新誌	25
火鞭・ヒラメキ【品切】		『近事評論・扶桑新誌』解説・総目次・索引	126
『火鞭・ヒラメキ』解説・総目次・索引	134	近代沖縄新聞集成 DVD版	63
茅原華山と同時代人	28	近代建築画譜 近畿編	54
茅原華山年譜・著作目録稿	126	近代思想【品切】	
簡易生活【品切】		『近代思想』解題・総目次・索引	134
韓国併合始末 関係資料	79	近代日本「市場」関係資料集	50
関東軍化学部・毒ガス戦教育演習関係資料	79	『近代日本「市場」関係資料集』解説／	
関東軍参謀部作成 総動員関係調査資料	79	近代日本「市場」関係資料目録 (CD付)	128
艦内新聞集成	83	近代日本女性論の系譜	115
岸田俊子研究文献目録 湘煙選集④【品切】		近代日本と「偽滿州国」【品切】	
岸田俊子評論集 湘煙選集①【品切】		近代日本と「滿州国」	67
岸田俊子文学集 湘煙選集②【品切】		近代日本の女性と大学教育	89
貴司山治研究	103	近代日本の中国語教育	123
貴司山治全日記 DVD版	103	近代日本「平和運動」資料集成【品切】	
契丹小字釋読問題	124	『近代日本「平和運動」資料集成』解題・総目次・索引	127
岐阜県小作争議資料集成	118	金融雑誌の展開	51
旧外地「工場名簿」集成	69	空中征服——賀川豊彦、大阪市長になる	98
旧外地における中国語教育	123	クラルテ【品切】	
救済	31	クリフォード訪琉日記——もうひとつの開国	64
『救済』解説・総目次・索引	126	久留米師団召集徴発雇用書類	78

山東出兵時における「第三師団特種研究記事」	79	出版警察関係資料集成【品切】	
三人	101	出版警察資料	75
『三人』 解題・回想・総目次・索引	133	出版警察報	75
GHQ（マ元帥）処刑命令書	81	趣味【品切】	
時局新聞	26	『趣味』 解説・総目次・索引	134
静岡県農地制度改革誌【品切】		守礼の光 DVD版	62
史蹟名勝天然記念物〈大正編〉【品切】		『守礼の光』 解説・総目次・索引	130
『史蹟名勝天然記念物』〈大正編〉 解説・総目次・索引	129	旬刊美術新報	94
史蹟名勝天然記念物〈昭和編 第Ⅰ期～第Ⅳ期〉	55	『旬刊美術新報』 解説・目録	132
『史蹟名勝天然記念物』〈昭和編〉 解題・総目次・索引	129	湘煙日記 湘煙選集③【品切】	
思想彙報	78	小国民	100
思想彙報Ⅱ	79	『小国民』 解説・解題・総目次・索引 付=『小国民』 総覧	133
七一雑報	34	少年園【品切】	
『七一雑報』 解説・総目次・索引	127	『少年園』 解説・総目次・索引【品切】	
実業家とブラジル移住	60	情報	70, 80
児童と宗教	31	『情報』 解題・総目次	130
『児童と宗教』 解説・総目次・索引	126	情報局関係極秘資料	74
支那事変大東亜戦争間 動員概史	78	上毛教界月報【品切】	
支那駐屯憲兵隊関係盧溝橋事件期資料	81	『上毛教界月報』 解説・総目次・索引	127
渋沢栄一記念財団の挑戦	51	上毛之青年	115
渋沢栄一と中国——一九一四年の中国訪問	51	『上毛之青年』 解説・総目次・索引	135
「島ぐるみ闘争」はどう準備されたか	64	昭和十年前後期 支那駐屯軍憲兵部文書	81
島根県農地改革誌【品切】		昭和10年全国商店街調査資料	53
清水安三と北京崇貞学園		昭和10年全国商店街調査資料	
——近代における日中教育文化交流史の一断面	71	別巻＝解題・参考資料編	129
斯民	50	昭和初期 政党政治関係資料【品切】	
『斯民』 目次総覧〈新版〉	128	昭和戦前期 日本公衆衛生史	95
社会運動通信【品切】		昭和大礼記録資料	51
『社会運動通信』 解説・総目次・記事・地方別索引	132	『昭和大礼記録資料』 解説	128
社会運動の状況〈大正15年版・昭和2年版〉	97	昭和の闇を生きて	87
社会事業	40	初期コミンテルンと東アジア	70
社会事業彙報	41	初期社会主義思想論	38
『社会事業彙報』 解説・事項索引	128	初期水平運動資料集	45
『社会福利』 総目次・索引【品切】		『初期水平運動資料集』 解説・総目次・索引	128
社会文学 創刊号～第46号	105	初期の満州国軍に関する資料	78
社会文学 一九二〇年前後——平林初之輔と同時代文学	103	殖民協会報告【品切】	
上海新報	69	『殖民協会報告』 解説・総目次・索引	129
週刊東日	26	植民地下 朝鮮におけるハンセン病資料集成	68
週刊読書人	102	植民地朝鮮における朝鮮語奨励政策	
週刊南米	57	——朝鮮語を学んだ日本人	68
重慶中国国民党在港秘密機関検挙状況	78	植民地文化研究 創刊号～第16号	73
十五年戦争極秘資料集 第1集～30集	78	女子青年界	33
十五年戦争極秘資料集 補巻 第1集～47集	79	『女子青年界』 解説・総目次・索引	127
十五年戦争重要文献シリーズ ①～⑳	81	女子文壇	116
十五年戦争重要文献シリーズ 補集①・②・③	82	『女子文壇』 解説・総目次・索引	135
十五年戦争末期国内憲兵分遣隊報告	79	『女子文壇』 執筆者名・記事名データベース	116
終戦後の法令 制定・改正・廃止 経過一覽	79	処女の友	112
自由燈	26	『処女の友』 解題・総目次・索引	135
『自由燈』 解説・主要記事索引	126	女性改造〈戦前編〉	112
『集報』——南京日本人収容所新聞	81	『女性改造』〈戦前編〉 解説・総目次・索引	135
出版警察概観	75	女流作家の真髓【品切】	
出版警察関係資料 解説・総目次	130	資料集 終戦直後の台湾	71

書名索引

資料集成 戦争と障害者〈第Ⅰ期〉	44, 79	性科学研究	114
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅰ期〉	29	『性科学研究』解説・総目次・索引	135
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅱ期〉	29	成功	38
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流〈第Ⅲ期〉	29	『成功』解説・総目次	127
資料 平民社の女たち【品切】		政治の陥穽と文学の自律【品切】	
新亜細亜	71	成城学園時報	91
『新亜細亜』解説・総目次・索引	130	『成城学園時報』解説・総目次・索引	131
シンガポール英軍法廷華僑虐殺事件起訴詳報	84	西廂記罕見版本考【品切】	
新建築	54	青少年の逸脱をめぐる教育史	89
『新建築』解説・総目次・索引	129	聖書におけるエコロジーと人権	34
新社会	110	精神分析〈戦前編〉	37
『新社会』解説・総目次・索引	134	『精神分析』解説・総目次・索引	127
『新小説』解説・総目次・索引	134	生長する星の群	102
新女性	108	『生長する星の群』解説・総目次・索引	133
『新女性』解説・総目次・索引 (DVD-ROM 付)	134	青鞥【品切】	
新真婦人	117	『青鞥』解説・総目次・索引	135
『新真婦人』解説・総目次・索引	135	青鞥の女・尾竹紅吉伝	117
人性【品切】		青鞥文学集	117
『人性』解説・総目次・索引	127	性と社会〈『産児調節評論』改題〉	114
清代中国語 満洲語辞典	124	『性と社会』解説・総目次・索引	135
新中華報〈刷新版〉	125	性と生殖の人権問題資料集成	114
新著月刊	100	『性と生殖の人権問題資料集成』解説・総目次・索引	135
『新著月刊』解説・総目次・索引	132	青年学校論〈増補改訂版〉【品切】	
人道【品切】		青年文	100
『人道』解説・総目次【品切】		『青年文』解説・総目次・索引	133
新都市	53	性の国家管理——買売春の近現代史	115
『新都市』解説・総目次・索引	129	性の歴史学	115
人物評論	27	生物化学・毒素兵器の歴史と現状【品切】	
『人物評論』解説・総目次・索引	126	生物兵器防御研究	84
新聞学院『学報』	26	性暴力問題資料集成〈第Ⅰ期〉	114
『新聞学院『学報』』解説・総目次・索引	126	性暴力問題資料集成〈第Ⅱ期〉	114
辛抱づよい者へ	115	『性暴力問題資料集成』解説・総目次	135
人民戦線	107	一九二〇年代社会運動関係警察資料	97
『人民戦線』解説・総目次・索引	133	『一九二〇年代社会運動関係警察資料』	
人民日報索引	119	解説・総目録・索引	132
人民日報索引 第1巻【品切】		戦後改革期文部省実験学校資料集成〈第Ⅰ期〉	88
人民日報社論索引	136	戦後改革期文部省実験学校資料集成〈第Ⅱ期〉	88
人民文学	108	全国貸本新聞【品切】	
『人民文学』解説・解題・回想・総目次・索引 (DVD 付)	134	戦後初期沖繩解放運動資料集【品切】	
人民文庫	102	戦後初期沖繩解放運動資料集 DVD版	64
『人民文庫』解説・総目次・索引	133	戦後新教育・「実力の検討」実践資料集	89
人類愛善新聞	35	戦後帝大新聞の歴史【品切】	
『人類愛善新聞』解説	127	戦後日系カナダ人の社会と文化	59
すがも新聞【品切】		戦後日本共産党関係資料	86
すがも新聞 DVD版	84	『戦後日本共産党関係資料』解説・解説	131
『すがも新聞』解説・総目次・年表	131	『戦後日本共産党関係資料』収録資料目録	131
巣鴨プリズン三部作	84	戦後の皇軍 重松憲兵少佐綴	79
巣鴨プリズン・シベリア日本新聞	85	戦後婦人界の動向【品切】	
進め	97	戦時下国民栄養の現況調査報告書	78
『進め』解説・総目次・索引【品切】		戦時下国民栄養の現況調査報告書(昭和18年)	79
聖化	34	戦時下政治行政活動史料 1941-1945	51, 80
『聖化』解説・総目次・索引	127	戦時国民生活最低基準ニ関スル答申書	96

戦場心理の研究	37, 79	太平洋にける橋——渋沢栄一の生涯	51
戦前期 海外商工興信録集成	49	台湾慰安婦関係資料集【品切】	
戦前期警察関係資料集〈第Ⅰ期〉	74	台湾教育〈大正期〉	88
戦前期警察関係資料集〈第Ⅱ期〉岡山県特高警察資料	74	『台湾教育』総目次・索引	131
戦前期中国在留日本人統計	58	台湾出版警察報	75
戦前期 同性愛関連文献集成	114	『台湾出版警察報』解説・発禁図書新聞リスト	130
戦前期仏教社会事業資料集成	30	台湾島内情報・本島人の動向	78
戦前期仏教社会事業の研究	31	台湾引揚者関係資料集	72
戦前期ブラジル移民日本語読本	57	台湾霧社事件軍事関係資料	78
戦争栄養失調症関係資料	78	田澤義鋪選集	89
戦争に対する戦争【品切】		他山の石	27
戦犯裁判の実相	84	『他山の石』解説・総目次・索引	126
宣撫月報	77, 79	魂鎮への道——無意味な死から問う戦争責任【品切】	
『宣撫月報』解説・総目次・索引	131	探書五十年【品切】	
占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成	61	『談藪』研究	123
『占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成』		地域と文化	61
解説・総目次・索引	130	『地域と文化』解説・総目次・索引	130
占領期・琉球諸島新聞集成	63	近きより【品切】	
層雲	103	『近きより』解説・総目次・索引	126
ソヴェト映画	94	知的・身体障害者問題資料集成〈戦前編〉	44
『ソヴェト映画』解説・総目次・索引	132	地の塩	33
ソヴェト文化	94	『地の塩』解説・総目次・索引	126
『ソヴェト文化』解説・総目次・索引	132	中央銀行会通信録〈明治期〉〈大正期〉〈昭和期〉	49
総合文化	108	『中央銀行会通信録』解題・記事総索引	128
『総合文化』解説・総目次・索引	134	中外	111
創作 労働問題	104	『中外』解説・総目次・索引	134
叢書『青鞜』の女たち	116	中華民国よりの掠奪文化財総目録	81
壯年團【品切】		中国経済の諸問題【品切】	
『壯年團』解説・総目次・索引	131	中国語学資料叢刊 第1篇	119
創立期水平社運動資料	46	中国語学資料叢刊 第2篇	120
『創立期水平社運動資料』解説・細目次	128	中国語学資料叢刊 第3篇	120
総力戦研究所関係資料集	80, 83	中国語学資料叢刊 第4篇	120
『総力戦研究所関係資料集』解説・総目次	131	中国語学資料叢刊 第5篇	120
続・目の高さで見た中国【品切】		中国語関係書書目〈増補版〉	123
孫治方の社会主義経済理論【品切】		中国語教育史稿拾遺	123
た		中国語教育史論考	123
第一次上海事変における第九師団軍医部「陣中日誌」	79	中国語教本類集成〈第Ⅰ期 第1集～第5集〉	122
「大逆事件」関係外務省往復文書【品切】		中国語教本類集成〈第Ⅱ期 第6集～第10集〉	122
第三帝国【品切】		中国語教本類集成 補集	122
『第三帝国』解説・総目次・索引【品切】		中国語辞典集成	119
大正デモクラシー下の“地域振興”	98	中国語書誌	123
大東亜縦貫鉄道関係書類	78	中国語文資料彙刊 第1篇	121
大東亜戦下外地俘虜収容所【品切】		中国語文資料彙刊 第2篇	121
大東亜戦争ニ伴フ我カ人的国力ノ検討	78	中国語文資料彙刊 第3篇	121
大東亜戦争俘虜関係外交文書集成	83	中国語文資料彙刊 第4篇	122
大東亜舞台芸術研究所関係資料	81	中国語文資料彙刊 第5篇	122
大同保育隊報告	79	中国雑誌所蔵目録	136
大日本青少年団史	92	中国残留日本人孤児に関する調査と研究 上・下	71
大日本青年團史	92	中国社会主义経済建設文献目録	122
大日本帝国内地俘虜収容所【品切】		中国社会主义経済理論論争史 上・下【品切】	
		中国社会主义経済理論論争史(抄訳)【品切】	
		中国書籍総目録	119

書名索引

中国人日本留学史稿	81	東京孤児院月報	41
中国における社会主義経済理論の展開	123	『東京孤児院月報』解説・総目次・索引	128
中国農業経済論	70	東京裁判 大山文雄関係資料	78
中国の経済改革と経済理論【品切】		東京時事資料月報	80
中国の経済改革理論10年を回顧する【品切】		東京市養育院月報〈明治期〉	40
中国文学語学資料集成 第1篇	120	東京市養育院月報〈大正期〉	40
中国文学語学資料集成 第2篇	120	東京市養育院月報〈昭和期〉	40
中国文学語学資料集成 第3篇	121	『東京市養育院月報』解説・総目次・索引	127
中国文学語学資料集成 第4篇	121	東京大学新聞	91
中国文学語学資料集成 第5篇	121	『東京大学新聞』記事・執筆者索引	131
中国文芸理論に関する文献解題・総目録【品切】		東京地籍図	55
中文資料叢刊 補遺	123	『東京地籍図』解説	129
『町会』『町と生活』	53	東京都養育院月報	40
『町会』『町と生活』解説・総目次・索引	129	『東京都養育院月報』解説・回想・総目次	127
朝鮮軍概要史	78	東京南部サークル雑誌集成	108
朝鮮憲兵隊歴史	68	『東京南部サークル雑誌集成』	
朝鮮思想運動概況	78	解説・解題・回想・総目次・索引	133
朝鮮戦争下 公安関係資料——光永源槌資料	86	東京百建築	54
『朝鮮戦争下 公安関係資料——光永源槌資料』		東京府教育会雑誌	88
解説・解題・収録資料目録	131	峠	103
朝鮮総督府 帝国議会説明資料	67	『峠』解説・総目次・索引	133
朝鮮総督府 帝国議会説明資料 第4回配本	68	東高時報【品切】	
朝鮮徴兵準備読本	81	闘争〈瑞金版〉	125
朝鮮における日空コンツェルン【品切】		東北振興計画集覧	118
朝鮮の治安状況 昭和2年・5年版【品切】		東北文学	109
朝鮮の治安状況 大正13年12月	68	『東北文学』解説・総目次・索引	134
ゼンダレ・カリオン	108	ときのこゑ	33
『ゼンダレ・カリオン』解説・鼎談・総目次・索引	133	『ときのこゑ』解説・総目次・執筆者索引	127
通商彙纂〈第1期〉〈第2期〉〈第3期〉	48	毒ガス戦関係資料	78
通商公報〈第1期〉〈第2期〉〈第3期〉	48	毒ガス戦関係資料Ⅱ	79
『通商公報』解説・総索引	128	毒ガス戦教育関係資料	79
築地小劇場	96	毒ガス戦教育関係資料Ⅱ	79
『築地小劇場』解説・総目次・索引	132	徳島県農地改革史【品切】	
『築地小劇場』ポスター・プログラム	96	特殊労務者の労務管理	81
『帝國青年』『青年』	89	特審月報	86
『帝國青年』『青年』解説・総目次・索引	131	『特審月報』解説・総目次	131
帝國大學新聞	91	特調班月報・通訳	70, 80
『帝國大學新聞』記事・執筆者索引	131	都市公論【品切】	
「出稼ぎ」から「デカセギ」へ——ブラジル移民100年にみる 人と文化のダイナミズム	59	『都市公論』総目次・索引	129
天鼓【品切】		都市創作	53
『天鼓』解説・総目次・索引	134	『都市創作』解説・総目次・索引	129
天乃蒼【品切】		都市美【品切】	
電脳処理 西夏文献《文海》反切法解析	124	『都市美』監修の辞・解説・総目次・索引	129
電脳処理 西夏文雑字研究	124	都市不燃化	53
電脳処理 西夏文字字素分析	124	『都市不燃化』解題・総目次・索引	129
電脳処理 西夏文字諸解対照表(稿)	124	凶書新聞	102
電脳処理《文海宝韻》研究	124	『凶書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引Ⅰ(‘49~‘59)	133
東亜諸民族の死亡に関する衛生統計的調査	79	『凶書新聞』記事・執筆者・書評索引Ⅱ(‘60~‘68)	133
東亜同文書院 中国調査旅行記録	70	『凶書新聞』記事・執筆者・書評索引Ⅲ(‘69~‘79)	133
東海地域文化の諸問題【品切】		『凶書新聞』記事・執筆者・書評索引Ⅳ(‘80~‘88)	133
東京外国語学校史——外国語を学んだ人たち	89	栃木県農地改革史【品切】	
		特高警察関係資料解説	77

特高警察関係資料集成〈第Ⅰ期〉	74
特高警察関係資料集成〈第Ⅱ期〉	75
鳥取県農地改革誌【品切】	
留岡幸助と家庭学校——近代日本感化教育史序説	42
留岡幸助の研究	42
富山県農地改革史【品切】	

な

内外地憲兵隊にみる検閲錬成	80
中里介山の原郷【品切】	
長崎県農地改革史【品切】	
長野県に於ける農地改革【品切】	
長野県農地改革史【品切】	
那須皓先生——遺文と追想【品切】	
七三一細菌戦部隊・中国新資料	84
「七三一部隊」罪行鉄証——関東憲兵隊「特移扱」文書	84
「七三一部隊」罪行鉄証——特移扱・防疫文書編集	84
七三一部隊作成資料	78
南方地域現地自活教本	79
南方方面海軍資料	79
南洋群島	71
『南洋群島』解説・総目次・索引	130
新潟県農地改革史【品切】	
新島襄先生の生涯【品切】	
西ボルネオ住民虐殺事件——検証「ボンテアナ事件」【品切】	
二反長音蔵・アヘン関係資料	79
日刊 海外商報	49
『日刊 海外商報』解説・総目次	128
日系アメリカ文学雑誌研究——日本語雑誌を中心に	129
日系アメリカ文学雑誌集成	58
日光	100
『日光』解説・総目次・索引	132
日・朝・韓 自由人の会 会報【品切】	
二・二六事件 警察秘録	81
日本移民協会報告	57
日本学芸新聞【品切】	
『日本学芸新聞』解説・総目次・索引【品切】	
「日本近代文学における上海」研究文献目録	103
日本女性運動資料集成	112
日本女性運動資料集成 別巻=索引	135
日本女性詩集1930年～1943年	116
『日本女性詩集1930年～1943年』解説・総目次・索引	135
日本人アメリカ移民史	59
日本人移民ハワイ上陸拒絶事件	59
日本人カナダ移民史	59
日本人民反戦同盟資料	66
日本人民反戦同盟資料 解説・解題・総目次	130
日本占領下上海における日中要人インタビューの記録	79
日本帝国主義下の植民地労働史	70
日本帝国陸軍と精神障害兵士【絶版】	
日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学	59

日本読書新聞【品切】	
『日本読書新聞』解説・記事・執筆者・書評索引	134
日本娼娼運動史	113
日本反帝同盟史研究——戦前期反戦・反帝運動の軌跡	70
日本BC級戦犯資料	85
日本評論	111
『日本評論』解説・総目次・索引	134
日本婦人	112
『日本婦人』解説・総目次・索引	135
日本仏教社会福祉学会年報 第1号～第47号	32
日本流入島史	51
日本労働新聞	98
入門 中国経済論——中国経済と出会う人のために【品切】	
女人藝術【品切】	
『女人藝術』解説・総目次・索引	135
二六新報	25
人間の輪郭——共生への理念	39
根岸信著作集	69
熱帯野菜園芸【品切】	
農家経済調査簿 DVD-ROM版	118
農業年鑑【品切】	
農山漁村経済更生運動と小平権一【品切】	
農政研究	118
農政時報	118
『農政時報』解説・総目次	136
農村青年=稲垣 稔【品切】	
農村保健衛生実地調査	95
農民	101
『農民』解説・総目次・索引	133

は

廢娼 <small>はいなんとう</small>	115
海南島方言基礎語彙集	124
買売春問題資料集成〈戦前編〉	113
『買売春問題資料集成』〈戦前編〉解説・総目次・索引	135
売文集【品切】	
長谷川時雨全集	117
波多野太郎博士 覆印語文資料提要	124
母なる大地【品切】	
ババル島事件関係書類	78
春、雪ふる——荒畑寒村戦中日誌	39
ハワイ日本語学校教科書集成	58
反響【品切】	
『反響』解題・総目次・索引	134
犯罪科学	36
『犯罪科学』解説・総目次・索引	127
反帝新聞	70
ピアトリス	117
BC級戦犯英軍裁判資料〈上〉【品切】	
BC級戦犯英軍裁判資料〈下〉【品切】	
BC級戦犯関係 茶園義男論文集【品切】	

書名索引

B C級戦犯軍事法廷資料——広東編	85	文学報国	101
B C級戦犯豪軍マヌス等裁判資料	85	文化生活〈文化生活研究会 刊〉【品切】	
B C級戦犯豪軍ラバウル裁判資料【品切】		文化生活〈文化普及会 刊〉	94
B C級戦犯中国・仏国裁判資料【品切】		『文化生活』〈文化生活研究会 刊〉解説・総目次・索引	132
B C級戦犯フィリピン裁判資料【品切】		『文化生活』〈文化普及会 刊〉解説・総目次・索引	132
B C級戦犯和蘭裁判資料・全巻通覧【品切】		文化展望	107
B C級戦犯米軍上海等裁判資料【品切】		『文化展望』解説・総目次・索引	133
B C級戦犯米軍マニラ裁判資料【品切】		文教時報	61
B C級戦犯横浜裁判資料	85	文藝	99
百五人事件「寺内朝鮮総督暗殺未遂事件」資料集【品切】		『文藝』解説・総目次・索引	132
百姓の見たソ連【品切】		文芸懇話会	102
兵庫県農会史【品切】		『文芸懇話会』解説・総目次・索引	133
兵庫県農地改革史【品切】		文芸雑誌	111
病中放浪	103	『文芸雑誌』解説・総目次・索引	134
評伝 桐生悠々【品切】		文芸時報	101
拓け満蒙・新満洲・開拓	65	『文芸時報』解題・総目次・索引	133
『拓け満蒙』『新満洲』『開拓』解説・解題・総目次	130	文庫	99
広島県農会史【品切】		『文庫』解題・総目次・索引	132
福井県農会史【品切】		『文章倶楽部』総目次・索引【品切】	
福井県の農地改革【品切】		文明批評	110
福岡県農地改革史【品切】		北京同学会の回想	123
福島県農地改革史【品切】		北京における魯迅【品切】	
福田英子集	115	へちまの花【品切】	
婦女新聞【品切】		ベトナム通信	87
『婦女新聞』記事・執筆者索引【品切】		ベンゾイリン不正輸入事件関係資料	79
『婦女新聞』と女性の近代【品切】		変態心理	36
婦人	113	『変態心理』解説・総目次・索引	127
『婦人』解説・総目次・索引	135	『変態心理』と中村古峽——大正文化への新視角【品切】	
婦人運動	113	変態性慾	36
『婦人運動』解説・総目次・索引	135	『変態性慾』解説・総目次	127
婦人界三十五年【品切】		遍路	30
婦人新報	33	『遍路』解説・総目次・索引	126
『婦人新報』解説・総目次・索引	127	ほうとくまんだら【品切】	
婦人文芸	117	鵬・ピオネ・藝術前衛	107
『婦人文芸』解説・総目次・索引	135	『鵬』『ピオネ』『藝術前衛』解説・総目次・索引	133
婦選	113	法律新聞〈明治期〉	47
『婦選』解説・総目次・索引	135	法律新聞〈大正期〉〈昭和期〉【品切】	
ふたつの文化のはざまから		法律新聞 DVD-ROM版	47
——大正デモクラシーを生きた女【品切】		『法律新聞』総目次	128
仏教海外開教史資料集成〈南米編〉	30	細川嘉六獄中調書——横浜事件の証言【品切】	
仏教海外開教史資料集成〈ハワイ編〉	30	布爾塞維克	125
仏教海外開教史資料集成〈北米編〉	30	本土決戦 日本内地防衛軍【品切】	
仏教海外開教史の研究	31		
俘虜情報局・俘虜取扱の記録 付=海軍兵学校『国際法』	81	ま	
俘虜取扱に関する諸外国からの抗議集	78	魔女の審判〈増補改訂版〉【品切】	
俘虜ニ関スル諸法規類聚	78	魔女の論理〈増補改訂版〉【品切】	
文学案内	100	満州移民関係資料集成【品切】	
『文学案内』解題・総目次・索引	133	『満州移民関係資料集成』解説	130
文學界	99	満州移民拓務局原資料	78
『文學界』解説・総目次・索引	132	満洲開拓関係雑誌集成	66
文学時標	103	『満洲開拓関係雑誌集成』解題・総目次	130
文学としての『青鞥』	117		

満州建設勤労奉仕隊関係資料	81	山本宣治 下【品切】	
満洲国軍ノ現況	79	山本宣治写真集	98
「満洲国」資料集積機関概観	67	山本瀧之助全集	92
《満洲国》文化細目	67	山本瀧之助日記【品切】	
満洲事変における憲兵隊の行動に関する資料	78	山本瀧之助の生涯と社会教育実践	89
満洲事変日誌記録	79	唯研ニュース	38, 82
満洲帝国協和会組織沿革史【品切】		夕刊 新大阪	28
満洲評論【品切】		『夕刊 新大阪』解説・主要記事索引	126
『満洲評論』解題・総目次【品切】		優生	36
満洲泰阜分村——七〇年の歴史と記憶	67	優生運動【品切】	
満鉄調査月報【品切】		『優生運動』解説・総目次・索引	127
『満鉄調査月報』総目次・索引【品切】		優生學	36
満鉄調査時報【品切】		『優生學』解説・総目次・索引	127
『満鉄調査時報』総目次・索引【品切】		有聲無聲	103
満鉄調査部と中国農村調査——天野元之助中国研究回顧	67	夢を食う——素描 荒畑寒村	39
満蒙<第Ⅰ期><第Ⅱ期><第Ⅲ期>	65	横浜毎日新聞	25
『満蒙』総目次・執筆者索引	130	『横浜毎日新聞』解説・総目次	126
満蒙開拓青少年義勇軍関係資料	66	吉田松陰の思想——尊王攘夷への思想的道程	39
三重県農会史【品切】	86		
「三鷹事件」裁判関係資料集 DVD-ROM版	131		
『「三鷹事件」裁判関係資料集』解説・資料目録	91	来日留学生の体験——北米・アジア出身者の1930年代	59
三田新聞	131	陸海軍省法務局長巡察報告	78
『三田新聞』記事・執筆者索引	80	陸軍軍医学校五十年史【品切】	
南満州鉄道株式会社 帝国議会議明資料・別冊		陸軍軍医学校防疫研究報告	79, 83
都の花【品切】	134	『陸軍軍医学校防疫研究報告』解説・総目次	131
『都の花』解題・総目次・索引	94	陸軍軍法会議判例類集	80
三好十郎著作集	132	陸軍経理学校五十年史	80
『三好十郎著作集』解説・回想・総目次	46	陸軍省『調査彙報』	77, 79
民族と歴史	128	陸軍省『調査彙報』解説・総目次	131
『民族と歴史』解説・総目次・索引	28	陸軍に於ける花柳病	79
民本主義の論客 茅原華山伝		六合雜誌【品切】	
無我の愛【品切】	127	『六合雜誌』解説・執筆者・作品名索引	
『無我の愛』解説・総目次・索引	26	付=『創造者』第1号	127
村を考へる——村落論集【品切】	126	陸地測量部沿革誌	55
牟婁新報	126	力行世界	57
『牟婁新報』<第Ⅰ期>解説・執筆者索引	119	『力行世界』『力行』『力行網』『渡米新報』解説・総目次・索引	129
『牟婁新報』<第Ⅱ期・第Ⅲ期>解説・執筆者索引	136	琉球新報	63
明治漢文教科書集成	136	琉球統計年鑑	62
『明治漢文教科書集成』第Ⅰ期・第Ⅱ期解説	115	琉球要覧	62
『明治漢文教科書集成』第Ⅲ期解説・総索引	74	琉大文学	109
明治初期の三女性——中島湘煙・若松賤子・清水紫琴		『琉大文学』解説・総目次・索引	134
文部省思想統制関係資料集成		流芳	118
		『流芳』解題・総目次・索引	136
		令知会雑誌	29
		令知会と明治仏教	31
		良民	88
		『良民』解説・総目次	131
		旅行満洲	66
		緑丘五十年史	92
		連合婦人	112

や

八重山文化	61		
『八重山文化』解説・総目次・索引	130		
安成真雄——その人と仕事	104		
山形県農地改革史(増補改訂版)【品切】			
山口県農会史【品切】			
山口県農地改革誌【品切】			
山本宣治 上【品切】			

書名索引

『連合婦人』解説・総目次・索引	135
労働共済	41
『労働共済』解説・総目次・索引	128
労働週報	98
労働文学	111
盧溝橋事件期支那駐屯憲兵隊 重松関係文書	79

わ

わが生涯の新島襄——森中章光先生日記【品切】	
「我が職業は普通選挙なり」——中村太八郎とその周辺	98
我が青春のノモンハン事件スケッチ集【品切】	
若者仲間の歴史	89
和歌山県農地改革誌【品切】	
ワシラノシンブン	46
和平は売国か——ある汪兆銘伝【品切】	